

メインマニュアル

目次

はじめに.....	1
動作環境	2
機能一覧	4
導入の手引き	10
インストール	11
インストール	11
アンインストール.....	12
利用方法	13
クライアント	13
クライアントの起動.....	13
マネージャー	14
起動	14
マネージャーの終了、常駐	16
マネージャーメイン画面	17
クライアント抽出	23
クライアント情報	25
コマンドパネル.....	27
電源管理.....	28
電源投入.....	28
電源投入(中継).....	30
電源切断.....	32
再起動.....	34
ログオン.....	36

ログオフ	38
スリープ	40
休止状態	41
スケジュール管理	42
起動時自動ログオン	44
起動時自動ログオン登録	46
起動時自動ログオンサーバーの設定	50
ログオン情報登録	51
自動ログオン登録	52
警告文の表示	53
ログ記録	54
ログ機能の利用について	54
ログ記録開始、記録終了	55
ログ確認表示	56
ログアラート表示	57
ログアラートの登録	59
ログアラートメール通報の登録	61
ログ回収	63
FTP からログ回収	65
回収済みログの整理	66
ログの結合	67
ログの破棄	68
ログ設定	69
監視フォルダの登録	73

ログ設定内容の確認	75
ログサーバーの設定	76
ログの記録仕様	79
リモート操作	81
キーボード/マウスのロック、ロック解除	81
リモートコントロール	82
リモート実行	84
コマンドの送信	86
音量の設定	87
時計を合わせる	88
ごみ箱を空にする	89
最近使ったファイルを削除	90
IE の履歴を削除	91
IE の一時ファイルを削除	92
UAC の設定	93
UAC 通知画面の消去	94
プログラムを強制終了	95
全プログラムを強制終了	96
情報取得	97
クライアント情報取得	97
フルサイズ動画監視	99
画像保存	100
拡大画像取得	101
クライアント巡回開始、停止	102

マルチ画面監視開始	103
カメラ動画監視	105
リストの情報欄を消去	106
アプリケーションインストール調査.....	107
アプリケーション一覧の取得	108
更新プログラム一覧の取得	109
ファイルバージョン調査	110
ファイル検索	111
OS 種別調査	112
CPU 調査.....	113
ネットワークデバイス調査.....	114
Windows プロダクト ID 調査.....	115
Office プロダクト ID 調査.....	116
システム情報の回収.....	117
クライアント環境調査	119
WMI 調査.....	122
履歴管理.....	125
ファイル・フォルダ操作	127
ファイル配布	127
ファイル配布と実行	130
フォルダ配布	132
ファイル回収.....	134
フォルダ回収	136
回収済みファイルの整理	139

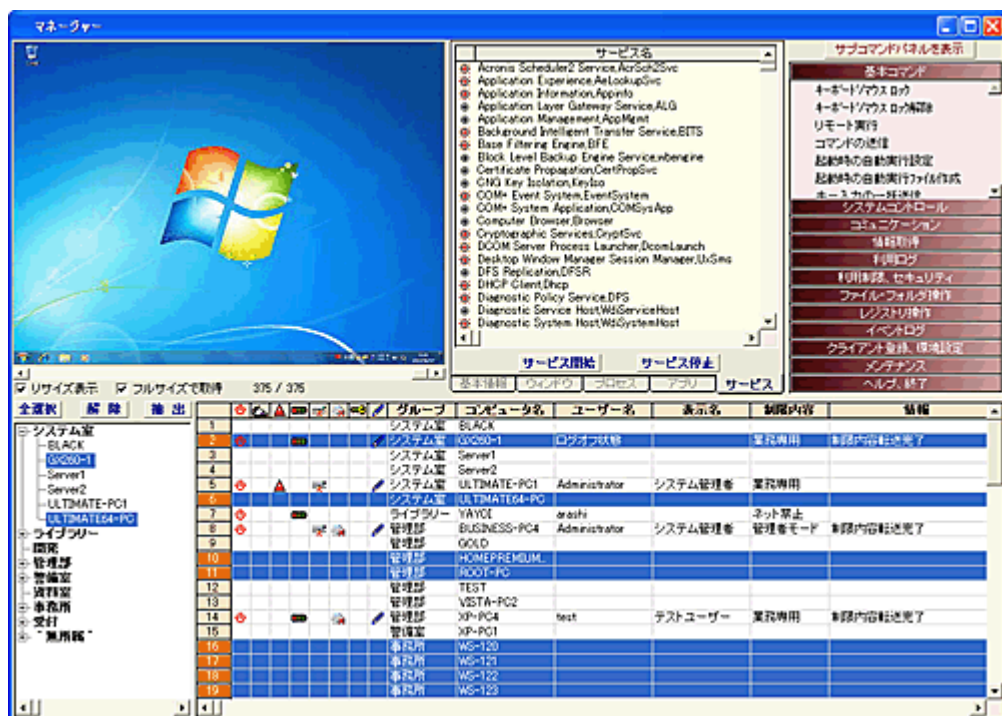
整理済みファイルの集結	140
ファイル削除	141
フォルダ作成	142
フォルダ削除	143
フォルダの共有、解除	144
エクスプローラ接続(共有)	145
エクスプローラ接続(FTP)	146
フォルダ、ファイルの隠蔽	147
レジストリ操作	149
レジストリ設定	149
レジストリのインポート	152
レジストリ値を取得	153
イベントログ	154
イベントログの回収	154
イベントログの検索	157
イベントログの表示	159
イベントログの削除	161
イベントログの通知	162
防止・制限: 利用制限	164
利用制限開始、解除	164
制限内容の送信	165
制限内容の設定	166
制限内容の編集	177
制限内容の自動配布と適用	178

配布用制限内容ファイルの作成.....	181
ユーザー別制限の設定.....	182
プログラムの終了監視.....	184
時間制限.....	186
防止・制限:クライアント管理.....	188
クライアントの利用管理.....	189
クライアント利用状況.....	202
ネットワークの監視.....	212
起動時の自動実行設定.....	218
起動時の自動実行ファイル作成.....	221
ポリシー設定.....	224
防止・制限:印刷・ネットワーク関連.....	227
印刷禁止、解除.....	227
ポートブロック.....	228
ネットワーク設定.....	230
防止・制限:リムーバブル制限.....	233
リムーバブルの利用制限.....	233
リムーバブルの利用制限登録.....	236
リムーバブル管理ファイルの自動配布.....	238
プレゼン・コミュニケーション.....	240
メッセージ文の送信.....	240
PC 別メッセージ文の配信.....	241
ユーザー別メッセージ文の配信.....	244
メッセージのタイマー表示.....	248

ユーザー別メッセージのタイマー表示	252
表示対象ユーザーの登録	256
ユーザー登録	258
メッセージ文配信サーバーの設定	260
マネージャー画像の配信	261
クライアント画像の配信	262
取得済み画像の配信	263
画像配信の終了	264
ブラウザ URL の配信	265
ヘルプコールの設定	266
キー入力の一括送信	267
クリップボード送信	268
クリップボード取得	269
クライアント登録、環境設定	270
クライアント登録	270
グループ登録	274
アクティブタイム設定	275
ポート番号変更	276
マネージャーの限定	277
複数マネージャーの設定	278
管理者登録	280
環境設定	282
メンテナンス	285
クライアントリストの出力	285

クライアントリストの更新.....	286
クライアントリストの固定.....	287
クライアントリストの初期化.....	288
ウィンドウ表示位置の初期化.....	289
クライアント停止.....	290
クライアントリセット.....	291
クライアントバージョンアップ.....	292
クライアントプログラム修正.....	293
自動更新ファイルの作成.....	294
クライアントアンインストール.....	296
マネージャーリセット.....	297
ヘルプ、終了.....	298
バージョン情報(マネージャー).....	298
バージョン情報(クライアント).....	299
ライセンス情報.....	300
終了.....	301

はじめに



本ソフトウェアは Microsoft Windows の下で動作するアプリケーションです。
管理者のコンピュータから、他のコンピュータの管理、監視、制御を行うことが出来るシステム管理者向けツールです。

ご利用に際して

- ・ご利用前に必ず使用許諾をお読み頂き、その内容の全てをご承認ください。
- ・使用方法を誤りますと、クライアントパソコンに重大な損害を与える可能性がありますので、各機能を十分に理解した上で操作してください。
- ・プライバシーの侵害に繋がる機能もありますので、使用者はそのことを十分に認識した上でご利用ください。

動作環境

本ソフトウェアをご利用いただくには、下記のシステム要件を満たした環境が必要です。

対応 OS

Microsoft Windows 8
Microsoft Windows 8 Pro
Microsoft Windows 8 Enterprise
Microsoft Windows 7 Home Basic
Microsoft Windows 7 Home Premium
Microsoft Windows 7 Professional
Microsoft Windows 7 Enterprise
Microsoft Windows 7 Ultimate
Microsoft Windows Vista Home Basic
Microsoft Windows Vista Home Premium
Microsoft Windows Vista Business
Microsoft Windows Vista Enterprise
Microsoft Windows Vista Ultimate
Microsoft Windows XP Home Edition
Microsoft Windows XP Professional
Microsoft Windows Server 2012
Microsoft Windows Server 2008 R2
Microsoft Windows Server 2008
Microsoft Windows Server 2003

※OS は 32Bit および 64Bit 日本語版であること。(Windows XP については、32Bit 版のみ対応)

※システムには Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 がインストールされていること。

※Windows XP において.NET Framework 4 だけがインストールされている環境では、互換性の問題のため利用できない事があります。

その場合、.NET Framework3.5 (SP1)をインストールすることで利用が可能になります。

※システムには最新のサービスパックが適用されていること。

※Window 2003、2008(R2)、2012 などのサーバーOS にてクライアントプログラムを利用する場合、環境、運用方法によって機能に制限があります。

該当するお客様はサポートまでご相談ください。

※Windows 8 においては、デスクトップアプリケーションとして動作します。

※Windows 8 の場合、主に下記のような機能制限があります。

- ・Windows 8 スタイルのアプリについては、一部「利用ログ」の記録が行われないことがあります。
- ・Modern UI 画面での機能実行は動作しない場合があります。

※Windows Vista、7、8 の場合、主に下記のような機能制限があります。

- ・「利用制限」-「ネットワーク」機能の中で、IP アドレス指定による通信パケットのブロックが行えません。(ポートブロックは可能)
- ・「利用制限」-「システム」機能の中で、「Windows の終了を禁止する」が行えません。

ハードウェア環境

- ・TCP/IP による通信が可能なネットワーク装置(NIC)
- ・1024*768(XGA) 以上の表示環境(マネージャーのみ)

- ・空き容量 300MB 以上のハードディスク装置
- ・512MB 以上の空きメモリ

ネットワーク環境

マネージャーとクライアント間において TCP および UDP での通信が可能なネットワーク環境(IPv4)
マネージャーとクライアント間で、基準ポート番号(初期値:17777)を中心として、+-40 の範囲のポート
がオープンになっている必要があります。(基本機能)
ファイル操作やリモートコントロールを行う場合、上記以外のポートを利用することがあります。
VPN 環境等でファイアウォールを設定される場合はサポートまでご相談ください。

※電源の遠隔投入機能を利用するには、ブロードキャストパケットが通過出来ること。
※画像の配信機能などを利用するには、IP マルチキャストパケットが通過出来ること。
※無線 LAN 環境における運用は、パフォーマンス等の影響により機能によっては正常に動作しない
事があります。
※複数のネットワークデバイスを持つコンピュータにて利用する場合、バインドの順位が上位のアダプ
タを本プログラムは利用します。

Microsoft Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標また
は商標です。

ご注意

お客様の環境において、本アプリケーションが提供するすべての機能がご利用になれることを保証す
る訳ではありません。
ご利用になるネットワーク環境やコンピュータの性能、システムの設定内容などによっては、ご要望の
機能が利用いただけないことがあります。
不明な点がございましたら、サポートまでご相談ください。

機能一覧

【電源管理】

■電源投入

クライアントの電源をリモート投入(Wake on LAN)します。
任意の実行日時を指定する、スケジュール実行も可能です。

■電源切断

クライアントの電源を切断(シャットダウン)します。
任意の実行日時を指定する、スケジュール実行も可能です。

■再起動

クライアントを再起動(リブート)します。
任意の実行日時を指定する、スケジュール実行も可能です。

■ログオン

任意のアカウント情報(ユーザー名、パスワード、ドメイン)でクライアントをログオンさせます。
任意の実行日時を指定する、スケジュール実行も可能です。
クライアントごとに異なるアカウントで自動ログオンさせる事も出来ます。
ログオン情報をファイルから取得し、クライアントごとに異なるアカウントでログオンさせる事も可能です。

■ログオフ

ログオン中のクライアントをログオフします。
任意の実行日時を指定する、スケジュール実行も可能です。

■スリープ

クライアントをスリープ状態にしたり、解除します。

■休止状態

クライアントを休止状態にしたり、解除します。

【ログ記録】

■ログの記録

クライアントにおける下記の動作を利用ログとして記録します。

- ・ログオン、ログオフ
- ・アプリケーションの利用(起動、終了)
- ・利用したウィンドウのタイトル(キャプション)
- ・アクセスした Web ページの URL
- ・印刷
- ・デバイスの利用(CD-ROM、USB メモリなど)
- ・ファイル操作
- ・クリップボード

■ログの回収

クライアントにて記録されているログをマネージャーに回収します。
スケジュールによる回収の他、様々なタイミングでの自動回収も可能です。

■ログの整理

クライアントから回収したログはコンピュータ別に結合してファイル保存することが出来ます。

■ログアラート

予め設定された条件を満たす動作が検知された場合、直ちにマネージャーに対して通報することが出来ます。

通報を受け取ったマネージャーは、任意のメールアドレスにその内容を送信する事も可能です。

【リモート操作】

■[ロック](#)

クライアントのキーボード、マウスをロックし、操作が出来ないようにします。
[Ctrl + Alt + Delete]のキー操作も無効になります。

■[リモートコントロール](#)

オリジナルのリモートコントロールソフトを内蔵しています。
リモートデスクトップや VNC などのリモートコントロールソフトと連携した動作も可能です。

■[リモート実行](#)

クライアントで任意のアプリケーションを実行させることが可能です。
よく利用するアプリケーションを登録しておき、一覧から選択するだけで実行できます。
ログオンしているユーザーと異なる権限で実行させることが可能です。

■[コマンドの送信](#)

任意のプログラムやバッチファイルをクライアントで実行します。
URL を送信すれば、クライアントで Web ページを表示させることも可能です。
ログオンしているユーザーと異なる権限で実行させることが可能です。

■[音量の設定](#)

クライアントの音量調整を行うことが出来ます。

■[時計を合わせる](#)

クライアントの内部時計(システム時計)をマネージャーの時刻に合わせることが出来ます。

■[ごみ箱を空にする](#)

クライアントのごみ箱を空にすることが出来ます。

■[最近使ったファイルを削除](#)

クライアントにて最近使ったファイルの情報を削除します。

■[IE の履歴を削除](#)

Internet Explorer の履歴を削除します。

■[IE の一時ファイルを削除](#)

Internet Explorer の一時ファイルを削除します。

■[ウィンドウの最小化](#)

クライアントにて表示されている任意のウィンドウを最小化します。

■[ウィンドウの最大化](#)

クライアントにて表示されている任意のウィンドウを最大化します。

■[ウィンドウの復帰](#)

クライアントにて表示されている任意のウィンドウの表示サイズを元の状態に復帰させます。

■[ウィンドウの消去](#)

クライアントにて表示されている任意のウィンドウを消去します。

■[プログラムの強制終了](#)

クライアントにて実行中のプログラム(プロセス)を強制終了させます。

■[サービスの開始と停止](#)

サービスの動作を開始したり、停止したりします。

■[UAC の設定](#)

ユーザーアカウント制御(UAC)の設定を行います。

■[UAC 通知画面の消去](#)

ユーザーアカウント制御(UAC)がユーザーの許可(同意)を求める為に表示する通知ウィンドウを強制的に消去します。

■[プログラムを強制終了](#)

クライアントで起動中のプログラムを強制終了させることが出来ます。

■[全プログラムを強制終了](#)

クライアントで実行中の全てのアプリケーションを、瞬時に強制終了させることが出来ます。

【情報取得】

■ [クライアント情報取得](#)

クライアントの動作状態に関する次の詳細情報を取得します。

- ・デスクトップ画像(縮小サイズ)
- ・表示中のウィンドウのタイトル(キャプション)一覧
- ・実行中のプログラム一覧(プロセス)
- ・インストールされているアプリケーション一覧
- ・登録されているサービス一覧と動作状態

取得した情報は履歴として自動保存され、いつでも過去のデータを呼び出して確認することが可能です。

■ [クライアント巡回](#)

「クライアントの情報取得」を一定間隔で自動実行することが出来ます。

■ [マルチ画面監視](#)

複数のクライアントのデスクトップ画像を同一ウィンドウ上に一覧表示し、監視することが出来ます。
最大 126 台のクライアントを一覧表示可能です。

■ [カメラ動画監視](#)

クライアントに接続されている USB カメラ(Web カメラ)の画像を動画で監視します。

■ [アプリケーションインストール調査](#)

クライアントにて任意のアプリケーションがインストールされているかどうかを調査できます。

■ [アプリケーション一覧の取得](#)

クライアントにインストールされているアプリケーションの一覧をファイルで取得します。

■ [更新プログラム一覧の取得](#)

クライアントにインストールされている更新プログラム(Windows)の一覧をファイルで取得します。

■ [ファイルバージョン調査](#)

クライアントのディスク上にあるファイルのバージョン情報を調査し、取得できます。

■ [ファイル検索](#)

クライアントのディスク上にあるファイルの検索を行うことが可能です。

■ [OS 種別調査](#)

クライアントの OS 種別(Service Pack 含む)を調査し、取得できます。

■ [CPU 調査](#)

CPU 種別とクロック数を取得できます。

■ [ネットワークデバイス調査](#)

NIC 情報を取得できます。

■ [Windows プロダクト ID 調査](#)

Windows(OS)のプロダクト ID を取得できます。

■ [Office プロダクト ID 調査](#)

Microsoft Office のプロダクト ID をバージョン別に取得できます。

■ [システム情報の回収](#)

クライアントの「システム情報」を取得し、ファイルとして回収します。

■ [クライアント環境調査](#)

クライアントコンピューターのシステム環境に関する様々な情報を取得することが出来ます。

■ [WMI 調査](#)

「Windows Management Instrumentation」(WMI) を利用した、クライアントの様々な管理情報が取得できます。

【ファイル・フォルダ操作】

■ [ファイル配布](#)

マネージャーからクライアントに対してファイルの配布を行うことが出来ます。

■ [ファイル配布と実行](#)

マネージャーからクライアントに対してファイルの配布を行い、任意のファイルを自動実行することが出来ます。

■[フォルダ配布](#)

ファイルの配布を、下層フォルダ(サブディレクトリー)ごと行うことが出来ます。

■[ファイル回収](#)

クライアントのディスク上にあるファイルをマネージャーに回収することが出来ます。

回収後は、コンピュータ別やユーザー別にフォルダに分離して保存可能です。

■[フォルダ回収](#)

ファイルの回収を、下層フォルダ(サブディレクトリー)ごと行うことが出来ます。

■[ファイル削除](#)

クライアントのディスク上のファイルを削除することが出来ます。

■[フォルダの作成](#)

クライアント上に任意のフォルダを作成することが出来ます。

■[フォルダの削除](#)

クライアント上の任意のフォルダを、その下層フォルダ、ファイルと共に削除することが出来ます。

■[フォルダの共有](#)

クライアントの任意のフォルダを共有させることが出来ます。

■[エクスプローラーで接続\(共有\)](#)

クライアントの任意のドライブを一時的に共有状態にし、エクスプローラーで操作することが出来ます。

■[エクスプローラーで接続\(FTP\)](#)

クライアントの任意のドライブにFTP 接続し、エクスプローラーで操作することが出来ます。

■[フォルダ、ファイルの隠蔽](#)

クライアントの任意のフォルダ及びファイルをエクスプローラー等から見えなくすることが出来ます。

【[レジストリ操作](#)】

■[追加、修正、削除](#)

クライアントのレジストリを追加、修正、削除することが出来ます。

■[レジストリのインポート](#)

レジストリファイルをクライアントに配信し、インポートします。

■[値を取得](#)

クライアントのレジストリ値を取得し表示することが出来ます。

【[イベントログ](#)】

■[イベントログの回収](#)

クライアントにて記録されているイベントログをマネージャーに回収します。

(アプリケーション、セキュリティ、システム)

■[イベントログの検索](#)

クライアントにて記憶されているログから、条件を指定して該当する内容が記録されているか調査することが出来ます。

■[イベントログの表示](#)

クライアントにて記憶されているログの内容をマネージャー側で確認表示出来ます。

(アプリケーション、セキュリティ、システム)

■[イベントログの削除](#)

クライアントにて記憶されているログの内容を削除することが出来ます。

(アプリケーション、セキュリティ、システム)

■[イベントログの通知](#)

クライアントにて発生した重要な記録(エラー、警告)を、直ちにマネージャーに通知、記録することが出来ます。

(アプリケーション、システム)

【防止・制限:利用制限】

■利用制限

クライアントに対して下記の利用制限を課すことが出来ます。

- ・アプリケーションの利用禁止(実行ファイル、ウィンドウタイトル)
- ・通信のブロック(IP アドレス、ポート番号)
- ・ドライブの利用(HDD、USB ドライブなど)

■プログラムの終了監視

任意のプログラムの起動状態を監視し、終了した場合に再起動させる事が出来ます。

■時間制限

一定時間だけクライアントの利用を許可したり、一定時間クライアントの利用がない場合にシャットダウンなどの操作を行うことが出来ます。

【防止・制限:クライアント管理】

■クライアントの利用管理

クライアントコンピューターの利用を日時を指定して制限することが出来ます。

特定のユーザーだけに利用許可を与える「予約管理システム」としても利用可能です。

■クライアント利用状況

クライアントコンピューターの利用状況を、インターネットブラウザなどから参照する事が出来ます。

■ネットワークの監視

ネットワーク上のトラフィックを監視し、不正端末の利用などを発見することが出来ます。

■起動時の自動実行

クライアント起動時にサーバーからファイルをダウンロードしたり、任意のプログラムやバッチファイルなどを自動実行することができます。

■ポリシー設定

セキュリティポリシーの設定を行います。

【防止・制限:印刷・ネットワーク関連】

■印刷禁止

クライアントにおける印刷を禁止します。

■ポートブロック

任意のポートを一時的に塞ぎ、通信を行えなくします。リアルタイムなファイアウォールとして利用可能です。

■ネットワーク設定

ネットワークデバイスの設定を取得、変更することが可能です。

【防止・制限:リムーバブル制限】

■リムーバブルの利用制限

登録されたシリアル番号以外のリムーバブルメディアを利用禁止にすることが出来ます。

【プレゼン・コミュニケーション】

■メッセージ文の送信

クライアントに対して、任意のメッセージ文を送信し、表示させることが出来ます。

受け取ったメッセージに対して返信を許可することも可能です。

■PC 別メッセージ文の送信

クライアントがログオンした際、任意のメッセージ文を表示することが出来ます。

■ユーザー別メッセージ文の送信

クライアントがログオンした際、ユーザーごとに異なるメッセージ文を表示することが出来ます。

■メッセージのタイマー表示

クライアントにて任意の時間にメッセージを表示することが出来ます。

■ユーザー別メッセージのタイマー表示

クライアントにて任意の時間にユーザー別に異なるメッセージを表示することが出来ます。

■ マネージャー画像の配信

マネージャーのデスクトップ画像をクライアントに配信し、表示させることが可能です。

マネージャーにおけるマウスの動きも再現させることも可能です。

■ クライアント画像の配信

クライアントのデスクトップ画像を他のすべてのクライアントに配信して表示させる事が可能です。

■ 取得済み画像の配信

過去に取得したクライアントのデスクトップ画像を配信し、表示させることが可能です。

■ ブラウザ URL の配信

マネージャーのブラウザで表示している Web ページの URL を任意のクライアントに配信し、同一ページを表示させることが可能です。

■ ヘルプコール

クライアント側からマネージャーに対してメッセージを表示したり、ヘルプコールの通知を送ることが出来ます。

■ キー入力の一括送信

同時に複数のクライアントに対してキー入力操作を行うことが出来ます。

■ クリップボード送信

マネージャーのクリップボードに入っている内容を、クライアントのクリップボードにコピーします。

■ クリップボード取得

クライアントのクリップボードに入っている内容を、マネージャーのクリップボードにコピーします。

ご注意

お客様の環境において、上記のすべての機能がご利用になれることを保証する訳ではありません。
ご利用になるネットワーク環境やコンピュータの性能、システムの設定内容などによってはご要望の機能がご利用いただけないことがあります。
不明な点がございましたら、サポートまでご相談ください。

導入の手引き

初めてご利用になる場合、下記の作業が最低限必要となります。

マネージャーのインストール

マネージャーのセットアップです。通常は1台のパソコンにインストールします。

クライアントのインストール

クライアントのセットアップです。必要な台数分インストールを行います。

クライアントの登録

マネージャーで管理するクライアントを登録します。

インストール

インストール

プログラムのインストールを行うには、以下の説明を最後までお読みいただいてから、作業を開始してください。

注意事項

- ・インストールを行うコンピュータは、システム要件(動作環境)を満たしている必要があります。
- ・インストールを行うには、管理者の権限でログオンしている必要があります。
- ・ウイルス対策ソフトやファイアウォールソフトをご利用の場合、その動作を完全に停止させてからプログラムのインストールを行ってください。なお、Windows ファイアウォールについては自動対応しますので停止する必要はありません。
- ・同一コンピュータに、マネージャーとクライアントをインストールして利用することは出来ません。

インストールプログラムは、管理者用プログラムの「マネージャー」と、管理される側プログラムの「クライアント」に分かれます。

ご利用いただくには、マネージャーとクライアントをそれぞれインストールする必要があります。

通常、マネージャーは1台のコンピュータに、クライアントは管理するクライアントの台数分インストールを行います。

- 1.「MngInst.exe」・・・ マネージャーインストールプログラム
- 2.「ClntInst.exe」・・・ クライアントインストールプログラム

【マネージャーのインストール】

マネージャーとなるコンピュータの任意のフォルダに「MngInst.exe」をコピーして起動します。

(インストール用の製品 CD をお持ちの方は、メニュー画面から起動することが可能です。)

インストール画面が表示されますので、画面の指示に従ってインストール作業を継続してください。

インストール中、セットアップ画面が消える場面がありますが、完了のメッセージ画面が出るまでそのままお待ちください。(環境によって、数分から十数分を要します。)

インストールが完了すると再起動を促す画面が表示されますので、コンピュータを再起動してください。

再起動後はプログラムの利用が可能となっています。

【クライアントのインストール】

クライアントとなるコンピュータの任意のフォルダに「ClntInst.exe」をコピーして起動します。

(インストール用の製品 CD をお持ちの方は、メニュー画面から起動することが可能です。)

ネットワーク上の共有フォルダに「ClntInst.exe」を配置して実行することも可能です。

インストール中、セットアップ画面が消える場面がありますが、完了のメッセージ画面が出るまでそのままお待ちください。(環境によって、数分から十数分を要します。)

インストールが完了すると再起動を促す画面が表示されますので、コンピュータを再起動してください。

再起動後はプログラムの利用が可能となっています。

アンインストール

プログラムをアンインストールするには以下の手順に従ってください。

アンインストールは、Windows 標準のアンインストール方法である「プログラムと機能」や「プログラムの追加と削除」からは行えません。

注意事項

・アンインストールを行うには、管理者の権限でログオンしている必要があります。

【マネージャーのアンインストール】

マネージャーがインストールされたフォルダ内にある「UnInstall.exe」を起動します。

アンインストール画面が表示されますので、以降は画面の指示に従ってアンインストール作業を継続してください。

アンインストール中、画面が消える場面がありますが、完了のメッセージ画面が出るまでそのままお待ちください。

アンインストール完了後は一度コンピュータを再起動させてください。

【クライアントのアンインストール】

クライアントがインストールされたフォルダ内にある「UnInstall.exe」を起動します。

アンインストール画面が表示されますので、以降は画面の指示に従ってアンインストール作業を継続してください。

アンインストール中、画面が消える場面がありますが、完了のメッセージ画面が出るまでそのままお待ちください。

アンインストール完了後は一度コンピュータを再起動させてください。

※マネージャーから、[リモートでアンインストール](#)を行うことも可能です。

利用方法

クライアント

クライアントの起動

クライアントプログラムは、コンピュータの起動と共に自動的に起動し、ユーザーおよび管理者が直接操作を行うことはありません。

マネージャー

起動

マネージャーを起動するには、スタートメニューから[System Keeper] - [マネージャー]を選択します。

管理者選択

「[環境設定](#)」にて「管理者選択画面の表示」が設定されていると、メイン画面が表示される前に以下のような「管理者選択」または「管理者入力」画面が表示されます。
(規定値は非表示となっています。)

The image displays two screenshots of the Manager software interface.

The top screenshot shows the "管理者選択" (Manager Selection) dialog box. It features a list of managers with the following entries:

管理者名	
1	Supervisor
2	一般管理者

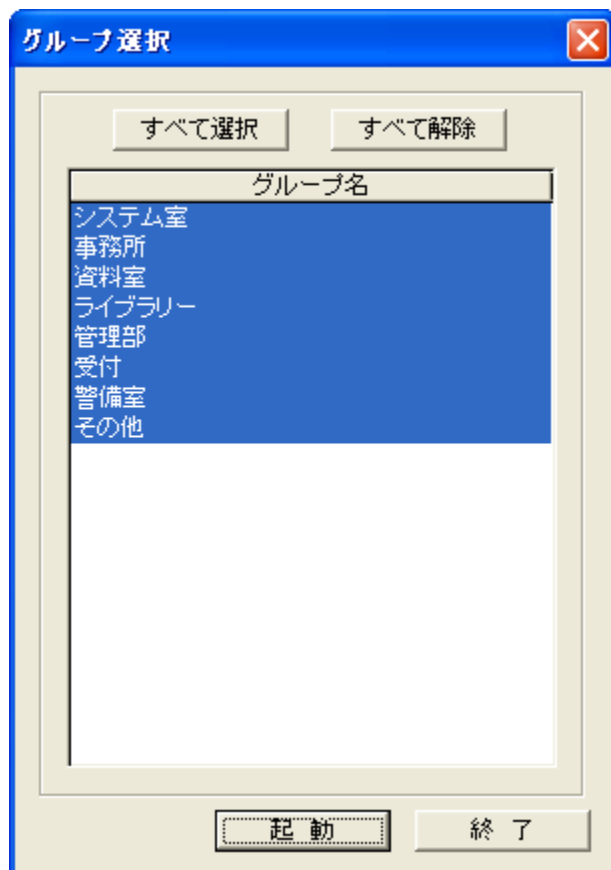
Below the list is a "パスワード:" (Password) field and two buttons: "起動" (Start) and "終了" (End).

The bottom screenshot shows the "管理者入力" (Manager Input) dialog box. It contains two input fields: "管理者名" (Manager Name) and "パスワード:" (Password). At the bottom are the same "起動" (Start) and "終了" (End) buttons.

マネージャーを利用する[管理者を登録](#)しておくことで、コマンドパネルのメニュー項目や利用制限の設定ファイルを管理者ごとに保持することが可能となります。
管理者ごとに利用できる機能を制限することが出来ます。

グループ選択

「[環境設定](#)」にて「グループ選択画面の表示」が設定されていると、メイン画面が表示される前に以下のような「グループ選択」画面が表示されます。
(規定値は非表示となっています。)



多くのグループやクライアントが登録されていると、コマンドを実行するクライアントの選択に手間が掛かるだけでなく、誤操作にも繋がる可能性があります。
操作対象となるグループのクライアントのみを抽出することで、誤操作を防止し効率のよい運用が可能となります。
操作対象となるグループを選択し「起動」ボタンを押すと、メイン画面が表示されます。
このとき、選択されていないグループのクライアントは表示されません。

注意事項

グループの選択を行ってマネージャーを起動すると、グループやクライアントを新規登録したり、変更や削除を行うことは出来ません。(機能制限)
グループやクライアントの登録作業を行うときは、必ず全てのグループを選択してマネージャーの起動を行ってください。

マネージャーの終了、常駐

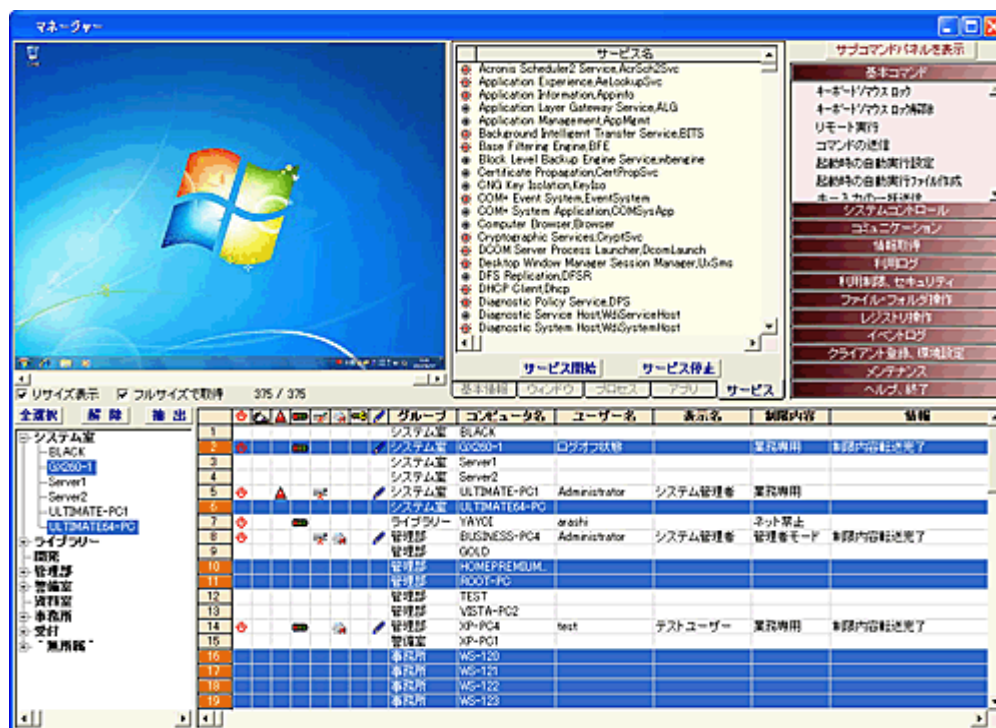
終了操作

マネージャーを終了するには、コマンドパネルの[終了]を選択します。
ウィンドウの右上にある「閉じる」ボタンを押すことでも終了します。

常駐動作

マネージャーを常駐状態にし、デスクトップやタスクバーから消去させることが可能です。
[Shift]キーを押しながらメイン画面のの最小化ボタンを押すと、マネージャーのウィンドウは消去されますが、バックグラウンドで動作しています。
再度マネージャーを表示させたいときは、起動時と同じようにスタートメニューのショートカットを選択します。

マネージャーメイン画面



マネージャーのメイン画面は下記の 4 ブロックに分かれます。

1.クライアントリスト

登録されているクライアントを一覧表示します。
クライアントの動作状態がリアルタイムで表示されます。

2.グループリスト

クライアントを所属グループ別に表示します。
グループ単位での操作に便利です。

3.コマンドパネル

さまざまなコマンド(機能)を機能別に集めたブロックです。
アプリケーションのメニューにあたります。

4.クライアント情報

クライアントから取得した画像や、各種実行状況を表示するウィンドウで構成されています。
情報を表示するだけでなく、ウィンドウ操作などの機能も提供されます。

【クライアントリスト】

				グループ	コンピュータ名	ユーザー名	表示名	制限内容	情報
1				システム室	BLACK				
2				システム室	Q260-1	ログオフ状態		業務専用	制限内容転送完了
3				システム室	Server1				
4				システム室	Server2				
5				システム室	ULTIMATE-PC1	Administrator	システム管理者	業務専用	
6				システム室	ULTIMATE64-PC				
7				ライブラリー	YAYOI	arashi		ネット禁止	
8				管理部	BUSINESS-PC4	Administrator	システム管理者	管理者モード	制限内容転送完了
9				管理部	GOLD				
10				管理部	HOMEPREMIUM				
11				管理部	ROOT-PC				
12				管理部	TEST				
13				管理部	VISTA-PC2				
14				管理部	XP-PC4	test	テストユーザー	業務専用	制限内容転送完了
15				整備室	XP-PC1				
16				事務所	WS-120				
17				事務所	WS-121				
18				事務所	WS-122				
19				事務所	WS-123				

(電源アイコン)

クライアントの電源が入っていることを示します。

(マウスアイコン)

クライアントのマウス操作を検知して、活動状態(アクティブ)であることを示します。
一定時間マウスによる操作がないと、マウスアイコンは消えます。

(ログアラートアイコン)

クライアントにて問題となる動作が検出されたことを示します。

(利用制限アイコン)

クライアントに利用制限が課せられていることを示します。

(ポートブロックアイコン)

通信ポートのブロックが行われていることを示します。

(プリンタアイコン)

印刷が禁止されていることを示します。

(ロックアイコン)

クライアントがロックされていることを示します。

(ログアイコン)

ログの記録が行われていることを示します。

グループ

所属するグループが表示されます。グループに所属しない場合は、空欄になります。

コンピュータ名

クライアントのコンピュータ名が表示されます。

ユーザー名

ログオンしているユーザー名が表示されます。誰もログオンしていない場合は、「ログオフ状態」と表示されます。

コンピュータが起動していなかったり、利用できない状態にある時は空欄になります。

表示名

クライアントがドメインに参加している場合、Active Directory に登録されている表示名をサーバーから取得して表示します。

制限内容

クライアントに課せられる制限内容名を表示します。

情報

クライアントから送られてきた様々な情報が表示されます。

ログオン

現在のユーザーがログオンした時刻を表示します。(利用開始時間)

メモ

任意の文字を入力して表示しておくことが出来ます。(覚え書き等に利用)
設定は「クライアント登録」で行います。

IP アドレス

クライアントの IP アドレスを表示します。

MAC アドレス

MAC アドレスを表示します。(電源の遠隔投入に利用されます。)

ポート番号

現在の基準ポート番号を表示します。

OS

クライアントの OS 種別、サービスパックを表示します。

搭載メモリ

搭載されているメモリ容量を表示します。

空きメモリ

空きメモリ容量を表示します。

搭載ディスク

システムドライブの容量を表示します。

空きディスク

システムドライブの空き容量を表示します。

更新日時

クライアントと通信を行い、最後にリストの情報が更新された日時を表示します。

表示幅の変更

各項目の表示幅は自由に変更することが出来ます。

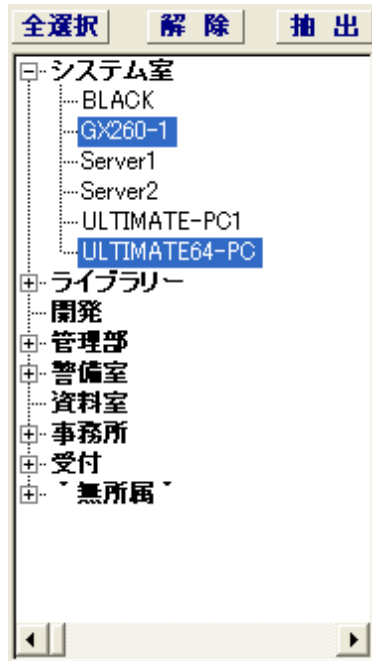
表示幅を最小にした状態でマネージャーを終了すると、次回起動時にその項目は表示されなくなります。(非表示処理)

初期状態に戻すには、「[クライアントリストの初期化](#)」を行います。

並び替え

各項目のタイトル名(ヘッダー)をクリックすることで、表示内容を並び替えること(ソート)が出来ます。

【グループリスト】



クライアントを所属するグループごとにツリー表示します。
グループ名を選択することで、その構成クライアントを一括選択できます。
グループ単位の一括解除は出来ません。

全選択

リスト内のすべてのクライアントを選択状態にします。

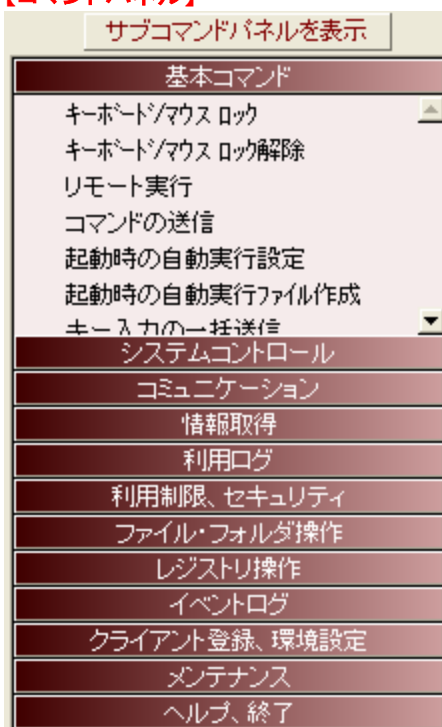
解除

すべての選択状態を解除します。

抽出

リスト内のクライアントを条件を指定して検索、抽出します。
詳しくは「[クライアント抽出](#)」のページをご参照ください。

【コマンドパネル】



各コマンドが機能別に集められています。

クライアントに対して何かの操作を行うときは、クライアントリストにて対象のクライアントを選択してから目的のコマンドを選択します。

サブコマンドパネルを表示

「サブコマンドパネルを表示」ボタンを押すと、コマンドパネルだけのウィンドウが表示されます。コマンドの内容はメイン画面内のコマンドパネルと同一のものになり、どちらを操作しても同じ動作を行います。

【クライアント情報】



「クライアント情報取得」によってクライアントから取得した情報を表示します。

詳しくは「[クライアント情報](#)」のページをご参照ください。

ウィンドウサイズの変更

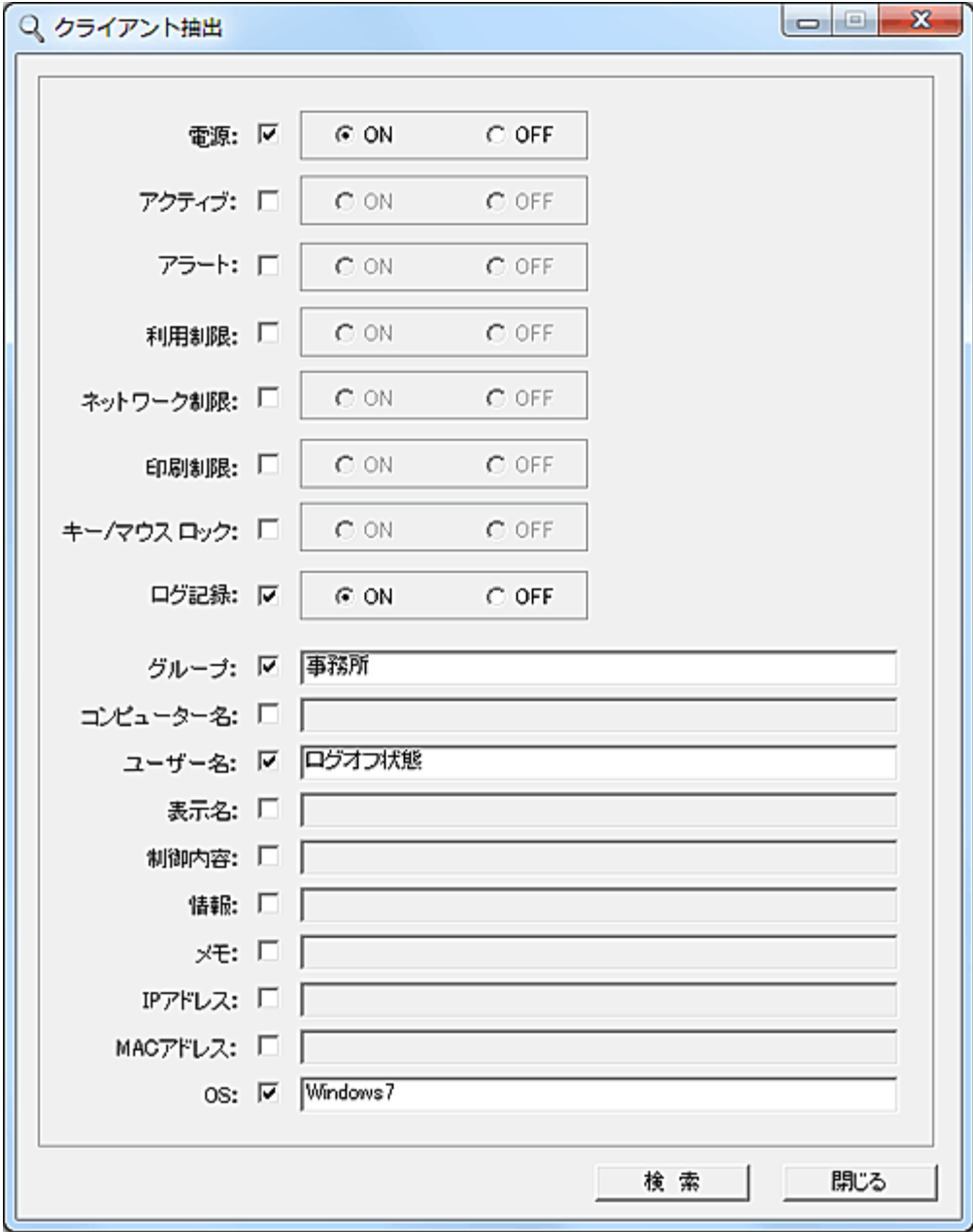
起動後、メイン画面のウィンドウサイズを自由に変更することが可能です。

ただし、ウィンドウサイズに比例して伸縮するのは「クライアントリスト」、「グループリスト」のみで、「グループリスト」については縦方向のみの伸縮となります。

サイズやウィンドウの表示位置を初期状態に戻すには、「[ウィンドウ表示位置の初期化](#)」を実行します。

クライアント抽出

リスト内のクライアントを検索し、別ウィンドウに抽出して表示することができます。
抽出されたクライアントのリストから任意のクライアントを選択して、メイン画面のクライアントリストの選択に反映させることが可能です。
何らかの条件を満たすクライアントだけに、コマンドを実行したい時に便利な選択手段です。



クライアント抽出

電源: ☒ ☒ ON ☐ OFF

アクティブ: ☐ ☐ ON ☐ OFF

アラート: ☐ ☐ ON ☐ OFF

利用制限: ☐ ☐ ON ☐ OFF

ネットワーク制限: ☐ ☐ ON ☐ OFF

印刷制限: ☐ ☐ ON ☐ OFF

キー/マウスロック: ☐ ☐ ON ☐ OFF

ログ記録: ☒ ☒ ON ☐ OFF

グループ: ☒ 事務所

コンピューター名: ☐

ユーザー名: ☒ ログオフ状態

表示名: ☐

制御内容: ☐

情報: ☐

メモ: ☐

IPアドレス: ☐

MACアドレス: ☐

OS: ☒ Windows7

検索 閉じる

検索対象とする項目のチェックを有効にします。
「電源」～「ログ記録」の項目はクライアントリストの各ランプ(インジケーター)に対応します。
「ON」を選択するとランプが点灯状態を、「OFF」を選択すると消灯状態を指定します。

「グループ」～「OS」の項目は文字列を入力します。
クライアントリスト内の各項目の値に入力した文字列が含まれている場合、抽出対象となります。
なお、半角英文字の大文字小文字は区別されません。

検索条件を設定し「検索」ボタンを押すと、対象のクライアントだけが抽出されて新しいウィンドウに表示されます。
意図するクライアントの選択がなされるまで、何度でも条件検索を繰り返すことができます。

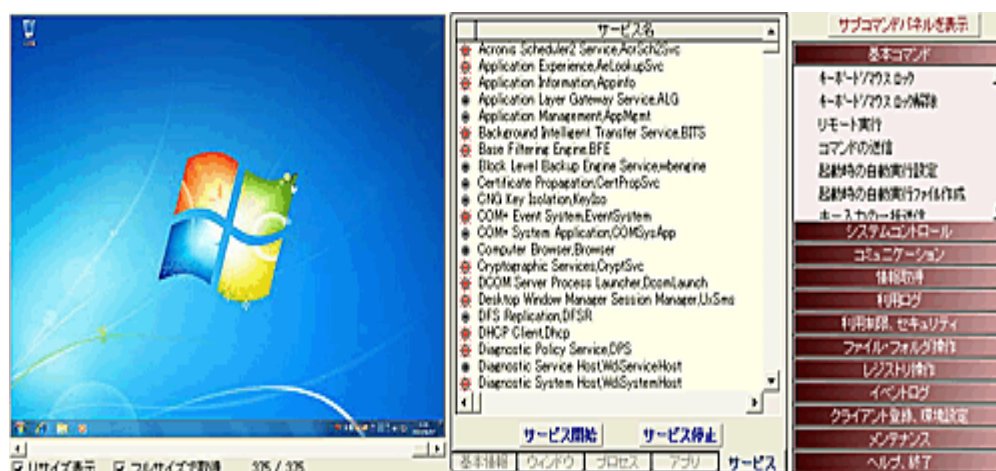
	グループ	コンピュータ名	ユーザー名	表示名	制限内容	権限	ID
1	開発	WIN7-64PC1	Administrator	システム管理者	Default		11148
2	開発	ASPIRE5515	ログオフ状態		ネット禁止		08334
3	無所属	XP-PC1	Administrator	システム管理者	Default		
4	無所属	WIN7-PC2	tama	玉田 希介			
5	無所属	WIN7-ENG30	ishikawa	石川 優	Default		
6	無所属	WIN7-64ENT	ログオフ状態		ネット禁止		
7	無所属	WIN2K6R264STD	ログオフ状態		Default		
8	無所属	VM02	ログオフ状態		ネット禁止		
9	無所属	VM01	ログオフ状態		Default		
10	無所属	VIRTUALXP-372	ログオフ状態		ネット禁止		
11	無所属	FLUTO-V32	noritama	川崎 一郎	ネット禁止		
12	無所属	OLZUMI-PC	ログオフ状態		ネット禁止		
13	無所属	BUSINESS-PC5	minamin	竜 孔明			
14	受付	WS-124	setunaka	中野 節子			
15	事務所	WS-123	ログオフ状態		No Removable		
16	事務所	WS-122	ログオフ状態				
17	事務所	WS-121	ログオフ状態		No Removable		
18	事務所	WS-120	ログオフ状態		No Removable		
19	資料室	WS01-VISTAULT	ログオフ状態		Default		
20	資料室	WN8	ログオフ状態		メモ帳		
21	資料室	TEST-PC1	ログオフ状態				
22	資料室	GRAND-PC	ログオフ状態				
23	管理部	VISTA-PC2	root	一般管理者	Default		
24	管理部	ROOT-PC	yoshida	吉田 浩一			
25	管理部	HOMEPREMIUM	ログオフ状態		No Removable		
26	管理部	GOLD	ログオフ状態				
27	管理部	BUSINESS-PC4	spyman	一時利用者			
28	管理部	2KJ	yokoyoko	横田 仁	ネット禁止		
29	開発	WIN7-64PC3	ログオフ状態		Default		
30	開発	WIN-VM02	ログオフ状態		ネット禁止		
31	開発	WIN-VM01	peter	ピーター リン	Default		
32	開発	HP-TX1000	michinka	中村 道重	No Removable		
33	開発	CF-R4	ログオフ状態		Default		
34	ライブラリー	VAYOI	yayoi	徳川 弥生	ネット禁止		
35	システム室	ULTIMATE64-PC	ログオフ状態				
36	システム室	ULTIMATE-PC1	nwada	和田 光輝	No Removable		
37	システム室	Server2	ログオフ状態		ネット禁止		
38	システム室	Server1	ログオフ状態				
39	システム室	QX269-i	nkimatsu	松田 舞	Default		

「抽出されたクライアント」ウィンドウ内のクライアントを選択し「選択反映」ボタンを押すと、メイン画面のクライアントリストに選択内容が反映されます。

注意

抽出関連の各ウィンドウは、実行時に最前面に表示されるようになっています。
他のウィンドウの選択が出来ない場合は、各ウィンドウのタイトルバーを一度クリックすることで移動が可能になります。

クライアント情報



クライアントから取得した、詳細な動作情報が表示されます。

縮小画像

クライアントのデスクトップに表示されている画像が縮小されて表示されます。

クライアントがログオフ状態の時は、真っ黒な画像になります。

この操作は、繰り返し何度でも実行することが可能です。ただし、過去のデータが表示されているときは実行出来ません。

基本情報 (タブウィンドウ)

取得時刻

情報を取得した日時が表示されます。

コンピュータ名

取得したクライアントのコンピュータ名が表示されます。

IP アドレス

取得したクライアントの IP アドレスが表示されます。

ユーザー名

取得したクライアントを利用しているユーザー名が表示されます。

OS

クライアントの OS 種別、サービスパックを表示します。

搭載メモリ

搭載されているメモリ容量を表示します。(KB)

空きメモリ

空きメモリ容量を表示します。(KB)

搭載ディスク

システムドライブの容量を表示します。(MB)

空きディスク

システムドライブの空き容量を表示します。(MB)

デスクトップサイズ

デスクトップの表示サイズを表示します。

ウィンドウ情報 (タブウィンドウ)

クライアントにて表示中されているウィンドウのタイトル(キャプション)を一覧表示します。

ウィンドウの表示サイズを変更したり、消去することが出来ます。

[[最小化](#)]、[[最大化](#)]、[[復帰](#)]、[[消去](#)]

プロセス情報 (タブウィンドウ)

クライアントにて実行されているプログラム(プロセス)を一覧表示します。

実行中のプログラムを強制終了させることが出来ます。[[プログラム終了](#)]

アプリケーション情報 (タブウィンドウ)

クライアントにインストールされているアプリケーションを一覧表示します。

表示内容は「プログラムの追加と削除」に表示される物になります。

サービス情報 (タブウィンドウ)

クライアントに登録されているサービスを一覧表示します。

任意のサービスを開始したり、終了させたり出来ます。

[[サービス開始](#)]、[[サービス終了](#)]

【操作ガイド】

クライアント情報は、コマンドパネルから「クライアント情報取得」を選択して都度取得する以外に、「[巡回](#)」により一定間隔で自動取得することも出来ます。

取得された情報はすべて履歴データとして保存されます。

縮小画像の下部にあるスクロールバーを操作することで、過去のデータを簡単に呼び出すことが出来ます。

履歴データが 1,000 件を超えると、自動的に圧縮ファイル(ZIP 形式)に保存されます。

保存された履歴データは、[[履歴管理](#)]でいつでも呼び出すことが出来ます。

コマンドパネル

電源管理

電源投入

リストにて選択されているクライアントの電源を投入します。
「電源投入(スケジュール)」を選択した場合、スケジュール登録画面が表示され、タスクに登録して実行することが出来ます。

スケジュール実行

実行方法

コメント

☒ 指定した日時に一回だけ実行する
☐ 毎日実行する
☐ 曜日を指定して毎回実行する
☐ 日付を指定して毎回実行する

実行日 実行時間

曜日

☐ 日 ☐ 月 ☐ 火 ☐ 水 ☐ 木 ☐ 金 ☐ 土

日付

<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5	<input type="checkbox"/> 6	<input type="checkbox"/> 7
<input type="checkbox"/> 8	<input type="checkbox"/> 9	<input type="checkbox"/> 10	<input type="checkbox"/> 11	<input type="checkbox"/> 12	<input type="checkbox"/> 13	<input type="checkbox"/> 14
<input type="checkbox"/> 15	<input type="checkbox"/> 16	<input type="checkbox"/> 17	<input type="checkbox"/> 18	<input type="checkbox"/> 19	<input type="checkbox"/> 20	<input type="checkbox"/> 21
<input type="checkbox"/> 22	<input type="checkbox"/> 23	<input type="checkbox"/> 24	<input type="checkbox"/> 25	<input type="checkbox"/> 26	<input type="checkbox"/> 27	<input type="checkbox"/> 28
<input type="checkbox"/> 29	<input type="checkbox"/> 30	<input type="checkbox"/> 31				

タスク作成 キャンセル

ヒント

本機能を利用することにより、スリープ状態にあるクライアントの解除を行うことが出来ます。
ただし、ネットワークデバイスの「電源の管理」にて当該機能が有効になっている必要があります。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントパソコンが電源の遠隔投入(Wake on LAN)に対応している必要があります。
- ・ブロードキャストパケット(Magic Packet)が通らない、異なるネットワークのパソコンは電源投入出来ません。
- ・スケジュールはシステムの「タスク スケジューラ」に登録されますが、変更、削除など直接「タスク スケジューラ」で実行出来ます。

ケジューラ」の操作は行わないでください。

作成したスケジュールの変更、削除は必ず「[スケジュール管理](#)」にて行ってください。

電源投入(中継)

リストにて選択されているクライアントの電源を投入します。

起動中の任意のクライアントを中継する事により、セグメントが異なるクライアントの電源を投入することが出来ます。



リストには、起動中のクライアントが表示されます。

電源投入コマンドの中継を依頼するクライアントを選択し、「実行」ボタンを押します。

ヒント

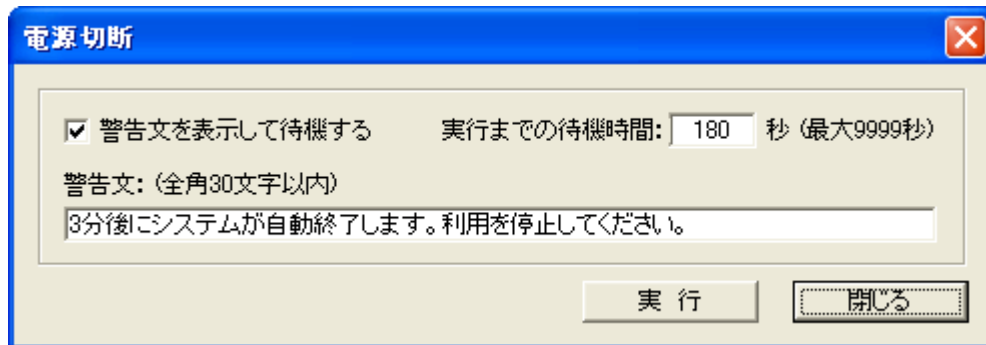
本機能を利用することにより、スリープ状態にあるクライアントの解除を行うことが出来ます。
ただし、ネットワークデバイスの「電源の管理」にて当該機能が有効になっている必要があります。

【動作条件】

- ・最大 100 台までの複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントパソコンが電源の遠隔投入(Wake on LAN)に対応している必要があります。
- ・中継するクライアントは必ず電源が入っている必要があります。

電源切断

リストにて選択されているクライアントの電源を切断します。
クライアントにて実行中のアプリケーションは強制終了となるので注意が必要です。
実行前にクライアントのデスクトップに警告文を表示して、設定した時間待機することができます。
クライアントで本機能により警告文が表示されても、ユーザーは実行を中止させることは出来ません。
(猶予時間が与えられるだけです。)



「電源切断(スケジュール)」を選択した場合、スケジュール登録画面が表示され、タスクに登録して実行することが出来ます。
警告文を表示させる場合は、「[警告文の表示](#)」にて予め登録しておきます。

スケジュール実行

実行方法

コメント

☒ 指定した日時に一回だけ実行する
☐ 毎日実行する
☐ 曜日を指定して毎回実行する
☐ 日付を指定して毎回実行する

実行日 実行時間

曜日

☐ 日 ☐ 月 ☐ 火 ☐ 水 ☐ 木 ☐ 金 ☐ 土

日付

<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5	<input type="checkbox"/> 6	<input type="checkbox"/> 7
<input type="checkbox"/> 8	<input type="checkbox"/> 9	<input type="checkbox"/> 10	<input type="checkbox"/> 11	<input type="checkbox"/> 12	<input type="checkbox"/> 13	<input type="checkbox"/> 14
<input type="checkbox"/> 15	<input type="checkbox"/> 16	<input type="checkbox"/> 17	<input type="checkbox"/> 18	<input type="checkbox"/> 19	<input type="checkbox"/> 20	<input type="checkbox"/> 21
<input type="checkbox"/> 22	<input type="checkbox"/> 23	<input type="checkbox"/> 24	<input type="checkbox"/> 25	<input type="checkbox"/> 26	<input type="checkbox"/> 27	<input type="checkbox"/> 28
<input type="checkbox"/> 29	<input type="checkbox"/> 30	<input type="checkbox"/> 31				

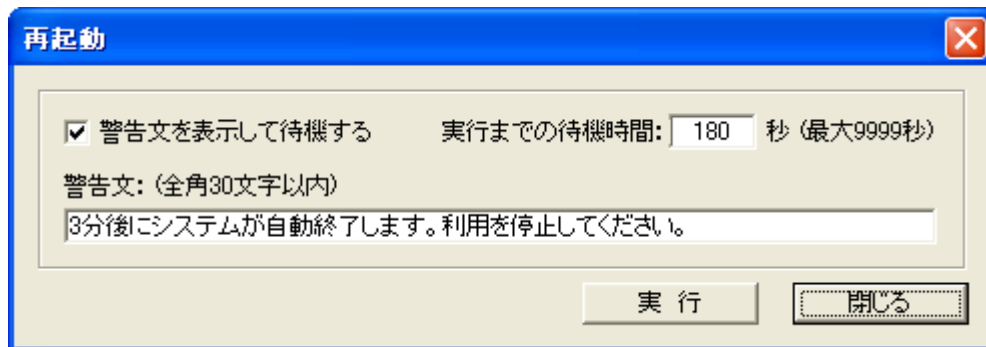
タスク作成 キャンセル

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
 - ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。
 - ・スケジュールはシステムの「タスク スケジューラ」に登録されますが、編集、削除など直接「タスク スケジューラ」の操作は行わないでください。
- 作成したスケジュールの変更、削除は必ず「[スケジュール管理](#)」にて行ってください。

再起動

リストにて選択されているクライアントを再起動(リブート)します。
クライアントにて実行中のアプリケーションは強制終了となるので注意が必要です。
実行前にクライアントのデスクトップに警告文を表示して、設定した時間待機することができます。
クライアントで本機能により警告文が表示されても、ユーザーは実行を中止させることは出来ません。
(猶予時間が与えられるだけです。)



「再起動(スケジュール)」を選択した場合、スケジュール登録画面が表示され、タスクに登録して実行することが出来ます。
警告文を表示させる場合は、「[警告文の表示](#)」にて予め登録しておきます。

スケジュール実行

実行方法

コメント

☒ 指定した日時に一回だけ実行する
☐ 毎日実行する
☐ 曜日を指定して毎回実行する
☐ 日付を指定して毎回実行する

実行日 実行時間

曜日

☐ 日 ☐ 月 ☐ 火 ☐ 水 ☐ 木 ☐ 金 ☐ 土

日付

<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5	<input type="checkbox"/> 6	<input type="checkbox"/> 7
<input type="checkbox"/> 8	<input type="checkbox"/> 9	<input type="checkbox"/> 10	<input type="checkbox"/> 11	<input type="checkbox"/> 12	<input type="checkbox"/> 13	<input type="checkbox"/> 14
<input type="checkbox"/> 15	<input type="checkbox"/> 16	<input type="checkbox"/> 17	<input type="checkbox"/> 18	<input type="checkbox"/> 19	<input type="checkbox"/> 20	<input type="checkbox"/> 21
<input type="checkbox"/> 22	<input type="checkbox"/> 23	<input type="checkbox"/> 24	<input type="checkbox"/> 25	<input type="checkbox"/> 26	<input type="checkbox"/> 27	<input type="checkbox"/> 28
<input type="checkbox"/> 29	<input type="checkbox"/> 30	<input type="checkbox"/> 31				

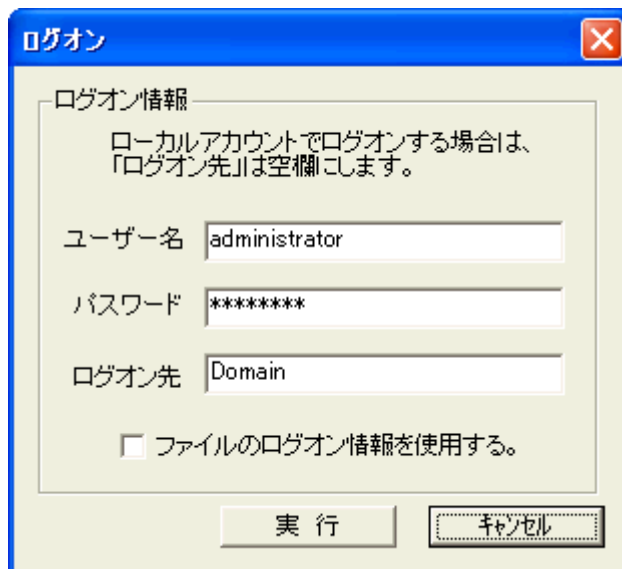
タスク作成 キャンセル

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
 - ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。
 - ・スケジュールはシステムの「タスク スケジューラ」に登録されますが、編集、削除など直接「タスク スケジューラ」の操作は行わないでください。
- 作成したスケジュールの変更、削除は必ず「[スケジュール管理](#)」にて行ってください。

ログオン

リストにて選択されているクライアントを任意のアカウントでログオンします。
ドメインへのログオンやローカルアカウントでのログオンが可能です。
ローカルアカウントでのログオンの場合、「ログオン先」の入力欄は空白のままとします。



「ファイルのログオン情報を使用する」のチェックをオンにすると、クライアントごとに異なるアカウントでログオンさせることが出来ます。
ログオンする情報は予め「[ログオン情報登録](#)」にてファイルに登録しておきます。
ログオン情報ファイルを利用してログオンする際、ファイルに登録がないクライアントは上記ダイアログの内容が適用されます。
「ログオン(スケジュール)」を選択した場合、「実行」ボタンを押すとスケジュール登録画面が表示され、タスクに登録して実行することが出来ます。

スケジュール実行

実行方法

コメント

☒ 指定した日時 to 一回だけ実行する
☐ 毎日実行する
☐ 曜日を指定して毎回実行する
☐ 日付を指定して毎回実行する

実行日 実行時間

曜日

☐ 日 ☐ 月 ☐ 火 ☐ 水 ☐ 木 ☐ 金 ☐ 土

日付

<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5	<input type="checkbox"/> 6	<input type="checkbox"/> 7
<input type="checkbox"/> 8	<input type="checkbox"/> 9	<input type="checkbox"/> 10	<input type="checkbox"/> 11	<input type="checkbox"/> 12	<input type="checkbox"/> 13	<input type="checkbox"/> 14
<input type="checkbox"/> 15	<input type="checkbox"/> 16	<input type="checkbox"/> 17	<input type="checkbox"/> 18	<input type="checkbox"/> 19	<input type="checkbox"/> 20	<input type="checkbox"/> 21
<input type="checkbox"/> 22	<input type="checkbox"/> 23	<input type="checkbox"/> 24	<input type="checkbox"/> 25	<input type="checkbox"/> 26	<input type="checkbox"/> 27	<input type="checkbox"/> 28
<input type="checkbox"/> 29	<input type="checkbox"/> 30	<input type="checkbox"/> 31				

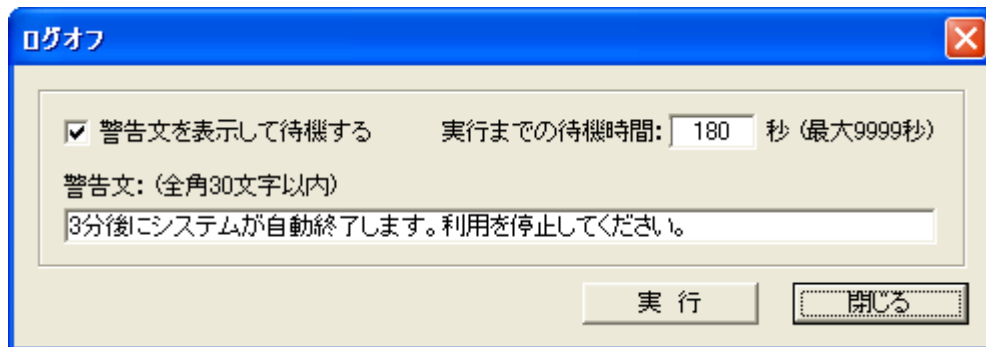
タスク作成 キャンセル

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・スケジュールはシステムの「タスク スケジューラ」に登録されますが、編集、削除など直接「タスク スケジューラ」の操作は行わないでください。
- 作成したスケジュールの変更、削除は必ず「[スケジュール管理](#)」にて行ってください。

ログオフ

リストにて選択されている、ログオン状態のクライアントをログオフします。
クライアントにて実行中のアプリケーションは強制終了となるので注意が必要です。
実行前にクライアントのデスクトップに警告文を表示して、設定した時間待機することができます。
クライアントで本機能により警告文が表示されても、ユーザーは実行を中止させることは出来ません。
(猶予時間が与えられるだけです。)



「ログオフ(スケジュール)」を選択した場合、スケジュール登録画面が表示され、タスクに登録して実行することが出来ます。

警告文を表示させる場合は、「[警告文の表示](#)」にて予め登録しておきます。

スケジュール実行

実行方法

コメント

☒ 指定した日時に一回だけ実行する
☐ 毎日実行する
☐ 曜日を指定して毎回実行する
☐ 日付を指定して毎回実行する

実行日 実行時間

曜日

☐ 日 ☐ 月 ☐ 火 ☐ 水 ☐ 木 ☐ 金 ☐ 土

日付

☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7
☐ 8 ☐ 9 ☐ 10 ☐ 11 ☐ 12 ☐ 13 ☐ 14
☐ 15 ☐ 16 ☐ 17 ☐ 18 ☐ 19 ☐ 20 ☐ 21
☐ 22 ☐ 23 ☐ 24 ☐ 25 ☐ 26 ☐ 27 ☐ 28
☐ 29 ☐ 30 ☐ 31

タスク作成 キャンセル

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・スケジュールはシステムの「タスク スケジューラ」に登録されますが、編集、削除など直接「タスク スケジューラ」の操作は行わないでください。
- 作成したスケジュールの変更、削除は必ず「[スケジュール管理](#)」にて行ってください。

スリープ

リストにて選択されているクライアントをスリープ(スタンバイ)状態にしたり、解除したりします。

解除は「スリープ、休止状態解除」の操作を行ってください。

解除は電源 ON と同様、ブロードキャストパケットを送出して行うため、異なるネットワークにあるクライアントの解除操作を行えない事があります。

その場合は、「[電源投入\(中継\)](#)」機能を利用することで可能となる場合があります。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・本機能を利用するには、ネットワークデバイス(NIC)の「電源の管理」にて、設定変更が必要となる場合があります。(OS 設定)
- ・ロック状態を解除することは出来ません。(解除時のパスワード入力を不要としてください。)
- ・ハードウェアやシステムの設定状況によっては正常に機能しないことがあります。

休止状態

リストにて選択されているクライアントを休止状態にしたり、解除したりします。

解除は「スリープ、休止状態解除」の操作を行ってください。

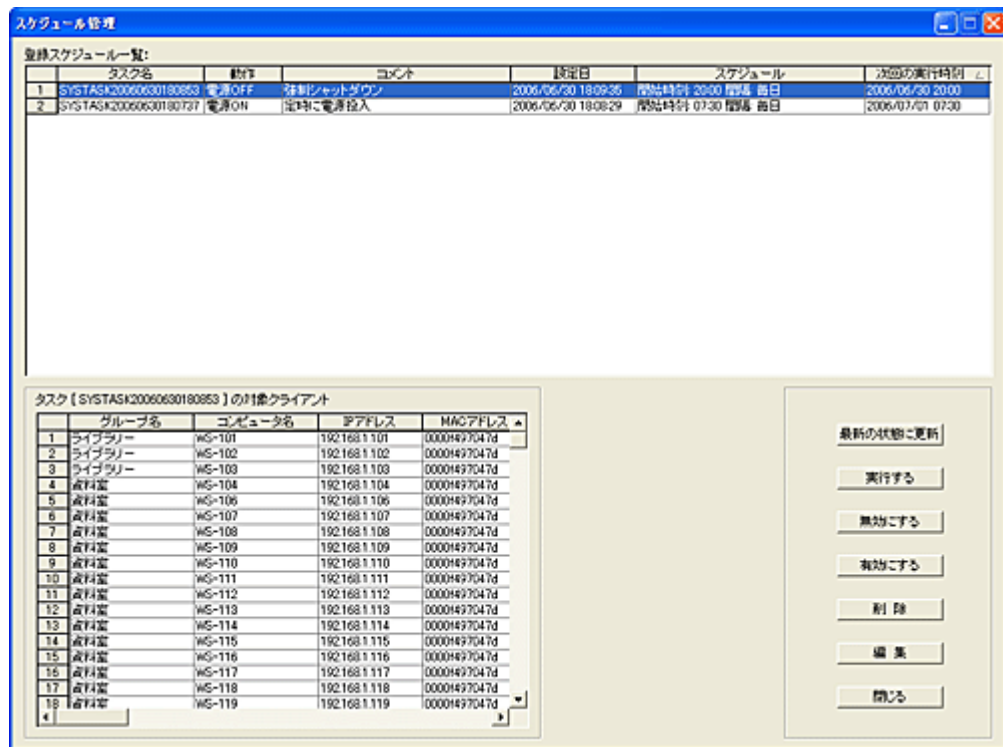
解除は電源 ON と同様、ブロードキャストパケットを送出して行うため、異なるネットワークにあるクライアントの解除操作を行えない事があります。

その場合は、「[電源投入\(中継\)](#)」機能を利用することで可能となる場合があります。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・本機能を利用するには、ネットワークデバイス(NIC)の「電源の管理」にて、設定変更が必要となる場合があります。(OS 設定)
- ・解除後のロック状態を解除することは出来ません。(解除時のパスワード入力を不要としてください。)
- ・ハードウェアやシステムの設定状況によっては正常に機能しないことがあります。

スケジュール管理



スケジュール登録された内容を確認したり、実行日時の変更が可能です。

最新の状態に更新

本ウィンドウが表示されてからスケジュールの実行内容に変化があった場合、「最新の状態に更新」ボタンを押すとリストの内容が更新されます。

実行する

選択されているスケジュールを強制的に直ちに実行します。

無効にする

選択されているスケジュールの実行を無効にします。

有効にする

無効にしたスケジュールを再び有効な状態にします。

削除

選択されているスケジュールを削除します。

編集

選択されているスケジュールの実行日時の変更を行います。

【動作条件】

- ・システムコントロールのスケジュールはシステムの「タスク」に登録されますが、直接「タスク」の操作

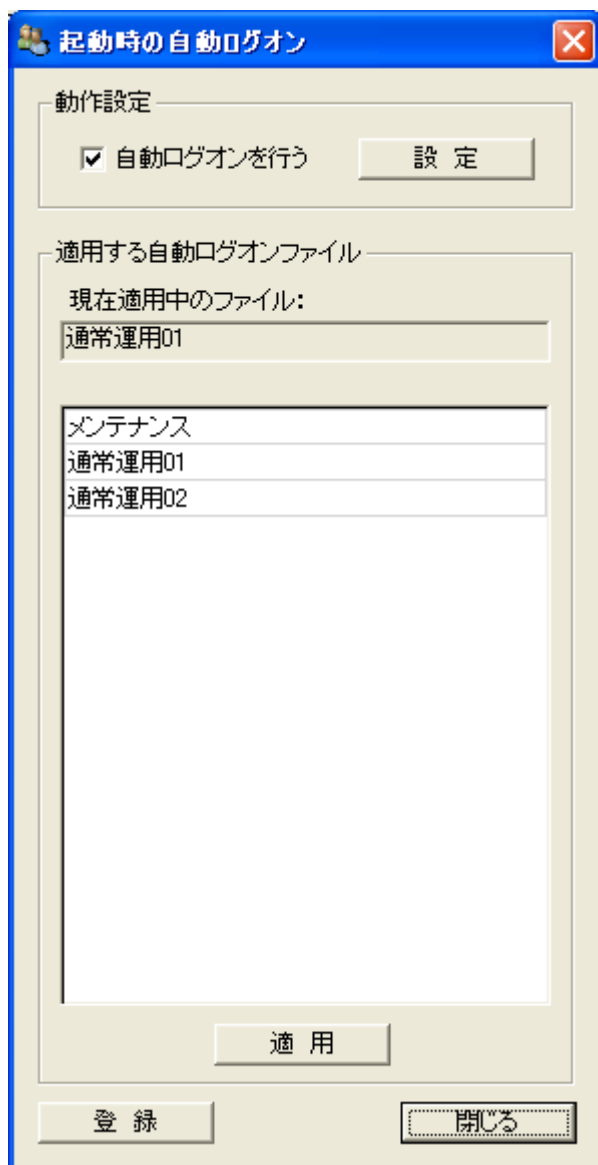
は行わないでください。

スケジュールの変更や削除は必ず本ウィンドウから行ってください。

・「スケジュール管理」の画面を表示するには、管理者権限が必要です。

起動時自動ログオン

クライアントが起動した際、予め設定されたアカウントで自動ログオンさせる事が出来ます。
ログオンに必要なアカウント情報は、自動ログオンファイルとしてマネージャー側で保持します。
クライアントは起動時にマネージャーからログオン情報を取得し、ログオンします。



動作設定

「自動ログオンを行う」を選択し「設定」ボタンを押すと、自動ログオン機能が作動します。
動作を停止するには、選択を解除し「設定」ボタンを押します。

現在適用中のファイル

現在、自動ログオン設定として利用しているファイル名が表示されます。

適用

自動ログオン設定として適用したいファイルをリストから選択し、「適用」ボタンを押します。

登録

[自動ログオンの設定ファイルを作成します。](#)

【動作条件】

本機能の設定や登録を行うとき、クライアントコンピューターの電源は入っている必要は無く設定内容がクライアントに保存されることはありません。

非常に多くのクライアントを登録し自動ログオンさせる場合、マネージャーコンピューターやネットワークの性能により正常に動作しない事があります。

その際はマネージャーを分散化する事で改善されます。

起動時自動ログオン登録

起動時の自動ログオンに必要な情報はファイルとして管理され、複数のファイルを保持することが可能です。



新規作成

新しい自動ログオンファイルを作成する場合、「新規作成」ボタンを押します。

変更・確認

登録済みの自動ログオンファイルを変更したり設定内容を確認するには、リストから対象のファイルを選択し「変更・確認」ボタンを押します。

削除

登録済みの自動ログオンファイルを削除するには、「削除」ボタンを押します。(複数選択実行可能)

登録画面(新規作成時)

ログイン情報登録

	コンピュータ名	グループ	ユーザー名	パスワード	ログオン先
1	ASPIRE5535	オープン室1			
2	BUSINESS-PC5	オープン室1			
3	CF-R4	オープン室1			
4	GRAND-PC	オープン室1			
5	HP-TX1000	オープン室1			
6	OIZUMI-PC	オープン室1			
7	TEST-PC1	オープン室1			
8	VIRTUALXP-37204	オープン室1			
9	VM01	オープン室1			
10	VM02	オープン室1			
11	WIN-VM02	オープン室1			
12	WIN2K8R264STD	オープン室1			
13	WIN7-64ENT	オープン室1			
14	WIN7-64PC0	オープン室1			
15	WIN7-ENG0	オープン室1			
16	WIN7-PC2	オープン室1			
17	WIN7-VB01	オープン室1			
18	WIN7	オープン室1			
19	WIN8	オープン室1			
20	XP-PC1	オープン室1			
21	BLACK	システム室			
22	GX260-1	システム室			
23	Server1	システム室			
24	Server2	システム室			
25	ULTIMATE-PC1	システム室			
26	ULTIMATE64-PC	システム室			
27	YAYOI	ライブラリー			
28	2KJ	管理部			
29	BUSINESS-PC4	管理部			
30	GOLD	管理部			
31	HOMEPREMIUM-PC	管理部			
32	ROOT-PC	管理部			
33	VISTA-PC2	管理部			

ユーザー名

パスワード

ログオン先

登録画面(編集・確認時)

ログオン情報登録

	コンピュータ名	グループ	ユーザー名	パスワード	ログオン先
1	ASPIRE5535	オープン室1	guestuser001	*****	mydomain
2	BUSINESS-PC5	オープン室1	guestuser002	*****	mydomain
3	CF-R4	オープン室1	guestuser003	*****	mydomain
4	GRAND-PC	オープン室1	guestuser004	*****	mydomain
5	HP-TX1000	オープン室1	guestuser005	*****	mydomain
6	OIZUMI-PC	オープン室1	guestuser006	*****	mydomain
7	TEST-PC1	オープン室1	guestuser007	*****	mydomain
8	VIRTUALXP-37204	オープン室1	guestuser008	*****	mydomain
9	VM01	オープン室1	guestuser009	*****	mydomain
10	VM02	オープン室1	guestuser010	*****	mydomain
11	WIN-VM02	オープン室1	guestuser011	*****	mydomain
12	WIN2K8R264STD	オープン室1	guestuser012	*****	mydomain
13	WIN7-64ENT	オープン室1	guestuser013	*****	mydomain
14	WIN7-64PC0	オープン室1	guestuser014	*****	mydomain
15	WIN7-ENG0	オープン室1	guestuser015	*****	mydomain
16	WIN7-PC2	オープン室1	guestuser016	*****	mydomain
17	WIN7-VB01	オープン室1	guestuser017	*****	mydomain
18	WIN7	オープン室1	guestuser018	*****	mydomain
19	WIN8	オープン室1	guestuser019	*****	mydomain
20	XP-PC1	オープン室1	guestuser020	*****	mydomain
21	BLACK	システム室	administrator	*****	mydomain
22	GX260-1	システム室	administrator	*****	mydomain
23	Server1	システム室	administrator	*****	mydomain
24	Server2	システム室	administrator	*****	mydomain
25	ULTIMATE-PC1	システム室	administrator	*****	mydomain
26	ULTIMATE64-PC	システム室	administrator	*****	mydomain
27	YAYOI	ライブラリー	lib001	*****	mydomain
28	2KJ	管理部	kanri001	*****	mydomain
29	BUSINESS-PC4	管理部	kanri002	*****	mydomain
30	GOLD	管理部	kanri003	*****	mydomain
31	HOMEPREMIUM-PC	管理部	kanri004	*****	mydomain
32	ROOT-PC	管理部	kanri005	*****	mydomain
33	VISTA-PC2	管理部	kanri006	*****	mydomain

ユーザー名

パスワード

ログオン先

新規作成の場合、マネージャーに登録されているすべてのクライアントがリストに表示されます。

ユーザー名、パスワード、ログオン先

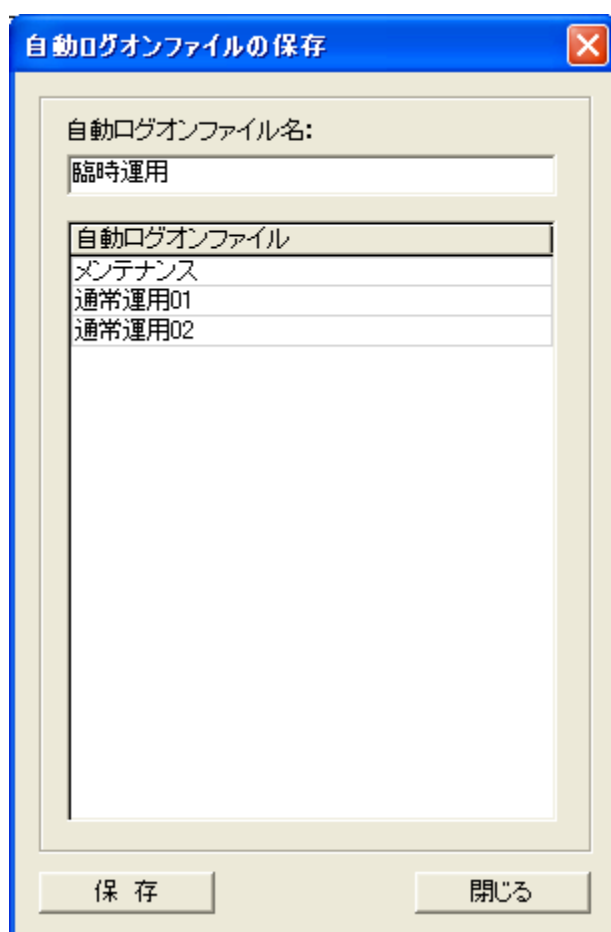
設定対象のクライアントを選択し、それぞれの「入力」ボタンを押して設定します。(複数一括実行可能)

削除

登録されているクライアントをリストから削除します。(複数一括実行可能)

保存

リストの内容をファイルに保存します。



自動ログオンファイル名

自動ログオンファイル名を入力し、「保存」ボタンを押します。

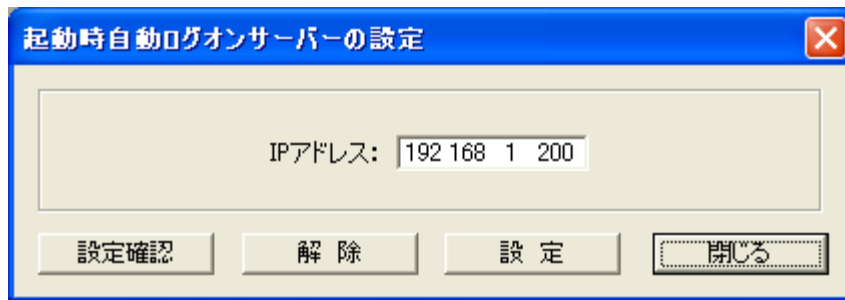
「変更・確認」の場合は自動的にファイル名が表示されますが、異なる名前に変更して保存することが可能です。

起動時自動ログオンサーバーの設定

複数のマネージャーにてクライアントの管理を行っている場合、本機能を利用して自動ログオン命令の処理を行うマネージャーを、特定の1台に固定することができます。

この操作を行うには、マネージャーのメイン画面にて対象となるクライアントの選択を行ってから実行する必要があります。

設定内容はクライアント側のレジストリに保存されますので、実行前に設定対象のクライアントコンピューターが起動していることを確認してください。



設定

登録したいマネージャーのIPアドレスを入力し、「設定」ボタンを押します。
正常に登録された場合、メイン画面の「情報」欄に登録内容が表示されます。

解除

マネージャーの登録を解除したい場合、「解除」ボタンを押してください。
正常に解除された場合、メイン画面の「情報」欄に結果が表示されます。

設定確認

マネージャーの登録内容を取得し、メイン画面の「情報」欄に表示します。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

ログオン情報登録

ログオン情報登録

	コンピュータ名	IPアドレス	グループ	ユーザー名	パスワード	ログオン先
6	WS-101	192.168.1.101	ライブラリー	common		Domain2
7	WS-102	192.168.1.102	ライブラリー	common		Domain2
8	WS-103	192.168.1.103	ライブラリー	common		Domain2
9	WS-104	192.168.1.104	資料室	administrator		Domain1
10	WS-105	192.168.1.105	資料室	administrator		Domain1
11	WS-107	192.168.1.107	資料室	administrator		Domain1
12	WS-108	192.168.1.108	資料室	administrator		Domain1
13	WS-109	192.168.1.109	資料室	administrator		Domain1
14	WS-110	192.168.1.110	資料室	administrator		Domain1
15	WS-111	192.168.1.111	資料室	administrator		Domain1
16	WS-112	192.168.1.112	資料室	administrator		Domain1
17	WS-113	192.168.1.113	資料室	administrator		Domain1
18	WS-114	192.168.1.114	資料室	administrator		Domain1
19	WS-115	192.168.1.115	資料室	administrator		Domain1
20	WS-116	192.168.1.116	資料室	administrator		Domain1
21	WS-117	192.168.1.117	資料室	administrator		Domain1
22	WS-118	192.168.1.118	資料室	administrator		Domain1
23	WS-119	192.168.1.119	資料室	administrator		Domain1
24	WS-120	192.168.1.120	事務所	administrator		Domain1
25	WS-121	192.168.1.121	事務所	administrator		Domain1
26	WS-122	192.168.1.122	事務所	administrator		Domain1
27	WS-123	192.168.1.123	事務所	administrator		Domain1
28	WS-140	192.168.1.140	資料室	administrator		Domain1
29	WS-125	192.168.1.125	事務所	administrator		Domain1
30	WS-126	192.168.1.126	事務所	administrator		Domain1
31	WS-130	192.168.1.130	事務所	administrator		Domain1
32	WS-128	192.168.1.128	事務所	administrator		Domain1
33	WS-129	192.168.1.129	事務所	administrator		Domain1
34	WS-124	192.168.1.124	事務所	administrator		Domain1
35	WS-134	192.168.1.134	事務所	administrator		Domain1
36	WS-131	192.168.1.131	事務所	administrator		Domain1
37	WS-133	192.168.1.133	事務所	administrator		Domain1
38	GREEN	192.168.1.50	システム室	administrator		Domain1

ユーザー名

パスワード

ログオン先

クライアントごとに異なるアカウントで同時にログオンすることが出来ます。

ログオン情報を本ウィンドウで登録します。(必要なクライアントのみ登録してください。)

同じ値を複数のクライアントに入力するには、対象のクライアントを選択した状態でそれぞれの「一括入力」ボタンを押してください。

一括入力欄を空欄のまま「一括入力」ボタンを押すと、入力をクリアすることが出来ます。

自動ログオン登録

クライアント起動時、任意のアカウントで自動ログオンさせる事が出来ます。

設定の対象となるクライアントをリストにて選択状態にします。(起動状態のクライアント)
ユーザー名、パスワード、ログオン先などのログオンに必要な情報を入力し「設定」ボタンを押します。
ドメインにログオンするには、「ログオン先」にドメイン名を入力します。
ローカルアカウントでログオンする場合は、「ログオン先」の入力欄は空白のままとします。
設定情報はクライアント側のレジストリに暗号化されて保存されます。

設定された内容にて自動ログオンを行うには「有効」ボタンを押して機能を有効にします。
自動ログオンは、設定を「無効」にするまで継続します。

登録内容を確認するには「設定確認」ボタンを押します。
クライアントリストの「情報」欄に登録内容が表示されます。

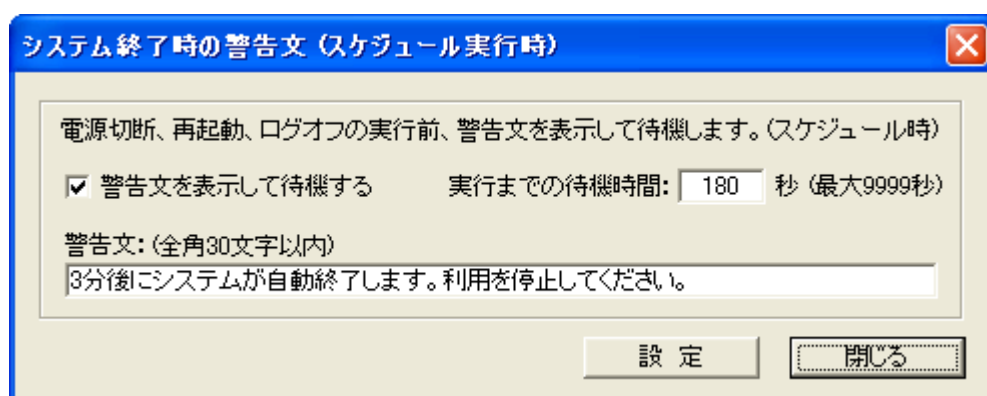
【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。

注意

本機能は、Windows(OS)が備えるレジストリ登録を利用した自動ログオン機能とは独立して動作します。
OSの自動ログオン機能を利用される場合は、誤動作防止のため本機能は必ず無効にしてください。

警告文の表示



マネージャーから「電源切断」、「再起動」および「ログオフ」のコマンドが送信された際、直ちに実行せずに警告文を表示して任意の時間待機させることができます。

「警告文を表示して待機する」のチェックがオフの場合、実行は直ちに行われます。

クライアントで本機能により警告文が表示されても、ユーザーは実行を中止させることは出来ません。(猶予時間が与えられるだけです。)

ログ記録

ログ機能の利用について

ログの利用開始

「利用ログ」機能を初めて使用する場合は、最低限以下の 2 手順が必要です。

1.「[ログ設定](#)」にて、記録するログの内容やログファイルの回収方法などの設定を行います。

設定内容の多くは、クライアント側に送信され保存されますので、設定前に予め対象のクライアントをメイン画面のリストにて選択しておく必要があります。

2.ログ設定が完了したら、「[ログ記録開始](#)」を実行します。

ログの回収

記録されたログはマネージャー側に回収します。

回収方法には「手動回収」と「自動回収」があります。

「[ログ回収](#)」を実行すると、直ちにクライアントからログが回収されます。

継続的にログ機能を利用する場合は「自動回収」の設定が便利です。

「自動回収」の設定は、「[ログ設定](#)」で行います。

ほとんどのケースでは、クライアントがログオフするときに自動回収する設定が有効です。

ログの確認表示

クライアントに保存されているログの内容を、一時的に閲覧したいときに利用します。

ログアラート表示

クライアントにて行われた問題となる操作をアラート(警告)として管理者側に通知する機能です。

検出したい内容は予め「[ログ設定](#)」で登録する必要があります。

回収されたログの整理と結合

クライアントから回収されたログは回収の都度、新しいファイル名で作成保存されます。

ログの整理と結合を適宜実行することで、コンピューター別又は 1 つの結合ファイルに整理することが出来ます。

ログサーバーの設定

複数のマネージャーを設置してクライアントの管理を行っている場合に利用する設定です。

マネージャーが 1 台の場合は、設定不要な機能です。

注意事項

- ・記録するログの種類によっては、膨大な記録容量となることがあります。

- 特に、「ファイル操作」と「共有フォルダ」にはご注意ください。

- ・シンクライアント環境や環境復元ツールをご利用の場合の注意点

- 1.ログの回収は「ログオフ時に自動回収」する設定でご利用ください。

- 2.「ログ設定」などの設定内容は、クライアント側にレジストリ及びファイルとして記録されます。

- イメージ作成や保護設定は、ログの設定がすべて完了した後で行ってください。

ログ記録開始、記録終了

クライアントにてユーザーが行った操作等の記録(ログ)を行うことが出来ます。

記録するログの内容(種類)は、「[ログ設定](#)」にて行います。

記録中のクライアントは、リスト内のログアイコン(左から 8 つめの項目)が点灯します。

ログの記録を開始すると、記録終了の操作を行うまで記録を継続します。(再起動後も有効)

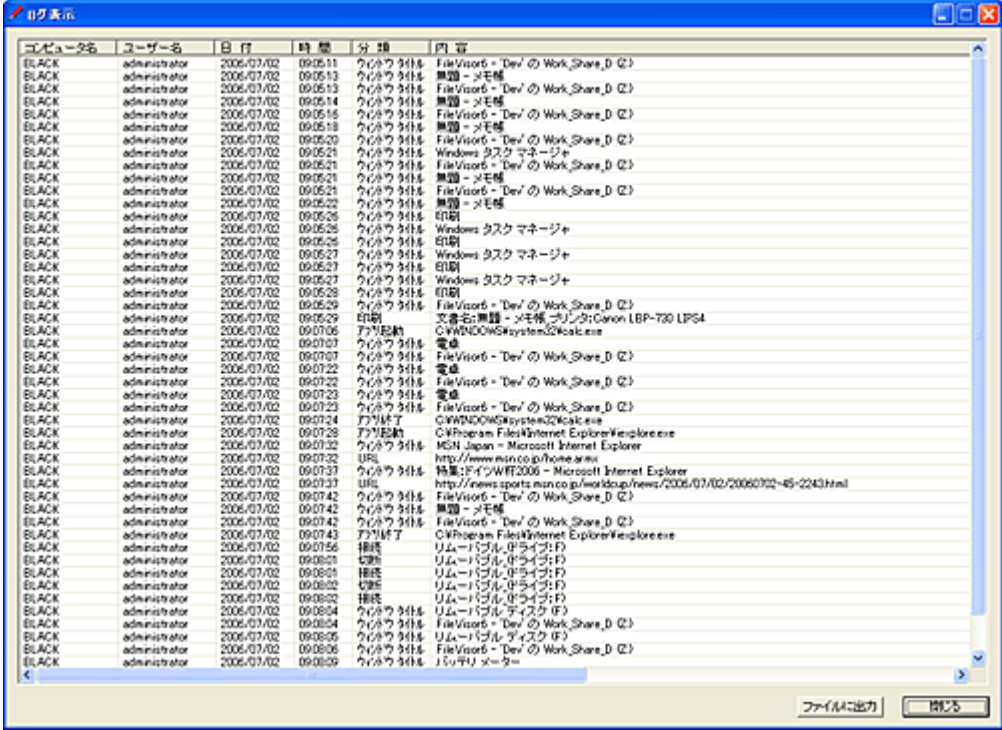
※記録されたログはクライアントのディスク上に保存されます。

※記録終了の操作を行っても、それまで蓄積されたログの内容は失われません。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

ログ確認表示



クライアント名	ユーザー名	日付	時間	分類	内容
ELACK	administrator	2006/07/02	09:05:11	クライアント側	FileVisorb = 'Dev' の Work_Share_D (2)
ELACK	administrator	2006/07/02	09:05:13	クライアント側	無題 - メモ帳
ELACK	administrator	2006/07/02	09:05:13	クライアント側	FileVisorb = 'Dev' の Work_Share_D (2)
ELACK	administrator	2006/07/02	09:05:14	クライアント側	無題 - メモ帳
ELACK	administrator	2006/07/02	09:05:16	クライアント側	FileVisorb = 'Dev' の Work_Share_D (2)
ELACK	administrator	2006/07/02	09:05:18	クライアント側	無題 - メモ帳
ELACK	administrator	2006/07/02	09:05:20	クライアント側	FileVisorb = 'Dev' の Work_Share_D (2)
ELACK	administrator	2006/07/02	09:05:21	クライアント側	Windows タスク マネージャ
ELACK	administrator	2006/07/02	09:05:21	クライアント側	FileVisorb = 'Dev' の Work_Share_D (2)
ELACK	administrator	2006/07/02	09:05:21	クライアント側	無題 - メモ帳
ELACK	administrator	2006/07/02	09:05:21	クライアント側	FileVisorb = 'Dev' の Work_Share_D (2)
ELACK	administrator	2006/07/02	09:05:22	クライアント側	無題 - メモ帳
ELACK	administrator	2006/07/02	09:05:26	クライアント側	印刷
ELACK	administrator	2006/07/02	09:05:26	クライアント側	Windows タスク マネージャ
ELACK	administrator	2006/07/02	09:05:26	クライアント側	印刷
ELACK	administrator	2006/07/02	09:05:27	クライアント側	Windows タスク マネージャ
ELACK	administrator	2006/07/02	09:05:27	クライアント側	印刷
ELACK	administrator	2006/07/02	09:05:27	クライアント側	Windows タスク マネージャ
ELACK	administrator	2006/07/02	09:05:28	クライアント側	印刷
ELACK	administrator	2006/07/02	09:05:29	クライアント側	FileVisorb = 'Dev' の Work_Share_D (2)
ELACK	administrator	2006/07/02	09:05:29	クライアント側	文書名: 無題 - メモ帳, プリンタ: Canon LBP-730 LPS4
ELACK	administrator	2006/07/02	09:07:06	クライアント側	C:\WINDOWS\system32\cmd.exe
ELACK	administrator	2006/07/02	09:07:07	クライアント側	電卓
ELACK	administrator	2006/07/02	09:07:07	クライアント側	FileVisorb = 'Dev' の Work_Share_D (2)
ELACK	administrator	2006/07/02	09:07:22	クライアント側	電卓
ELACK	administrator	2006/07/02	09:07:22	クライアント側	FileVisorb = 'Dev' の Work_Share_D (2)
ELACK	administrator	2006/07/02	09:07:23	クライアント側	電卓
ELACK	administrator	2006/07/02	09:07:23	クライアント側	FileVisorb = 'Dev' の Work_Share_D (2)
ELACK	administrator	2006/07/02	09:07:24	クライアント側	C:\WINDOWS\system32\cmd.exe
ELACK	administrator	2006/07/02	09:07:28	クライアント側	C:\Program Files\Internet Explorer\iexplore.exe
ELACK	administrator	2006/07/02	09:07:32	クライアント側	MSN Japan - Microsoft Internet Explorer
ELACK	administrator	2006/07/02	09:07:32	クライアント側	URL: http://www.msn.co.jp/home.aspx
ELACK	administrator	2006/07/02	09:07:37	クライアント側	検索: F:\WFT2006 - Microsoft Internet Explorer
ELACK	administrator	2006/07/02	09:07:37	クライアント側	URL: http://news.sports.msn.co.jp/worldcup/news/2006/07/02/20060702-45-2243.html
ELACK	administrator	2006/07/02	09:07:42	クライアント側	FileVisorb = 'Dev' の Work_Share_D (2)
ELACK	administrator	2006/07/02	09:07:42	クライアント側	無題 - メモ帳
ELACK	administrator	2006/07/02	09:07:42	クライアント側	FileVisorb = 'Dev' の Work_Share_D (2)
ELACK	administrator	2006/07/02	09:07:43	クライアント側	C:\Program Files\Internet Explorer\iexplore.exe
ELACK	administrator	2006/07/02	09:07:56	クライアント側	リムーバブル (ドライブ F)
ELACK	administrator	2006/07/02	09:08:01	クライアント側	リムーバブル (ドライブ F)
ELACK	administrator	2006/07/02	09:08:01	クライアント側	リムーバブル (ドライブ F)
ELACK	administrator	2006/07/02	09:08:02	クライアント側	リムーバブル (ドライブ F)
ELACK	administrator	2006/07/02	09:08:02	クライアント側	リムーバブル (ドライブ F)
ELACK	administrator	2006/07/02	09:08:04	クライアント側	リムーバブル (ドライブ F)
ELACK	administrator	2006/07/02	09:08:04	クライアント側	FileVisorb = 'Dev' の Work_Share_D (2)
ELACK	administrator	2006/07/02	09:08:05	クライアント側	リムーバブル (ドライブ F)
ELACK	administrator	2006/07/02	09:08:06	クライアント側	FileVisorb = 'Dev' の Work_Share_D (2)
ELACK	administrator	2006/07/02	09:08:09	クライアント側	リムーバブル (ドライブ F)

クライアントに記録されているログを確認、表示することが出来ます。

表示内容を CSV ファイルに保存することも可能です。

表示した内容は回収されず、そのままクライアント側に残ります。

[ログ回収](#)を行った直後は「確認表示」を実行しても何も表示されません。(記録が消去されている為)

表示項目の分類が「URL」となっている行をダブルクリックすると、内容欄に表示されている URL のページをブラウザで表示することが可能です。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行は不可。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

ログアラート表示

クライアントにて記録されるログに、予め設定した条件を満たす内容が含まれていた場合、マネージャーに対してその内容を直ちに通報することが出来ます。

クライアントにおける不正使用などの事象発生を、リアルタイムに管理者は知ることが出来ます。

ログアラート機能を利用するには、予め検知条件等の[登録](#)を行う必要が有ります。

クライアントにて通報対象として検知されたログ内容は、発生時直ちにマネージャーへ送信されます。このとき、マネージャーのメインプログラムが起動している必要は有りません。(サービスとして動作しています。)

クライアントから通報を受けると、その内容はマネージャー側でファイルに蓄積保存されます。

クライアントから通報を受け取った時点でマネージャーが起動している場合は、リスト内のアラートアイコン(左から3つめの項目)が点灯します。

アラートアイコンは、リスト内でそのクライアントをクリックすることで消灯します。

ファイル保存されているアラートログは、「ログアラート表示」で表示、確認が可能です。

	コンピュータ名	ユーザー名	日時	時間	内容
1	ULTIMATE-PC1	Administrator	2008/06/11	10:11:37	LOGOFF
2	ULTIMATE-PC1	Administrator	2008/06/11	10:11:29	終了
3	ULTIMATE-PC1	Administrator	2008/06/11	10:11:09	URL http://www.2ch.net/2ch.html
4	ULTIMATE-PC1	Administrator	2008/06/11	10:11:02	URL http://img.2ch.net/mog2/
5	ULTIMATE-PC1	Administrator	2008/06/11	10:10:43	URL http://www.2ch.net/2ch.html
6	ULTIMATE-PC1	Administrator	2008/06/11	10:10:36	URL http://www.2ch.net/
7	ULTIMATE-PC1	Administrator	2008/06/11	10:06:06	起動 C:\Program Files\Internet Explorer\iexplore.exe
8	ULTIMATE-PC1	Administrator	2008/06/11	10:05:32	起動 C:\Work\Winny.exe
9	ULTIMATE-PC1	Administrator	2008/06/11	10:03:51	ファイル作成 D:\管理マスタ.xls
10	ULTIMATE-PC1	Administrator	2008/06/11	10:00:55	接続 リムーバブルドライブ:G
11	ULTIMATE-PC1	Administrator	2008/06/11	10:00:47	終了 C:\Program Files\Internet Explorer\iexplore.exe
12	ULTIMATE-PC1	Administrator	2008/06/11	10:00:07	キャプション Yahoo!掲示板 - 恋愛 - Windows Internet Explorer
13	ULTIMATE-PC1	Administrator	2008/06/11	10:00:03	キャプション Yahoo!掲示板 - 出会い - Windows Internet Explorer
14	ULTIMATE-PC1	Administrator	2008/06/11	09:58:50	URL http://auctions.yahoo.co.jp/g/
15	ULTIMATE-PC1	Administrator	2008/06/11	09:58:37	起動 C:\Program Files\Internet Explorer\iexplore.exe
16	ULTIMATE-PC1	Administrator	2008/06/11	09:58:19	LOGIN

ログアラートを全て破棄したい場合は、「ファイル削除」ボタンを押します。

リスト内のログを選択し、「別ファイルに出力」ボタンを押すと、選択されているログの内容だけを別ファイルに保存することが出来ます。

注意

ログアラート機能は、記録されたログの内容を利用することで機能しますので、[ログの記録](#)が行われていることが前提条件になります。

また、検知条件に指定したログの内容が記録可能になっている必要があります。

アラートとして検知する設定内容によっては、短時間に大量の通報が発生する可能性があります。
特に、メール通報を有効にしている場合は、大量のメール送信が行われることになりますので注意が必要です。

これを回避するには、「[ログ設定](#)」の画面にて検知間隔を長くしたり、[メール通報設定画面](#)の通報間隔を長くするなどしてください。

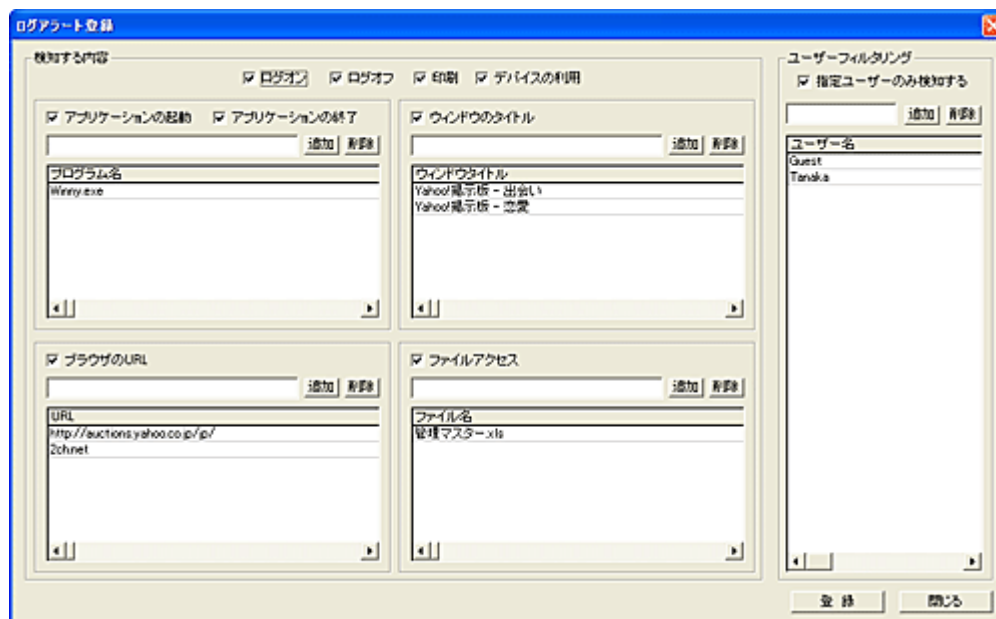
ログアラートの登録

クライアントにて記録されるログに、予め設定した条件を満たす内容が含まれていた場合、マネージャーに対してその内容を直ちに通報することが出来ます。

クライアントにおける不正使用などの事象発生を、リアルタイムに管理者は知ることが出来ます。

ログアラート機能を利用するには、予め検知条件等の登録を行う必要が有ります。

「[ログ設定](#)」の画面にて「アラート内容の登録」ボタンを押します。



検知する内容

検知内容として、以下の設定が可能です。

1. ログオン
クライアントのユーザーがログオンした事を検知します。
2. ログオフ
クライアントのユーザーがログオフした事を検知します。(シャットダウン、再起動も含まれます。)
3. 印刷
クライアントにて印刷が行われたことを検知します。
4. デバイスの利用
クライアントにて USB メモリなどのデバイスの接続や切断が行われたことを検知します。
5. アプリケーションの起動、終了
リストに登録されているアプリケーションの起動と終了を検知します。
特定のフォルダの実行ファイルを指定するには、フルパスで指定してください。
6. ウィンドウのタイトル
利用したウィンドウのタイトル(キャプション)を検知します。
7. ブラウザの URL
ブラウザにて表示したページの URL を検知します。
8. ファイルアクセス
利用したファイルを検知します。
特定のフォルダ内のファイルを検知するには、フルパスで指定してください。
ワイルドカードを利用したファイル設定は出来ません。

※各リストに登録した内容でログの記録内容を文字列比較します。(半角の大文字小文字は無視します)

ユーザーフィルタリング

「指定ユーザーのみ検知する」を選択すると、ユーザーリストに登録されているユーザーのみが検知対象となります。

不特定のユーザーが利用するコンピュータにて、特定のユーザーのみ監視したい場合に有効です。

ログアラートメール通報の登録

電子メールを使ったログアラートの通報を利用するには、予めメールアドレス等の登録を行う必要があります。

「[ログ設定](#)」の画面にて「メール通報の登録」ボタンを押します。

メール通報を行う場合、「メールでの通報を行う」を選択してください。

通報間隔を設定することで、頻繁にメール通報が行われることを防止できます。
連続して通報対象の受信が有っても、設定した間隔でのみメール送信が行われます。
間隔内に発生した通報情報は破棄されます。

「ユーザーID」および「パスワード」には SMTP 認証のアカウントを入力してください。
送信先アドレスには最大 3 つまで登録が可能で、登録アドレス全てに送信します。

「通報試験」ボタンを押すと、設定された内容で試験メールを送信します。
送信先に登録したアドレスに試験メールが配信されない場合は、設定内容を確認してください。

ログ回収

ログ回収 (実行中)					
	グループ名	コンピュータ名	IPアドレス	実行状況	回収日時
1	システム室	AION	192.168.1.13	回収完了	2006/07/01 17:49:54
2	システム室	BLACK	192.168.1.30	回収完了	2006/07/01 17:49:53
3	システム室	GOLD	192.168.1.25	回収完了	2006/07/01 17:49:53
4	システム室	GREEN	192.168.1.50	回収完了	2006/07/01 17:49:53
5	システム室	KIDS	192.168.1.103	待機中	
6	システム室	WIN-XPJ	192.168.1.15	待機中	
7	ライブラリー	WS-101	192.168.1.101	待機中	
8	ライブラリー	WS-102	192.168.1.102	待機中	
9	ライブラリー	WS-103	192.168.1.103	待機中	
10	資料室	WS-104	192.168.1.104	待機中	
11	資料室	WS-106	192.168.1.106	待機中	
12	資料室	WS-107	192.168.1.107	待機中	
13	資料室	WS-108	192.168.1.108	待機中	
14	資料室	WS-109	192.168.1.109	待機中	
15	資料室	WS-110	192.168.1.110	待機中	
16	資料室	WS-111	192.168.1.111	待機中	
17	資料室	WS-112	192.168.1.112	待機中	
18	資料室	WS-113	192.168.1.113	待機中	
19	資料室	WS-114	192.168.1.114	待機中	
20	資料室	WS-115	192.168.1.115	待機中	
21	資料室	WS-116	192.168.1.116	待機中	
22	資料室	WS-117	192.168.1.117	待機中	
23	資料室	WS-118	192.168.1.118	待機中	
24	資料室	WS-119	192.168.1.119	待機中	
25	事務所	WS-120	192.168.1.120	待機中	
26	事務所	WS-121	192.168.1.121	待機中	
27	事務所	WS-122	192.168.1.122	待機中	
28	事務所	WS-123	192.168.1.123	待機中	
29	事務所	WS-124	192.168.1.124	待機中	
30	事務所	WS-125	192.168.1.125	待機中	
31	事務所	WS-126	192.168.1.126	待機中	
32	事務所	WS-127	192.168.1.127	待機中	

クライアントに記録、保存されているログを回収します。

回収されたログは「[ログ設定](#)」にて指定された「回収フォルダ」下の[Collected]フォルダに一時保存されます。

ファイル名は以下の通りとなります。

クライアントのコンピュータ名_回収日時.log (例: WS-101_20060801083025.log)

回収作業を行うたびに、クライアントコンピュータごとのログファイルが作成されます。

これらのログファイルを[コンピュータ別に整理](#)したり、[1つのログファイルに結合](#)することが可能です。

一度に多くのクライアントからログの回収を行うと、マネージャーとネットワークに大きな負荷が掛かることが予想されます。

このため、同時に回収することが可能な台数(上限)を設定することが出来ます。

回収は設定された上限を超えない範囲で、自動的に分割して実行されます。

上限の設定は「[環境設定](#)」にて行います。

ログの回収は、手動回収以外に予め設定されたタイミングで自動回収する事が可能です。

自動回収の場合、上記の回収ウィンドウは表示されません。

自動回収に関する設定は「[ログ設定](#)」にて行います。

「回収中止」ボタンを押すと、直ちに回収動作を中止します。
未回収のログはそのままクライアント側に残ります。

ウィンドウを閉じる際、ログ回収の実行結果を残すことができます。
実行結果はマネージャーがインストールされているフォルダの[Result] - [LogCollect]フォルダに保存されます。

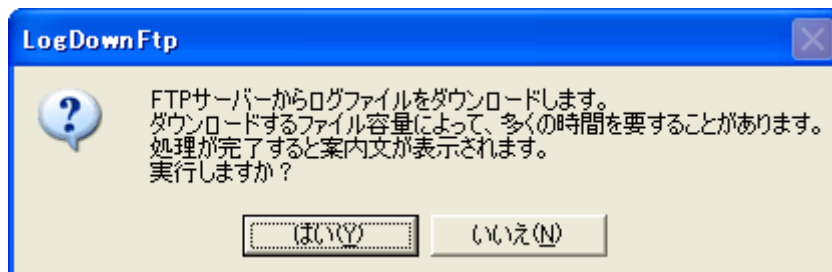
回収されたログの書式(仕様)は「[ログの記録仕様](#)」で確認可能です。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

FTP からログ回収

FTP サーバーに各クライアントがアップロードした利用ログをダウンロードします。



ダウンロードされたログファイルは[Collected]フォルダに一時保存されます。
その後のログファイルの取り扱いは「[ログ回収](#)」の時と同様です。
この方法でログの回収を行うには、「[ログサーバーの設定](#)」にて FTP サーバー情報の登録が必要です。

注意

利用する FTP サーバーは、クライアントがアクセスするために必要なセキュリティ設定を行ってください。
(リード、ライト等)
同時に多くのクライアントがログのアップロードをする可能性がある場合、FTP サーバーの性能に配慮する必要があります。

回収済みログの整理

回収された[Collected]フォルダ内のログファイルをクライアントコンピュータ別ファイルに整理し、保存します。

整理されたクライアント別のログファイルは「[ログ設定](#)」にて設定された回収フォルダに保存されます。保存されるファイル名は、次のようになります。

コンピュータ名.log（例: WS-101.log）

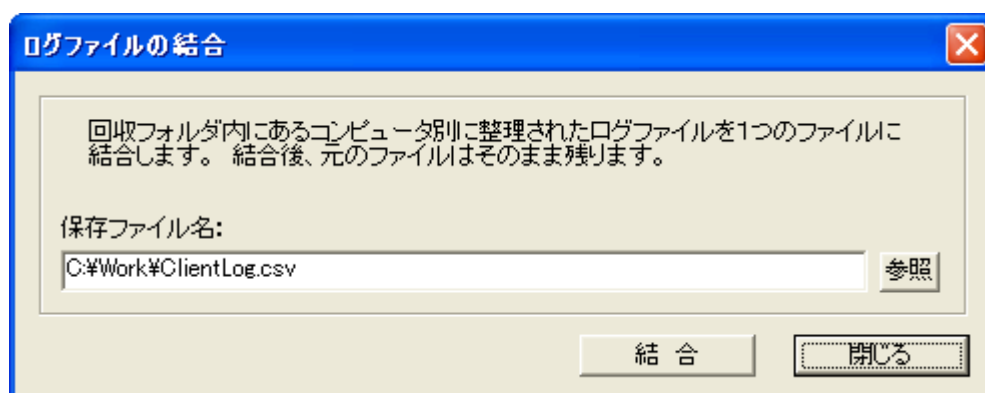
すでに同名のファイルが存在する場合は、そのファイルに追加保存されます。

整理後、[Collected]フォルダのログファイルは削除されます。

長期間ログの整理を行わないと、膨大な量のログファイルを整理することになり、非常に多くの時間を要することになります。

「回収済みログの整理」を適宜実行されることをお勧めします。

ログの結合



「[回収済みログの整理](#)」機能によって、クライアントコンピュータ別に整理されたファイルを1つのログファイルに結合し、保存することが出来ます。

結合処理を行った後も元のログファイルはそのまま残ります。

クライアントから回収された[Collected]フォルダ内にあるファイルを、直接本機能により結合することは出来ません。

ログの破棄

ログの回収を行わないで、クライアントに記録されているログを破棄(消去)します。
破棄されたログは復元できませんのでご注意ください。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

ログ設定

ログ設定		X
自動回収方法		
<input type="checkbox"/> 自動回収しない 回収方法（複数選択可） <input type="checkbox"/> 毎起動時にログを自動回収する（1） <input type="checkbox"/> 毎日、初回起動時にログを自動回収する（2） <input checked="" type="checkbox"/> 毎ログオフ時にログを自動回収する（3） <input type="checkbox"/> 毎日、指定した時間にログを自動回収する（4） <div style="text-align: center;"> <input type="text" value="0"/> 時 <input type="text" value="0"/> 分 </div>		設 定
記録内容		
<input checked="" type="checkbox"/> 電源、ログオン、ログオフ、その他（1） <input checked="" type="checkbox"/> アプリケーションの起動、終了（2） <input checked="" type="checkbox"/> ウィンドウのタイトル（3） <input checked="" type="checkbox"/> ブラウザのURL（4） <input checked="" type="checkbox"/> 印刷（5）	<input checked="" type="checkbox"/> デバイスの利用（6） <input checked="" type="checkbox"/> ファイル操作（7） <input checked="" type="checkbox"/> クリップボード（8） <input checked="" type="checkbox"/> 共有フォルダ（9）	監視フォルダの登録 設 定
ログアラート		
<input type="checkbox"/> ログアラート機能を有効にする 検知間隔： <input type="text" value="3"/> 秒（0～99）	アラート内容の登録 メール通報の登録	設 定
回収フォルダ(マネージャー側)		
<input type="text"/> <input type="button" value="参照"/>		設 定
保存フォルダ(クライアント側)		
<input type="text"/> <input type="button" value="参照"/>		設 定
ログ記録のメモリー保持件数		
<input type="text" value="3000"/> （1～300,000）	<input type="button" value="設 定"/>	
ログファイルの最大サイズ		
<input type="text"/> （100～9,999,999 KB）	<input type="button" value="設 定"/>	
<input type="button" value="閉じる"/>		

自動回收方法

「[ログ回収](#)」にて任意のタイミングでログを手動回収する方法の他、予め設定したタイミングで自動回収することが出来ます。

自動回収する方法を下記から選択し、「設定」ボタンを押します。

設定内容はクライアント側に送信され保存されますので、メイン画面のリストにて対象のクライアントを

選択してから実行してください。

起動していないクライアントには設定内容は反映されませんのでご注意ください。

- 1.毎起動時にログを自動回収する
クライアントが起動したときに毎回ログを自動回収します。
- 2.毎日、初回起動時にログを自動回収する
その日、最初にクライアントが起動したときにログ回収を実行します。
- 3.毎ログオフ時にログを自動回収する
クライアントがログオフするとき(シャットダウン、再起動も含む)、ログの自動回収を行います。
シンクライアント(ディスクレス)システムやリカバリーソフトをご利用の場合、この設定にしておくことでログは確実に回収できます。
- 4.毎日、指定した時間にログを自動回収する
ログの回収をタスクに登録して実行します。
[電源投入]-[ログ回収]-[電源切断]の流れをスケジュールして実行することも出来ます。

※回収方法は複合設定出来ますが、“1”と“2”は排他関係となります。

ログの自動回収が行われる時(クライアントからログの転送が行われる時)、マネージャーパソコンは必ず起動している必要があります。
ただしマネージャープログラムを起動している必要はありません。(サービスとして動作しています。)
何らかの原因でログの回収が出来なかった場合、記録されているログはそのままクライアント側に残ります。

※クライアントに設定されている自動回収内容は、「[ログ設定内容の確認](#)」で確認することが可能です。

記録内容

記録する事が出来るログには下記の種類があり、必要な項目を選択して「設定」ボタンを押します。
設定内容はクライアント側に送信され保存されますので、メイン画面のリストにて対象のクライアントを選択してから実行してください。

起動していないクライアントには設定内容は反映されませんのでご注意ください。

記録内容の設定は、クライアントにて次回ログの記録が開始されたときに反映されます。

すでにログの記録中であった場合は、一度「記録終了」を行い、再び「記録開始」を実行してください。

- 1.電源、ログオン、ログオフ、その他
コンピューターの起動、終了、スリープ、ログオン、ログオフ、アクティブ状態を記録します。
- 2.アプリケーションの起動、終了
ユーザーが起動又は終了したプログラムの実行ファイル名がフルパスで記録されます。
※アプリケーションの特性により、記録が出来ない物があります。
- 3.ウィンドウのタイトル
デスクトップに表示されたトップウィンドウのタイトル(キャプション)を記録します。
- 4.ブラウザの URL
ブラウザでアクセス(表示)した Web ページの URL が記録されます。(Internet Explorer、Firefox、Chrome、Opera、Sleipnir)
- 5.印刷
ユーザーが印刷した文書名、出力したプリンタ名、印刷枚数が記録されます。
- 6.デバイスの利用
USB メモリなどの外部デバイスが接続または切断された事を記録します。(デバイス種別とドライブ名)

7.ユーザーが行ったファイル操作(作成、移動、削除など)を記録します。

記録する対象は「[監視フォルダの登録](#)」で設定します。

8.クリップボード

クリップボードに入ったテキスト及びファイル名を記録します。(1レコードあたり、最大 1024 バイト)

テキスト:文字列中に改行が含まれる場合、最初の改行までが記録され、以降の文字列は記録されません。

ファイル名:コピー操作などでクリップボードに入ったファイル名をフルパスで記録します。(複数選択の場合は、“|”で区切られます。)

9.共有フォルダのファイルに対する外部からのアクセスを記録します。

※記録されるログに関する詳細は「[ログの記録仕様](#)」で確認できます。

※クライアントに設定されている記録内容は、「[ログ設定内容の確認](#)」で確認することが可能です。

ログアラート

クライアントにてログが記録される際、予め登録された条件を満たす内容が含まれていた場合に、マネージャーに対してその内容を通報することが出来ます。

通報を受け取ったマネージャーは、直ちにその内容を電子メールにて管理者に知らせることも可能です。

検知条件は「[アラート内容の登録](#)」ボタンを押して登録します。

通報する電子メールのアドレス設定などは、「[メール通報の登録](#)」ボタンを押して行います。

検知間隔を設定することで、同類の通報が頻繁に行われることを防止します。

ログアラート機能を利用する場合は、「ログアラートを機能を有効にする」チェックを選択し、「設定」ボタンを押します。

「アラート内容の登録」で設定された検知条件と共にクライアント側に送信され保存されますので、メイン画面のリストにて対象のクライアントを選択してから実行してください。

起動していないクライアントには設定内容は反映されませんのでご注意ください。

クライアントにてログ記録が開始されていないと、ログアラートは機能しませんのでご注意ください。

回収フォルダ(マネージャー側)

マネージャーにログを回収する際、保存するフォルダを指定することが出来ます。

設定後は必ずマネージャープログラムを再起動させてください。

本項目の設定内容はクライアント側に送信されることは有りませんので、クライアントの選択操作は不要です。

保存フォルダ(クライアント側)

クライアントにて記録されたログは、回収されるまでクライアント側のディスクに保存されます。

規定値として、ログはマネージャープログラムがインストールされているフォルダ内に保存されます。

ログの保存は任意のフォルダ位置に変更することが可能です。

本項目の設定内容はクライアント側に送信され保存されますので、メイン画面のリストにて対象のクライアントを選択してから実行してください。

起動していないクライアントには設定内容は反映されませんのでご注意ください。

すでにログの記録を行っている状態で保存フォルダの変更を行うと、それまでの記録内容は旧フォル

ダ位置に保存されますが、自動回収はされません。
ログの記録内容を失いたくない場合は、事前に回収作業を行う必要があります。

ログ記録のメモリー保持件数

クライアントに取得されたログ内容はその都度ログファイルに出力されるわけではなく、予め設定されたレコード数(件数)までメモリー上に保持されます。

レコード数が設定値を超えた時点で初めてファイルに書き出されます。

メモリー保持件数の初期値は 3,000 件となっており、任意の値に変更する事が可能です。

メモリー保持件数を大きな値に設定することで、クライアントユーザーにログファイルの改ざんをされる危険性は低くなりますが、その分メモリーを消費します。

1 レコードあたりのサイズは記録内容によって異なりますが、概ね 100～200 バイト程度となります。

本項目の設定内容はクライアント側に送信され保存されますので、メイン画面のリストにて対象のクライアントを選択してから実行してください。

起動していないクライアントには設定内容は反映されませんのでご注意ください。

ログファイルの最大サイズ

クライアント側に保存されるログファイルのサイズは、回収するか「ログの破棄」を実行するまで増加し続けます。

長期間放置すると巨大なファイルサイズとなり、ディスクスペースを圧迫する可能性もあります。

「ログファイルの最大サイズ」を設定すると、設定サイズを超えた際に「CLogBak.dat」というファイルに全内容を待避し、ログファイルを初期化します。

入力欄に 0 を設定するか、空欄のまま設定するとファイルサイズは無制限となります。

「ClogBak.dat」は 1 世代のみの待避ファイルで、「ログ回収」の対象にはなりません。

設定内容はクライアント側に送信され保存されますので、メイン画面のリストにて対象のクライアントを選択してから実行してください。

起動していないクライアントには設定内容は反映されませんのでご注意ください。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

監視フォルダの登録

ログ記録内容の「ファイル操作」において監視の対象となるフォルダを登録します。

監視するフォルダ	
1	C:\Data\会計報告
2	C:\Data\住所録
3	D:
4	E:
5	Z\個人フォルダ

監視するフォルダ:

☒ リムーバブルドライブを監視対象とする。

フィルタリングするファイル (最大10)

ファイル	

フィルタリングするファイル: (*.txt *.dat *.exe など)

☒ フィルタリングを行わない
☐ 登録されているファイルのみ記録する
☐ 登録されているファイル以外を記録する

監視対象フォルダ

監視の対象となるフォルダを登録します。

登録可能なフォルダは最大 30 フォルダまでです。

指定したフォルダの下層フォルダも対象となります。

「監視するフォルダ」入力ボックスにフルパスを入力し、「リストに登録」ボタンを押すとリストに追加されます。

リストから削除するには、対象のフォルダを選択し「リストから削除」ボタンを押します。

リムーバブルドライブを監視対象とする

接続時にドライブ番号が決定する USB メモリなどの監視を行う際に選択します。

リムーバブルドライブについては、以下に述べるフィルタリングの設定は適用されず、全てのファイルが監視対象となります。

フィルタリングするファイル

監視、記録されるファイル操作は、ファイル名によってフィルタリングすることが可能です。

フィルタリングをしないでディスク上階層のフォルダを指定すると、膨大な量のファイル操作が記録される事があります。

記録対象とするファイルを指定することで、無駄なファイル記録を防止します。

「フィルタリングするファイル」

登録可能なファイルは最大 10 ファイルまでです。

「フィルタリングするファイル」入力ボックスにファイル名を入力し、「リストに登録」ボタンを押すとリストに追加されます。

リストから削除するには、対象のファイル名を選択し「リストから削除」ボタンを押します。

ファイルの指定にはワイルドカードを使用することが出来ます。

「フィルタリングを行わない」

リストに登録されている内容に関係なく、フィルタリングを一切行いません。

「登録されているファイルのみ記録する」

特定の限られたファイル内容のみ監視したい場合に選択します。

「登録されているファイル以外を記録する」

システム関係のファイルなど、膨大な量の記録が予想されるファイル操作を排除したい場合に選択します。

注意

記録されるファイル操作はユーザーがエクスプローラーなどから直接行ったファイル操作だけでなく、アプリケーションプログラムなどから行われたファイルに対する操作も含まれます。

ネットワークフォルダを登録する場合は、必ず UNC 名で指定してください。(ドライブ名は不可)

ネットワークフォルダの監視を行った場合、そのフォルダに対する他のコンピューター(ユーザー)からのファイルアクセスも記録されます。その際、アクセスしたユーザー名の記録は全て自己のものになります。

他のアプリケーションやハードウェアの影響で、ログの記録が正常に行われない事があります。

ログ設定内容の確認

クライアントに設定されているログの設定内容(自動回収方法、記録内容、ログアラート機能、保存フォルダ、メモリー保持件数)を確認、表示することが出来ます。
設定内容はクライアントリストの「情報」欄に表示されます。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

ログサーバーの設定

通常、クライアントに保存されているログは、最後に通信を行ったマネージャー(メインマネージャー)に対して転送されます。

複数のマネージャーにてクライアントを管理している場合、ログの回収を行うマネージャーは不定になります。

ログを回収するマネージャーをログサーバーとしてクライアントに登録することにより、クライアントは常に特定のマネージャーに対してのみログを転送するようになります。

また、マネージャーとクライアントが常時接続のネットワーク環境にない場合、クライアントに保存されているログを自動回収することはできません。

外部にFTPサーバーを用意できる場合、そのサーバーに対してログをアップロードすることが可能です。

FTPに対応するオンラインストレージなどを利用することで、マネージャーとクライアント間のネットワークに配慮する必要はなくなります。

ログサーバーの設定

ログサーバーの指定

☒ 指定したサーバーにログの回収を行う

コンピュータ名: IPアドレス:

FTPサーバーの利用

☒ 外部FTPサーバーへログをアップロードする

FTPサーバーのアドレス:

接続ポート:

ログインID:

パスワード:

ディレクトリー:

設定確認 設定解除 設定 閉じる

指定したサーバーにログの回収を行う

本設定を有効にすると、クライアントは指定されたサーバーに対してのみログの転送を行うようになります。

どのマネージャーから「ログ回収」の要求があっても、ログの転送は本項目で指定されたサーバーに行われます。

複数のマネージャーにてクライアントを分散管理しているような運用環境でも、1 台のサーバーにログの集積を行うことが可能です。

コンピュータ名

ログサーバーにするマネージャーのコンピュータ名を入力します。

IP アドレス

ログサーバーにするマネージャーの IP アドレスを入力します。

外部 FTP サーバーへログをアップロードする

マネージャープログラムがインストールされていないコンピューターでも、FTP サーバーが利用可能であればログのアップロードを行うことが可能です。

インターネットなど WAN 環境で利用する場合、マネージャーとクライアントは VPN 等による常時接続環境でないとログの回収を行うことはできません。

クライアント側から利用可能な FTP サーバーがある場合、そのサーバーに対してログをアップロードすることができます。

FTP サーバーのアドレス

FTP サーバーを IP アドレスまたはドメイン名で入力します。

接続ポート

FTP サーバーに接続するときのポート番号を入力します。(規定値:21)

ログイン ID

ログインするときの ID(アカウント名)を入力します。

パスワード

ログイン ID に対するパスワードを入力します。

ディレクトリー

ログをアップロードするディレクトリーを入力します。

本項目で指定したディレクトリが FTP サーバーに存在しない場合、処理に失敗します。

管理者は適宜、各クライアントから FTP サーバーにアップロードされたログファイルを、ローカルのディスクにダウンロードする必要があります。

ダウンロードは「[FTP からログ回収](#)」で行うことが可能です。

ログは Log¥Collected フォルダに回収された後、FTP サーバー上から削除されます。

回収後の操作は、通常と同様に「回収済みログの整理」を行うことが可能です。

設定

設定された内容をクライアントに送信し、ログサーバーとして登録します。

設定は直ちに有効となります。

設定解除

ログサーバーの登録を削除し、通常の動作に戻します。
設定は直ちに有効となります。

設定確認

ログサーバーの設定内容を取得し、「情報」欄に表示します。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

ログの記録仕様

クライアントから回収された利用ログのファイルは、以下の仕様で記録されています。

フォーマット

各項目はカンマ区切りで、以下の順序で記録されています。(CSV 形式)

コンピュータ名,ユーザー名,記録時刻,記録年月日,種別,内容

各項目について

- 1.コンピュータ名(クライアントのコンピュータ名)
- 2.ユーザー名(ログオンユーザー名)
- 3.記録時刻(HH:MM:SS)
- 4.記録年月日(yy/mm/dd)
- 5.種別(記録内容の種類)
- 6.内容(記録内容)

「種別」に記録される値

- 1.POWERON ... ログオン
- 2.POWEROFF ... ログオフ
- 3.LOGON ... ログオン
- 4.LOGOFF ... ログオフ
- 5.SUSPENDIN ... スリープ、休止状態に移行
- 6.SUSPENDOUT ... スリープ、休止状態から復帰
- 7.ACTIVE ... アクティブ状態
- 8.INACTIVE ... 非アクティブ状態
- 9.起動 ... アプリケーションの起動
- 10.終了 ... アプリケーションの終了
- 11.キャプション ... ウィンドウのキャプション
- 12.URL ... ブラウザでアクセスした URL
- 13.印刷...プリントアウト
- 14.接続...外部デバイスの接続
- 15.切断...外部デバイスの切断
- 16.ファイルアクセス...ファイルに対するアクセス
- 17.ファイル作成...ファイルの作成
- 18.ファイル削除...ファイルの削除
- 19.ファイル名変更...ファイル名の変更
- 20.CB テキスト...クリップボードに入った文字
- 21.CB ファイル...クリップボードに入ったファイル名
- 22.共有フォルダ...外部からアクセスされたファイル名

記録される内容

- 「POWERON」の時...なし
- 「POWEROFF」の時...なし
- 「LOGON」の時...なし
- 「LOGOFF」の時...なし
- 「SUSPENDIN」...なし
- 「SUSPENDOUT」...なし
- 「ACTIVE」...なし

「INACTIVE」・・・なし

「起動」の時・・・起動したアプリケーションのフルパス実行ファイル名

「終了」の時・・・終了したアプリケーションのフルパス実行ファイル名

「キャプション」の時・・・マウスカーソルが通過したウィンドウのキャプション(タイトル)

「URL」の時・・・ブラウザでアクセスした Web ページの URL(アドレスバーの表示内容)

対応するブラウザは、「Internet Explorer」「Firefox」「Chrome」「Opera」「Sleipnir」

「印刷」の時・・・文書名： 出力プリンタ名： 印刷枚数：

「接続」の時・・・デバイス種別(リムーバブル、CD-ROM) ドライブ番号：

「切断」の時・・・デバイス種別(リムーバブル、CD-ROM) ドライブ番号：

「ファイルアクセス」の時・・・ファイルのフルパス

「ファイル作成」の時・・・ファイルのフルパス

「ファイル削除」の時・・・ファイルのフルパス

「ファイル名変更」の時・・・変更前のファイル名 変更後のファイル名

「CB テキスト」の時・・・クリップボードにコピーされた文字列

「CB ファイル」の時・・・エクスプローラーなどでコピー、貼り付けを行ったファイルのフルパス

「共有フォルダ」の時・・・他のコンピューターからアクセスのあったファイルのフルパス

注意事項

記録種別が「共有フォルダ」の場合の仕様

- ・ユーザー名には実際にアクセスしたユーザーのアカウント名が記録されます。
- ・短時間に大量のアクセスが発生した場合、一部記録されない場合があります。
- ・削除操作については基本的に記録されません。

リモート操作

キーボード/マウスのロック、ロック解除

リストにて選択されているクライアントの「キーボード」、「マウス」をロックします。
 ロック中でもマウスのポインターは移動可能です。(ボタン操作は不可)
 ロック中は、リスト内のロックアイコン(左から7つめの項目)が点灯します。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」時は、[Ctrl + Alt + Delete]のみのロックとなります。(マウスロックはなし)
- ・64Bit OS では、[Ctrl + Alt + Delete]のキー操作はロックできません。
- ・一部のキーボードでは、[Ctrl + Alt + Delete]のキー操作をロックできないことがあります。
- ・ログオン、ログオフ時にロック状態は自動的に解除されます。

リモートコントロール

リストにて選択されているクライアントに対して、リモートコントロールツールを介して接続します。
利用するリモートコントロールソフトは、予め「[環境設定](#)」にて登録しておきます。
何も設定しない場合は、内蔵のリモートコントロールツールが起動します。

「リモートデスクトップ」および「VNC」をリモートコントロールツールとして利用する場合は、別途当該ソフトウェアのインストールと初期設定が必要となります。
詳しくはそれぞれの説明書をお読みください。

リサイズ機能（内蔵リモコン）

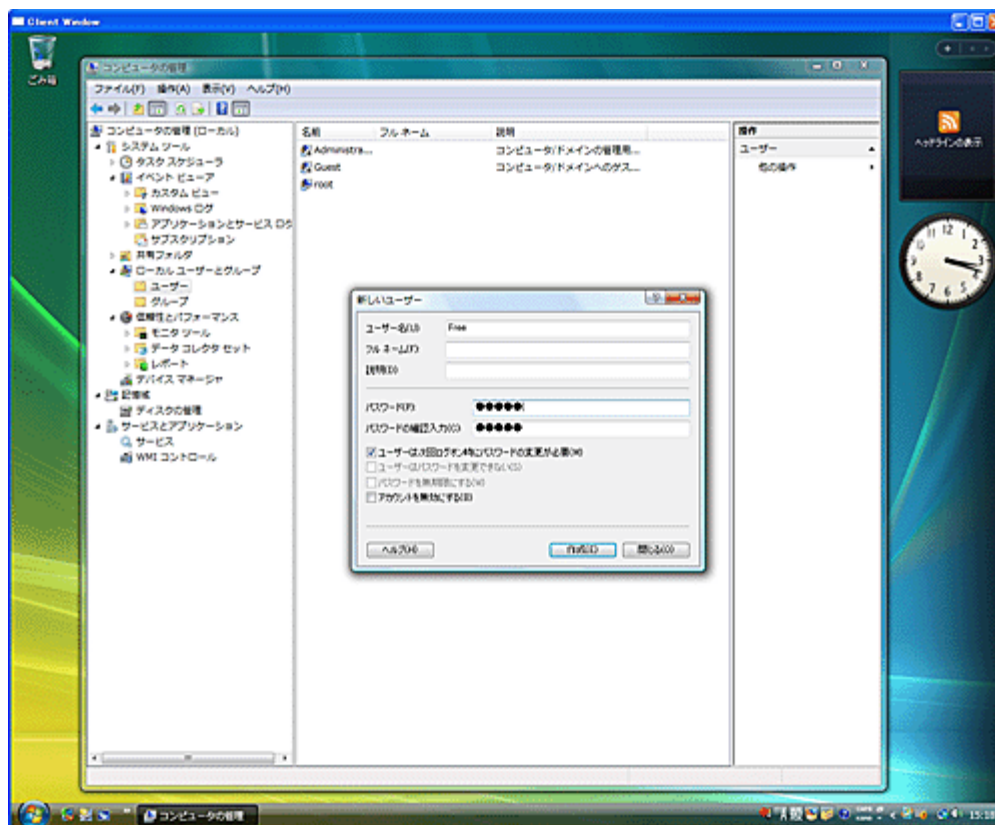
内蔵リモコンのウィンドウが表示されている状態（フォーカスがある）で、キーボードから[Alt + F1]の操作を行うと、リサイズ機能が有効となります。

リサイズ機能が有効な状態でウィンドウサイズを変更すると、クライアントのデスクトップ画面がウィンドウサイズに合わせてリサイズされます。

リサイズされた状態でもリモコン操作は機能します。

リサイズ機能を無効にするには、再度[Alt + F1]のキー操作を行います。

リサイズの切替操作がうまく動作しない場合は、ウィンドウのタイトルバーをクリックしてからキー操作を行うようにしてください。



内蔵リモコン

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行は不可。
 - 1 台ずつ選択して接続することは可能。（複数同時接続）
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能ですが、利用するリモートコントロールソフト

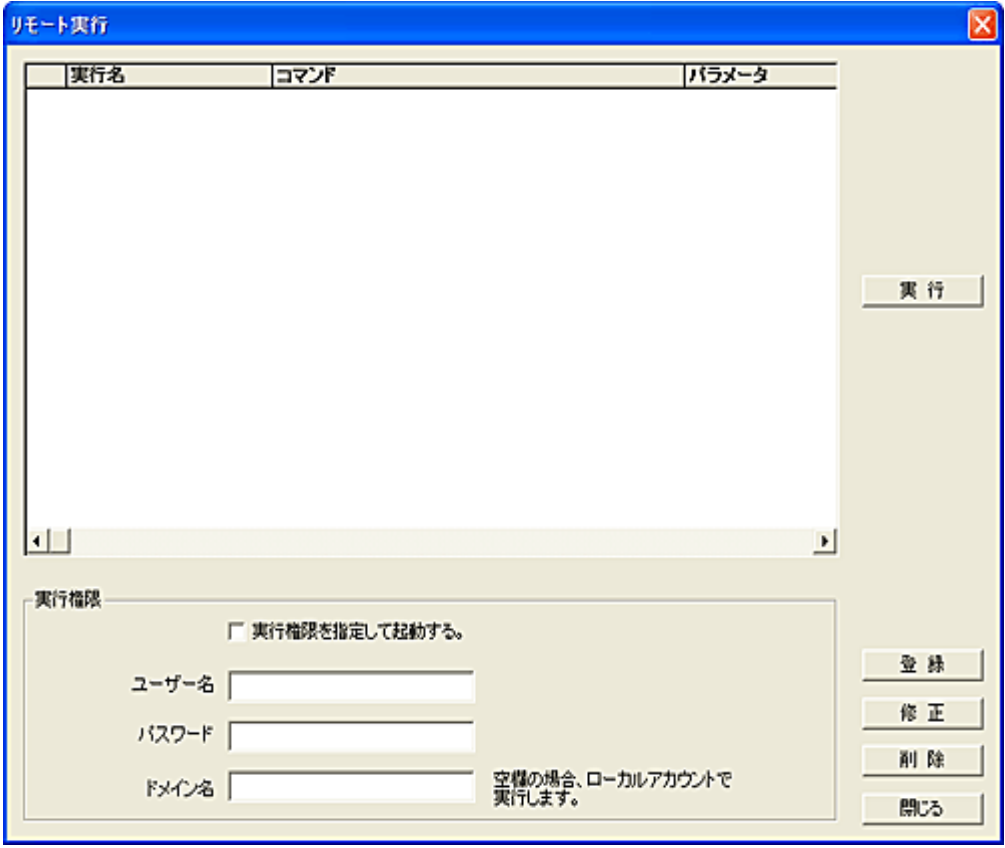
トに依存します。

内蔵リモコンの場合、「ログオン」時のみ利用可能。

内蔵リモコンの機能制限

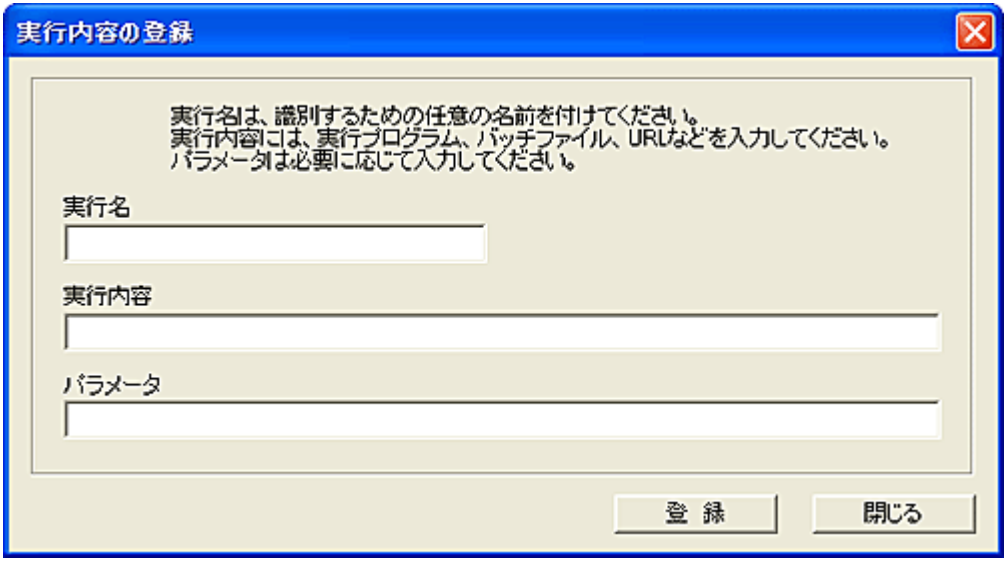
- ・日本語の入力に制限があります。(変換、無変換キーなどは対応しません)
日本語入力モードへの切替はマウスで行ってください。
変換はスペース変換等を利用してください。
- ・「Windows」キーなどシステム関連のキー操作は無効となります。
- ・クライアント画面内のオーバーレイ部分は一部表示されないことがあります。
- ・クライアント側で行ったマウス操作のポインター移動は再現されません。
- ・OS 種別、環境などにより、表示される内容が異なることがあります。
- ・UAC の警告ウィンドウには対応できません。
- ・内蔵リモコン利用中、UAC の設定変更等は行わないでください。

リモート実行



The dialog box titled "リモート実行" (Remote Execution) contains a table with three columns: "実行名" (Execution Name), "コマンド" (Command), and "パラメータ" (Parameters). The table is currently empty. To the right of the table is a button labeled "実行" (Execute). Below the table, there is a section titled "実行権限" (Execution Privileges) which includes a checkbox labeled "実行権限を指定して起動する。" (Start with specified execution privileges). Below this are three input fields: "ユーザー名" (Username), "パスワード" (Password), and "ドメイン名" (Domain Name). To the right of these fields is a note: "空欄の場合、ローカルアカウントで実行します。" (If empty, execute with local account). On the far right, there are four buttons: "登録" (Register), "修正" (Modify), "削除" (Delete), and "閉じる" (Close).

リストにて選択されているクライアントにおいて任意のアプリケーションを実行します。
実行する内容はあらかじめ登録しておき、リストの中からワンタッチで選択、実行させることが出来ます。



The dialog box titled "実行内容の登録" (Register Execution Content) contains a text area with the following instructions: "実行名は、識別するための任意の名前を付けてください。" (Please assign an arbitrary name for identification.), "実行内容には、実行プログラム、バッチファイル、URLなどを入力してください。" (Please enter the execution program, batch file, URL, etc. in the execution content.), and "パラメータは必要に応じて入力してください。" (Please enter parameters as needed.). Below the text area are three input fields: "実行名" (Execution Name), "実行内容" (Execution Content), and "パラメータ" (Parameters). At the bottom right, there are two buttons: "登録" (Register) and "閉じる" (Close).

登録

「登録」ボタンを押して、新規にアプリケーションの登録を行います。
「実行名」と「コマンド」の入力は必須です。

修正

修正したい項目を選択し「修正」ボタンを押します。

削除

削除したい項目を選択し「削除」ボタンを押します。

アプリケーションを実行する際、ログオンしているユーザーとは異なる権限で実行することが可能です。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオン」の時のみ実行可能です。
- ・異なる権限で実行するには、クライアントコンピュータに「Microsoft .NET Framework 2.0」以降がインストールされている必要があります。
インストールされていない場合、ログオンしているユーザー権限で実行されます。

コマンドの送信

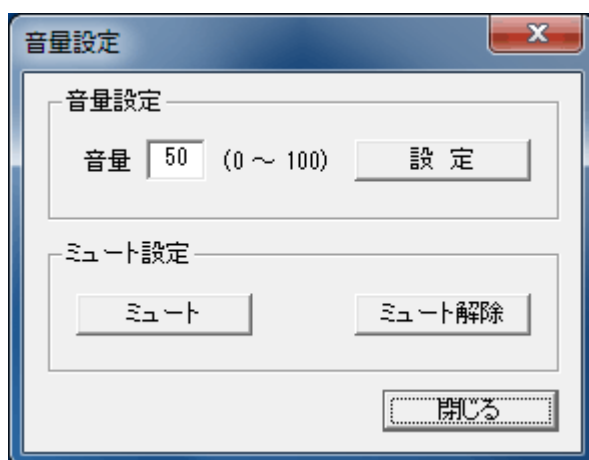
リストにて選択されているクライアントにおいてコマンドを実行します。
アプリケーションやバッチファイルを実行したり、ファイルを開くことが可能です。
アプリケーションを実行する際、ログオンしているユーザーとは異なる権限で実行することが可能です。

※ドロップダウンリストの履歴を削除したい場合は、[Shift]キーを押しながら該当の項目を選択します。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。
- ・入力する実行ファイルなどは、実際に実行するクライアント上のフォルダ位置をフルパスで指定します。

音量の設定



リストにて選択されているクライアントの音量調整を行うことができます。

音量設定

入力欄に設定したい音量を 0～100 の範囲で入力し、「設定」ボタンを押します。

ミュート設定

「ミュート」ボタンを押すと、ミュート状態になります。

ミュートを解除するには、「ミュート解除」のボタンを押します。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

時計を合わせる

リストにて選択されているクライアントの内部時計をマネージャーの時刻に合わせます。
実行前にマネージャーの時計を正確な時刻に校正しておくことをお勧めします。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

ごみ箱を空にする

リストにて選択されているクライアントのごみ箱を空にします。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。
- ・ログオフ時に実行すると、全てのユーザーのごみ箱が空になります。
- ・ログオン時に実行すると、ログオンしているユーザーのごみ箱のみが空になります。

最近使ったファイルを削除

リストにて選択されているクライアントにおいて、最近使ったファイルの削除を行います。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオン」の時のみ実行可能です。
- ・削除されるのは、ログオンしているユーザーの物のみです。

IE の履歴を削除

リストにて選択されているクライアントにおいて、Internet Explorer の履歴を削除します。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオン」の時のみ実行可能です。
- ・削除されるのは、ログオンしているユーザーの履歴のみです。
- ・IE7 の保護モードが有効な場合、前日以前の履歴を削除できないことがあります。

IE の一時ファイルを削除

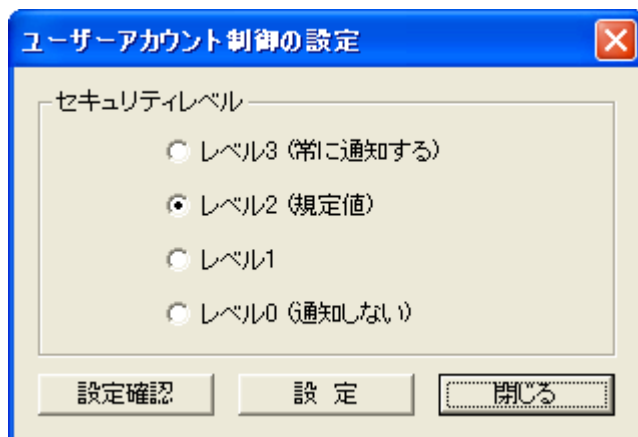
リストにて選択されているクライアントにおいて、Internet Explorer の一時ファイルを削除します。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオン」の時のみ実行可能です。
- ・削除されるのは、ログオンしているユーザーの一時ファイルのみです。

UAC の設定

ユーザーアカウント制御の設定を行う事が出来ます。



設定

セキュリティレベルは、OS の「ユーザーアカウント制御の設定」画面の内容に対応しています。設定するレベルを選択して「設定」ボタンを押すと、クライアントに反映されます。レベル 1～3 間の変更はリアルタイムに反映されますが、レベル 0 についてはクライアントの再起動が必要となります。

設定確認

現在の設定内容を確認するには、「設定確認」ボタンを押します。取得した結果はリストの「情報」欄に表示されます。

【動作条件】

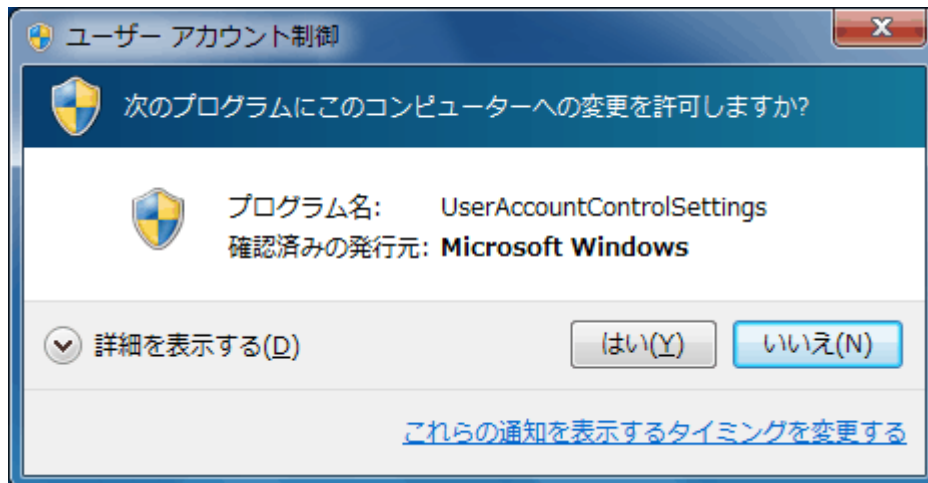
- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

注意

クライアントの OS が「Windows Vista」及び「Windows Server 2008」の場合、レベル 1～3 を選択すると UAC が有効に、レベル 0 を選択すると無効になります。

UAC 通知画面の消去

ユーザーアカウント制御(UAC)がユーザーの許可(同意)を求める為に表示する通知ウィンドウを強制的に消去します。



上記のような UAC の画面が表示され画面が暗転すると、リモートコントロールなどの機能が一時的に無効になることがあります。

本機能を実行する事により、この状態から復帰する事が出来ます。

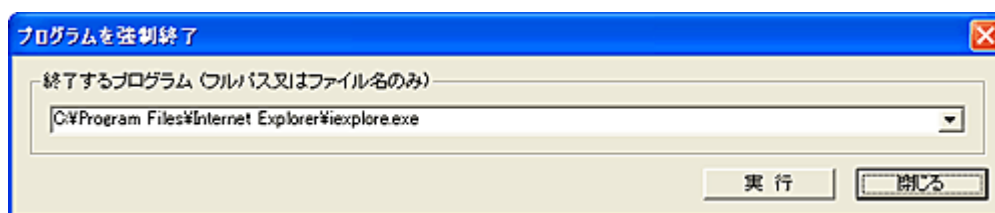
【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオン」の時のみ実行可能です。

注意

本機能を実行すると、UAC の「許可」に対して「いいえ」を選択したときの動作となります。

プログラムを強制終了



リストにて選択されているクライアントにおいて起動中のプログラムを終了させます。
編集中のファイルがあっても保存されることなく強制終了するので、実行には注意が必要です。
ウィンドウを持たないプログラムの終了も可能です。

終了するプログラムは、実行ファイルをフルパスで指定するか、プログラム名だけを指定することも可能です。
ファイル名が同じプログラムが、同時に起動している可能性がある場合は、フルパスによる指定が要求されます。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

注意

強制終了するプログラムによっては、クライアント側でエラーが発生するなど、OS の動作に影響を及ぼすことがあります。
特にサービスプログラムやシステム関連プログラムの終了には、十分に配慮してください。

全プログラムを強制終了

リストにて選択されているクライアントにおいて実行中の全てのプログラムを終了させます。
編集中のファイルがあっても保存されることなく強制終了するので、実行には注意が必要です。
ウィンドウを持つプログラムのみが終了の対象となります。
アプリケーションの種別や動作状態によっては、強制終了できない場合もあります。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオン」の時のみ実行可能です。

情報取得

クライアント情報取得



リストにて選択されているクライアントに関する詳細な動作情報を取得します。
 リスト内のクライアントを**右クリック**することでも、同様に情報取得することが出来ます。
 取得した情報は履歴として保存され、いつでも呼び出して表示できます。
 履歴データの呼び出しは、縮小画面下部にあるスクロールバーで操作します。

「**環境設定**」にて、「クライアント情報取得時の画像サイズ」のチェックボックスを有効にしてマネージャーを起動すると、以下のようなメイン画面が表示されます。



「フルサイズで取得」のチェックボックスを選択して「クライアント情報取得」を実行すると、クライアントから取得される画像はフルサイズのものになります。
 このとき表示される画像は等倍サイズになり、画面右側と下部にあるスクロールバーにて必要な部分をスクロール表示させることが出来ます。
 「リサイズ表示」のチェックボックスを選択すると、以降表示される画像は取得サイズに関わりなく、表示領域に縮小されて表示されます。
 フルサイズで取得された画像は、「リサイズ表示」の設定に関わりなくそのままの解像度で履歴として保存されます。
 フルサイズ保存された画像は、後に履歴表示させた際に「リサイズ表示」を無効にすることでいつでも

等倍サイズの情報を表示することが出来ます。

フルサイズで画像を取得する場合は、履歴として保存されるファイルサイズに配慮する必要があります。
クライアント PC の画面解像度が XGA(1024×768)の場合、表示内容によっては1画像あたり 1MB 程度になることがあります。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行することは出来ません。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。
ただしログオフ時の画像取得は出来ません。
- ・クライアントにて重い処理を実行中であるなど、CPU 負荷が高い状態にあるとき、画像のみ又はすべての情報が取得出来ない事があります。

フルサイズ動画監視

リストにて選択されているクライアントのデスクトップをフルサイズで監視します。

監視はクライアントの動きが動画レベルで表示されます。

本機能は「リモートコントロール」機能を利用して実行されるため、同機能と同時使用は出来ません。

(同一クライアントに対して)

「リモートコントロール」機能でも同様の監視は可能ですが、本機能を利用するとマネージャー側のマウスおよびキーボード操作は一切クライアントには伝わりません。

監視中はクライアントの CPU やリソースを消費しますのでご注意ください。

リサイズ機能

クライアントのウィンドウが表示されている状態(フォーカスがある)で、キーボードから[Alt + F1]の操作を行うと、リサイズ機能が有効となります。

リサイズ機能が有効な状態でウィンドウサイズを変更すると、クライアントのデスクトップ画面がウィンドウサイズに合わせてリサイズされます。

リサイズ機能を無効にするには、再度[Alt + F1]のキー操作を行います。

リサイズの切替操作がうまく動作しない場合は、ウィンドウのタイトルバーをクリックしてからキー操作を行うようにしてください。



【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行は不可。
1台ずつ選択して接続することは可能。(複数同時表示)
- ・クライアントの状態が「ログオン」の時のみ実行可能です。

画像保存

表示されている縮小画像を、ビットマップ形式の画像ファイルに保存することが出来ます。
保存されるのは、現在メイン画面に表示されている画像になります。

フルサイズで取得した画像を元の解像度で保存したい場合は、「リサイズ表示」を無効にして画像を表示した状態で「画像保存」を行ってください。

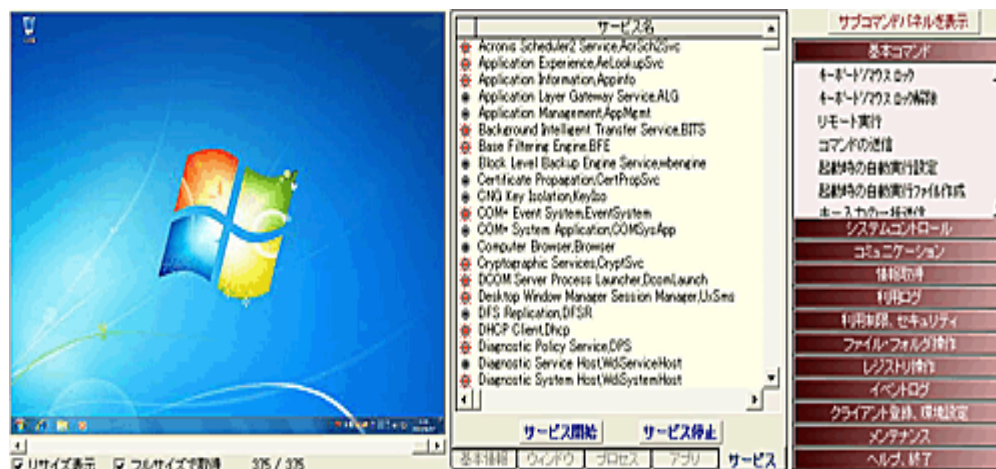
拡大画像取得

リストにて選択されているクライアントの画像を等倍サイズで取得し、別ウィンドウに表示します。
表示された画像は、[Esc]キーを押すか、画像上を右クリックすることで消去出来ます。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行することは出来ません。
- ・クライアントの状態が「ログオン」の時のみ実行可能です。
- ・画像の表示には、数秒から十数秒の時間を要します。
- ・クライアントにて重い処理を実行中であるなど、CPU 負荷が高い状態にあるときは取得出来ない事があります。

クライアント巡回開始、停止



リストにて選択されているクライアントに関する詳細な動作情報を一定時間ごとに自動取得します。

取得間隔は「[環境設定](#)」のクライアント巡回間隔で設定します。

取得した情報は履歴として保存され、いつでも呼び出して表示できます。

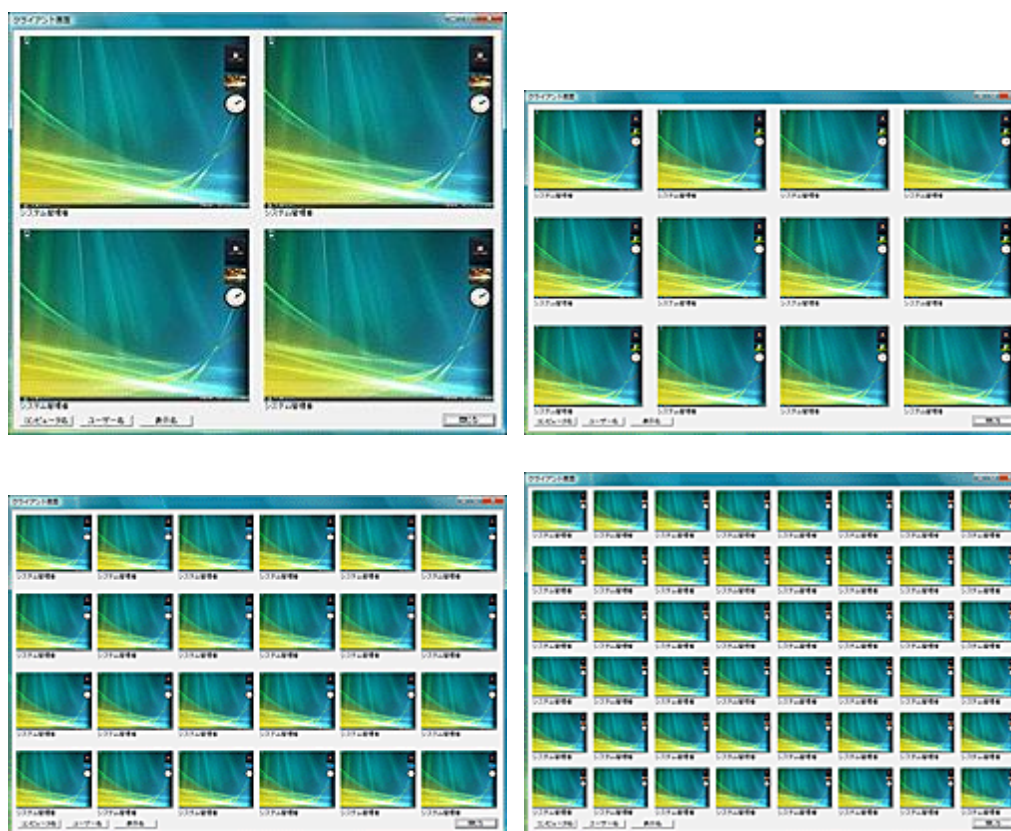
履歴データの呼び出しは、縮小画面下部にあるスクロールバーで操作します。

巡回を停止するには「クライアント巡回停止」を選択します。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。
ただしログオフ時の画像取得は不可。
- ・間隔が短すぎると、取得に失敗することがあります。(特に 3 秒以下)
- ・クライアントにて重い処理を実行中であるなど、CPU 負荷が高い状態にあるとき、画像のみ又はすべての情報が取得出来ない事があります。

マルチ画面監視開始



選択されたクライアントのデスクトップ画像を一覧表示します。

選択されたクライアントの数に応じて「4 画面」、「12 画面」、「24 画面」、「48 画面」、「126 画面」と表示サイズが分かれます。

48 台以上を選択して実行した場合は、48 分割又は 126 分割の画面をページ切り替えして表示します。ディスプレイのサイズが Full HD(1900×1080)以上である場合にのみ、126 分割の画面が利用可能です。

画像は「[環境設定](#)」のマルチ画面監視間隔で設定された間隔で取得されます。

最後に取得されたクライアントの画像には赤いフレームが付きまます。

任意のクライアントの画像上を左クリックすると、そのクライアントの画像を優先的に取得することが出来ます。

その際、巡回は次のクライアントからスタートします。

任意のクライアントの画像上を右クリックすると、そのクライアントにリモートコントロール接続したり、拡大画像を取得することが出来ます。

右クリックしたときの動作は「[環境設定](#)」の「マルチ画面監視の右クリック」で設定することが出来ます。

「コンピュータ名」、「ユーザー名」、「表示名」のボタンを押すと、各画像下に表示されるユーザー情報を変更することが出来ます。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオン」の時のみ実行可能です。

- ・クライアントにて重い処理を実行中であるなど、CPU 負荷が高い状態にあるとき、画像が取得出来ない事があります。

カメラ動画監視

リストにて選択されているクライアントのカメラ画像を動画で監視します。



異なるクライアントの監視を行うときは、現在のウィンドウを終了させてから実行してください。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行は不可。
- ・クライアントの状態が「ログオン」の時のみ実行可能です。
- ・一般的な USB カメラ(Web カメラ)に対応しています。
- ・接続されているカメラの仕様によっては正常に表示されないことがあります。
- ・音声の再生は出来ません。

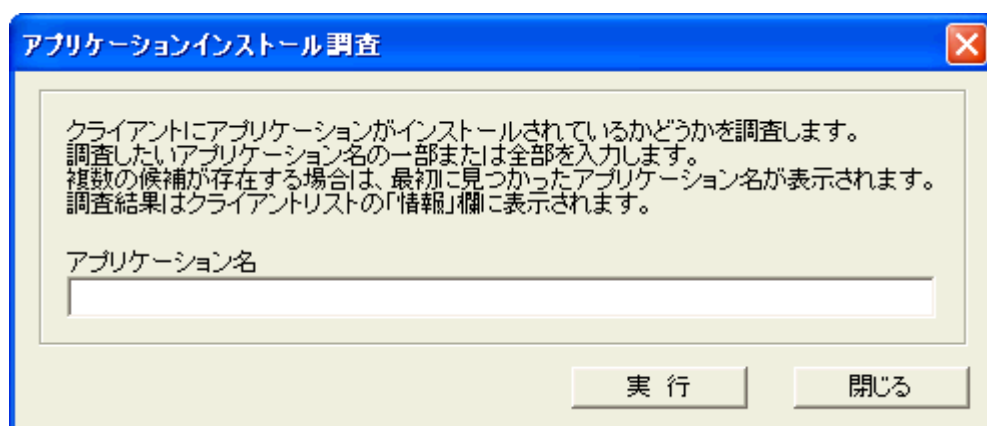
リストの情報欄を消去

選択されているクライアントの「情報」欄に表示されている内容を消去します。



クライアントリストの左上(赤枠部分)を左クリックすることで、すべてのクライアントの「情報」欄を消去します。

アプリケーションインストール調査



クライアントにてアプリケーション(プログラム)がインストールされているかどうか、調査することが可能です。

調査の対象は「プログラムの追加と削除」の一覧に表示される項目になります。

調査対象が見つかったら、その項目名がクライアントリストの「情報」欄に表示されます。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

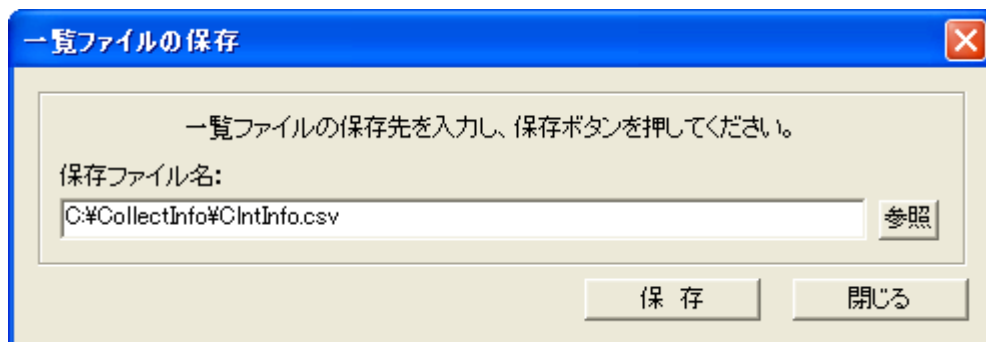
アプリケーション一覧の取得

クライアントにインストールされているアプリケーションの一覧をファイルで取得します。

取得対象は「プログラムの追加と削除」の一覧に表示される項目になります。

対象となるクライアントを選択し「アプリケーション一覧」を実行すると、ファイル回収のウィンドウが表示されます。

すべてのクライアントからファイルの回収が完了すると、一覧ファイル保存のウィンドウが表示されます。



保存するファイル名をパスとともに入力し、「保存」ボタンを押します。

すべてのクライアントのデータが1つのファイルに結合されて出力されます。

保存されるファイルの項目は以下の通りとなります。(コンマ区切り)

コンピューター名,名前,発行元,インストール日,バージョン,インストール場所

※アプリケーションにより、すべての項目が取得されないことがあります。

※取得できない項目は空欄になります。

※Windows XP の場合、インストールされている更新プログラムの情報も含まれます。

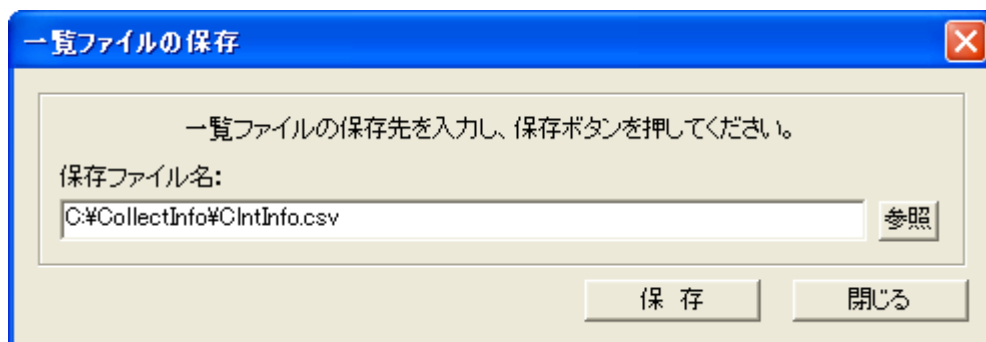
【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

更新プログラム一覧の取得

クライアントにインストールされている更新プログラムの一覧をファイルで取得します。
記録される内容は更新プログラムの番号(KB)のみになります。

対象となるクライアントを選択し「更新プログラム一覧」を実行すると、ファイル回収のウィンドウが表示されます。
すべてのクライアントからファイルの回収が完了すると、一覧ファイル保存のウィンドウが表示されます。



保存するファイル名をパスとともに入力し、「保存」ボタンを押します。
すべてのクライアントのデータが1つのファイルに結合されて出力されます。
保存されるファイルの項目は以下の通りとなります。(コンマ区切り)

コンピューター名,更新プログラム番号

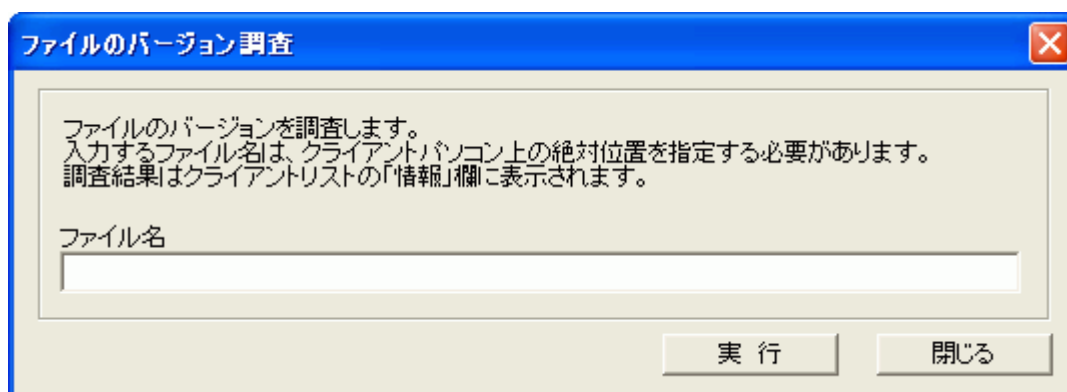
注意

・本機能を利用するには、クライアントコンピュータに「Microsoft.NET Framework 2.0」以降がインストールされている必要があります。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

ファイルバージョン調査

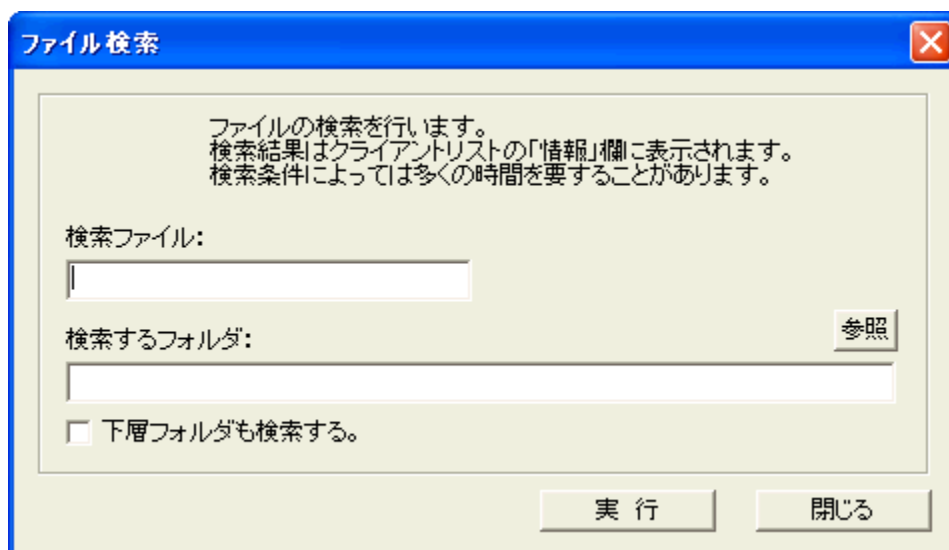


クライアントのディスク上にあるファイルのバージョン番号を取得することが可能です。
ファイルの指定は、調査するクライアントのディスク上の絶対位置を指定する必要があります。
調査対象は、プログラムなどバージョン情報を持つファイル種別に限られます。
取得されたバージョン番号は、クライアントリストの「情報」欄に表示されます。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

ファイル検索



クライアントのディスク上にあるファイルの検索を行うことが可能です。

検索ファイル

検索したいファイル名を入力します。

ファイル名の指定にはワイルドカード“*”の使用が可能です。(“?”の使用は不可)

(入力例: *.doc、*報告書.*)

検索するフォルダ

検索するフォルダを入力します。

(入力例: C:\Program Files、C:\Documents and Settings)

下層フォルダも検索する。

このチェックを有効にして実行すると、指定したフォルダのサブフォルダも検索対象となります。

検索結果は、クライアントリストの「情報」欄に表示されます。

結果は発見したファイルの件数と、最初に見つかったファイルのフルパスが表示されます。

検索によって発見した全てのファイル情報は、クライアントプログラムがインストールされているフォルダ内にファイル名「FSResult.dat」として出力されます。

「FSResult.dat」を「[ファイル回収](#)」機能を利用して回収することで、全ての検索結果を取得することが出来ます。

注意

検索するフォルダにディスク上の上位フォルダ(ルートフォルダなど)を指定し、下層フォルダの検索を有効にして実行すると、非常に多くの時間を要することがあります。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

OS 種別調査

クライアントの OS 種別とサービスパック番号を取得することが可能です。
調査結果は、クライアントリストの「情報」欄に表示されます。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

CPU 調査

クライアントの CPU 種別とクロック数を取得することが可能です。
調査結果は、クライアントリストの「情報」欄に表示されます。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

ネットワークデバイス調査

クライアントのネットワークデバイス(NIC)情報を取得することが可能です。
調査結果は、クライアントリストの「情報」欄に表示されます。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

注意

複数のネットワークデバイスが検出された場合、基本的に優先順位が最上位のものが取得されます。

Windows プロダクト ID 調査

Windows のプロダクト ID を取得することが可能です。
調査結果は、クライアントリストの「情報」欄に表示されます。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

Office プロダクト ID 調査

Microsoft Office のプロダクト ID を取得することが可能です。
取得するには Office のバージョンを指定します。



調査結果は、クライアントリストの「情報」欄に表示されます。

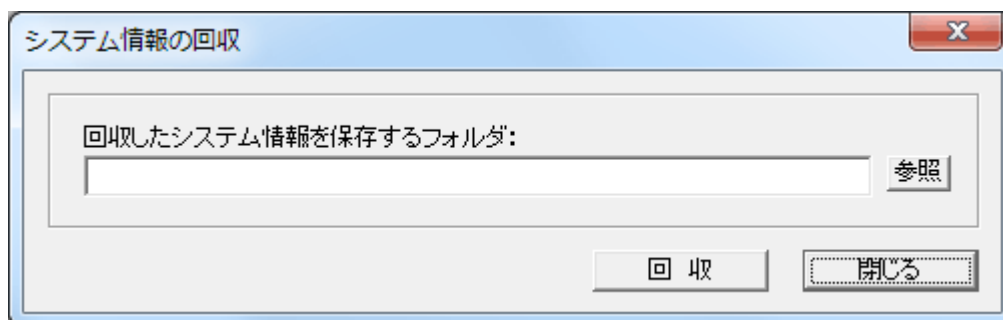
【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

注意

サービスパックや修正プログラムの適用などマイクロソフトの仕様変更により、プロダクト ID が正常に取得できないことがあります。

システム情報の回収



クライアントの「システム情報」を取得し、ファイルとして回収します。

回収されたシステム情報は、「回収したシステム情報を保存するフォルダ」にて指定されたフォルダに保存されます。

ファイル名は以下の通りとなります。

SYSINFO_クライアントのコンピュータ名_回収日時.log (例: SYSINFO_WS-1_20080101091237.txt)

一度に多くのクライアントからシステム情報の回収を行うと、マネージャーとネットワークに大きな負荷が掛かることが予想されます。

このため、同時に回収することが可能な台数(上限)を設定することが出来ます。

回収は設定された上限を超えない範囲で、自動的に分割して実行されます。

上限の設定は「[環境設定](#)」にて行います。

システム情報回収（実行中）					
	グループ名	コンピュータ名	IPアドレス	実行状況	回収日時
1	システム室	AION	192.168.1.13	回収完了	2006/07/01 17:49:54
2	システム室	BLACK	192.168.1.30	回収完了	2006/07/01 17:49:53
3	システム室	GOLD	192.168.1.25	回収完了	2006/07/01 17:49:53
4	システム室	GREEN	192.168.1.50	回収完了	2006/07/01 17:49:53
5	システム室	KIDS	192.168.1.103	待機中	
6	システム室	WIN-XPJ	192.168.1.15	待機中	
7	ライブラリー	WS-101	192.168.1.101	待機中	
8	ライブラリー	WS-102	192.168.1.102	待機中	
9	ライブラリー	WS-103	192.168.1.103	待機中	
10	資料室	WS-104	192.168.1.104	待機中	
11	資料室	WS-106	192.168.1.106	待機中	
12	資料室	WS-107	192.168.1.107	待機中	
13	資料室	WS-108	192.168.1.108	待機中	
14	資料室	WS-109	192.168.1.109	待機中	
15	資料室	WS-110	192.168.1.110	待機中	
16	資料室	WS-111	192.168.1.111	待機中	
17	資料室	WS-112	192.168.1.112	待機中	
18	資料室	WS-113	192.168.1.113	待機中	
19	資料室	WS-114	192.168.1.114	待機中	
20	資料室	WS-115	192.168.1.115	待機中	
21	資料室	WS-116	192.168.1.116	待機中	
22	資料室	WS-117	192.168.1.117	待機中	
23	資料室	WS-118	192.168.1.118	待機中	
24	資料室	WS-119	192.168.1.119	待機中	
25	事務所	WS-120	192.168.1.120	待機中	
26	事務所	WS-121	192.168.1.121	待機中	
27	事務所	WS-122	192.168.1.122	待機中	
28	事務所	WS-123	192.168.1.123	待機中	
29	事務所	WS-124	192.168.1.124	待機中	
30	事務所	WS-125	192.168.1.125	待機中	
31	事務所	WS-126	192.168.1.126	待機中	
32	事務所	WS-127	192.168.1.127	待機中	

「回収中止」ボタンを押すと、直ちに回収動作を中止します。

終了時、システム情報回収の実行結果を残すことが出来ます。
実行結果は「Result¥SysInfoCollect」フォルダに保存されます。

システム情報の記録内容

記録内容は、OS 組み込み機能の「システム情報」を、テキストファイルとして全カテゴリーをエクスポートしたものと同等です。

注意

- ・クライアントの環境に応じて、取得には通常数十秒から数分の時間を要します。
- ・取得されるクライアントのシステム情報ファイルは、1クライアントで数十 MByte のサイズになることがあります。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

クライアント環境調査

クライアントコンピューターのシステム環境に関する様々な情報を取得することが出来ます。



分類のリストから環境情報のカテゴリーを選択します。
表示された調査項目を選択し「調査」ボタンを押します。
調査結果は、クライアントリストの「情報」欄に表示されます。
複数の結果が列挙された場合、各値の区切りとして“|”が挿入されます。

調査結果をファイルで回収する

調査結果の情報量が多く、1500 バイトを超えた場合は「情報」欄には「サイズオーバー」と表示されます。

調査結果はファイルとして回収することが出来ます。

「調査結果をファイルで回収する」を有効にして「調査」ボタンを押すと、調査ファイル回収用の画面が表示されます。

回収された情報は、「回収した情報を保存するフォルダ」にて指定されたフォルダに保存されます。

ファイル名は以下の通りとなります。

SEARCHINFO_クライアントのコンピュータ名_回収日時.log (例: SEARCHINFO_WS-1_20090831152730.txt)

結合

各クライアントから回収された調査ファイルを 1 つのファイルに結合することが出来ます。

すべてのクライアントのデータが 1 つのファイルに結合されて出力されます。

結合されたファイルの各データの先頭には、識別のためクライアントのコンピュータ名が付加されます。(コンマ区切り)

一度に多くのクライアントから情報の回収を行うと、マネージャーとネットワークに大きな負荷が掛かることが予想されます。

このため、同時に回収することが可能な台数(上限)を設定することが出来ます。
回収は設定された上限を超えない範囲で、自動的に分割して実行されます。
上限の設定は「[環境設定](#)」にて行います。

情報回収 (実行中)					
	グループ名	コンピュータ名	IPアドレス	実行状況	回収日時
1	無所属	WS02-WIN7ENT	192.168.1.82	回収完了	2009/09/01 13:06:36
2	管理部	XP-PC4	192.168.1.54	回収完了	2009/09/01 13:06:36
3	管理部	VISTA-PC2	192.168.1.62	回収完了	2009/09/01 13:06:36
4	無所属	YAYOI-PC	192.168.1.119	待機中	
5	無所属	WS03-WIN7PRO	192.168.1.83	待機中	
6	無所属	WIN7	192.168.1.198	待機中	
7	無所属	VISTA001	192.168.1.61	待機中	
8	無所属	TEST-PC1	192.168.2.111	待機中	
9	無所属	OZUMI-PC	192.168.1.34	待機中	
10	無所属	GRAND-PC	192.168.1.188	待機中	
11	無所属	CF-R4	192.168.1.33	待機中	
12	無所属	BUSINESS-PC5	192.168.1.57	待機中	
13	受付	WS-125	192.168.1.125	待機中	
14	受付	WS-124	192.168.1.124	待機中	
15	事務所	WS-123	192.168.1.123	待機中	
16	事務所	WS-122	192.168.1.122	待機中	
17	事務所	WS-121	192.168.1.121	待機中	
18	事務所	WS-120	192.168.1.120	待機中	
19	警備室	XP-PC1	192.168.1.53	待機中	
20	管理部	TEST	192.168.1.59	待機中	
21	管理部	ROOT-PC	192.168.1.135	待機中	
22	管理部	HOMEPREMIUM_	192.168.1.151	待機中	
23	管理部	GOLD	192.168.1.55	待機中	
24	管理部	BUSINESS-PC4	192.168.1.52	待機中	
25	ライブラリー	YAYOI	192.168.1.103	待機中	
26	システム室	ULTIMATE64-PC	192.168.1.50	待機中	
27	システム室	ULTIMATE-PC1	192.168.1.51	待機中	
28	システム室	Server2	192.168.1.202	待機中	
29	システム室	Server1	192.168.1.201	待機中	
30	システム室	GX260-1	192.168.1.56	待機中	
31	システム室	BLACK	192.168.1.30	待機中	

「回収中止」ボタンを押すと、直ちに回収動作を中止します。

終了時、情報回収の実行結果を残すことが出来ます。
実行結果は「Result¥SearchInfoCollect」フォルダに保存されます。(変更も可)

情報の記録内容

記録される内容と量は調査項目によって異なります。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

注意

- ・本機能は「[WMI 調査](#)」機能を利用しています。
ファイル回収に関する設定は共通となります。

- ・調査可能な項目は、クライアントのシステム環境(OS 等)によって異なります。
- ・調査項目やクライアントの環境に応じて、取得には数秒から数分の時間を要します。

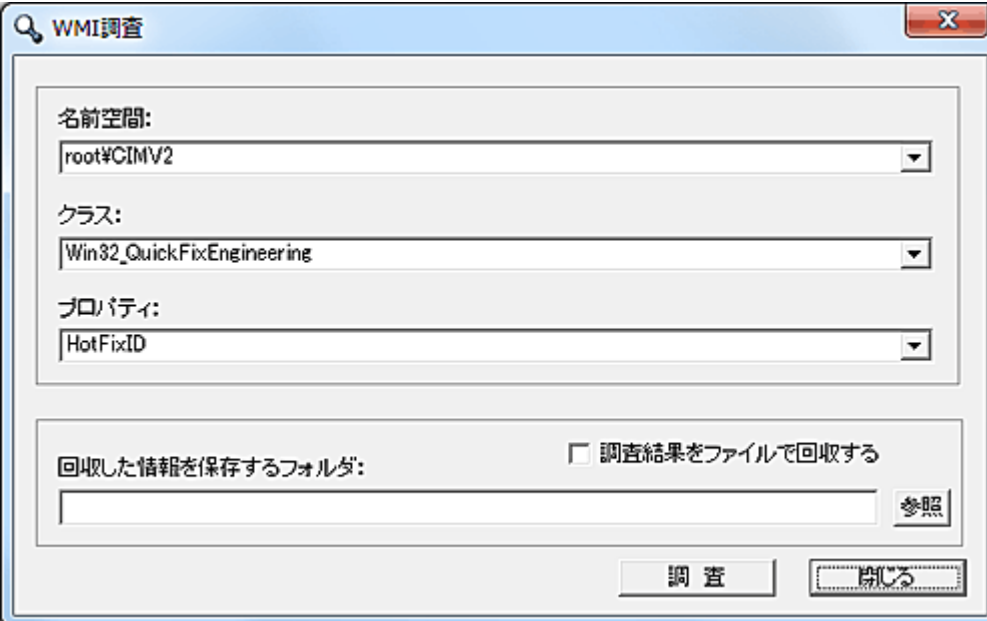
WMI 調査

「Windows Management Instrumentation (WMI)」を利用して、クライアントの様々な情報を調査することが可能です。

オペレーティング システム、デバイス、アプリケーション、サービスなどに関する管理情報の取得が出来ます。

本機能を利用するには WMI に関する知識が必要となります。

WMI に関する情報は、マイクロソフトのサイトにて入手することが可能です。



「名前空間」、「クラス」、「プロパティ」に適切な値を入力し、「調査」ボタンを押します。

調査結果は、クライアントリストの「情報」欄に表示されます。

複数の結果が列挙された場合、各値の区切りとして“|”が挿入されます。

実行例

クライアントにインストールされている修正プログラムの ID を取得する場合、以下の設定を行います。

名前空間: root\CIMV2

クラス: Win32_QuickFixEngineering

プロパティ: HotFixID

調査結果の情報量が多く、1500 バイトを超えた場合は「情報」欄には「サイズオーバー」と表示されます。

このときは、以下の「調査結果をファイルで回収する」を利用してください。

調査結果はファイルとして回収することが出来ます。

「調査結果をファイルで回収する」を有効にして「調査」ボタンを押すと、調査ファイル回収用の画面が表示されます。

回収された情報は、「回収した情報を保存するフォルダ」にて指定されたフォルダに保存されます。

ファイル名は以下の通りとなります。

SEARCHINFO_クライアントのコンピュータ名_回収日時.log (例: SEARCHINFO_WS-1_20090831152730.txt)

一度に多くのクライアントから情報の回収を行うと、マネージャーとネットワークに大きな負荷が掛かることが予想されます。

このため、同時に回収することが可能な台数(上限)を設定することが出来ます。

回収は設定された上限を超えない範囲で、自動的に分割して実行されます。

上限の設定は「[環境設定](#)」にて行います。

情報回収 (実行中)					
	グループ名	コンピュータ名	IPアドレス	実行状況	回収日時
1	無所属	WS02-WIN7ENT	192.168.1.82	回収完了	2009/09/01 13:06:36
2	管理部	XP-PC4	192.168.1.54	回収完了	2009/09/01 13:06:36
3	管理部	VISTA-PC2	192.168.1.62	回収完了	2009/09/01 13:06:36
4	無所属	YAYOI-PC	192.168.1.119	待機中	
5	無所属	WS03-WIN7PRO	192.168.1.83	待機中	
6	無所属	WIN7	192.168.1.198	待機中	
7	無所属	VISTA001	192.168.1.61	待機中	
8	無所属	TEST-PC1	192.168.2.111	待機中	
9	無所属	OIZUMI-PC	192.168.1.34	待機中	
10	無所属	GRAND-PC	192.168.1.188	待機中	
11	無所属	CF-R4	192.168.1.33	待機中	
12	無所属	BUSINESS-PC5	192.168.1.57	待機中	
13	受付	WS-125	192.168.1.125	待機中	
14	受付	WS-124	192.168.1.124	待機中	
15	事務所	WS-123	192.168.1.123	待機中	
16	事務所	WS-122	192.168.1.122	待機中	
17	事務所	WS-121	192.168.1.121	待機中	
18	事務所	WS-120	192.168.1.120	待機中	
19	警備室	XP-PC1	192.168.1.53	待機中	
20	管理部	TEST	192.168.1.59	待機中	
21	管理部	ROOT-PC	192.168.1.135	待機中	
22	管理部	HOMEPREMIUM..	192.168.1.151	待機中	
23	管理部	GOLD	192.168.1.55	待機中	
24	管理部	BUSINESS-PC4	192.168.1.52	待機中	
25	ライブラリー	YAYOI	192.168.1.103	待機中	
26	システム室	ULTIMATE64-PC	192.168.1.50	待機中	
27	システム室	ULTIMATE-PC1	192.168.1.51	待機中	
28	システム室	Server2	192.188.1.202	待機中	
29	システム室	Server1	192.188.1.201	待機中	
30	システム室	GX260-1	192.168.1.56	待機中	
31	システム室	BLACK	192.168.1.30	待機中	

「回収中止」ボタンを押すと、直ちに回収動作を中止します。

終了時、情報回収の実行結果を残すことが出来ます。

実行結果は「Result¥SearchInfoCollect」フォルダに保存されます。

情報の記録内容

記録される内容と量は調査項目によって異なります。

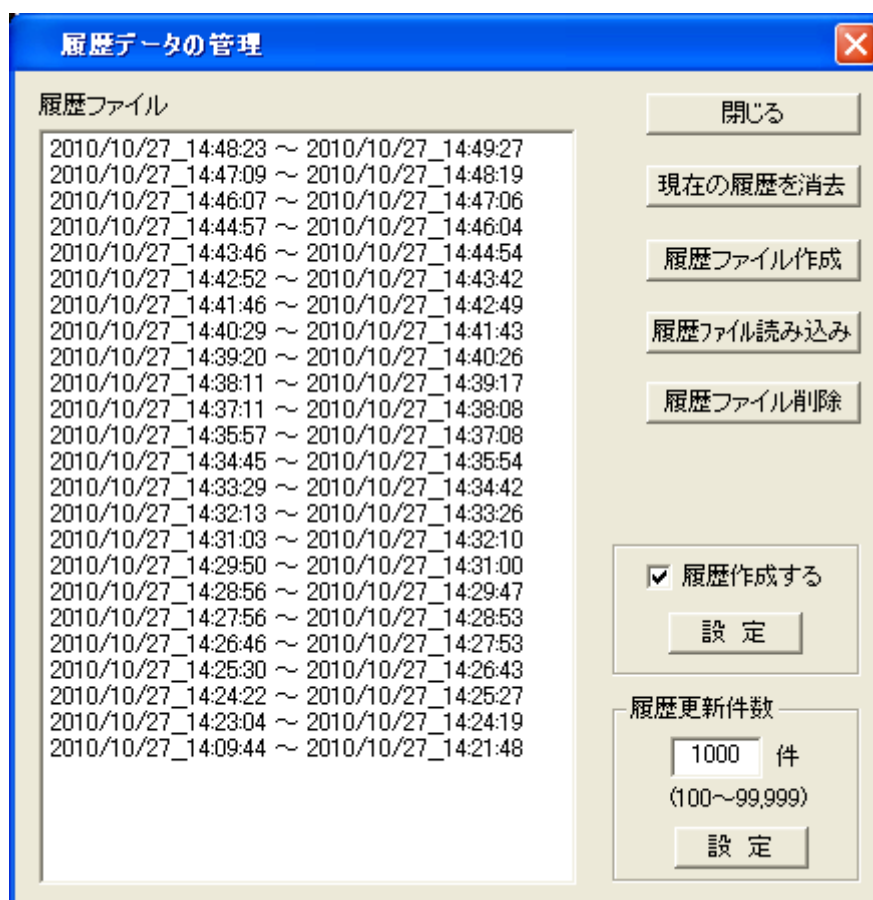
【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

注意

- ・同時に複数のプロパティ値を取得することはできません。
- ・調査可能な項目は、クライアントの OS 種別やインストールされているシステムコンポーネントなどによって異なります。
- ・調査項目やクライアントの環境に応じて、取得には数秒から数分の時間を要します。

履歴管理



【現在の履歴を消去】

現在表示されているクライアント情報をすべて消去します。

【履歴ファイル作成】

履歴データは履歴更新件数で設定された件数ごとに自動作成されますが、任意のタイミングで圧縮ファイルに保存することが出来ます。

【履歴ファイル読み込み】

履歴ファイルを読み込み、履歴情報ウィンドウに表示します。

【履歴ファイル削除】

不要となった圧縮ファイルをディスク上から削除します。

削除したい履歴ファイルをリストから選択し、「履歴ファイル削除」ボタンを押してください。

履歴作成する

本項目が選択されていない場合、履歴データの作成は行われません。

履歴更新件数の値に達すると、取得したクライアント情報は自動削除されます。

履歴更新件数

自動で履歴データを作成する件数を設定します。(100～99,999 件)

大きな値を設定すると、履歴ファイルの作成に多くの時間を要します。



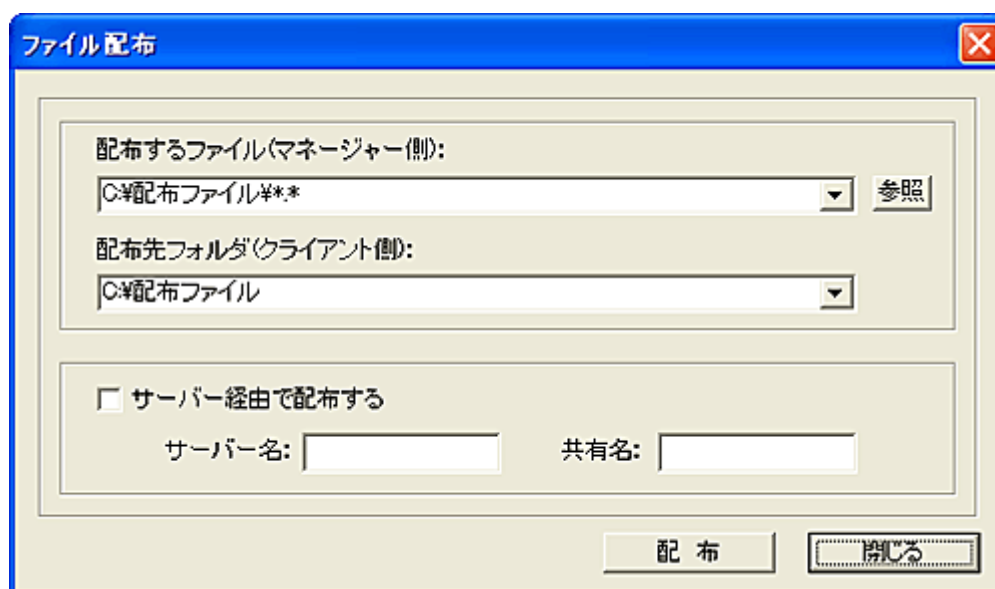
【操作ガイド】

履歴ファイルのリストには、それぞれ記録されているデータの開始日時と終了日時が表示されます。各操作は、記録されているデータの件数および画像内容に応じて、処理には数秒から数十分の時間を要します。

処理中は絶対に中断処理(閉じる)を行わないでください。履歴データが消失することがあります。

ファイル・フォルダ操作

ファイル配布



リストにて選択されているクライアントに対してファイルの配布(転送)を行うことができます。

1. 配布するファイルを入力します。(ワイルドカードが利用可能です)
2. 配布先フォルダを入力します。
3. 「配布」ボタンを押すと配布が開始されます。

※「配布するファイル」の設定は、ドライブのルートを指定することは仕様上出来ません。(C:***等)
必ずフォルダ内のファイルを設定してください。

※配布先に指定したフォルダがクライアント側に存在しない場合は自動作成されます。

※ドロップダウンリストの履歴を削除したい場合は、[Shift]キーを押しながら該当の項目を選択します。

ファイル配信 (実行中)

	グループ名	コンピュータ名	IPアドレス	実行状況	配信日時
1	システム室	AION	192.168.1.13	配信完了	2006/07/03 22:37:33
2	システム室	BLACK	192.168.1.30	配信完了	2006/07/03 22:37:32
3	システム室	GOLD	192.168.1.25	配信完了	2006/07/03 22:37:32
4	システム室	GREEN	192.168.1.50	配信完了	2006/07/03 22:37:32
5	システム室	KIDS	192.168.1.103	配信完了	2006/07/03 22:37:35
6	システム室	WIN-XPJ	192.168.1.15	待機中	
7	ライブラリー	WS-101	192.168.1.101	待機中	
8	ライブラリー	WS-102	192.168.1.102	待機中	
9	ライブラリー	WS-103	192.168.1.103	待機中	
10	資料室	WS-104	192.168.1.104	待機中	
11	資料室	WS-106	192.168.1.106	待機中	
12	資料室	WS-107	192.168.1.107	待機中	
13	資料室	WS-108	192.168.1.108	待機中	
14	資料室	WS-109	192.168.1.109	待機中	
15	資料室	WS-110	192.168.1.110	待機中	
16	資料室	WS-111	192.168.1.111	待機中	
17	資料室	WS-112	192.168.1.112	待機中	
18	資料室	WS-113	192.168.1.113	待機中	
19	資料室	WS-114	192.168.1.114	待機中	
20	資料室	WS-115	192.168.1.115	待機中	
21	資料室	WS-116	192.168.1.116	待機中	
22	資料室	WS-117	192.168.1.117	待機中	
23	資料室	WS-118	192.168.1.118	待機中	
24	資料室	WS-119	192.168.1.119	待機中	
25	資料室	WS-140	192.168.1.140	待機中	
26	資料室	WS-141	192.168.1.141	待機中	
27	資料室	WS-142	192.168.1.142	待機中	
28	資料室	WS-143	192.168.1.143	待機中	
29	資料室	WS-144	192.168.1.144	待機中	
30	資料室	WS-145	192.168.1.145	待機中	
31	資料室	WS-146	192.168.1.146	待機中	

配信中止 閉じる

「配布中止」ボタンを押すと、直ちに動作を中止します。
ファイル配布の実行結果をファイルに残すことができます。

一度に多くのクライアントに配布を行うと、マネージャーとネットワークに大きな負荷が掛かることが予想されます。
このため、同時に配布することが可能な台数(上限)を設定することができます。

配布は設定された上限を超えない範囲で、自動的に分割して実行されます。
上限の設定は「[環境設定](#)」にて行います。

サーバー経由で配布する

「サーバー経由で配布する」のチェックをオンにして配布を行うと、各クライアントへのファイル配布はファイルサーバーを経由して行われます。

本機能を利用するには、ファイルサーバー上に各クライアントからアクセスが可能な共有フォルダを作成し、「サーバー名」と「共有名」を設定してください。

「配布」ボタンを押すと、「配布するファイル」に指定されているファイルをサーバー上の共有フォルダに一度コピーします。

その際、共有フォルダ内にあるファイルは全て削除されますのでご注意ください。

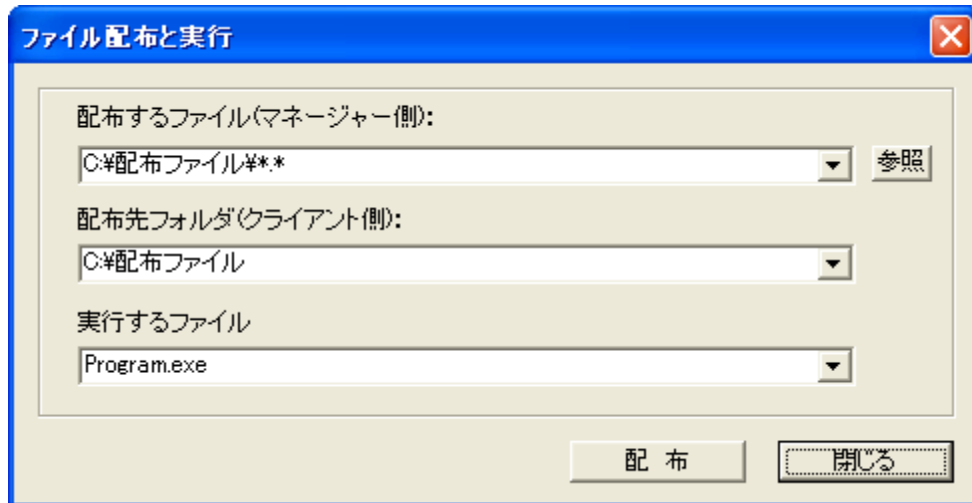
サーバーへのコピーが完了後、各クライアントへの転送が開始されます。

この方法では、進捗を確認したり、自動分割配布を行うことは出来ません。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

ファイル配布と実行



リストにて選択されているクライアントに対してファイルの配布(転送)を行い、自動実行させることが出来ます。

1. 配布するファイルを入力します。(ワイルドカードが利用可能です)
2. 配布先フォルダを入力します。
3. 配布完了後、実行するファイルを入力します。(ファイル名のみ指定します)
4. 「配布」ボタンを押すと配布が開始されます。

※実行するファイルがデータファイルの場合、関連付けされたアプリケーションが起動します。

※実行するファイルは、配布先のフォルダに存在する必要があります。

※「配布、実行するファイル」の設定は、ドライブのルートを指定することは仕様上出来ません。

必ずフォルダ内のファイルを設定してください。

※配布先に指定したフォルダがクライアント側に存在しない場合は自動作成されます。

※ドロップダウンリストの履歴を削除したい場合は、[Shift]キーを押しながら該当の項目を選択します。

ファイル配信 (実行中)

	グループ名	コンピュータ名	IPアドレス	実行状況	配信日時
1	システム室	AION	192.168.1.13	配信完了	2006/07/03 22:37:33
2	システム室	BLACK	192.168.1.30	配信完了	2006/07/03 22:37:32
3	システム室	GOLD	192.168.1.25	配信完了	2006/07/03 22:37:32
4	システム室	GREEN	192.168.1.50	配信完了	2006/07/03 22:37:32
5	システム室	KIDS	192.168.1.103	配信完了	2006/07/03 22:37:35
6	システム室	WIN-XPJ	192.168.1.15	待機中	
7	ライブラリー	WS-101	192.168.1.101	待機中	
8	ライブラリー	WS-102	192.168.1.102	待機中	
9	ライブラリー	WS-103	192.168.1.103	待機中	
10	資料室	WS-104	192.168.1.104	待機中	
11	資料室	WS-106	192.168.1.106	待機中	
12	資料室	WS-107	192.168.1.107	待機中	
13	資料室	WS-108	192.168.1.108	待機中	
14	資料室	WS-109	192.168.1.109	待機中	
15	資料室	WS-110	192.168.1.110	待機中	
16	資料室	WS-111	192.168.1.111	待機中	
17	資料室	WS-112	192.168.1.112	待機中	
18	資料室	WS-113	192.168.1.113	待機中	
19	資料室	WS-114	192.168.1.114	待機中	
20	資料室	WS-115	192.168.1.115	待機中	
21	資料室	WS-116	192.168.1.116	待機中	
22	資料室	WS-117	192.168.1.117	待機中	
23	資料室	WS-118	192.168.1.118	待機中	
24	資料室	WS-119	192.168.1.119	待機中	
25	資料室	WS-140	192.168.1.140	待機中	
26	資料室	WS-141	192.168.1.141	待機中	
27	資料室	WS-142	192.168.1.142	待機中	
28	資料室	WS-143	192.168.1.143	待機中	
29	資料室	WS-144	192.168.1.144	待機中	
30	資料室	WS-145	192.168.1.145	待機中	
31	資料室	WS-146	192.168.1.146	待機中	

配信中止 閉じる

「配布中止」ボタンを押すと、直ちに動作を中止します。
ファイル配布の実行結果をファイルに残すことができます。

一度に多くのクライアントに配布を行うと、マネージャーとネットワークに大きな負荷が掛かることが予想されます。

このため、同時に配布することが可能な台数(上限)を設定することができます。

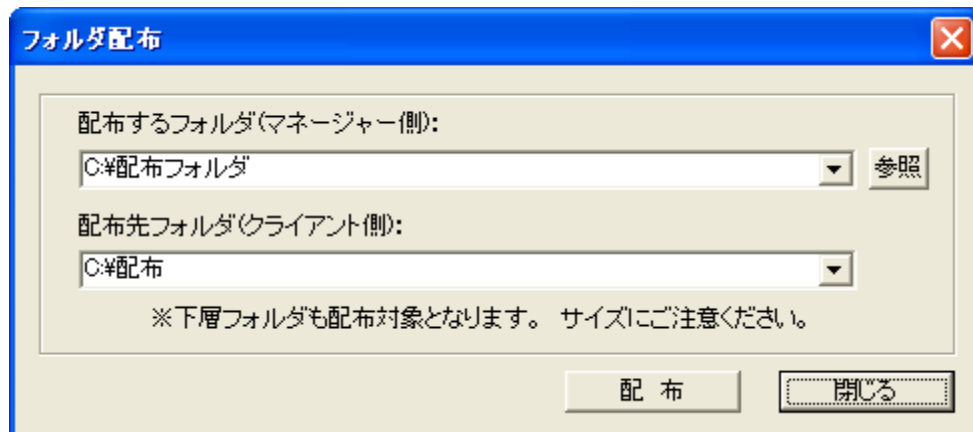
配布は設定された上限を超えない範囲で、自動的に分割して実行されます。

上限の設定は「[環境設定](#)」にて行います。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。
- ・クライアントがログオフ状態の時、ファイルは SYSTEM 権限で実行されます。ログオン後にウィンドウは表示されません。

フォルダ配布



リストにて選択されているクライアントに対してフォルダごとファイルの配布(転送)を行うことが出来ます。配布元に指定したフォルダに下層フォルダ(サブディレクトリ)が有る場合、ディレクトリ構造ごと配布されます。

1. 配布対象となるフォルダを入力します。
2. 配布先フォルダを入力します。
3. 「配布」ボタンを押すと配布が開始されます。以降の配布処理は、「[ファイル配布](#)」と同じ動作となります。

実行例:

配布するフォルダに「C:¥配付資料¥Data」と設定し、配布先フォルダに「C:¥資料」と設定した場合、クライアントの[C:¥資料]フォルダ直下に[Data]フォルダが作成され、下層フォルダも含めて配布されます。

※「配布するフォルダ」の設定は、ドライブのルートを指定することは仕様上出来ません。

※配布先に指定したフォルダがクライアント側に存在しない場合は自動作成されます。

※全ての下層フォルダが配布対象となるので、転送されるファイルの総容量には十分に注意する必要があります。

※ドロップダウンリストの履歴を削除したい場合は、[Shift]キーを押しながら該当の項目を選択します。

ファイル配信 (実行中)

	グループ名	コンピュータ名	IPアドレス	実行状況	配信日時
1	システム室	AION	192.168.1.13	配信完了	2006/07/03 22:37:33
2	システム室	BLACK	192.168.1.30	配信完了	2006/07/03 22:37:32
3	システム室	GOLD	192.168.1.25	配信完了	2006/07/03 22:37:32
4	システム室	GREEN	192.168.1.50	配信完了	2006/07/03 22:37:32
5	システム室	KIDS	192.168.1.103	配信完了	2006/07/03 22:37:35
6	システム室	WIN-XPJ	192.168.1.15	待機中	
7	ライブラリー	WS-101	192.168.1.101	待機中	
8	ライブラリー	WS-102	192.168.1.102	待機中	
9	ライブラリー	WS-103	192.168.1.103	待機中	
10	資料室	WS-104	192.168.1.104	待機中	
11	資料室	WS-106	192.168.1.106	待機中	
12	資料室	WS-107	192.168.1.107	待機中	
13	資料室	WS-108	192.168.1.108	待機中	
14	資料室	WS-109	192.168.1.109	待機中	
15	資料室	WS-110	192.168.1.110	待機中	
16	資料室	WS-111	192.168.1.111	待機中	
17	資料室	WS-112	192.168.1.112	待機中	
18	資料室	WS-113	192.168.1.113	待機中	
19	資料室	WS-114	192.168.1.114	待機中	
20	資料室	WS-115	192.168.1.115	待機中	
21	資料室	WS-116	192.168.1.116	待機中	
22	資料室	WS-117	192.168.1.117	待機中	
23	資料室	WS-118	192.168.1.118	待機中	
24	資料室	WS-119	192.168.1.119	待機中	
25	資料室	WS-140	192.168.1.140	待機中	
26	資料室	WS-141	192.168.1.141	待機中	
27	資料室	WS-142	192.168.1.142	待機中	
28	資料室	WS-143	192.168.1.143	待機中	
29	資料室	WS-144	192.168.1.144	待機中	
30	資料室	WS-145	192.168.1.145	待機中	
31	資料室	WS-146	192.168.1.146	待機中	

配信中止 閉じる

「配布中止」ボタンを押すと、直ちに動作を中止します。
ファイル配布の実行結果をファイルに残すことができます。

一度に多くのクライアントに配布を行うと、マネージャーとネットワークに大きな負荷が掛かることが予想されます。

このため、同時に配布することが可能な台数(上限)を設定することができます。

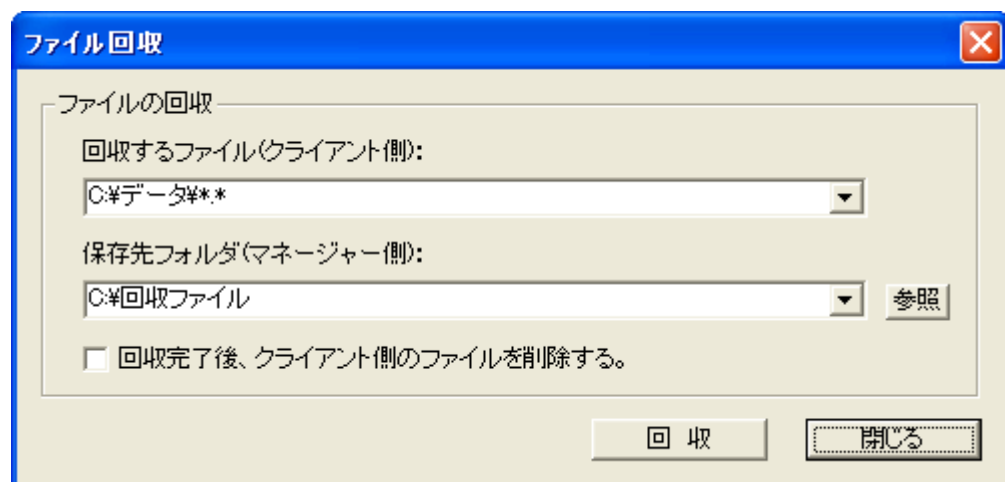
配布は設定された上限を超えない範囲で、自動的に分割して実行されます。

上限の設定は「[環境設定](#)」にて行います。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

ファイル回収



リストにて選択されているクライアントからファイルの回収を行うことができます。

- 1.回収するファイルを入力します。(ワイルドカードが利用可能です)
- 2.保存先フォルダを入力します。
- 3.「回収」ボタンを押すと回収が開始されます。

※「保存先フォルダ」にドライブのルートを設定することは仕様上出来ません。(C:等)
必ずフォルダを設定してください。

※ドロップダウンリストの履歴を削除したい場合は、[Shift]キーを押しながら該当の項目を選択します。

ファイル回収 (実行中)

	グループ名	コンピュータ名	IPアドレス	実行状況	回収日時
1	システム室	AION	192.168.1.13	回収完了	2006/07/03 21:38:40
2	システム室	BLACK	192.168.1.30	回収完了	2006/07/03 21:38:40
3	システム室	GOLD	192.168.1.25	回収完了	2006/07/03 21:38:40
4	システム室	GREEN	192.168.1.50	回収完了	2006/07/03 21:38:40
5	システム室	KIDS	192.168.1.103	待機中	
6	システム室	WIN-XPJ	192.168.1.15	待機中	
7	ライブラリー	WS-101	192.168.1.101	待機中	
8	ライブラリー	WS-102	192.168.1.102	待機中	
9	ライブラリー	WS-103	192.168.1.103	待機中	
10	資料室	WS-104	192.168.1.104	待機中	
11	資料室	WS-106	192.168.1.106	待機中	
12	資料室	WS-107	192.168.1.107	待機中	
13	資料室	WS-108	192.168.1.108	待機中	
14	資料室	WS-109	192.168.1.109	待機中	
15	資料室	WS-110	192.168.1.110	待機中	
16	資料室	WS-111	192.168.1.111	待機中	
17	資料室	WS-112	192.168.1.112	待機中	
18	資料室	WS-113	192.168.1.113	待機中	
19	資料室	WS-114	192.168.1.114	待機中	
20	資料室	WS-115	192.168.1.115	待機中	
21	資料室	WS-116	192.168.1.116	待機中	
22	資料室	WS-117	192.168.1.117	待機中	
23	資料室	WS-118	192.168.1.118	待機中	
24	資料室	WS-119	192.168.1.119	待機中	
25	資料室	WS-140	192.168.1.140	待機中	
26	資料室	WS-141	192.168.1.141	待機中	
27	資料室	WS-142	192.168.1.142	待機中	
28	資料室	WS-143	192.168.1.143	待機中	
29	資料室	WS-144	192.168.1.144	待機中	
30	資料室	WS-145	192.168.1.145	待機中	
31	資料室	WS-146	192.168.1.146	待機中	
32	資料室	WS-147	192.168.1.147	待機中	

回収中止 閉じる

「回収中止」ボタンを押すと、直ちに動作を中止します。
ファイル回収の実行結果をファイルに残すことができます。

一度に多くのクライアントから回収を行うと、マネージャーとネットワークに大きな負荷が掛かることが予想されます。

このため、同時に回収することが可能な台数(上限)を設定することができます。

回収は設定された上限を超えない範囲で、自動的に分割して実行されます。

上限の設定は「[環境設定](#)」にて行います。

保存ファイルについて

保存先に回収された各ファイルは、次のファイル名を持った圧縮ファイルとして保存されます。

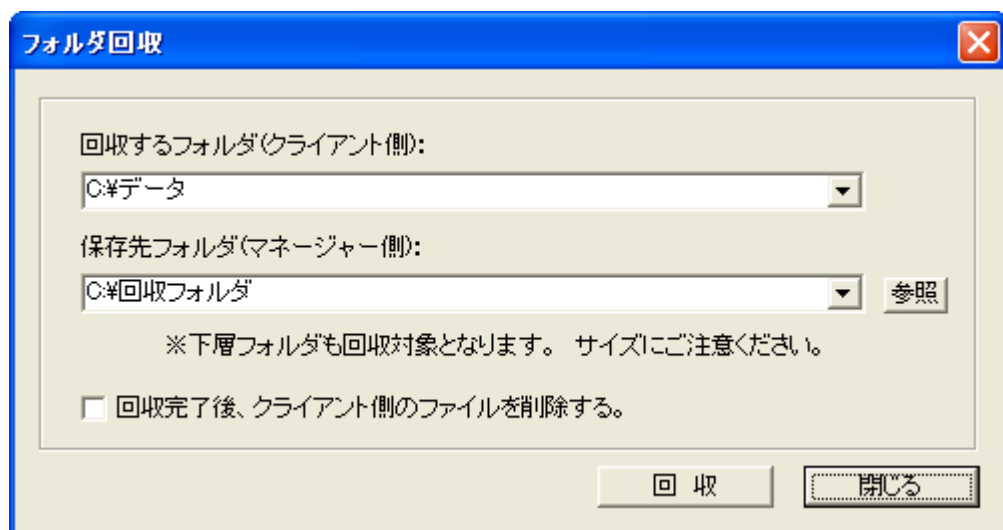
コンピュータ名_ユーザー名^年月日.pak

回収、圧縮保存されたファイルは「[回収済みファイルの整理](#)」にて、「コンピュータ別」または「ユーザー別」に整理して、独立したフォルダに振り分けます。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

フォルダ回収



リストにて選択されているクライアントからフォルダごとファイルの回収(転送)を行うことができます。

- 1.回収対象となるフォルダを入力します。
- 2.保存先フォルダを入力します。
- 3.「回収」ボタンを押すと回収が開始されます。以降の回収処理は、「[ファイル回収](#)」と同じ動作となります。

※「回収するフォルダ」及び「保存先フォルダ」にドライブのルートを設定することは仕様上出来ません。(C:等)

※全ての下層フォルダが回収対象となるので、転送されるファイルの総容量には十分に注意する必要があります。

※ドロップダウンリストの履歴を削除したい場合は、[Shift]キーを押しながら該当の項目を選択します。

ファイル回収 (実行中)

	グループ名	コンピュータ名	IPアドレス	実行状況	回収日時
1	システム室	AION	192.168.1.13	回収完了	2006/07/03 21:38:40
2	システム室	BLACK	192.168.1.30	回収完了	2006/07/03 21:38:40
3	システム室	GOLD	192.168.1.25	回収完了	2006/07/03 21:38:40
4	システム室	GREEN	192.168.1.50	回収完了	2006/07/03 21:38:40
5	システム室	KIDS	192.168.1.103	待機中	
6	システム室	WIN-XPJ	192.168.1.15	待機中	
7	ライブラリー	WS-101	192.168.1.101	待機中	
8	ライブラリー	WS-102	192.168.1.102	待機中	
9	ライブラリー	WS-103	192.168.1.103	待機中	
10	資料室	WS-104	192.168.1.104	待機中	
11	資料室	WS-106	192.168.1.106	待機中	
12	資料室	WS-107	192.168.1.107	待機中	
13	資料室	WS-108	192.168.1.108	待機中	
14	資料室	WS-109	192.168.1.109	待機中	
15	資料室	WS-110	192.168.1.110	待機中	
16	資料室	WS-111	192.168.1.111	待機中	
17	資料室	WS-112	192.168.1.112	待機中	
18	資料室	WS-113	192.168.1.113	待機中	
19	資料室	WS-114	192.168.1.114	待機中	
20	資料室	WS-115	192.168.1.115	待機中	
21	資料室	WS-116	192.168.1.116	待機中	
22	資料室	WS-117	192.168.1.117	待機中	
23	資料室	WS-118	192.168.1.118	待機中	
24	資料室	WS-119	192.168.1.119	待機中	
25	資料室	WS-140	192.168.1.140	待機中	
26	資料室	WS-141	192.168.1.141	待機中	
27	資料室	WS-142	192.168.1.142	待機中	
28	資料室	WS-143	192.168.1.143	待機中	
29	資料室	WS-144	192.168.1.144	待機中	
30	資料室	WS-145	192.168.1.145	待機中	
31	資料室	WS-146	192.168.1.146	待機中	
32	資料室	WS-147	192.168.1.147	待機中	

回収中止 閉じる

「回収中止」ボタンを押すと、直ちに動作を中止します。
ファイル回収の実行結果をファイルに残すことができます。

一度に多くのクライアントから回収を行うと、マネージャーとネットワークに大きな負荷が掛かることが予想されます。

このため、同時に回収することが可能な台数(上限)を設定することができます。

回収は設定された上限を超えない範囲で、自動的に分割して実行されます。

上限の設定は「[環境設定](#)」にて行います。

保存ファイルについて

保存先に回収された各ファイルは、次のファイル名を持った圧縮ファイルとして保存されます。

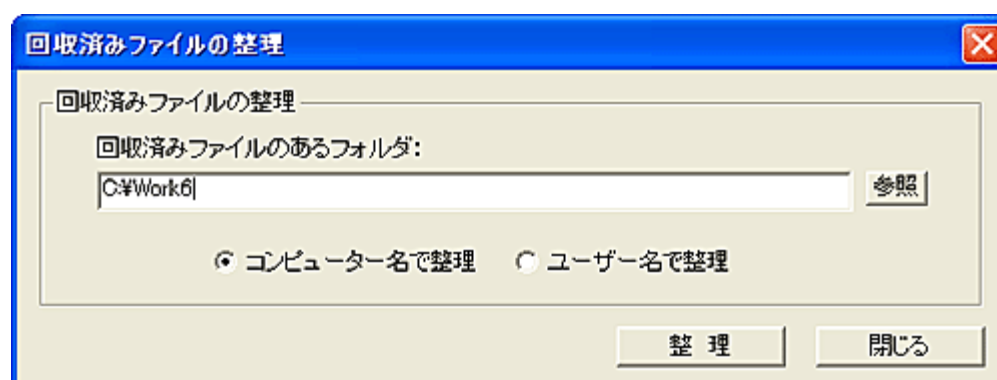
コンピュータ名_ユーザー名^年月日.pak

回収、圧縮保存されたファイルは「[回収済みファイルの整理](#)」にて、「コンピュータ別」または「ユーザー別」に整理して、独立したフォルダに振り分けます。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

回収済みファイルの整理



回収、圧縮保存されたファイルを「コンピュータ別」または「ユーザー別」に整理して、独立したフォルダに振り分けます。

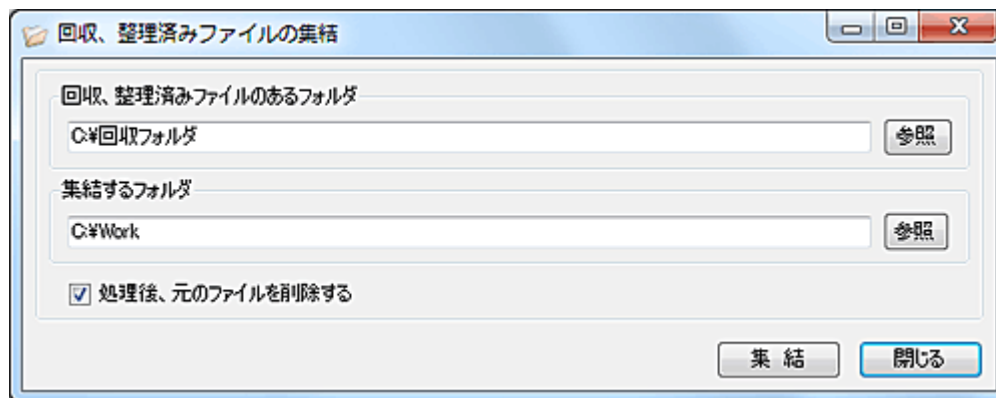
- 1.回収済みファイルのあるフォルダを指定します。
- 2.「コンピュータ名で整理」または「ユーザー名で整理」を選択します。
- 3.「整理」ボタンを押します。
- 4.回収されたファイルが自動作成されたそれぞれのフォルダに振り分けられると同時に、解凍作業が行われます。

※「[フォルダ回収](#)」にて回収されたファイルは、クライアント上に有ったフォルダ位置(下層フォルダ)に展開されます。

※回収済みファイルの整理は、クライアントからのファイル回収がすべて終了してから行う必要があります。(ファイル回収実行中は行わないでください。)

整理済みファイルの集結

「[回収済みファイルの整理](#)」によってフォルダ別に整理された回収ファイルを、1つのフォルダに集結させる事が出来ます。



回収、整理済みファイルのあるフォルダ

「回収済みファイルの整理」で指定したフォルダを設定します。

集結するフォルダ

ファイルを集結するフォルダを設定します。

処理後、元のファイルを削除する

集結処理の完了後、整理済みファイルをフォルダごと削除します。

集結後のファイル名

フォルダ別に整理されたファイルは、集結する際にファイル名の変更が行われます。

各ファイル名の先頭にそのファイルが格納されているフォルダ名が区切り文字“_”(アンダーバー)と共に付加されます。

「回収済みファイルの整理」の処理にて「コンピューター名」で整理を行った場合は、“コンピューター名_ファイル名”が新しい名前になります。

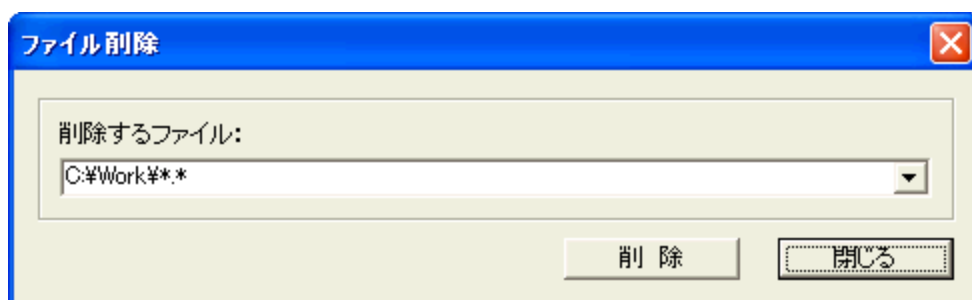
他方、「ユーザー名」で整理を行った場合は、“ユーザー名_ファイル名”が新しい名前になります。

注意事項

集結されるファイルは、各フォルダ以下すべてのサブディレクトリーのファイルが対象となります。

このとき、同一のファイル名が存在した場合、より下位層のファイルのみが集結の対象となりますのでご注意ください。

ファイル削除



リストにて選択されているクライアントのディスク上のあるファイルを削除することが出来ます。
削除ファイルの指定にはワイルドカードが利用可能です。

※フォルダを削除することは出来ません。

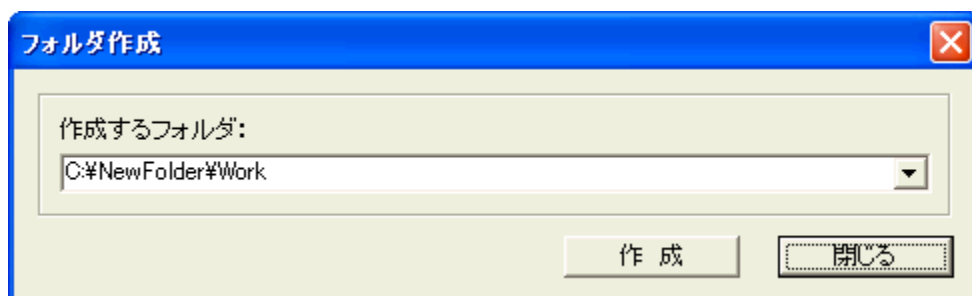
※削除されたファイルは「ごみ箱」には入らず、ディスク上から削除されます。

※ドロップダウンリストの履歴を削除したい場合は、[Shift]キーを押しながら該当の項目を選択します。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

フォルダ作成



リストにて選択されているクライアントにフォルダを作成することが出来ます。

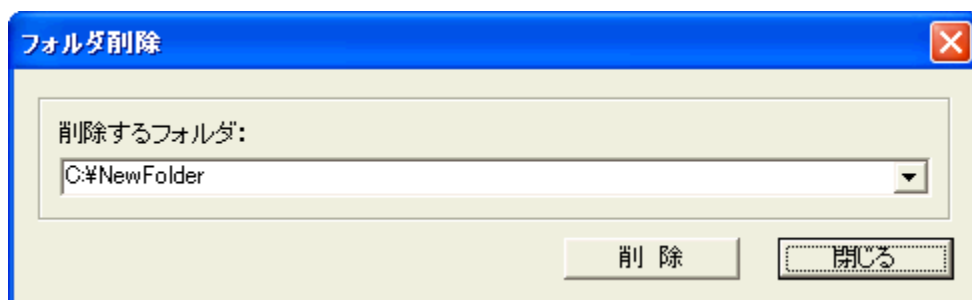
※階層フォルダも、そのまま作成されます。

※ドロップダウンリストの履歴を削除したい場合は、[Shift]キーを押しながら該当の項目を選択します。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

フォルダ削除



リストにて選択されているクライアントのフォルダを削除することが出来ます。

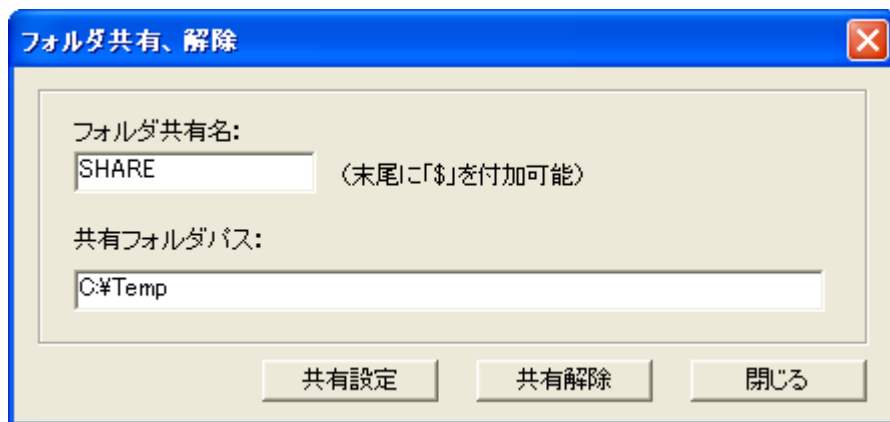
注意

- ※指定されたフォルダ内にファイルが存在した場合、ファイルも同時に削除されます。
- ※指定されたフォルダに下層フォルダが有る場合、全ての下層フォルダも同時に削除されます。(ファイルも含む)
- ※安全のため、3文字以下のフォルダ指定は出来ません。(C:\等)
- ※ドロップダウンリストの履歴を削除したい場合は、[Shift]キーを押しながら該当の項目を選択します。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

フォルダの共有、解除



リストにて選択されているクライアントのフォルダを共有させることが出来ます。

共有方法

- 1.共有名を入力します。
- 2.共有フォルダのパスを入力します。
- 3.「共有設定」ボタンを押します。

※共有を許可する対象グループは「Everyone」で、フルアクセスの権限が与えられます。

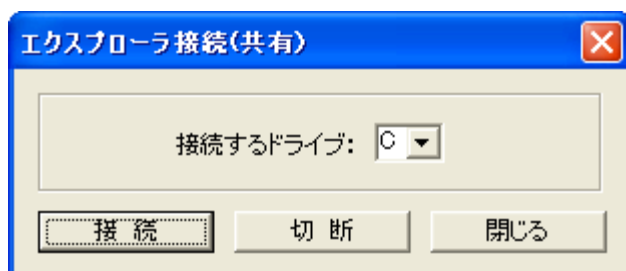
※共有名の末尾に「\$」を付加すると、ブラウザ表示されません。(マイネットワークに表示されない)

※フォルダの共有設定を行うには、クライアントコンピュータのネットワーク設定において「フォルダの共有」が有効になっている必要があります。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

エクスプローラ接続(共有)



リストにて選択されているクライアントの任意のドライブにエクスプローラを使って接続することが出来ます。

- 1.接続したいクライアントのドライブを選択します。
- 2.[接続]ボタンを押します。
- 3.エクスプローラが開き、クライアントのドライブ内容が表示されます。

※「エクスプローラ接続(共有)」はクライアントドライブのルートに共有設定を行い、マネージャーのエクスプローラからネットワーク接続する方法で行われます。

※クライアントのネットワーク設定において、「フォルダの共有」が利用できない場合は接続に失敗します。

※接続に失敗した場合、表示されたエクスプローラーの内容はマネージャーのローカルドライブのものになりますのでご注意ください。(エクスプローラーの仕様)

※同一のクライアントに対して、異なるドライブのエクスプローラー表示を行うには、一度「切断」を行ってから新しいドライブに接続してください。

※クライアントにおける共有設定は隠し属性で行われますので、他のコンピュータがブラウザ表示することはできません。

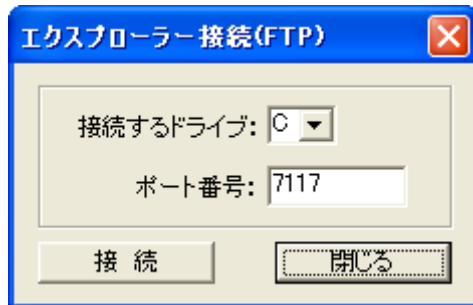
※クライアントの共有設定は、クライアントコンピュータがログオフするときに自動的に共有解除されます。

※クライアントの共有設定を強制的に解除するには、[切断]ボタンを利用してください。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行は不可。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です

エクスプローラ接続(FTP)



リストにて選択されているクライアントの任意のドライブにエクスプローラを使って接続することが出来ます。

1. 接続したいクライアントのドライブを選択します。
2. 通信に利用するポート番号を入力します。
3. [接続]ボタンを押します。
4. エクスプローラが開き、クライアントのドライブ内容が表示されます。(正確には Internet Explorer の機能を利用します。)

※「エクスプローラ接続(FTP)」はクライアントにて独自の FTP サーバを起動し、マネージャーのエクスプローラから FTP 接続する方法で行われます。

エクスプローラ接続(共有)とは異なり、Windows 仕様の影響を受けにくい特徴があります。(特に WAN 接続時)

※エクスプローラを終了すれば、クライアント側のサーバー機能も自動的に停止します。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行は不可。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です

フォルダ、ファイルの隠蔽



リストにて選択されているクライアントのディスク上にある任意のフォルダ及びファイルを隠蔽することが出来ます。

隠蔽されたフォルダおよびファイルはエクスプローラなどから見えない状態になります。

見えないだけで、直接ファイルをフルパスで指定すれば開くことが出来ます。

初めて本機能を利用する場合、後述の「初期設定」に従い**ドライバの登録作業**を行う必要があります。
一部システムの改変を伴う作業になりますので、説明を最後までお読みいただいた上でご利用ください。

隠蔽方法

1. 隠蔽するクライアント側のフォルダ又はファイルをフルパスで入力し、「リストに登録」ボタンを押します。
 ファイルの指定にはワイルドカードを利用することが可能です。
2. 隠蔽するフォルダの内容をリストにてよく確認し、「隠蔽」ボタンを押します。

隠蔽の解除方法

1. 「隠蔽を解除」ボタンを押します。
 本アプリケーションにて設定されたすべてのフォルダ隠蔽が解除され、見える状態になります。

隠蔽状況の確認方法

1. 「状況確認」ボタンを押す。
- ※隠蔽状況がクライアントリストの「情報」欄に表示されます。
 ※クライアントがログオフ状態の時は必ず「フォルダ、ファイル隠蔽 OFF」となります。

初期登録

本機能を利用するには、各クライアントにフォルダ、ファイル隠蔽用ドライバの登録を行う必要があります。

インストール直後の状態では、ドライバは登録されておらず、本機能は無効となっています。

ドライバの登録がされていない場合、「状況確認」を行っても「情報」欄には何も表示されません。(無効な状態を意味します。)

ドライバの登録を行うには、リストにて対象のクライアントが起動状態であることを確認し、選択します。

[Ctrl]と[Shift]キーを押しながら、「隠蔽」ボタンを押します。

「はい」ボタンを押し、ドライバの登録を行います。

フォルダ隠蔽用ドライバを登録することで、システム(OS)の内部設定(セキュリティ関係)が一部変更されます。

各クライアントにおけるシステムの状態や、他のアプリケーションの影響で本機能が正常に動作しなかったり、システムの動作が不安定になることがあります。

必ずシステム全体のバックアップを取るなどして、復元可能な状態にしておいてからドライバの登録作業を実施してください。

ドライバ登録後、動作の異常が見られた場合は、直ちにシステムの復元を行い、以後本機能の利用はお控えください。

注意事項

隠蔽されたフォルダ内にあるアプリケーション(実行ファイル)の利用には制限が伴います。

アプリケーションの仕様によっては正常に動作しないことがありますので、事前によく動作確認を行ってください。

なお、隠蔽フォルダ内のデータファイルの利用は問題ありません。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。
ログオフ状態の時は設定のみ行われ、実際の隠蔽はログオン後から機能します。
- ・クライアントがログオフの時は、フォルダの隠蔽は解除された状態にあります。

レジストリ操作

レジストリ設定



クライアントのレジストリ操作を行うことができます。

【ルートキー】

設定可能なルートキー（ハイブ）は以下の5つです。

- 1.HKEY_CLASSES_ROOT
- 2.HKEY_CURRENT_USER
- 3.HKEY_LOCAL_MACHINE
- 4.HKEY_USERS
- 5.HKEY_CURRENT_CONFIG

【キー情報】

キー

設定するキーの名前を入力します。（入力例：Software¥Microsoft¥Windows NT¥CurrentVersion¥Winlogon）

値の名前

設定する値の名前を入力します。（入力例：DefaultPassword）

種類

設定する値のタイプを選択します。（文字列または DWORD のみ）

値のデータ

設定する値を入力します。

値のタイプが「DWORD」の場合は必ず10進数で入力してください。

タイプとして DWORD が選択されている時に数値以外のデータを入力すると設定されるデータは「0」になります。

キーの追加方法

「追加、修正」のラジオボタンをクリックする。

1. ルートキーを選択する。
2. 「キー」を入力する。
3. 「値の名前」は空欄とする。
4. 「文字列」及び「DWORD」の選択はどちらでもよい。
5. 「値のデータ」は空欄とする。
6. 「追加、修正」ボタンを押す。

値の追加方法

「追加、修正」のラジオボタンをクリックする。

1. ルートキーを選択する。
2. 「キー」を入力する。
3. 「値の名前」を入力する。
4. 「文字列」または「DWORD」を選択する。
5. 「値のデータ」を入力する。(空欄でもよい)
6. 「追加、修正」ボタンを押す。

※指定したキーが存在しない場合、キーも自動的に作成されます。

値の修正方法

1. ルートキーを選択する。
2. 「キー」を入力する。
3. 「値の名前」を入力する。
4. 「文字列」または「DWORD」を選択する。
5. 新しい「値のデータ」を入力する。(空欄にすると値のデータは消去される)
6. 「追加、修正」ボタンを押す。

※キー及び値の名前変更はできません。

キーの削除方法

1. ルートキーを選択する。
2. 「キー」を入力する。
3. 「値の名前」は空欄とする。
4. 「文字列」及び「DWORD」の選択はどちらでもよい。
5. 「値のデータ」は空欄とする。
6. 「削除」ボタンを押す。

値の削除方法

1. ルートキーを選択する。
2. 「キー」を入力する。
3. 「値の名前」を入力する。
4. 「文字列」及び「DWORD」の選択はどちらでもよい。
5. 「値のデータ」は空欄とする。
6. 「削除」ボタンを押す。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。
- ・レジストリの変更は非常に危険を伴う操作です。設定を誤るとクライアントのシステムを破壊することがありますので、十分に注意してご利用ください。

レジストリのインポート

レジストリファイルをクライアントに配信し、インポートします。

配信するレジストリファイルはレジストリエディタでエクスポートしたファイルを利用します。(拡張子[reg])

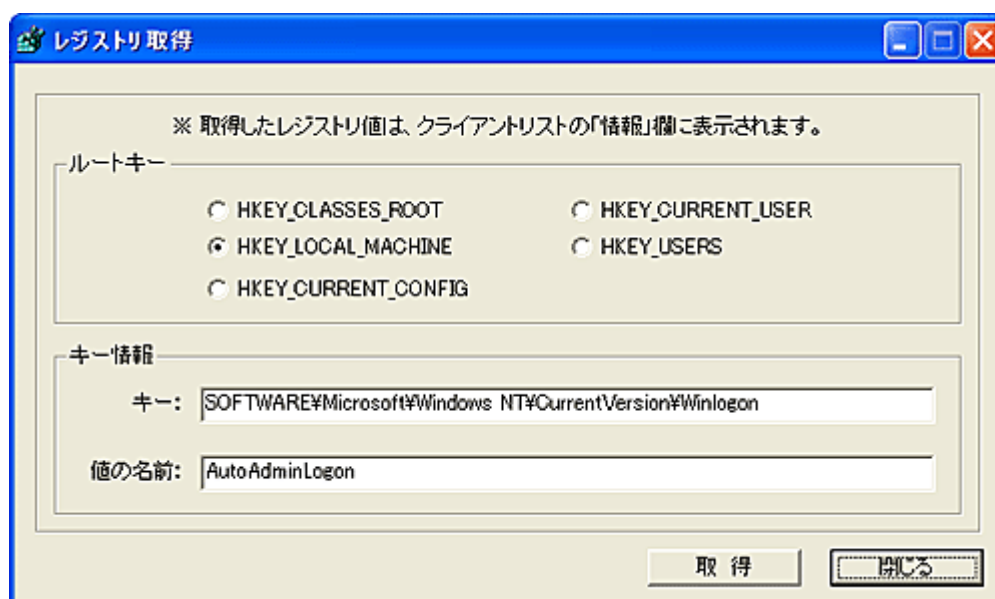
レジストリファイルは事前に「Controller」フォルダ配下の「RegFile」フォルダに配置します。

複数のレジストリファイルを配置して同時に適用させることが可能です。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。
- ・レジストリのインポートは非常に危険を伴う操作です。設定を誤るとクライアントのシステムを破壊することがありますので、十分に注意してご利用ください。

レジストリ値を取得



クライアントのレジストリの値を取得することが出来ます。

【取得方法】

1. ルートキーを選択する。
 2. 「キー」を入力する。
 3. 「値の名前」を入力する。
 4. 「取得」ボタンを押す。
 5. 取得した値は、クライアントリストの「情報」欄に表示されます。
- ※取得可能な値の種類は、「文字列」又は「DWORD」のみです。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

イベントログ

イベントログの回収

イベントログの回収

抽出条件

ログ内容

☒ アプリケーション ☐ セキュリティ ☐ システム

種類

☒ エラー ☒ 警告 ☐ 情報 ☐ 成功の監査 ☐ 失敗の監査

日付

2013/01/01 ~ 2013/10/31

ソース (空欄の場合は全て)

イベントID (空欄の場合は全て)

説明 (空欄の場合は全て)

回収したイベントログを保存するフォルダ:

参照

回収 閉じる

クライアントに記録されているイベントログを回収します。
クライアント側のイベントログはそのままの残ります。

抽出条件

回収するログの内容を「アプリケーション」、「セキュリティ」、「システム」の中から選択します。
回収するイベントログは条件を指定して絞り込むことができます。

- ・種類
チェックした種類のログが含まれます。
- ・日付
ログの記録を日付で範囲指定します。
- ・ソース
入力された文字列が含まれるイベントが抽出されます。(半角英字は大文字小文字の区別なし)
空欄の場合はすべてが対象となります。
- ・イベントID
指定した番号のイベントのみが抽出されます。(範囲指定等は出来ません。)

空欄の場合はすべてが対象となります。

・説明

イベントの詳しい内容に、入力された文字列が含まれるものを抽出します。(半角英字は大文字小文字の区別なし)

空欄の場合はすべてが対象となります。

回収されたログは、「回収したイベントログを保存するフォルダ」にて指定されたフォルダに保存されます。

ファイル名は以下の通りとなります。

ログ内容_クライアントのコンピュータ名_回収日時.log (例: SYS_WS-1_20070101083037.log)

※ログ内容は、「APP」、「SEC」、「SYS」のいずれかです。

一度に多くのクライアントからイベントログの回収を行うと、マネージャーとネットワークに大きな負荷が掛かることが予想されます。

このため、同時に回収することが可能な台数(上限)を設定することが出来ます。

回収は設定された上限を超えない範囲で、自動的に分割して実行されます。

上限の設定は「[環境設定](#)」にて行います。

ログ回収 (実行中)					
	グループ名	コンピュータ名	IPアドレス	実行状況	回収日時
1	システム室	AION	192.168.1.13	回収完了	2006/07/01 17:49:54
2	システム室	BLACK	192.168.1.30	回収完了	2006/07/01 17:49:53
3	システム室	GOLD	192.168.1.25	回収完了	2006/07/01 17:49:53
4	システム室	GREEN	192.168.1.50	回収完了	2006/07/01 17:49:53
5	システム室	KIDS	192.168.1.103	待機中	
6	システム室	WIN-XPJ	192.168.1.15	待機中	
7	ライブラリー	WS-101	192.168.1.101	待機中	
8	ライブラリー	WS-102	192.168.1.102	待機中	
9	ライブラリー	WS-103	192.168.1.103	待機中	
10	資料室	WS-104	192.168.1.104	待機中	
11	資料室	WS-106	192.168.1.106	待機中	
12	資料室	WS-107	192.168.1.107	待機中	
13	資料室	WS-108	192.168.1.108	待機中	
14	資料室	WS-109	192.168.1.109	待機中	
15	資料室	WS-110	192.168.1.110	待機中	
16	資料室	WS-111	192.168.1.111	待機中	
17	資料室	WS-112	192.168.1.112	待機中	
18	資料室	WS-113	192.168.1.113	待機中	
19	資料室	WS-114	192.168.1.114	待機中	
20	資料室	WS-115	192.168.1.115	待機中	
21	資料室	WS-116	192.168.1.116	待機中	
22	資料室	WS-117	192.168.1.117	待機中	
23	資料室	WS-118	192.168.1.118	待機中	
24	資料室	WS-119	192.168.1.119	待機中	
25	事務所	WS-120	192.168.1.120	待機中	
26	事務所	WS-121	192.168.1.121	待機中	
27	事務所	WS-122	192.168.1.122	待機中	
28	事務所	WS-123	192.168.1.123	待機中	
29	事務所	WS-124	192.168.1.124	待機中	
30	事務所	WS-125	192.168.1.125	待機中	
31	事務所	WS-126	192.168.1.126	待機中	
32	事務所	WS-127	192.168.1.127	待機中	

「回収中止」ボタンを押すと、直ちに回収動作を中止します。
未回収のログはそのままクライアント側に残ります。

ログ回収の実行結果を残すことが出来ます。
実行結果は「Result\EventCollect」フォルダに保存されます。

ログの記録フォーマット

回収されたログは CSV 形式のテキストファイルとして保存されます。

項目の並び:

種類,年月日,時分秒,ソース,カテゴリ,イベント ID,コンピュータ,ユーザー,説明

※カテゴリは番号で記録されています。

【動作条件】

- ・本機能の処理対象となるイベントの最大数は 300,000 件です。(各ログ内容ごとにクライアント側に記録されている件数)
- ・クライアントに記録されているログの量によって、処理に多くの時間を要することがあります。(数分から十数分)
- ・クライアントの OS によって「説明」の内容が他の OS と異なることがあります。
- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

イベントログの検索

クライアントに記録されているログ中に、検索条件を満たすイベントが存在するか調査することが出来ます。

検索条件

検索対象のログ内容を「アプリケーション」、「セキュリティ」、「システム」の中から選択します。

- ・種類
チェックした種類のログが対象に含まれます。
- ・日付
ログの記録を日付で範囲指定します。
- ・ソース
入力された文字列が含まれるイベントが対象となります。(半角英字は大文字小文字の区別なし)
空欄の場合はすべてが対象となります。
- ・イベント ID
指定した番号のイベントのみが抽出されます。(範囲指定等は出来ません。)
空欄の場合はすべてが対象となります。
- ・説明
イベントの詳しい内容に、入力された文字列が含まれるものを抽出します。(半角英字は大文字小文字の区別なし)
空欄の場合はすべてが対象となります。

検索結果は、クライアントリストの「情報」欄に表示されます。

表示される内容は、条件に合致したイベントの件数と、直近のイベントデータ(1 件のみ)になります。

項目の並び:

種類,年月日,時分秒,イベント ID,説明,ソース,カテゴリ,ユーザー,コンピュータ

※カテゴリは番号で記録されています。

【動作条件】

- ・本機能の処理対象となるイベントの最大数は 300,000 件です。(各ログ内容ごとにクライアント側に記録されている件数)
- ・クライアントに記録されているログの量によって、処理に多くの時間を要することがあります。(数分から十数分)
- ・クライアントの OS によって「説明」の内容が他の OS と異なることがあります。
- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

イベントログの表示

クライアントに記録されているイベントログを表示、確認することが出来ます。
クライアント側のイベントログはそのままの残ります。

抽出条件

表示するログの内容を「アプリケーション」、「セキュリティ」、「システム」の中から選択します。
表示するイベントログは条件を指定して絞り込むことが出来ます。

- ・種類
チェックした種類のログが含まれます。
- ・日付
ログの記録を日付で範囲指定します。
- ・ソース
入力された文字列が含まれるイベントが抽出されます。(半角英字は大文字小文字の区別なし)
空欄の場合はすべてが対象となります。
- ・イベントID
指定した番号のイベントのみが抽出されます。(範囲指定等は出来ません。)
空欄の場合はすべてが対象となります。
- ・説明
イベントの詳しい内容に、入力された文字列が含まれるものを抽出します。(半角英字は大文字小文字の区別なし)
空欄の場合はすべてが対象となります。

イベントログの表示

種類	日時	時刻	ソース	分類	イベント	ユーザー	コンピュータ	説明
情報	2007/05/17	13:47:05	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Microsoft Software Shadow Copy Provider ?
情報	2007/05/17	13:44:05	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Volume Shadow Copy ?
情報	2007/05/17	13:44:05	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Microsoft Software Shadow Copy Provider ?
情報	2007/05/17	13:41:04	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Volume Shadow Copy ?
情報	2007/05/17	13:41:04	DCOM	0	10029	N/A	Ultimate-P	svcpv: B06E1CBA-8FF4-4A58-AC1C-3470E2F376A5
情報	2007/05/17	13:41:04	DCOM	0	10029	N/A	Ultimate-P	VSS [E579A85F-1CC4-44B4-BE09-0C0991FF0623]
情報	2007/05/17	13:21:11	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Windows Modules Installer ?
情報	2007/05/17	13:21:11	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Windows Modules Installer ?
情報	2007/05/17	13:21:10	DCOM	0	10029	N/A	Ultimate-P	TrustedInstaller: 0752073A1-23F2-4396-B5F0-6FD8B79ED0ED
警告	2007/05/17	13:09:11	WinDefend	0	3005	N/A	Ultimate-P	X6827 リアルタイム保護エージェントにより、ソフトウェアまたはハードウェアの更新が検出されました。これらの変更
情報	2007/05/17	13:08:27	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Windows Media Center Service Launcher ?
情報	2007/05/17	13:08:25	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Windows Media Center Service Launcher ?
情報	2007/05/17	13:08:24	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Windows Update ?
情報	2007/05/17	13:08:23	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Security Center ?
情報	2007/05/17	13:08:23	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Windows Media Center Service Launcher ?
情報	2007/05/17	13:08:22	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Windows Media Center Service Launcher ?
情報	2007/05/17	13:08:22	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Network Connections ?
情報	2007/05/17	13:08:22	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Background Intelligent Transfer Service ?
情報	2007/05/17	13:08:22	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Function Discovery Provider Host ?
情報	2007/05/17	13:08:22	DCOM	0	10029	N/A	Ultimate-P	nehrman [BA125AD1-2156-11D1-B1D0-00805FC1270E]
情報	2007/05/17	13:08:22	DCOM	0	10029	N/A	Ultimate-P	adfsHost: 8-45B4C35-F12A-4927-8040-7C35A5D180E1
情報	2007/05/17	13:07:53	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Diagnostic System Host ?
情報	2007/05/17	13:07:53	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Windows Search ?
情報	2007/05/17	13:07:53	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Windows Image Acquisition (WIA) ?
情報	2007/05/17	13:07:53	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Helper ?
情報	2007/05/17	13:07:53	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	WSupport ?
情報	2007/05/17	13:07:53	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Network List Service ?
情報	2007/05/17	13:07:53	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	UPnP Device Host ?
情報	2007/05/17	13:07:53	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Portable Device Enumerator Service ?
情報	2007/05/17	13:07:53	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Network Location Awareness ?
情報	2007/05/17	13:07:53	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Terminal Services ?
情報	2007/05/17	13:07:53	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Windows Management Instrumentation ?
情報	2007/05/17	13:07:53	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	SSDP Discovery ?
情報	2007/05/17	13:07:53	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Windows Time ?
情報	2007/05/17	13:07:53	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Distributed Link Tracking Client ?
情報	2007/05/17	13:07:53	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Superfetch ?
情報	2007/05/17	13:07:53	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	IPsec Policy Agent ?
情報	2007/05/17	13:07:53	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Cryptographic Services ?
情報	2007/05/17	13:07:53	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Windows Error Reporting Service ?
情報	2007/05/17	13:07:53	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	3rd and AuthIP IPsec Keying Modules ?
情報	2007/05/17	13:07:53	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Secondary Logon ?
情報	2007/05/17	13:07:53	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Function Discovery Resource Publication ?
情報	2007/05/17	13:07:53	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Program Compatibility Assistant Service ?
情報	2007/05/17	13:07:53	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Diagnostic Policy Service ?
情報	2007/05/17	13:07:53	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	ReadyBoost ?
情報	2007/05/17	13:07:53	Service Control Manager	0	7036	N/A	Ultimate-P	Acronis Scheduler2 Service ?

ファイルに出力 閉じる

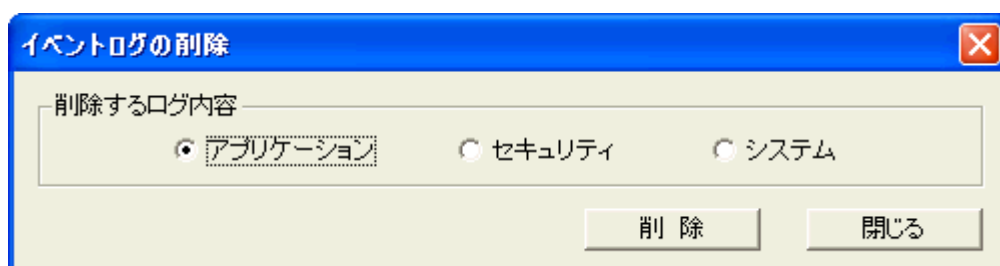
ファイルに出力

表示内容を外部ファイル(CSV 形式)に保存することが可能です。

【動作条件】

- ・本機能の処理対象となるイベントの最大数は 300,000 件です。(各ログ内容ごとにクライアント側に記録されている件数)
- ・クライアントが Windows Vista、7 の場合、「説明」の内容が他の OS と異なることがあります。
- ・複数のクライアントを選択して同時実行は不可。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

イベントログの削除

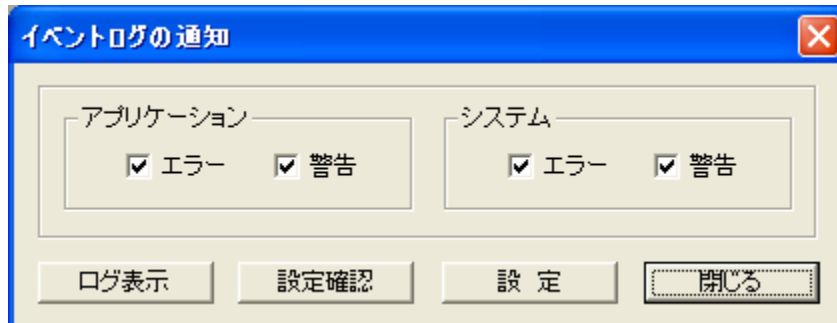


クライアントに記録されているイベントログを削除(消去)します。
削除するログの内容を「アプリケーション」、「セキュリティ」、「システム」の中から選択し「削除」ボタンを押します。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

イベントログの通知



クライアントにて発生したイベント記録を、直ちにマネージャーに通知して記録します。
通知可能な内容は「アプリケーション」及び「システム」で、「エラー」と「警告」に関する記録が対象となります。
クライアントの運用に支障となる障害を、迅速に把握することができます。

設定

通知する内容を選択し、「設定」ボタンを押します。
設定内容はクライアント側に送信され、保存されます。
通知を停止するには、すべての選択を解除して「設定」ボタンを押します。

設定確認

設定内容を確認するには、「設定確認」ボタンを押します。
取得した設定内容はリストの「情報」欄に表示されます。

ログ表示

通知されたイベントログの内容を確認するには、「ログ表示」ボタンを押します。

通知されたイベントログの表示

	コンピューター名	ログの名前	種類	日付	時間	ソース	イベントID	severity	説明
1	CF-P4	アプリケーション	エラー	2012/07/03	11:22:33	Userenv	1063	00	ユーザーまたはコンピューター名を削除できません。 (高度なセキュリティ機能)
2	wd07-64P00	システム	エラー	2012/07/03	11:18:03	Service Control Manager	7034	00	WinService サービスは予期せぬ理由により終了しました
3	Aspire5535	システム	エラー	2012/07/03	9:20:00	Service Control Manager	7034	00	WinService サービスは予期せぬ理由により終了しました
4	MAPS-732	システム	エラー	2012/07/03	9:19:56	Service Control Manager	7034	00	WinService サービスは予期せぬ理由により終了しました
5	wd07-64P00	システム	エラー	2012/07/03	9:19:56	Service Control Manager	7034	00	WinService サービスは予期せぬ理由により終了しました

削除 ファイルに出力 閉じる

ファイルに出力

表示内容を外部ファイル(CSV 形式)に保存することが可能です。

削除

表示内容を削除します。

【動作条件】

- ・クライアントの OS によって「説明」の内容が他の OS と異なることがあります。
- ・説明の内容が複数行に渡る場合、最初の改行までの内容が表示されます。
- ・複数のクライアントを選択して同時実行は不可。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

注意

多くのクライアントからイベントログ通知を受け取る場合、長期間放置すると記録サイズが膨大になることがあります。

適宜、「削除」操作を行ってください。

防止・制限: 利用制限



利用制限開始、解除

リストにて選択されているクライアントに対して利用制限を課したり、解除したり出来ます。
利用制限中は、リスト内の利用制限アイコン(左から4つめの項目)が点灯します。

利用制限の手順(流れ)

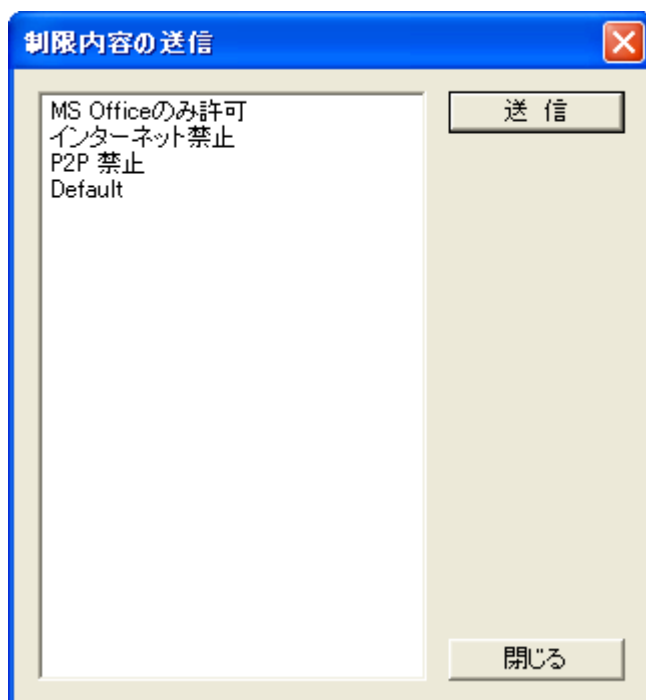
- 1.新しい制限内容を課す場合は、「[制限内容の設定](#)」にて制限内容の登録(作成)を行う。
- 2.「[制限内容の送信](#)」にて、制限内容をクライアントに送信する。
- 3.「制限開始」を行う。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。
ログオフ状態の時は設定のみ行われ、実際の利用制限はログオン後から機能します。



制限内容の送信



リストにて選択されているクライアントに対して利用制限の設定を送信します。
 リストから適用したい制限内容を選択し、「送信」ボタンを押します。
 送信した利用制限名がクライアントリストの「情報」欄に表示されます。
 新しい制限内容は、クライアントにて次に利用制限が開始されたときに有効となります。

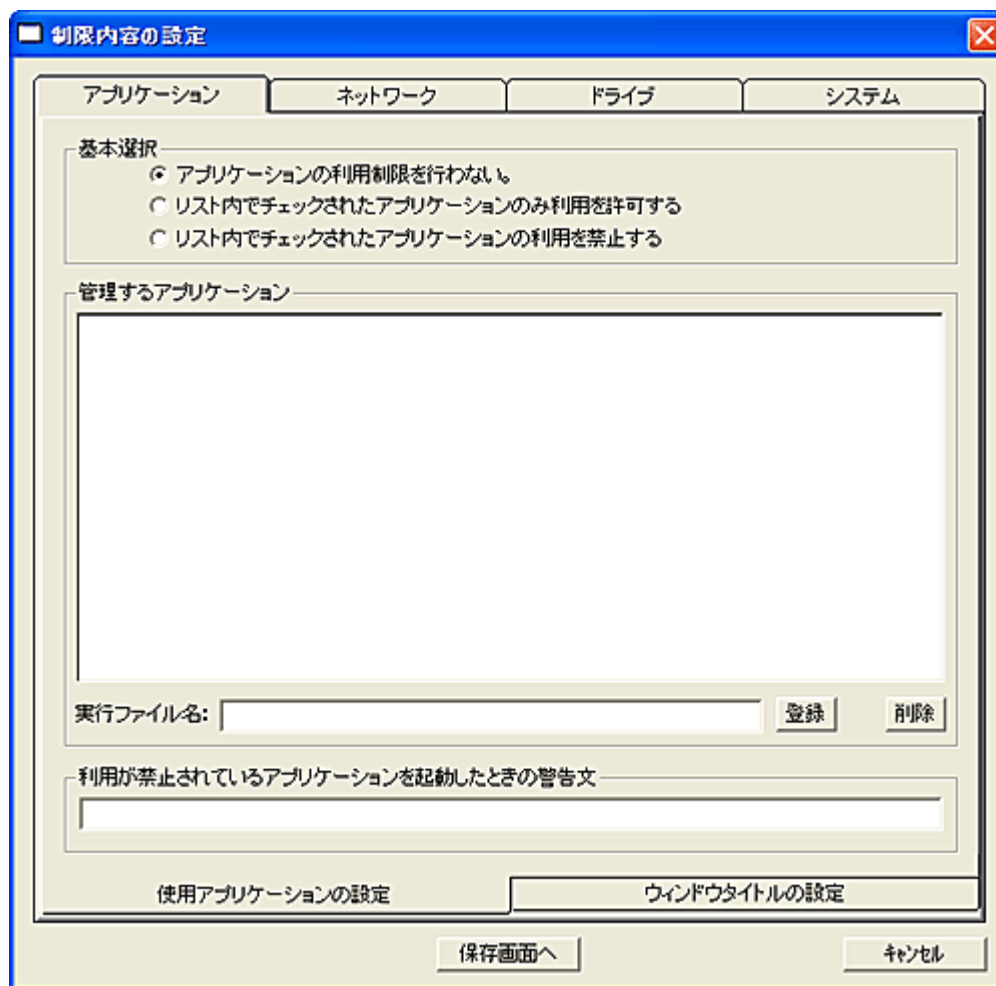
【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

制限内容の設定

制限内容の設定

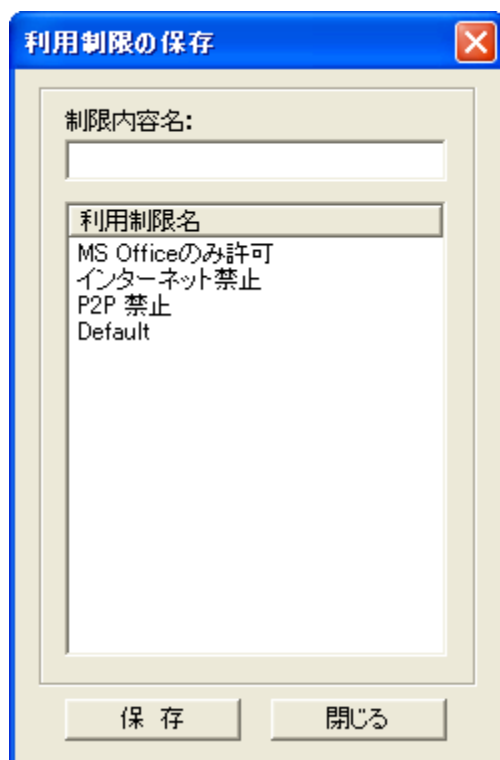
情報漏洩防止
利用制限
OP 機能



クライアントに対して下記の利用制限を課すことができます。

- 1.[アプリケーションの利用制限](#)
- 2.[ネットワークの利用制限](#)
- 3.[ドライブの利用制限](#)
- 4.[システムの利用制限](#)

制限内容の設定は上記の項目がセットとなります。
各タブウィンドウにて必要な設定を行った後、「保存画面へ」ボタンを押します。



制限内容名を入力し、「保存」ボタンを押します。

アプリケーションの利用制限

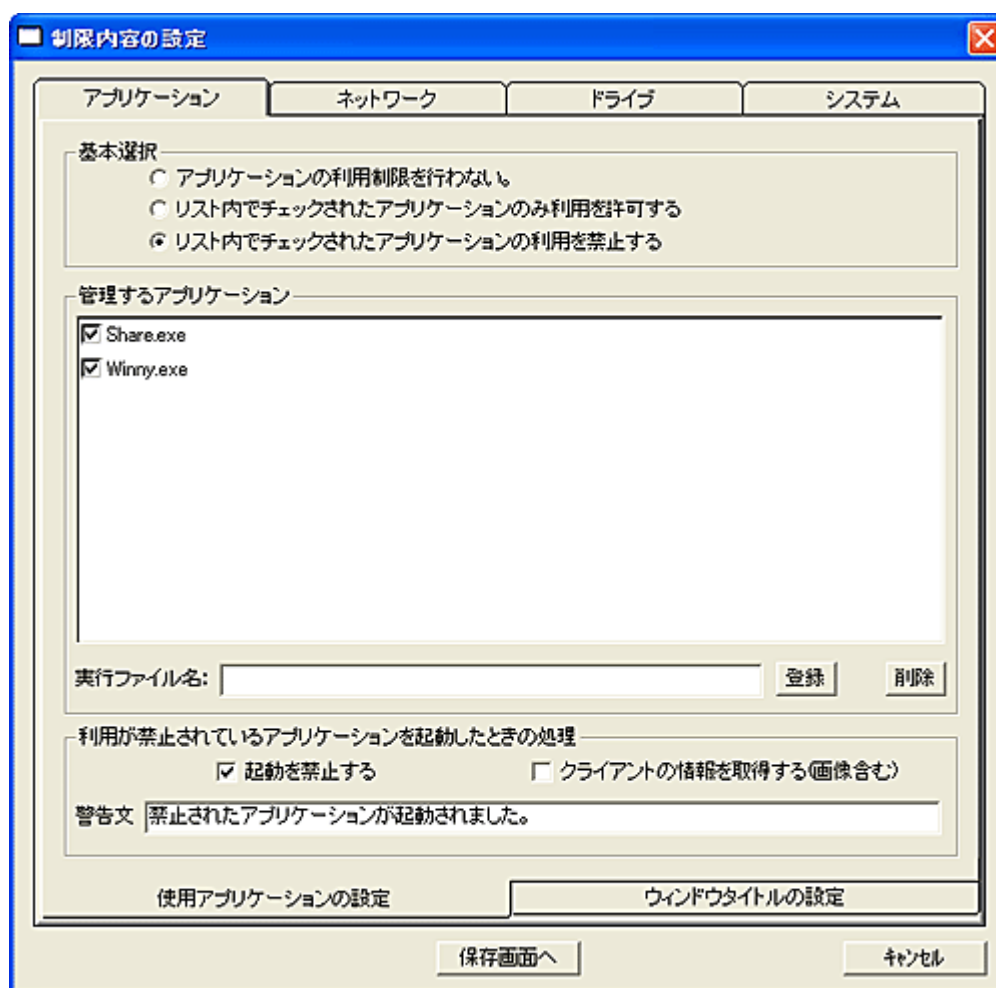
アプリケーションの利用制限

クライアントにて利用することが出来るアプリケーション(プログラム)に制限を掛けます。利用が許可されていないアプリケーションを起動しようとしても、直ちに強制終了されて利用することは出来ません。

アプリケーションの利用禁止は実行ファイルを指定する方法と、ウィンドウタイトルを指定する方法があります。

双方を組み合わせて設定することで、より強固な制限が可能となります。

実行ファイルの設定手順



- 1.「使用アプリケーションの設定」タブを選択し、上記ウィンドウを表示します。
- 2.利用を禁止するアプリケーションの登録数や制限内容によって「基本選択」から最適の方法を選びます。
 - ・アプリケーションの利用制限を行わない。



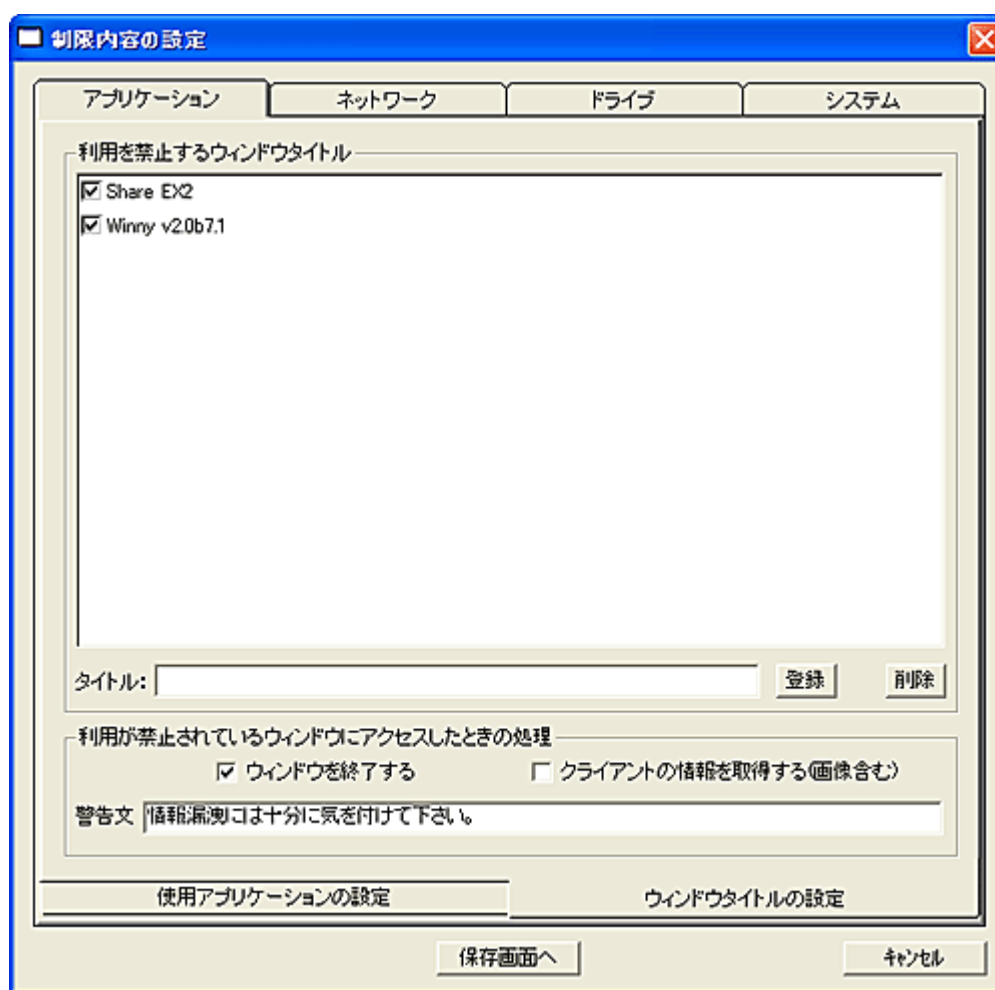
登録内容に拘わらず、アプリケーションの利用制限は行われません。

- ・リスト内でチェックされたアプリケーションのみ利用を許可する。(ホワイトリスト方式)
ごく限られたアプリケーションだけ利用を許可し、その他の利用を禁止したい場合に選択します。
 - ・リスト内でチェックされたアプリケーションの利用を禁止する。(ブラックリスト方式)
基本的に利用制限は掛けないが、利用させたくないアプリケーションがある場合に選択します。
- 3.「実行ファイル名」の入力欄にファイル名(EXE)を入力し、「登録」ボタンを押します。(大文字小文字は区別しません。パスの入力は不要)
- 4.「管理するアプリケーション」リストに追加表示されるので、チェックをオンにします。
チェックがオフ状態の場合、制限の対象となりません。

利用が禁止されているアプリケーションを起動したときの処理

- ・起動を禁止する
アプリケーションの起動を禁止します。
- ・クライアントの情報を取得する(画像含む)
起動しようとした事を検知すると「クライアント情報取得」を行い、マネージャーに自動送信します。
- ・警告文
クライアントに表示する警告文を必要に応じて入力します。(半角 70 文字以内) 空欄の場合、警告ウィンドウは表示されません。

ウィンドウタイトルの設定手順



- 1.「ウィンドウタイトルの設定」タブを選択し、上記ウィンドウを表示します。
- 2.「タイトル」の入力欄にウィンドウのタイトルを入力し、「登録」ボタンを押します。
ウィンドウタイトルの識別は「部分一致」で行われます。
「完全一致」で識別したいときは、入力した文字列をダブルクォーテーション「”」で囲みます。(例:”オークション”)
- 3.「利用を禁止するウィンドウタイトル」リストに追加表示されるので、チェックをオンにします。
チェックがオフ状態の場合、制限の対象となりません。

利用が禁止されているウィンドウが表示されたときの処理

- ・ウィンドウを終了する
当該ウィンドウを終了(消去)します。
- ・クライアントの情報を取得する(画像含む)
表示しようとした事を検知すると「クライアント情報取得」を行い、管理コンソールに自動送信します。
- ・警告文
クライアントに表示する警告文を必要に応じて入力します。(半角 70 文字以内) 空欄の場合、警告ウィンドウは表示されません。

注意

「Explorer.exe」で構成されているウィンドウは利用禁止にすることが出来ないことがあります。

ネットワークの利用制限

情報漏洩防止
利用制限
OP 機能

ネットワークの利用制限は、通信パケットをブロックすることで行われます。
ブロックの方法として、「IP アドレス」または「ポート番号」によるフィルタリングの 2 通りがあります。
双方を組み合わせることで設定することが出来ます。

IP アドレスによる通信ブロック

IP アドレスによる通信ブロックを行う際の基本となる動作モードを選択します。

- ・「全て通過させる」
基本的に全ての通信パケットの通過を許可します。
- ・「全てブロックする」
基本的に全ての通信パケットの通過が阻止されます。

除外アドレス

- ・「基本となる動作モード」で「全て通過させる」が選択された場合、ブロックする IP アドレスを登録します。
- ・「基本となる動作モード」で「全てブロックする」が選択された場合、通過させる IP アドレスを登録します。



登録する IP アドレスを入力し、[追加]ボタンを押します。

リストに IP アドレスが登録されます。

IP アドレスの設定は、第 4 オクテットに「0」を設定することで、クラス C レベルのネットワークアドレスを指定することが可能です。

入力例: (192.168.1.0)と設定した場合、192.168.1.1～192.168.1.254 が除外アドレスの対象となります。

通過アドレス

「基本となる動作モード」や「除外アドレス」の設定に関係なく、無条件に追加させたい IP アドレスを設定します。

通過アドレスにネットワークアドレスを設定することはできません。

IP アドレスによる通信ブロックの設定例

利用しているネットワークアドレスが[192.168.1.0]で、ルーターのアドレスが[192.168.1.1]、ネットワークサーバーのアドレスが[192.168.1.250]と仮定します。

例 1:

- ・「基本となる動作モード」にて「全て通過させる」を選択
- ・「除外アドレス」に[192.168.1.0]を設定
- ・「通過アドレス」に[192.168.1.1]と[192.168.1.250]を設定

上記の設定を行った場合、各クライアント同士の通信は一切できなくなりますが、インターネットの利用やネットワークサーバーに対するアクセスは許可されます。

例 2:

- ・「基本となる動作モード」にて「全てブロックする」を選択
- ・「除外アドレス」に[192.168.1.250]を設定
- ・「通過アドレス」は空欄とする

上記の設定で制御を開始した場合、各クライアント同士の通信は一切できなくなる上、インターネットの利用もできません。

ただし、ネットワークサーバに対するアクセスだけは許可されます。(ファイルサーバ等の利用が可能)

ポート番号による通信ブロック

特定のポート番号の通信パケットをブロックすることで、そのポート番号を利用しているアプリケーションが利用出来なくなります。

登録するポート番号を入力し、[追加]ボタンを押します。

リストにポート番号が登録されます。

よく利用されるインターネットのポート番号は、下記のボタンを押すだけで簡単に登録することができます。

[WEB]ボタンを押すと、Web サイトのブラウジングで利用されるポート番号がリストに追加登録されます。

[MAIL]ボタンを押すと、メールの送受信で利用されるポート番号がリストに追加登録されます。

[FTP]ボタンを押すと、ファイル転送(Ftp)で利用されるポート番号がリストに追加登録されます。

[DNS]ボタンを押すと、インターネットの名前解決(ドメイン・ネーム・サービス)で利用されるポート番号がリストに追加登録されます。

動作条件

- ・IP アドレスによる通信ブロックは、クライアント OS が Windows 2000、XP の場合のみ機能します。

ドライブの利用制限

制限内容の設定

アプリケーション ネットワーク **ドライブ** システム

利用を禁止するドライブ

<input checked="" type="checkbox"/> A	<input checked="" type="checkbox"/> E	<input checked="" type="checkbox"/> I	<input checked="" type="checkbox"/> M	<input checked="" type="checkbox"/> Q	<input checked="" type="checkbox"/> U	<input checked="" type="checkbox"/> Y
<input checked="" type="checkbox"/> B	<input checked="" type="checkbox"/> F	<input checked="" type="checkbox"/> J	<input checked="" type="checkbox"/> N	<input checked="" type="checkbox"/> R	<input checked="" type="checkbox"/> V	<input checked="" type="checkbox"/> Z
<input type="checkbox"/> C	<input checked="" type="checkbox"/> G	<input checked="" type="checkbox"/> K	<input checked="" type="checkbox"/> O	<input checked="" type="checkbox"/> S	<input checked="" type="checkbox"/> W	
<input type="checkbox"/> D	<input checked="" type="checkbox"/> H	<input checked="" type="checkbox"/> L	<input checked="" type="checkbox"/> P	<input checked="" type="checkbox"/> T	<input checked="" type="checkbox"/> X	

すべて選択 すべて解除

リムーバブルメディアの利用禁止

☐ 利用を禁止しない
☒ 読み込み、書き込み 共に禁止する
☐ 書き込みのみ禁止する

保存画面へ キャンセル

利用を禁止するドライブ

ドライブをロックし、利用を禁止することができます。
利用を禁止したいドライブのチェックをオンにしてください。

リムーバブルメディアの利用禁止

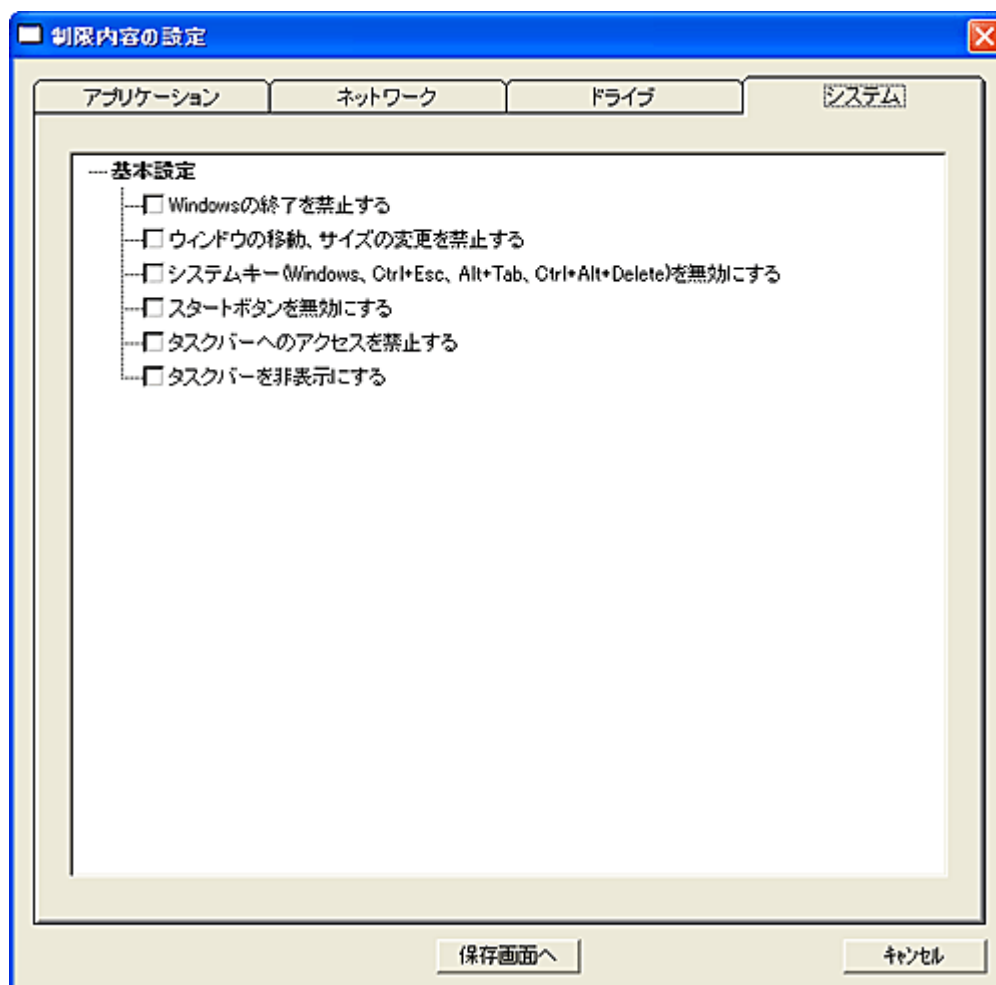
USB メモリなどのリムーバブルメディアの利用を禁止することが出来ます。。
読み出しは許可し、書き込みのみを禁止する事も可能です。
「利用を禁止するドライブ」の設定とは独立して動作します。

注意

※システム(アクティブ)のあるドライブをロックすることは出来ません。
 ※ネットワーク仮想ドライブのロックは出来ません。
 ※ロックするドライブやシステムの状態に応じて、警告メッセージが表示されることがあります。
 ※利用制限を開始した時点で利用禁止に指定したドライブ内のファイルが他のアプリケーション等で使用されていた場合、当該ドライブのロックを行うことが出来ない場合があります。
 ※初めて接続されたデバイスの場合、正常に機能しないことがあります。(システムによるドライバの登録作業などが行われるため)

※本機能はハードウェアレベルでドライブのロックを行うものではないため、システム設定や他のアプリケーションの影響により正常に機能しないことがあります。

システムの利用制限



制限したい項目のチェックを ON にします。

・Windows の終了を禁止する(XP のみ)

「シャットダウン」、「リブート」、「ログオフ」などの操作が行えなくなります。

Windows Vista、7 の場合、機能しません。

・ウィンドウの移動、サイズの変更を禁止する

表示されているウィンドウを移動したり、最小化、最大化を含むサイズ変更操作が行えなくなります。

・システムキー(Windows、Ctrl+Esc、Alt+Tab、Ctrl+Alt+Del)を無効にする

キーボードからのシステム操作が行えなくなります。

キーボード(USB 接続等)によっては機能しないことがあります。

・スタートボタンを無効にする

スタートボタンを利用できなくなるので、アプリケーションを起動したり、システムの設定を変更したりできなくなります。(マウスによる操作のみ)

・タスクバーへのアクセスを禁止する

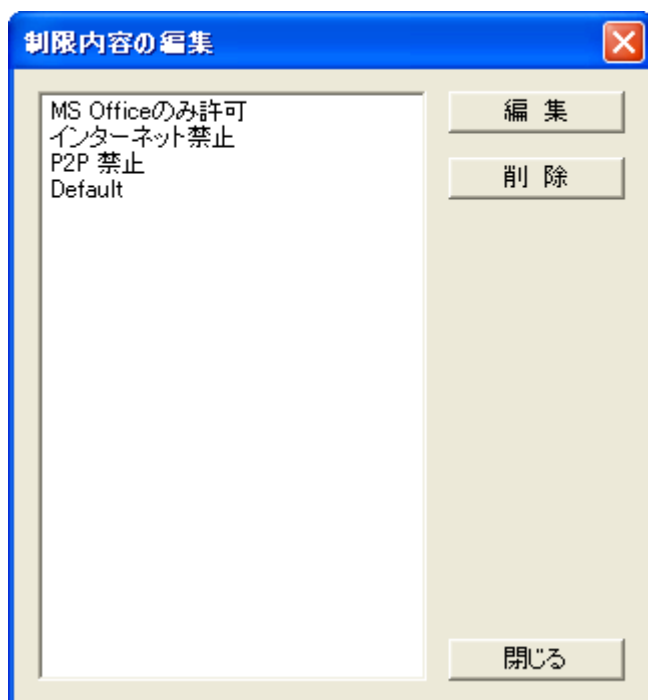
タスクバーの利用ができなくなり、様々な操作が行えなくなります。(マウスによる操作のみ)

・タスクバーを非表示にする

タスクバーをデスクトップから一時的に消去します。



制限内容の編集



作成済み制限内容の編集を行ったり、削除を行います。
 編集は作成の時と同じ要領で行います。
 保存時に異なる名前で保存することも可能です。(元の設定はそのまま残ります。)

制限内容の自動配布と適用

通常、クライアントに対して制限内容の適用を行うには、「制限内容の送信」と「制限開始」の操作をマネージャーから手動で行う必要があります。

予め、指定された共有フォルダに制限内容ファイルを配置しておくことで、クライアントが起動したときに自動適用させることができます。

制限内容ファイルは「[配信用制限内容ファイルの作成](#)」にて生成します。

適用する制限内容は、全クライアントコンピュータ共通のものと、クライアントコンピュータごとに異なるものの2種類を準備することが可能です。

制限内容の自動配信と適用

☐ 利用する ☒ 利用しない

制限内容配信サーバー: (UNC名)

共有フォルダアクセス用ユーザー名:

共有フォルダアクセス用パスワード:

☐ 暗号化する
 暗号化する場合、ユーザー名とパスワードは半角英数文字に限られます。

タイムアウト:
 (1~999秒)

設定確認 設定 閉じる

利用する、利用しない

本機能を利用するか、しないかを選択します。

「利用しない」を選択した場合は、以降の設定の有無に拘わらず機能は無効となります。

制限内容配布サーバー

クライアントが接続する制限内容を配布するサーバーの共有フォルダを UNC 名で記述します。ここで登録したフォルダ内に配置した制限内容ファイルは、全クライアント共通に適用されます。(設定例: ¥¥PolicyServer¥¥PolicyFolder)

本項目で指定したフォルダ直下に「Client」というフォルダを作成し、制限内容ファイルを配置した場合は、クライアントコンピュータ別の制限内容として扱われます。

ただし、「Client」フォルダに配置する制限内容ファイルは、「配信用制限内容ファイルの作成」にて、コンピュータ別に作成されたものでなければなりません。

本項目の設定が空欄であったり設定値が適正でない場合は、クライアント側で本機能は実行されません。

共有フォルダアクセス用ユーザー名

クライアントが共有フォルダに接続するときに利用するユーザー名(アカウント名)を記述します。

共有フォルダアクセス用パスワード

クライアントが共有フォルダに接続するときに利用するパスワードを記述します。

暗号化する

「共有フォルダアクセス用ユーザー名」および「共有フォルダアクセス用パスワード」がクライアント側に登録される際、設定値を暗号化します。

セキュリティ確保上、設定することが推奨されます。

暗号化する場合、設定値には日本語の文字列を使用することは出来ません。(半角の英数字のみ)

タイムアウト

クライアントが何らかの理由でサーバーとの接続に失敗したり、制限内容の取得が出来ない場合、設定した時間で処理を中断して本機能の実行を行いません。

設定値は秒単位とします。

設定

「設定」ボタンを押すと、設定された内容がクライアントに送信され、クライアント側のレジストリに保存されます。

設定確認

クライアントに設定されている内容を確認できます。

クライアントから取得した設定内容は、クライアントリストの「情報」欄に表示されます。

注意

・サーバーの共有フォルダには複数の制限内容ファイルを配置してはいけません。(全コンピューター共通の制限内容)

万々複数の制限内容ファイルが存在した場合、適用される制限内容ファイルは不定です。

・「Client」フォルダ内には、クライアントコンピューターごとに作成された制限内容ファイルが複数配置されます。

・サーバーからの制限内容の取得(接続)は、クライアント PC が起動した時になります。(ログオン時ではありません。)

・共有フォルダは、配信性能や同時接続数などの関係で、クライアント OS 上(XP、Vista、7 など)ではなく、サーバー OS 上(Server 2003、2008 など)に設置されることをお勧めします。

・共有フォルダに制限内容ファイルが何も存在しない場合、前回起動時に適用されていた制限内容にて利用制限が課せられます。

・共有フォルダには、全ユーザーに対して適切なアクセス権限を与えてください。

参考

「制限内容の自動配信と適用」の画面で設定した内容は、各クライアントに送信されクライアント側に保存されます。

本画面で設定した内容はマネージャーでは利用されません。あくまでもクライアントに設定内容を送信するためのインターフェースとお考えください。

クライアントコンピューターごとに用意された制限内容は、全コンピューター共通の制限内容に優先して適用されます。

本機能にて利用制限が掛かっているクライアントは、コマンドパネルの「制限解除」を実行することで、いつでも利用制限を解除することができます。

ただし、クライアントの再起動を行うと、また利用制限が掛かった状態に復帰します。

制限内容名[Default]のファイルをサーバーに配置すると、利用制限を一時的に解除した状態で運用することが出来ます。

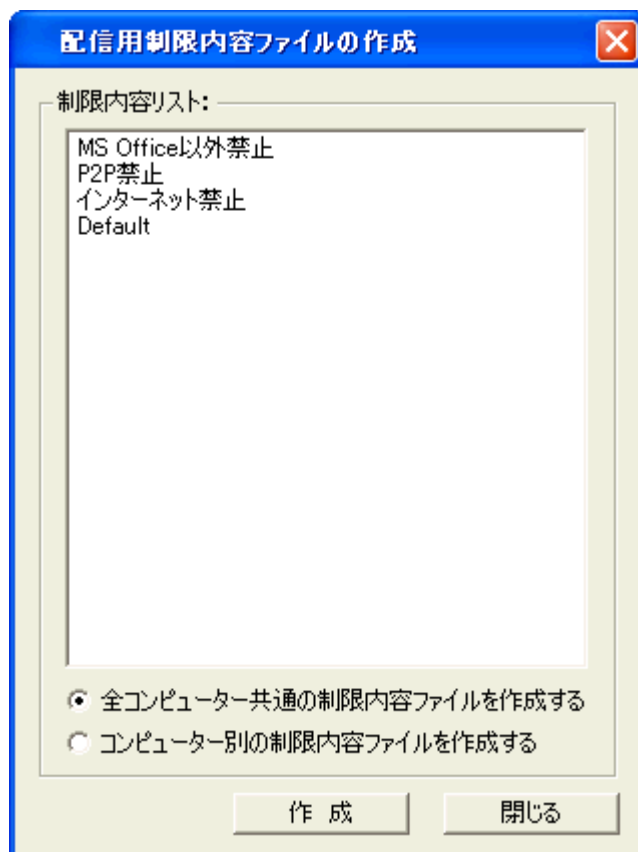
本機能による自動利用制限を恒久的に解除したい場合は、本画面にて「利用しない」を選択し、クライアントに送信(設定)してください。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

配布用制限内容ファイルの作成

「制限内容の自動配布と適用」で利用するファイルを作成します。



全コンピューター共通の制限内容ファイルを作成する

すべてのコンピューターに対して適用する制限内容ファイルを作成します。

作成されたファイルは、「制限内容の自動配布と適用」の制限内容配布サーバーにて指定したフォルダに配置します。

ファイル名は、制限内容の名前がベースとなります。

コンピューター別の制限内容ファイルを作成する

クライアントリストにて選択されたコンピューターごとに、制限内容ファイルを作成します。

作成されたファイルは、「制限内容の自動配布と適用」の制限内容配布サーバーにて指定したフォルダ直下の「Client」フォルダ内に配置します。

ファイル名は、各クライアントのコンピューター名がベースとなります。(ファイル名から制限内容を識別することは仕様上出来ません)

制限内容は圧縮ファイルとして保存されます。

保存後、ファイル名の変更は絶対に行わないでください。

ユーザー別制限の設定

ログオンしたユーザーごとに異なる利用制限を課することが出来ます。
ユーザー別の制限は、通常のコンピューター別の制限に優先して機能します。

☒ ユーザー別制限を有効にする

設定

サーバーからユーザー名を取得

サーバー名: Server1

取得

ユーザー名の入力

ユーザー名:

追加

	ユーザー名	制限内容
1	Administrator	
2	Guest	すべて禁止
3	Supervisor	
4	Kanri	USB 禁止
5	Jimu1	USB 禁止
6	Jimu2	USB 禁止
7	FreeUser	
8	Yamada	イントラネットのみ
9	Takahashi	イントラネットのみ
10	Yuko	
11	Tanaka	
12	Mine	USB 禁止
13	Peter	
14	Takuya	イントラネットのみ

削除

制限内容設定

保存

閉じる

ユーザー別制限を有効にする

「ユーザー別制限を有効にする」を選択して「設定」ボタンを押すと、本機能が有効となります。
コンピュータごとに本機能の有効、無効を設定することは出来ません。

一度設定を行うと、マネージャーを再起動しても状態は変わりません。
また、マネージャーがログオフ状態でも機能します。

サーバーからユーザー名を取得

Active Directory に参加している場合、サーバーに登録されているユーザー名を自動取得してリストに表示することが出来ます。

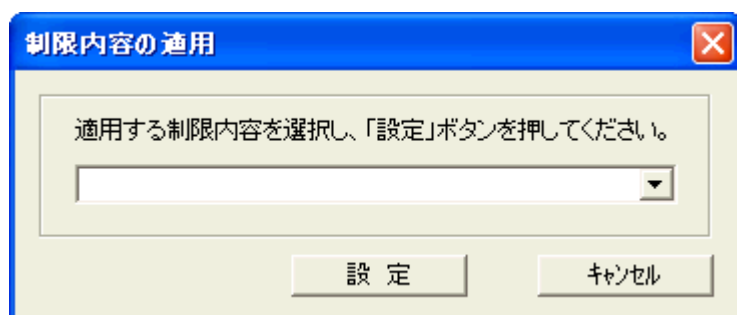
自動取得を行うには、管理者権限でログオンする必要があります。(マネージャー)
セキュリティ等の関係で正常に取得できない場合があります。

ユーザー名の入力

制限対象のユーザー名を手動でリストに登録します。
大文字、小文字の区別はありません。

制限内容設定

制限内容を設定したいユーザーをリストにて選択(複数可)し、「制限内容設定」ボタンを押します。



ドロップダウンリストから適用させたい制限内容を選択し、「設定」ボタンを押します。
リスト内にユーザー名の登録があっても、制限内容の設定がない場合は実行時に無視されます。

削除

制限内容の設定を解除したいユーザーをリストにて選択(複数可)し、「削除」ボタンを押します。

保存

リストの内容を保存します。
ユーザー別制限機能が有効な場合、直ちに設定内容が反映されます。

注意

大規模ユーザー環境において多台数のクライアントが同時にログオンした場合、トラフィックが輻輳してユーザー別の制限が正常に機能しないことがあります。
そのような場合は、マネージャーコンピューターやネットワークを強化することで改善される可能性があります。

プログラムの終了監視

任意のプログラムの起動状態を監視し、終了した場合に再起動させる事が出来ます。
常時起動しておきたいプログラムの管理に利用できます。

	プログラム名	再起動時間
1	C:\Program Files\Internet Explorer\iexplore.exe	3000
2	C:\Program Files\KanziWC\Trsh.exe	100

終了を監視し、再起動させるプログラム

クライアント側ドライブ上にある、監視対象のプログラムをフルパスで入力します。
監視可能なプログラムは EXE 形式のプロセスで、ログオン後にログオンユーザー権限で起動する物のみです。

再起動するまでの時間

終了したプログラムを再起動するまでの待機時間を設定します。

登録

「登録」ボタンを押すと、プログラムおよび時間がリストに登録されます。

終了を検知した時に表示するメッセージ

プログラムの終了を検知した時、メッセージ文を表示することが出来ます。
表示する必要がない場合、空欄にします。

削除

登録から削除したい項目を選択して「削除」ボタンを押すとリストから削除されます。

保存

「保存」ボタンを押すと、設定内容をファイルに保存します。
メッセージおよびリストの内容は、「保存」ボタンを押すまで保存されません。

設定配布

設定した内容はクライアント側に転送する必要があります。
対象となるクライアントをメイン画面のクライアントリストで選択し、「設定配布」ボタンを押すことで設定ファイルがクライアントに転送されます。

転送された内容は「監視開始」を実行することで初めて有効となります。

監視開始

リストにて選択されたクライアントにおいて、プログラムの終了監視を開始します。
一度終了監視を開始すると、監視解除の操作を行うまで、クライアントが再起動しても終了監視を継続します。

監視解除

リストにて選択されたクライアントにおいて、プログラムの終了監視を解除します。

注意

・プログラムによっては、「再起動するまでの時間」の設定が短すぎると、正常に再起動できない場合があります。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

時間制限

時間制限

制限モード

- ☐ タイマー
- ☒ 無操作

設定時間

1800 (1～99999 秒)

実行猶予時間

60 (0～99999 秒)

時間経過時の動作

- ☐ ログオフ
- ☐ シャットダウン
- ☐ 再起動
- ☐ スリープ
- ☒ 休止状態
- ☐ ロック

表示メッセージ

しばらく操作が無かった為、休止状態に移行します。よろしいですか？

設定確認 タイマー残確認 時間制限解除 時間制限開始 閉じる

設定された時間により、クライアントの利用制限を行います。
一定時間だけクライアントの利用を許可したり、一定時間クライアントの利用がない場合に制限を掛けることができます。

制限モード

・タイマー

制限動作を開始してから「設定時間」が経過すると、「時間経過時の動作」で指定した利用制限が実行されます。

・無操作

「設定時間」の間にマウス操作やキーボード入力がない場合、「時間経過時の動作」で指定した利用制限が実行されます。

時間経過時の動作

「設定時間」で指定した時間が経過すると、指定された動作を行います。

本機能によりクライアントがロックされた場合、「キーボード/マウスのロック解除」機能にてロックを解除することができます。

設定時間

1～99999 秒の間で、1 秒単位で設定します。

実行猶予時間

時間が経過した際、直ちに制限動作に移行せず、「実行猶予時間」で設定した時間だけメッセージを表示してユーザーに解除する機会を与えることができます。

ただし制限モードが「タイマー」の時は、ユーザーに解除する権限は与えられません。猶予時間経過後は強制的に実行されます。

表示メッセージ

実行猶予時間で設定された時間、メッセージを表示してユーザーに解除の機会を与えます。

ユーザーが「はい」を選択するか、実行猶予時間が経過すると、制限が実行されます。

「いいえ」を選択すると「設定時間」がリセットされ、時間制限が再スタートします。

「はい」「いいえ」ボタンに対応するメッセージを入力してください。

制限モードが「タイマー」の時はメッセージ文だけの表示となります。

動作として「ロック」を選択している場合、本項目で入力されたメッセージは表示されますが、ユーザーはこれを解除することは出来ません。

時間制限開始

リストにて選択されたクライアントに対して設定内容を送信します。

クライアントがログオン状態の場合、直ちに時間制限機能が開始されます。

一度時間制限開始を実行すると、「時間制限解除」を行うまで、クライアントがログオンする際に自動的に時間制限機能が実行されます。

時間制限解除

リストにて選択されたクライアントに対して時間制限解除命令を送信します。

設定確認

リストにて選択されているクライアントの、時間制限に関する設定内容を取得し、「情報」欄に表示します。

タイマー残確認

タイマー動作中の残り利用可能時間を取得し、「情報」欄に表示します。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能ですが、制限機能はログオン後に開始されます。

注意

無操作の検出は、マウスおよびキーボードの操作で行われます。

マウスおよびキーボードの操作を伴わないアプリケーションは検出されません。

防止・制限:クライアント管理

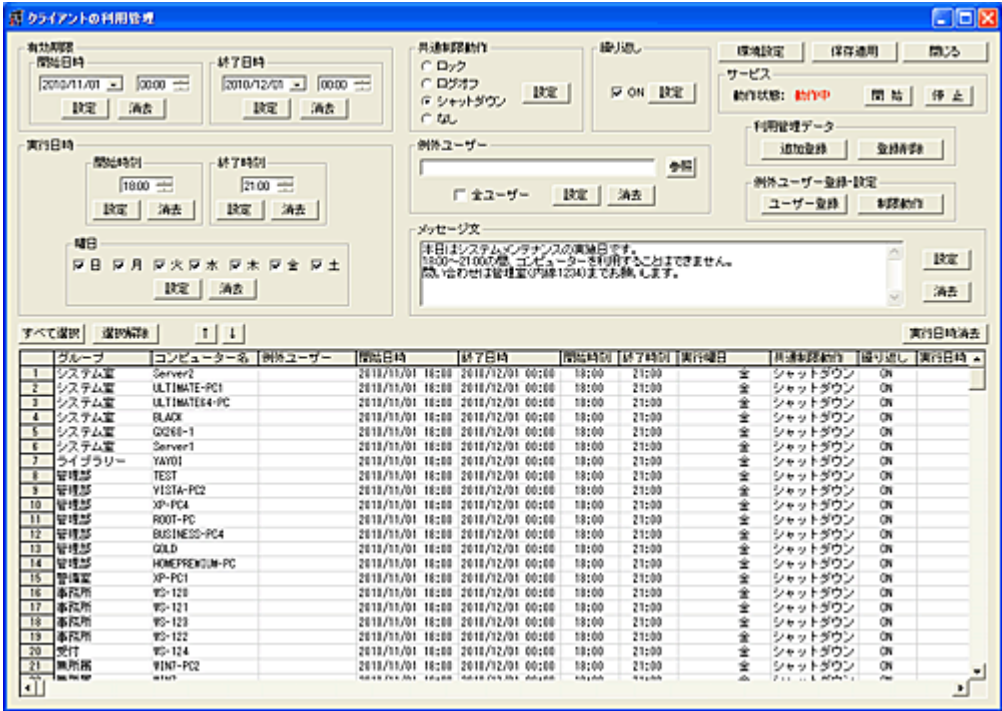
クライアントの利用管理

クライアントの利用管理

クライアントコンピューターの利用(起動)を日時や曜日を指定して制限することができます。
ユーザーや所属グループ別に利用を許可したりすることが可能です。

本機能は利用制限だけでなく、クライアントユーザーに対するメッセージ配信の目的でも利用できます。
システムメンテナンスなどの案内をクライアントユーザーに告知するような際に便利です。

下図は、「クライアントの利用管理」機能のメイン画面になります。



グループ	コンピューター名	例外ユーザー	開始日時	終了日時	開始時刻	終了時刻	実行曜日	共通制限動作	強制終了	実行日時
システム室	Server2		2010/11/01	2010/12/01	00:00	18:00	21:00	全	シャットダウン	ON
システム室	ULTIMATE-PC1		2010/11/01	2010/12/01	00:00	18:00	21:00	全	シャットダウン	ON
システム室	ULTIMATE4-PC		2010/11/01	2010/12/01	00:00	18:00	21:00	全	シャットダウン	ON
システム室	BLACK		2010/11/01	2010/12/01	00:00	18:00	21:00	全	シャットダウン	ON
システム室	Q268-1		2010/11/01	2010/12/01	00:00	18:00	21:00	全	シャットダウン	ON
システム室	Server1		2010/11/01	2010/12/01	00:00	18:00	21:00	全	シャットダウン	ON
ライブラリー	YAY01		2010/11/01	2010/12/01	00:00	18:00	21:00	全	シャットダウン	ON
管理部	TEST		2010/11/01	2010/12/01	00:00	18:00	21:00	全	シャットダウン	ON
管理部	VISTA-PC2		2010/11/01	2010/12/01	00:00	18:00	21:00	全	シャットダウン	ON
管理部	XP-PC4		2010/11/01	2010/12/01	00:00	18:00	21:00	全	シャットダウン	ON
管理部	ROOT-PC		2010/11/01	2010/12/01	00:00	18:00	21:00	全	シャットダウン	ON
管理部	BUSINESS-PC4		2010/11/01	2010/12/01	00:00	18:00	21:00	全	シャットダウン	ON
管理部	GOLD		2010/11/01	2010/12/01	00:00	18:00	21:00	全	シャットダウン	ON
管理部	HOMEFRONT-PC		2010/11/01	2010/12/01	00:00	18:00	21:00	全	シャットダウン	ON
管理部	XP-PC1		2010/11/01	2010/12/01	00:00	18:00	21:00	全	シャットダウン	ON
事務局	WS-120		2010/11/01	2010/12/01	00:00	18:00	21:00	全	シャットダウン	ON
事務局	WS-121		2010/11/01	2010/12/01	00:00	18:00	21:00	全	シャットダウン	ON
事務局	WS-123		2010/11/01	2010/12/01	00:00	18:00	21:00	全	シャットダウン	ON
事務局	WS-122		2010/11/01	2010/12/01	00:00	18:00	21:00	全	シャットダウン	ON
総務	WS-124		2010/11/01	2010/12/01	00:00	18:00	21:00	全	シャットダウン	ON
事務局	WIN9-PC2		2010/11/01	2010/12/01	00:00	18:00	21:00	全	シャットダウン	ON

利用制限を行うには、必ず利用管理データをリストに登録する必要があります。

クライアントがログオンする際、そのコンピュータ名とユーザーアカウント名をマネージャーに通知します。(利用確認通知)

マネージャーでは、利用確認の通知内容と登録されている利用管理データと比較し、管理対象の場合にその登録内容に従ってクライアントの利用管理が実行されます。

リストに登録のないクライアントコンピューターは、管理対象外となり自由に利用ができることとなります。

利用管理データの登録と削除

利用管理データはクライアントコンピューターごとに作成します。

利用管理データ項目にある「[追加登録](#)」ボタンを押して登録を行います。

追加登録すると、そのクライアントの「グループ」と「コンピューター名」がリストに表示されます。

その後、有効期間や制限動作の内容、メッセージ文などをメイン画面にて編集します。

編集内容は最後に「保存適用」ボタンを押すまでは有効にはなりません。

有効期限などが異なれば、同一クライアントのデータを複数登録することが可能です。
同一クライアントにおいて複数の登録がある場合、リストの上位にある管理データから下位に向けて検索を行います。

実行対象となる管理データが見つかった場合、そのデータより下位にあるデータは実行されません。

登録されている管理データの順位を変更したい場合は、対象となる管理データを選択して「↑」または「↓」ボタンで移動させてください。

利用管理データを削除するには、対象のデータを選択して「登録削除」ボタンを押します。

有効期間や実行日時メッセージ文などに設定した内容をリストに登録するには、対象の管理データを選択してそれぞれのグループ内にある「設定」ボタンを押します。

設定内容を消去するには、対象の管理データを選択してグループ内の「消去」ボタンを押します。

有効期間

登録された利用管理データの有効期間を指定します。

有効期間は、開始日時と終了日時を指定することが可能です。

開始日時の登録がない場合(空欄)は、開始日時のチェックは行われません。

終了日時の登録がない場合(空欄)は、終了日時のチェックは行われず期限なしとなります。

本設定は、実行日時の設定(時刻、曜日)に優先してチェックされます。

有効期間内でない場合、他の設定にかかわらず制限等の動作は実行されません。

実行日時

登録された利用管理データを実行する曜日や、1日内の実行時刻を設定することができます。

上位設定である有効期間に登録された範囲で、より細かく実行する条件の指定が可能です。

開始時刻、終了時刻

開始時刻の登録がない場合、開始時刻は 00 時 00 分として扱われます。

終了時刻の登録がない場合、終了時刻は 23 時 59 分として扱われます。

開始時刻と終了時刻は日を跨いでの設定は出来ません。

終了時刻が開始時刻よりも前の場合、その利用管理データは無効となり実行されません。

開始時刻と終了時刻の動作は、「例外ユーザー」欄の登録内容によって異なります。

「例外ユーザー」欄が空欄の場合、開始時刻と終了時刻に指定された時間内である場合に「共通制限動作」欄に登録されている内容を実行します。

他方、「例外ユーザー」欄が空欄でない場合、開始時刻と終了時刻はログオンユーザーがそのコンピューターを利用することができる利用許可時間として機能します。

その際に実行される制限動作や表示されるメッセージ文などは、「[例外ユーザーの制限設定](#)」にて設定を行います。

曜日

1週間の中で実行したい曜日を登録します。

登録が全くない場合(空欄)、すべての曜日が実行対象となります。(「日月火水木金土」と同等)

共通制限動作

「[環境設定](#)」の「制限動作の開始時間」で設定された時間が経過した時、実行する利用禁止動作を選択します。

「ロック」、「ログオフ」または「シャットダウン」を選択し、「設定」ボタンを押すとリストに登録されます。

利用禁止動作を取り消す場合は、「なし」を選択し「設定」ボタンを押します。

「ログオフ」および「シャットダウン」の動作が設定されている場合、ログオンと同時にクライアントのマウスとキーボードはロックされ、制限動作の開始時間まで継続します。

「ロック」の動作が設定されている場合、制限動作の開始時間までコンピューターを利用する事ができません。

ロックを解除するには、「[クライアントの利用管理を解除](#)」を実行するか、マネージャーのメイン画面にて「キーボード/マウスのロック解除」を実行します。

繰り返し

登録された利用管理データがクライアントで実行されると、リストの「実行日時」欄にその日時が表示されます。

表示の更新は「クライアントの利用管理」画面が表示されたときになります。(画面が表示されたままでは更新されません。)

利用管理データが新規登録された場合、本項目は“ON”の状態となり、設定された有効時間内であれば何度でも同じ動作が繰り返されます。

これに対し利用管理データの実行を一度だけに限定したい場合は、本項目の選択を解除します。

実行日時消去

繰り返しの設定が解除された状態(“ON”でない)で実行日時に表示がある場合、その利用管理データの実行は二度と行われません。

「実行日時」欄を消去すると、一度実行された利用管理データでも、有効期間内であれば再実行させることができます。

対象の管理データを選択し、「実行日時消去」ボタンを押すことで表示を消去します。

メッセージ文の登録

利用管理データが実行されるとき、表示するメッセージを登録します。


例外ユーザーの登録がある場合、本メッセージ文は表示されません。

登録対象のクライアントをリストから選択(複数可)します。

次にメッセージ文の入力欄に表示文を入力して「設定」ボタンを押すと、リストのメッセージ欄に登録されます。

登録可能なメッセージ文の長さは、全角で 500 文字以内となります。

クライアントに表示されるとき横幅は OS 種別によって若干異なりますが、概ね入力ボックスのサイズと同じです。

改行は自由ですが、リスト内に登録されたときは表示の関係で“”に置き換わります。

任意のクライアントをリスト上で右クリックすると、登録されているメッセージ文が入力ボックスにコピーされて編集が可能となります。

メッセージ文の削除を行う場合は、クライアントを選択して「消去」ボタンを押します。

例外ユーザー

利用管理データを、例外ユーザーを指定して運用します。

例外ユーザー入力欄には、ログオンユーザー名やグループ名(属性)を入力します。

「参照」ボタンを押すことで、登録されている例外ユーザー情報をリストから取得することが可能です。

「全ユーザー」を選択すると、クライアントにログオンするすべてのユーザーが対象となります。

サービス

クライアントの利用管理を行うにはサービス動作を開始状態にする必要があります。
動作状態が停止中の場合は「開始」ボタンを押すと動作状態になります。
一方、停止させたい場合は「停止」ボタンを押します。

環境設定

クライアントにおける利用管理データの実行に関する設定を行います。

保存適用

利用管理データを保存し、設定内容を適用します。
リストの内容は「保存適用」ボタンが押されるまではファイルに保存されず、サービスが開始中であっても反映されません。
登録や設定作業が完了したら、必ず「保存適用」ボタンを押してください。
「保存適用」ボタン押下後は、新しい設定内容で運用が開始されます。

【動作条件】

本機能の設定や登録を行うとき、クライアントコンピューターの電源は入っている必要は無く、設定内容がクライアントに保存されることはありません。
マネージャー側の作業だけで完結します。

「クライアントの利用管理」機能はマネージャー側でサービスプログラムとして動作します。
マネージャーコンピューターの電源さえ入っていれば、ログオフ状態でも動作可能です。



クライアントの利用管理を解除

利用管理が適用された状態で動作中のクライアントにおいてその動作を解除します。
解除する事により、そのクライアントは再ログオンするまでの間、制限なく利用が行えることになります。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオン」の時のみ実行可能です。

利用管理データの登録

クライアントの利用管理は、リストに登録された利用管理データに基づいて実行されます。
メイン画面内で、利用管理データを新規追加することはできません。
必ず以下のリストからクライアントコンピューターを選択して登録する必要があります。

追加登録

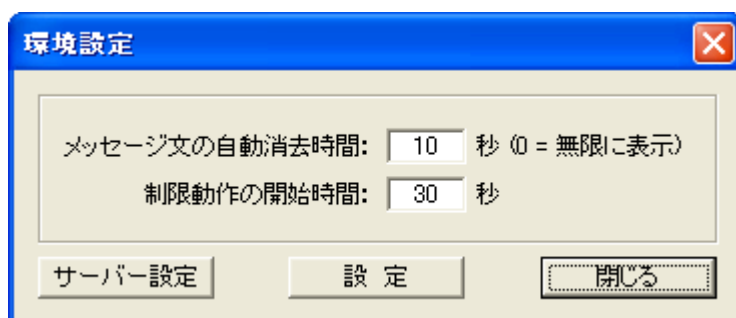
すべて選択 選択解除 追加登録 閉じる

	グループ	コンピューター名
1	システム室	Server2
2	システム室	ULTIMATE-PC1
3	システム室	ULTIMATE64-PC
4	システム室	BLACK
5	システム室	GX260-1
6	システム室	Server1
7	ライブラリー	YAYOI
8	管理部	TEST
9	管理部	VISTA-PC2
10	管理部	XP-PC4
11	管理部	ROOT-PC
12	管理部	BUSINESS-PC4
13	管理部	GOLD
14	管理部	HOMEPREMIUM-PC
15	警備室	XP-PC1
16	事務所	WS-120
17	事務所	WS-121
18	事務所	WS-123
19	事務所	WS-122
20	受付	WS-124
21	無所属	WIN7-PC2
22	無所属	WIN7
23	無所属	VIRTUALXP-37204
24	無所属	WIN7-64PC0
25	無所属	MARS-732
26	無所属	WS03-WIN7PRO
27	無所属	TEST-PC1
28	無所属	CF-R4
29	無所属	BUSINESS-PC5
30	無所属	ASPIRE5535
31	無所属	OIZUMI-PC
32	無所属	HP-TX1000
33	無所属	GRAND-PC

追加登録の画面が表示される際、マネージャーのクライアントリストに登録されているクライアントをすべて読み込んでリストに表示します。
マネージャーがグループ選択した状態で起動している場合は、そのグループのクライアントのみ表示されますのでご注意ください。

利用管理データの作成を行うクライアントを選択し、「追加登録」ボタンを押してください。
選択されたクライアントがメイン画面の利用管理データ登録リストに追加登録されます。

環境設定



メッセージ文の自動消去時間

自動消去時間を設定すると、クライアントログオン時に表示されたメッセージを指定された時間で自動消去することができます。

指定された時間内にクライアントのユーザーがメッセージウィンドウにマウスでアクセスした場合(クリック等)、自動消去のタイマーは停止して表示されたままになります。

自動消去したくない場合は、値に“0”を設定してください。

制限動作の開始時間

共通制限動作が設定されている場合の動作開始時間を設定します。

ログオン後、指定した時間が経過すると、シャットダウン等の制限動作に移行します。

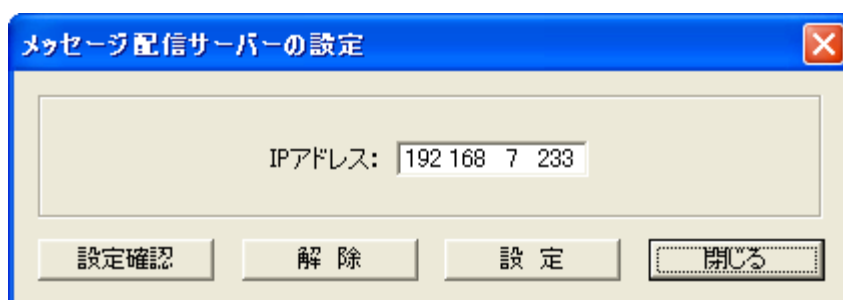
メッセージ文の自動消去時間は、本設定値よりも長い時間を設定することを推奨します。(ロック状態になるため告知が必要)

サーバー設定

複数のマネージャーにてクライアントの管理を行っている場合、本機能を利用してクライアントの利用管理を行うマネージャーを、特定の1台に固定することができます。(一元管理)

この操作を行うには、マネージャーのメイン画面にて対象となるクライアントの選択を行ってから実行する必要があります。

設定内容はクライアント側のレジストリに保存されますので、実行前に設定対象のクライアントコンピューターが起動していることを確認してください。



設定

登録したいマネージャーのIPアドレスを入力し、「設定」ボタンを押します。

正常に登録された場合、メイン画面の「情報」欄に登録内容が表示されます。

解除

マネージャーの登録を解除したい場合、「解除」ボタンを押してください。
正常に解除された場合、メイン画面の「情報」欄に結果が表示されます。

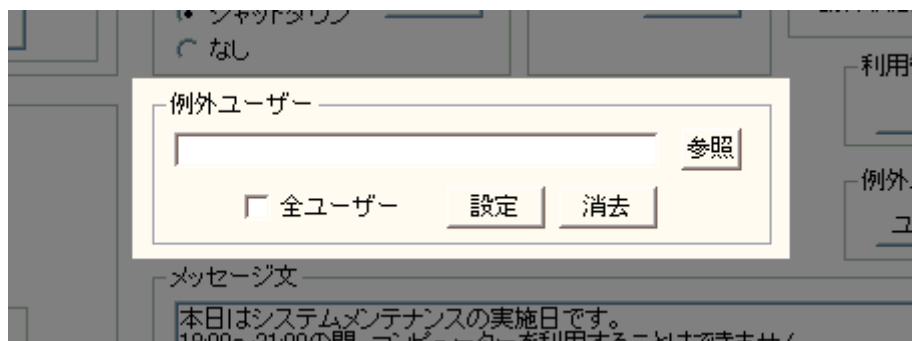
設定確認

マネージャーの登録内容を取得し、メイン画面の「情報」欄に表示します。



例外ユーザー

特定のユーザーに対してのみコンピューターの利用を許可する事ができます。
 本機能を利用するには、利用管理データに例外ユーザーの登録を行います。
 例外ユーザーの登録がされた利用管理データは、例外ユーザーに対してのみ利用許可を与える管理データとして動作します。
 例外ユーザー以外がそのクライアント PC にログインしたときは、「共通制限動作」の内容が実行され、登録されたメッセージ文が表示されます。



例外ユーザーの登録を行うには、入力欄に例外ユーザーの情報を入力し、対象の利用管理データを選択して「設定」ボタンを押します。
 例外ユーザーは手動入力のほか、登録されている例外ユーザーファイルから参照取得することが可能です。
 「参照」ボタンを押すと、以下のウィンドウが表示されます。

	ユーザー名	属性1	属性2	属性3	属性4	属性5
1	guest	700123	ゲスト			
2	yashida	321569	管理者	サテライト		
3	peter	664703	一般	サテライト		
4	allen	675012	一般	サテライト		
5	yuko	100558	一般	本部		
6	yamada	323270	一般	本部		
7	takahashi	182275	一般	本部		
8	hanako	640987	一般	サテライト		
9	james	001011	一般	サテライト		
10	kobayashi	990017	管理者	サテライト		
11	tanaka	550572	管理者	サテライト		

リスト内のセルをクリックするとその値が上部の入力欄にコピーされます。
「入力」ボタンを押すと、その内容がメイン画面の例外ユーザー入力欄に表示されます。

例外ユーザーとしてユーザー名(アカウント名)を登録すると、そのユーザーのみにコンピューターの利用許可を与えることになります。
特定のグループに所属する複数のユーザーに対して利用許可を与えたい場合は、例外ユーザーに属性1～属性5に設定されているグループ名を登録します。
例外ユーザーに属性を指定する場合は、複数の属性を組み合わせて登録することはできません。(単一の属性のみ登録可)

例外ユーザーとして「全ユーザー」を選択して設定すると、ログオンするすべてのユーザーが対象となります。

共通制限動作との違い

利用管理データに例外ユーザーを登録しないで運用する場合の主な目的は、クライアントコンピューターの利用禁止にあります。
システムメンテナンス等、何らかの理由で一定の期間クライアントコンピューターを利用されたくない場合などの状況を想定しています。

他方、例外ユーザーを登録する目的は文字通り、利用禁止対象から除外するユーザーを設けることにあります。
コンピューターの利用を許可制にしたい場合などにご活用いただけます。

例外ユーザーの登録

例外ユーザーの運用を行うには、あらかじめユーザーを登録し保存しておく必要があります。
1 ユーザーずつ手動登録する方法と、ユーザーリストをファイルから読み込んで一括登録する方法があります。

	ユーザー名	属性1	属性2	属性3	属性4	属性5
1	guest	700123	ゲスト			
2	yashida	321569	管理者	サテライト		
3	peter	664703	一般	サテライト		
4	allen	675012	一般	サテライト		
5	yuko	100558	一般	本部		
6	yamada	323270	一般	本部		
7	takahashi	182275	一般	本部		
8	hanako	640987	一般	サテライト		
9	james	001011	一般	サテライト		
10	kobayashi	990017	管理者	サテライト		
11	tanaka	550572	管理者	サテライト		

ユーザー名

クライアントのユーザー名(アカウント名)を入力し、「追加登録」ボタンを押すとリストに追加されます。
ユーザー名はクライアントがログオンするときのアカウント名を正確に登録する必要があります。
ユーザー名の大小区別は行いません。

登録したユーザーを削除するには、対象のユーザーをリスト内で選択し「登録削除」ボタンを押します。

ユーザー属性(1～5)

ユーザーが所属するグループや任意の識別文字などを属性として登録可能です。
ユーザー属性は ActiveDirectory グループとの関連性はなく、任意のグループ名を登録することができます。
ユーザーのフルネームや社員番号、学籍番号などの識別番号を登録することも有効です。(ユニークな

値)

ユーザー属性の文字列は大小区別されますのでご注意ください。

属性の登録を行うにはリストから対象のユーザーを選択し、各属性入力欄の横にある「設定」ボタンを押します。

1～5 までの各属性の登録は連続している必要はありません。(属性 1 と属性 5 のみを登録することも有効)

属性の設定を消去するには、対象のユーザーを選択して消去したい属性欄にある「消去」ボタンを押します。

保存

設定したリストの内容は、「保存」ボタンを押すことでファイルに保存されます。

読み込み

多くのユーザー登録を行う必要がある場合、ファイルからユーザーリストを読み込みを行うことで、大幅に作業の手間を省くことができます。

既存のユーザファイル等から例外ユーザー登録ファイルを作成してください。

例外ユーザー登録ファイルの仕様(フォーマット)は以下の通りです。

- 1.ファイル名および配置するフォルダ位置は任意です。
- 2.ファイル形式はテキストで、CSV ファイルとします。
- 3.文字コードはシフト JIS とします。
- 4.1 ユーザーにつき 1 行とし、各レコードの書式は以下の通りとします。

ユーザー名,属性 1,属性 2,属性 3,属性 4,属性 5

5.ユーザー名は必須項目です。

6.各属性の設定がない場合でも、区切り文字の “,” は必ず記述する必要があります。(全部で 5 個)



例外ユーザーの制限設定

例外ユーザーに対して、利用時間経過後に実行する制限動作等を設定します。

時間経過後の制限動作

利用管理データの「終了時刻」に設定されている時間となった時に実行する制限動作を選択します。
「終了時刻」の登録がない場合、その日の 23:59:59 秒として動作します。
終了時刻は、有効期間として設定されている「終了日時」の時間は参照せず、あくまでも「終了時刻」の設定値で動作します。

表示メッセージ

終了時刻になった時に表示したいメッセージ文を登録します。
ユーザーごとに異なるメッセージを表示する事はできません。(全ユーザー共通)
実行猶予時間が 0 秒の場合、メッセージの表示は行われません。

実行猶予時間

終了時刻が来てから実際に制限動作を実行するまでに、クライアントユーザーに対して猶予時間を与えることができます。

経過案内

本項目を選択すると、終了時間の 5 分前と 1 分前に、利用終了に関する以下の案内文を表示することができます。

5 分前: 「ただ今〇〇時〇〇分です。このコンピュータは利用時間制限により、あと5分で利用できなくなります。利用終了の1分前に再びお知らせします。」

1 分前: 「ただ今〇〇時〇〇分です。利用可能な残り時間があと 1 分となりました。作業を終了してください。」

クライアント利用状況

クライアント利用状況、クライアント利用状況(管理者)

クライアントの利用状況を**レポート**としてファイルに出力し、一定間隔でサーバーの共有フォルダやFTPサーバーにアップロードすることが出来ます。
Web ページなどから参照することにより、外部から簡単に最新の利用状況を把握することが出来ます。

表示内容は、一般公開用と管理者用の2種類が用意されています。
機能名称は異なりますが、設定の初期値が異なるだけで、操作方法や動作仕様は同じです。
目的に応じて使い分けてください。両機能は同時に動作させることが可能です。

クライアント利用状況			
<input checked="" type="checkbox"/> クライアント利用状況の報告機能を有効にする			
設定を反映する クライアント登録 環境設定 閉じる			
順番	PC番号	利用可否	備考
1	オープン室1 PC-001	×	
2	オープン室1 PC-002	○	
3	オープン室1 PC-003	×	
4	オープン室1 PC-004	○	
5	オープン室1 PC-005	○	
6	オープン室1 PC-006	×	
7	オープン室1 PC-007	○	
8	オープン室1 PC-008	○	
9	オープン室1 PC-009	○	
10	オープン室1 PC-010	利用禁止	修理中
11	オープン室1 PC-011	○	
12	オープン室1 PC-012	○	
13	オープン室1 PC-013	○	
14	オープン室1 PC-014	○	
15	オープン室1 PC-015	○	
16	オープン室1 PC-016	×	
17	オープン室1 PC-017	○	
18	オープン室1 PC-018	○	
19	オープン室1 PC-019	利用禁止	修理中
20	オープン室1 PC-020	○	
21	オープン室1 PC-021	○	
22	オープン室1 PC-022	利用禁止	修理中
23	システム室 PC-023	○	
24	システム室 PC-024	○	
25	システム室 PC-025	○	
26	システム室 PC-026	○	
27	システム室 PC-027	○	
28	システム室 PC-028	○	
29	ライブラリー PC-029	○	
30	管理部 PC-030	○	
31	管理部 PC-031	○	
32	管理部 PC-032	○	
33	管理部 PC-033	○	
34	管理部 PC-034	○	
35	管理部 PC-035	○	
36	事務局 PC-036	○	
37	事務局 PC-037	○	
38	事務局 PC-038	○	
39	事務局 PC-039	○	

初めて本機能を利用する場合、以下の手順にて利用設定を行う必要があります。

1.「クライアント登録」

利用状況を表示するクライアントを登録します。

すべてのクライアントを対象とすることも、特定のグループのクライアントのみを対象とすることも可能です。

2.「環境設定」

表示する項目を選択したり、ファイルをアップロードするサーバーなどの動作設定を行います。

3.「クライアント利用状況の報告機能を有効にする」

機能を有効にするかどうかの選択を行います。

4.「設定」

「クライアント利用状況の報告機能を有効にする」のチェックがオンの場合、直ちにファイルのアップロードが開始されます。

一方、「クライアント利用状況の報告機能を有効にする」のチェックがオフの場合、直ちにアップロード動作が停止されます。

【動作条件】

本機能の設定や登録を行うとき、クライアントコンピューターの電源は入っている必要は無く、設定内容がクライアントに保存されることはありません。
マネージャー側の作業だけで完結します。

「クライアント利用状況」機能は、マネージャー側でサービスプログラムとして動作します。
マネージャーコンピューターの電源さえ入っていれば、ログオフ状態でも動作可能です。

注意

何らかの障害でサーバーへのアップロードが出来なくなった場合、表示されるレポートは更新されず古いままになります。
障害発生時のための Web ページを用意されることをおすすめします。(サービス停止中などをユーザーに示す)

本機能を運用中、登録や設定内容の変更を行う場合は、一時的に機能を停止させて行うことをお勧めします。
設定変更中の操作により、意図しない情報が開示されてしまうことを防止するためです。

アップロードするファイルとは別に、更新日時を記録したファイルが同時にアップロードされます。
ファイル名は一般用が「ClntRptTime.dat」で、管理者用が「ClntMasRptTime.dat」となっています。(テキストファイルです)
記録書式は、“年/月/日 時:分:秒”の 1 行だけです。
Web ページを作成する際に同ファイルを参照することで、タイムスタンプを表示する事も可能です。

サーバーにアップロードされるファイルの文字コードは、Unicode(UTF-8)になります。

クライアントがスリープや休止状態の時は、電源 OFF と同様に利用されていない状態と判断されます。

Web ページ表示例

コンピューター教室の利用状況

利用状況は約10秒おきに更新されます。(手動更新)

表示

教室名	PC番号	利用可否	備考
オープンルーム1	PC-001	○	
オープンルーム1	PC-002	○	
オープンルーム1	PC-003	○	
オープンルーム1	PC-004	○	
オープンルーム1	PC-005	○	
オープンルーム1	PC-006	○	
オープンルーム1	PC-007	○	
オープンルーム1	PC-008	○	
オープンルーム1	PC-009	○	
オープンルーム1	PC-010	利用禁止	修理中
オープンルーム1	PC-011	○	
オープンルーム1	PC-012	○	
オープンルーム1	PC-013	○	
オープンルーム1	PC-014	○	
オープンルーム1	PC-015	○	
オープンルーム1	PC-016	○	
オープンルーム1	PC-017	○	
オープンルーム1	PC-018	○	
オープンルーム1	PC-019	利用禁止	修理中
オープンルーム1	PC-020	○	
オープンルーム1	PC-021	○	
オープンルーム1	PC-022	利用禁止	修理中
システム管理部	PC-023	○	
システム管理部	PC-024	○	
システム管理部	PC-025	○	
システム管理部	PC-026	○	
システム管理部	PC-027	○	
システム管理部	PC-028	○	
ライブラリー	PC-029	○	

コンピュータ教室の利用状況(管理者)

利用状況は約10秒おきに更新されます。(手動更新)

表示

グループ	コンピュータ名	ユーザー名	表示名	初期内容	ログイン	IPアドレス	MACアドレス	OS
オープン室1	WIN7-64PC0			Default		192.168.1.81	001BFC0D2408	Windows7 Enterprise Service Pack 1
オープン室1	MARS-752			Default		192.168.1.82	001BFC6314B8	Windows7 Professional Service Pack 1
オープン室1	CF-34	administrator	システム管理者	Default	13:13:56 07:16	192.168.1.228	000E35F0F85F	WindowsXP Service Pack 3
オープン室1	ASPIRE5535	root		ネット禁止	13:16:52 07:16	192.168.1.215	0017C450EC63	Windows7 Home_Premium Service Pack
オープン室1	WS01-VISTAULT			Default		192.168.1.210	00166631488	WindowsVista Ultimate Service Pack 2
オープン室1	WIN8-PC0			Default		192.168.1.91	001BFC0D2408	Windows8
オープン室1	WIN8			メモ帳		192.168.1.90	001A924E3801	Windows8 Unknown Type(74)
オープン室1	WIN7-PC2					192.168.1.64		
オープン室1	WIN7-ENG0			Default		192.168.1.154	0018Dc4ec4f	Windows7 Enterprise Service Pack 1
オープン室1	WIN7-64ENT			Default		192.168.1.80	001a924e798f	Windows7 Enterprise Service Pack 1
オープン室1	WIN7					192.168.1.198		
オープン室1	WIN2KSR2645TD			Default		192.168.1.201	001A924E798F	WindowsServer2008R2 Standard Server
オープン室1	WIN-VM02			Default		192.168.1.92	000C29EB71CB	Windows7 Enterprise Service Pack 1
オープン室1	VM02			Default		192.168.1.212	00155801c601	Windows7 Professional
オープン室1	VM01			Default		192.168.1.211	00155801c600	Windows7 Professional
オープン室1	VIRTUALXP-J7264			電源禁止		192.168.1.164	0003d5-56d3	WindowsXP Service Pack 3
オープン室1	TEST-PC1					192.168.2.111		
オープン室1	PLUTO-V72			Default		192.168.1.83	000EA67E3C31	WindowsVista Ultimate Service Pack 1
オープン室1	OLZUM-PC					192.168.1.153	0017c450ec63	
オープン室1	HP-TX1000			電源禁止		192.168.1.153	001a7398c8f1	Windows7 Home_Premium
オープン室1	GRAND-PC					192.168.1.188	001a7398c8f1	
オープン室1	BUSINESS-PC5					192.168.1.57	0013d8f42951	
受付	WS-124					192.168.1.124		
事務所	WS-123					192.168.1.123		
事務所	WS-122					192.168.1.122		
事務所	WS-121					192.168.1.121		
事務所	WS-120					192.168.1.120		
管理部	VISTA-PC2			Default		192.168.1.62	000a67efc31	WindowsVista Ultimate Service Pack 2
管理部	ROOT-PC					192.168.1.135		
管理部	HOMEPREMIUM-PC					192.168.1.151	000a67efc31	
管理部	GOLD					192.168.1.55	000cf1b8ed9	

クライアント登録

情報漏洩防止
利用制限
OP 機能

レポートに表示するクライアントを登録します。

	グループ	コンピューター名	ユーザー名 (選択)	備考
1	オープン室1	ASPIRES35		
2	オープン室1	BUSINESS-PC5		
3	オープン室1	CF-R4		
4	オープン室1	GRAND-PC		
5	オープン室1	HP-TX1000		
6	オープン室1	MARS-732		
7	オープン室1	OIZUMI-PC		
8	オープン室1	PLUTO-V32		
9	オープン室1	TEST-PC1		
10	オープン室1	VIRTUALXP-37204	利用禁止	修理中
11	オープン室1	VM01		
12	オープン室1	VM02		
13	オープン室1	WIN-VM02		
14	オープン室1	WIN2K8R264STD		
15	オープン室1	WIN7-64ENT		
16	オープン室1	WIN7-64PC0		
17	オープン室1	WIN7-ENG0		
18	オープン室1	WIN7-PC2		
19	オープン室1	WIN7	利用禁止	修理中
20	オープン室1	WIN8-PC0		
21	オープン室1	WIN8		
22	オープン室1	WS01-VISTAULT	利用禁止	修理中
23	システム室	BLACK		
24	システム室	GX260-1		
25	システム室	Server1		
26	システム室	Server2		
27	システム室	ULTIMATE-PC1		
28	システム室	ULTIMATE64-PC		
29	ライブラリー	YAV01		
30	管理部	2KJ		
31	管理部	BUSINESS-PC4		
32	管理部	GOLD		
33	管理部	HOMEPREMIUM-PC		
34	管理部	ROOT-PC		
35	管理部	VISTA-PC2		
36	事務所	WS-120		

クライアント読込

登録するクライアントの情報はメイン画面のクライアントリストから取得します。

「クライアント読込」ボタンを押すと、メイン画面のクライアントリストに登録されているすべてのクライアントが表示されます。

すでにこの画面のリスト内にクライアントが登録されている場合、リストにないクライアントのみが追加表示されます。

抹消されたクライアントは、自動的にリストから削除はされませんので、手動で削除操作を行ってください。

削除

削除したいクライアントを選択し「削除」ボタンを押すと、リストから削除されます。

本リストに登録されているクライアントが利用状況表示の対象となります。

クライアント利用状況の対象にしないクライアントはリストから削除してください。

「↑」「↓」

利用状況の表示は本リストに表示されている順番になります。

表示する順番を変更する場合は、対象のクライアントを選択し上下ボタンで調整します。(1 件単位)

カラム名をクリックすることで全体のソートが可能です。

ユーザー名の置換

クライアントの利用状況は「ユーザー名」の内容で判定します。

クライアントの電源は入っているが、ログオンしていない場合は「ログオフ状態」と表示されます。

ユーザーがログオンしている場合、そのユーザーのアカウント名が表示されます。

電源が入っていないクライアントのユーザー名は空欄となります。

クライアントがどの状態にあっても、強制的に特定の文字列を表示させる事が出来ます。

設定対象のクライアントを選択状態にし、文字を入力して「設定」ボタンを押します。

備考

「備考」は表示される項目の最後に追加され、表示される項目です。

任意の情報をクライアントごとに設定、表示することが出来ます。

設定対象のクライアントを選択状態にし、文字を入力して「設定」ボタンを押します。

保存

「保存」ボタンを押すと、リストに表示されている内容がファイルに保存されます。

意図しない表示内容になってしまい、元に戻したいときは「閉じる」ボタンを押して画面を終了させてください。

注意

メイン画面のクライアントリストの登録内容に、追加や抹消などの変更があった場合は、本画面にて調整を行ってください。

環境設定

クライアント利用状況の動作に関する設定を行います。

情報漏洩防止
利用制限
OP 機能

[クライアントリストの項目]

利用状況のレポートに表示する項目を選択することが出来ます。
また目的に応じて、項目名を任意の名前に変更して表示することが可能です。

「出力ファイルの1行目に項目名を記録する」を選択すると、レポートの最初の行に表示する項目名を記録します。
一覧表を作成する時のヘッダーとして利用可能です。

[ファイルのアップロード]

出力されたレポートファイルは2種類の方法でサーバーにアップロードすることが出来ます。

1.共有フォルダにアップロードする

サーバーの共有フォルダーにレポートファイルをアップロードします。
サーバー接続に必要な情報を登録します。

2.FTP サーバーにアップロードする

FTP サーバーにレポートファイルをアップロードします。
サーバー接続に必要な情報を登録します。

アップロードするファイル名

サーバーにアップロードするファイル名を設定します。

アップロードする間隔

クライアントの利用状況を更新し、サーバーにアップロードする間隔を設定します。
設定間隔が短いと、環境によっては正常に更新されないことがあります。

アップロードされるファイルの文字コードは、Unicode(UTF-8)になります。

[表示内容の調整]

クライアントの利用状況は「ユーザー名」の内容で判定します。

クライアントの電源は入っているが、ログオンしていない場合は「ログオフ状態」と表示されます。

ユーザーがログオンしている場合、そのユーザーのアカウント名が表示されます。

電源が入っていないクライアントのユーザー名は空欄となります。

「ユーザーがログオンしている場合、リストにそのクライアントを表示しない」

利用可能な状態にあるクライアントのみ表示したいときに選択します。

「電源 OFF 状態」及び「ログオフ状態」のクライアントが表示対象となります。

「ユーザーがログオンしている場合、ユーザー名の代わりに と表示する」

ログオン中のクライアントのユーザー名を表示したくないときに選択します。

ユーザー名の代わりに、入力した任意の文字列を表示します。

「クライアントが電源 OFF 又はログオフ状態の場合、ユーザー名の代わりに と表示する」

クライアントが利用可能な状態であることを示す、“利用可能”などの文字列を表示したい場合に選択します。

[グループ名変換]

各グループ名を別の名前に変換して表示する事が出来ます。

レポートに表示されるグループ名を、一般ユーザーに判りやすい名前にすることが可能です。

登録は「変換グループ名」欄に直接入力し、「保存」ボタンでファイルに保存します。

「グループ名の変換を行う」の選択操作により、いつでも変換の有無を切り替えることが出来ます。

グループ名の変換

☒ グループ名の変換を行う

保存

閉じる

	グループ	変換グループ名
1	オープン室1	オープンルーム1
2	システム室	システム管理部
3	ライブラリー	
4	開発	
5	管理部	総務部
6	警備室	
7	資料室	
8	事務所	
9	受付	
10	無所属	

[コンピューター名変換]

クライアントのコンピューター名を別の名前に変換して表示する事が出来ます。
 システム上のコンピューター名ではなく、ユーザーにとって一般的な名称で表示することが可能です。
 登録は「変換コンピューター名」欄に直接入力し、「保存」ボタンでファイルに保存します。
 「コンピューター名の変換を行う」の選択操作により、いつでも変換の有無を切り替えることが出来ます。

■ コンピューター名の交換

☒ コンピューター名の交換を行う

保存 閉じる

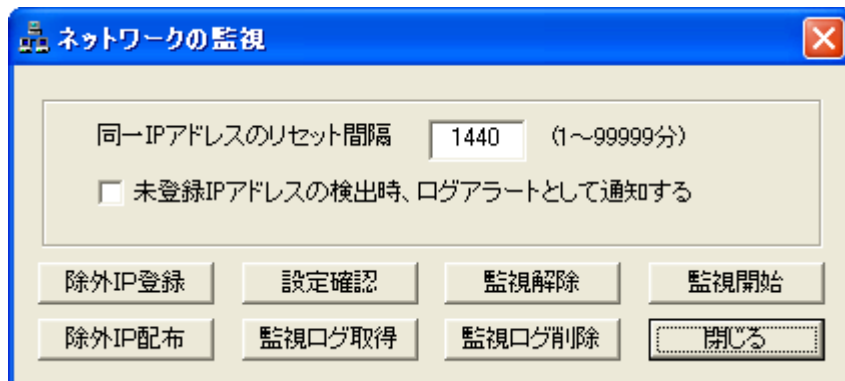
	グループ	コンピューター名	交換コンピューター名
1	オープン室1	ASPIRE5535	PC-001
2	オープン室1	BUSINESS-PC5	PC-002
3	オープン室1	CF-R4	PC-003
4	オープン室1	GRAND-PC	PC-004
5	オープン室1	HP-TX1000	PC-005
6	オープン室1	MARS-732	PC-006
7	オープン室1	OIZUMI-PC	PC-007
8	オープン室1	PLUTO-V32	PC-008
9	オープン室1	TEST-PC1	PC-009
10	オープン室1	VIRTUALXP-37204	PC-010
11	オープン室1	VM01	PC-011
12	オープン室1	VM02	PC-012
13	オープン室1	WIN-VM02	PC-013
14	オープン室1	WIN2K8R264STD	PC-014
15	オープン室1	WIN7-64ENT	PC-015
16	オープン室1	WIN7-64PC0	PC-016
17	オープン室1	WIN7-ENG0	PC-017
18	オープン室1	WIN7-PC2	PC-018
19	オープン室1	WIN7	PC-019
20	オープン室1	WIN8-PC0	PC-020
21	オープン室1	WIN8	PC-021
22	オープン室1	WS01-VISTAULT	PC-022
23	システム室	BLACK	PC-023
24	システム室	GX260-1	PC-024
25	システム室	Server1	PC-025
26	システム室	Server2	PC-026
27	システム室	ULTIMATE-PC1	PC-027
28	システム室	ULTIMATE64-PC	PC-028
29	ライブラリー	YAYOI	PC-029
30	管理部	2KJ	PC-030
31	管理部	BUSINESS-PC4	PC-031
32	管理部	GOLD	PC-032
33	管理部	HOMEPREMIUM-PC	PC-033
34	管理部	ROOT-PC	PC-034
35	管理部	VISTA-PC2	PC-035
36	事務所	WS-120	PC-036
37	事務所	WS-121	PC-037
38	事務所	WS-122	PC-038

ネットワークの監視

情報漏洩防止
利用制限
OP 機能

ネットワークの監視

ネットワークのトラフィックを監視し、未知の IP アドレスを検出してログに記録することが出来ます。利用が禁止されている持ち込み PC の検出や、クライアントプログラムのインストール漏れなどを防止する用途に有効です。



監視開始

リストにてクライアントを選択し「監視開始」ボタンを押すと、監視動作が開始されます。

監視解除

リストにてクライアントを選択し「監視解除」ボタンを押すと、監視動作が解除されます。記録されたログファイルはそのままクライアント側に残ります。

設定確認

リストにてクライアントを選択し「設定確認」ボタンを押すと、監視動作がリストの「情報」欄に表示されます。

除外 IP 登録

監視の検出から除外する IP アドレスを登録します。

除外 IP 配布

監視の検出から除外する IP アドレスをクライアントに配布します。

監視ログ取得

クライアントに記録された検出 IP アドレスを取得し、表示します。

監視ログ削除

クライアントに記録されている検出 IP アドレスを削除します。監視はそのまま継続されます。

同一 IP アドレスのリセット間隔

トラフィックからすでに記録済みの IP アドレスが検出されても、本項目で設定された時間内であれば記録しません。

初期値は 1440 分(24 時間)となっています。

短い間隔に設定すると、同じ IP アドレスが大量に記録される事になります。

未登録 IP アドレスの検出時、ログアラートとして通知する

未登録の IP アドレスを検出した際、「[ログアラート](#)」の機能を利用して直ちにマネージャーに通知します。ログアラートに「[メール通報](#)」の設定がされていれば、検出をメールにて知ることが可能となります。本機能は「[ログ設定](#)」における「ログアラート機能を有効にする」の設定状態に関係なく機能します。

検出動作について

IP アドレスの検出はクライアントのネットワークデバイスに到達したトラフィックをモニターすることによって行われます。

端末間で交わされる通信はスイッチによってフィルタリングされるため、IP アドレスの検出に利用することは出来ません。

Windows 端末の場合、起動時に送出されるブロードキャストやマルチキャストのパケットをキャプチャーすることで、IP アドレスの検知が可能です。

ただし、異なるネットワーク(セグメント)に接続された端末を検出することは困難といえます。

セグメントごとに本機能を作動させたクライアントを配置することで、検出率の向上が期待できます。サーバーやルーターなど、多くのトラフィックが集中するセグメントにて本機能を動作させることも効果的です。

ポートミラーリング機能を搭載したスイッチを利用してサーバーやルーターのポートを監視できれば、最大限の検出が可能となります。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行は不可。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です

注意

本機能はすべてのクライアントにて動作させる種類の機能ではありません。

不用意に動作させる事はお控えください。

1 日の中で、比較的動作時間の長いクライアントコンピューターで動作させる事をお勧めします。

本機能はクライアントコンピューターがログオフ中でも動作します。

除外 IP 登録

検出した IP アドレスは、利用が確認(許可)されている端末の物も含めてすべてがログに記録されます。検出対象から除外する IP アドレスを登録することで、未確認の IP アドレスのみを記録する事が可能です。

監視から除外するIPアドレス

監視から除外するIPアドレス

☒ コントローラーに登録されているクライアントを監視から除外する

	IPアドレス
1	192.168.1.8
2	192.168.1.83
3	192.168.1.237
4	192.168.1.1
5	192.168.1.218
6	192.168.1.225
7	192.168.1.71
8	192.168.1.80
9	192.168.1.210
10	192.168.1.70
11	192.168.1.79
12	192.168.1.220
13	192.168.1.253
14	192.168.1.2
15	192.168.1.215
16	192.168.1.230
17	192.168.1.207
18	192.168.1.81
19	192.168.1.118
20	192.168.1.212
21	192.168.1.214

追加登録

削除

保存

閉じる

マネージャーに登録されているクライアントを監視から除外する

本項目を選択すると、マネージャーに登録されているクライアントの IP アドレスは検出対象外となり、ログに記録されません。

クライアントプログラムがインストールされていないコンピューターを探す際に効果的です。

ただし、DHCP などでは頻繁に IP アドレスが変更となる様な環境では信頼度が低下します。

追加登録

追加したい IP アドレスを入力し、「追加登録」ボタンを押すとリストに追加されます。

削除

リストから削除したい IP アドレスを選択し、「削除」ボタンを押します。

保存

リストの内容をファイルに保存します。

自動登録について

除外する IP アドレスを登録する効率的な方法として、「監視ログ取得」にて取得したリストから任意の IP アドレスを自動登録することが出来ます。



監視ログ取得

クライアントに記録されている IP アドレスを検出した日時と共に表示します。

検知した未確認IPアドレス

	IPアドレス	日付	時間
1	192.168.1.83	2012/11/29	15:05:22
2	192.168.1.8	2012/11/29	13:54:02
3	192.168.1.212	2012/11/29	13:06:26
4	192.168.1.237	2012/11/29	13:05:46
5	192.168.1.1	2012/11/29	12:18:03
6	192.168.1.71	2012/11/29	12:16:01
7	192.168.1.207	2012/11/29	12:14:16
8	192.168.1.218	2012/11/29	12:14:11
9	192.168.1.210	2012/11/29	12:11:17
10	192.168.1.70	2012/11/29	12:09:24
11	192.168.1.79	2012/11/29	12:09:24
12	192.168.1.215	2012/11/29	12:09:03
13	192.168.1.225	2012/11/29	12:08:54
14	192.168.1.214	2012/11/29	12:08:50
15	192.168.1.230	2012/11/29	12:08:25
16	192.168.1.220	2012/11/29	12:08:13
17	192.168.1.2	2012/11/29	12:08:06
18	192.168.1.253	2012/11/29	12:07:58
19	192.168.1.81	2012/11/29	12:07:49
20	192.168.1.80	2012/11/29	12:07:49

除外リストに追加

別ファイルに出力

閉じる

除外リストに追加

リスト内のデータを選択して「除外リストに追加」ボタンを押すと、監視から除外する IP アドレスのリストに追加することが出来ます。

別ファイルに出力

リスト内のデータを選択して「別ファイルに出力」ボタンを押すと、選択されているデータだけを別ファイルに保存することが出来ます。

起動時の自動実行設定

クライアント起動時にサーバーからファイルをダウンロードしたり、任意のプログラムやバッチファイルなどを実行することができます。

本機能を利用することにより、ドメインサーバーが提供するスタートアップスクリプト機能と同じような動作をさせることが可能です。

クライアントは毎起動時、サーバーの共有フォルダに自分が実行すべきコマンドファイル(スクリプトファイル)がないか確認します。

コマンドファイルが存在する場合、その設定内容に従ってファイルのダウンロードを行ったり、プログラムの実行を行います。

一度実行したコマンドファイルは削除されますので、重複実行したくない処理に最適です。

自動実行させたいコマンドファイルの作成は、「[起動時の自動実行ファイル作成](#)」にて行います。

コマンドファイルには実行するプログラムや、配信するファイル情報などが記述されています。

本機能を利用するには、予め各クライアントに対してサーバーなどの情報登録を行っておく必要があります。

設定対象のクライアントが全て起動していることを確認し、リストにて選択後、以下の画面を表示して設定を行ってください。

クライアント起動時の自動実行設定

自動実行機能

☒ 有効 ☐ 無効

自動実行ファイル

配信サーバー (UNC名)

共有フォルダアクセス用ユーザー名

共有フォルダアクセス用パスワード

☐ 暗号化する
暗号化する場合、ユーザー名とパスワードは半角英数文字に限られます。

タイムアウト
60 (1~999秒)

実行確認 設定確認 設定 閉じる

有効、無効

本機能を有効にするか、無効にするかを選択します。

「無効」を選択した場合は、以下の設定の有無に拘わらず機能は無効となります。

クライアント側の規定値は「無効」状態となっています。

配布サーバー

クライアントが毎起動時に接続するサーバーの共有フォルダを UNC 名で記述します。

(設定例: ¥¥MyServer¥AutoExecFolder)

本項目の設定が空欄であったり設定値が適正でない場合は、クライアント側で本機能は実行されません。

共有フォルダアクセス用ユーザー名

クライアントが共有フォルダに接続するときに利用するユーザー名（アカウント名）を記述します。

共有フォルダアクセス用パスワード

クライアントが共有フォルダに接続するときに利用するパスワードを記述します。

暗号化する

「共有フォルダアクセス用ユーザー名」および「共有フォルダアクセス用パスワード」がクライアント側のレジストリに登録される際、設定値を暗号化します。

セキュリティ確保上、設定することが推奨されます。

暗号化する場合、設定値には日本語の文字列を利用することは出来ません。（半角の英数字のみ）

タイムアウト

クライアントが何らかの理由でサーバーとの接続に失敗したり、ファイルの転送が出来ない場合のため、強制的に処理を中断させることが出来ます。

サーバーとの接続処理を開始してから、設定された時間が経過すると実行を自動停止します。

大きなファイルのダウンロードを行う場合は、十分なタイムアウト時間を与える必要があります。

設定値は秒単位とします。

設定

「設定」ボタンを押すと、設定された内容がクライアントに送信され、クライアント側のレジストリに保存されます。

設定確認

クライアントに設定されている内容を確認できます。

クライアントから取得した設定内容は、クライアントリストの「情報」欄に表示されます。

実行確認

クライアントにおいて最後に実行したコマンドのファイル名と、実行日時を確認できます。

クライアントから取得した実行内容は、クライアントリストの「情報」欄に表示されます。

正常に実行されたコマンドファイルは、自動的にサーバーから削除されますので、そのファイルの存在確認でも実行状況の把握は可能です。

注意

- ・本機能の実行は、クライアント PC が起動した時になります。（ログオン時ではありません。）
- ・本機能を利用して起動されるプログラムは、SYSTEM 権限で実行されます。クライアントがログオンしても、起動したプログラムに対して対話型のアクセスをすることは出来ません。
- ・共有フォルダは、配信性能や同時接続数などの関係で、クライアント OS 上(XP、Vista、7 など)ではなく、サーバーOS 上(Server 2003、2008 など)に設置されることをお勧めします。
- ・共有フォルダには、全ユーザーに対して適切なアクセス権限を与えてください。
- ・共有フォルダには、必ずコマンドファイルの削除権限を与えてください。（クライアントは実行完了後に、実行したコマンドファイルを削除します。）

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。



起動時の自動実行ファイル作成

クライアントが起動時にサーバーからダウンロードするファイル(ファイル配布)の設定や、自動実行させるコマンドの設定を行い、サーバーに配置するファイルの作成を行います。
両方を同時に設定して実行させることも、どちらか一方だけを実行することも出来ます。

実行対象のクライアントを選択状態にし、下記の画面を表示させてください。

配布するファイル(マネージャー側)

配布したいファイルをフルパスで入力します。(ワイルドカードを利用した複数のファイル指定が可能です。)

ファイル配布を行わない場合は空欄にします。

配布先フォルダ(クライアント側)

クライアントがサーバーからファイルをダウンロードした際に、保存するフォルダを入力します。

※配布先に指定したフォルダがクライアント側に存在しない場合は自動作成されます。

コマンド

クライアントにて起動時に自動実行したいコマンドをフルパスで入力します。

実行ファイル(exe)の他、バッチファイル(bat)の指定も可能です。

パラメータ

必要に応じて、実行するコマンドのパラメータを入力します。

実行済みファイルのチェックを行わないで、無条件に実行する。

この選択を有効にすると、その自動実行ファイルが過去に実行したものであっても、無条件に再実行します。

二重実行を防止したい時は、選択を無効にしてください。

実行後も、コマンドファイル(cmx)を削除しない

この選択を有効にすると、クライアントが自動実行完了後もサーバー上のコマンドファイル(cmx)を削除しないでそのまま残します。

作成

「作成」ボタンを押すと、設定した内容を元にサーバー配置用のファイルを生成します。(フォルダの指定が可能)

配布するファイル本体と、実行コマンドはそれぞれ別のファイルとして保存されます。

配布するファイルは圧縮されて1つのファイルに統合保存されます。(ファイル名が変わります。)

作成した日時がファイル名になり、拡張子は「flx」となります。(flx ファイル)

実行するコマンド情報が記述されたファイルは、リストにて選択されたクライアントの分だけ作成されます。

ファイル名の先頭にクライアント名が付き、その後に作成日時が続きます。

拡張子は「cmx」となります。(cmx ファイル)

各ファイルについて

flx ファイルと cmx ファイルのファイル名中の作成日時は同じ値となります。

cmx ファイルには実行するコマンド情報の他、配布するファイルの情報も記録されています。

cmx ファイルはテキストファイルですが、直接編集は絶対に行わないでください。

実行するコマンドがなく、ファイル配布だけを行う場合でも cmx ファイルは作成されます。

一方、配布するファイルがなく、コマンド実行だけの場合は、flx ファイルは作成されず、cmx ファイルだけになります。

作成されたファイルのファイル名は絶対に変更しないでください。

実行手順

作成された全てのファイルをサーバーの共有フォルダに配置し、準備は完了します。

サーバーの共有フォルダには異なる日時に作成されたファイルを混在して配置しておくことが出来ます。

ただし、同一クライアントに対するコマンドファイル(cmx ファイル)を複数配置することは出来ません。

クライアントでは最後に実行したファイルの日時が記録され、次回実行時に参照されます。

新しく実行しようとするファイルが、直前に実行したものと同一か、日時が古いものは実行しません。

「実行済みファイルのチェックを行わないで、無条件に実行する。」を有効にしてコマンドファイルを作成すると、上記の日付チェックを行わず、古いコマンドファイルであっても実行しようとします。

配布するファイルと実行するコマンドの両方が設定されている場合、クライアントではファイルのダウンロードが先に実行されます。

ダウンロード完了後、コマンドの実行に移行します。万一、ファイルのダウンロードに失敗した場合、コマンドの実行は行われず、自動実行処理を中止します。

自動実行処理に失敗した場合、次回起動時に再実行されます。(成功するまで繰り返します。)

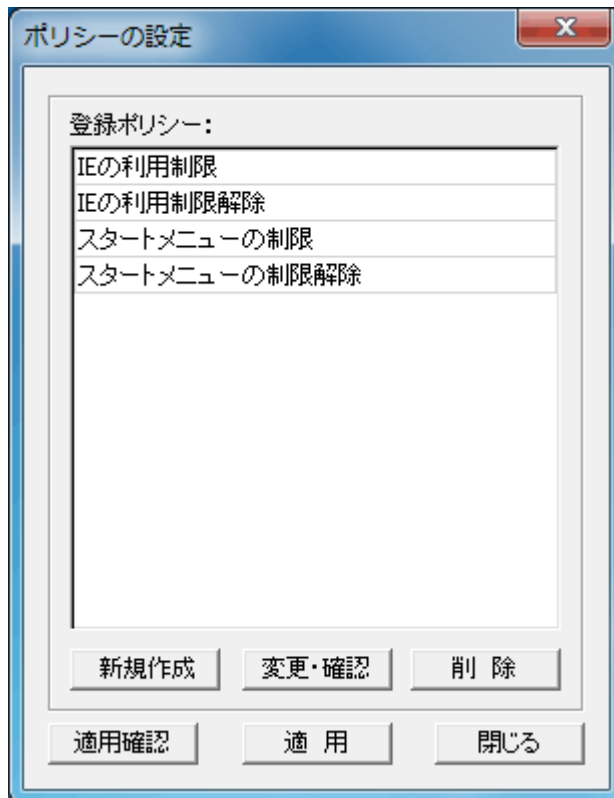
実行が成功した場合、そのクライアントの cmx ファイルはサーバーから削除されます。
「実行後も、コマンドファイル(cmx)を削除しない」を有効にしてコマンドファイルを作成すると、実行に成功してもサーバー上のコマンドファイルを削除しません。
「実行済みファイルのチェックを行わないで、無条件に実行する。」と組み合わせて利用することで、クライアント起動時に毎回同じ動作を実行することが可能となります。

flx ファイルは自動削除されませんので、全てのクライアントの実行が完了した時点で、ファイル名中の日時情報を参照して手動で削除してください。



ポリシー設定

クライアントのレジストリを変更することで、ポリシー設定を行います。
同時に複数のポリシー設定を行うことが可能です。



新規作成

新しいポリシー設定の定義ファイルを作成します。

変更・確認

作成済みのポリシー設定を変更したり、内容の確認を行うことができます。

削除

作成済みのポリシー設定を削除します。

削除するポリシーをリストから選択し、「削除」ボタンを押します。

適用

クライアントに適用するポリシーをリストから選び、「適用」ボタンを押します。

ポリシーは定義ファイルとして各クライアントに配布され、適用されます。

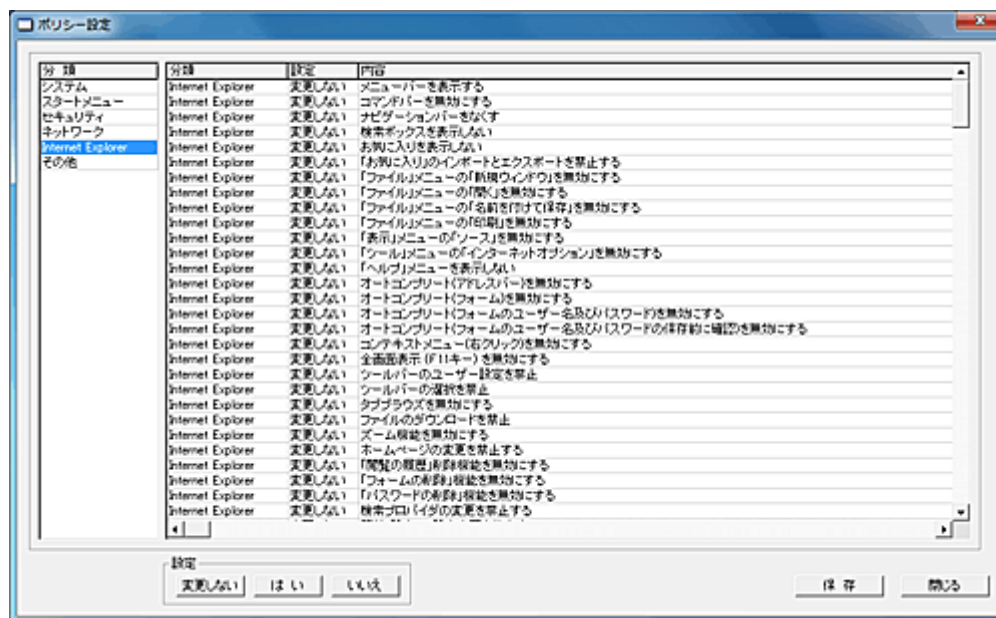
配布管理用のウィンドウが表示されますので、すべてのクライアントに配布が完了するまでお待ちください。

ポリシーが有効となるタイミングは設定するポリシーの内容によって異なりますが、概ね再起動やログオフを必要とします。

適用確認

最後に適用したポリシーの名前が、クライアントリストの「情報」欄に表示されます。

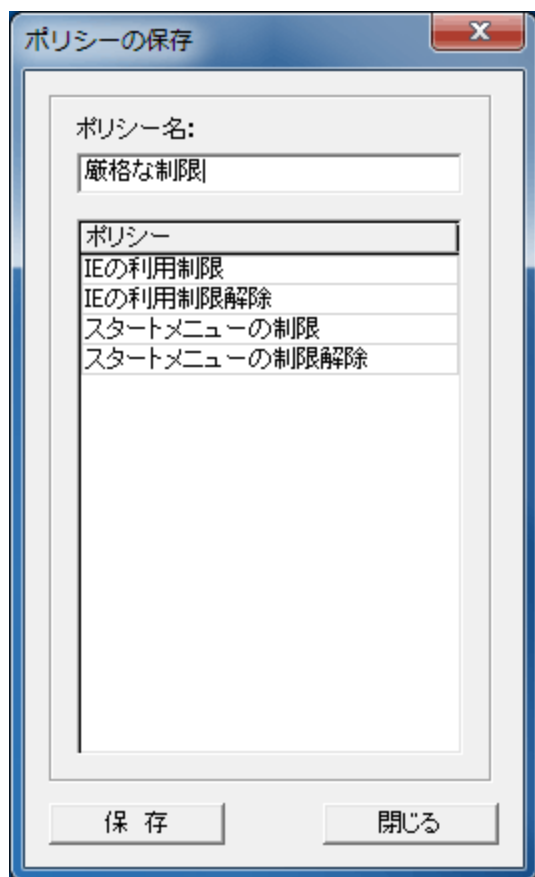
ポリシーの作成手順



ポリシーの分類を左側のリストから選択すると、設定可能な内容が右側のリストに表示されます。設定する内容を選択して「はい」又は「いいえ」のボタンを押すと、リスト内の「設定」欄に表示されます。設定欄が「変更しない」になっている項目は、クライアント側でその内容の変更操作を行いません。(現在の設定がそのまま維持されます。)

「その他」のグループの項目は設定値の変更が可能です。設定する値を入力し、リスト内の空白部分を空クリックする事で設定内容は確定されます。

ポリシーの設定内容は分類に関係なく、まとめて1つのポリシー定義として扱われます。ポリシーの設定がすべて完了したら、「保存」ボタンを押してください。



新規作成の場合は、ポリシー名を入力し「保存」ボタンを押します。
変更の場合は、ポリシー名が予め表示されていますので、そのまま「保存」ボタンを押します。
このとき、異なるポリシー名に変更して保存することも出来ます。
その場合、元のポリシーはそのまま残り、新しいポリシーが作成されることになります。

【動作条件】

- ・本機能によるポリシー設定は Windows 7 を基準としています。他の OS では設定が無効になったり、異なる設定内容となることがあります。
- ・本機能による「インターネット エクスプローラー」の設定は「IE9」を対象としています。他のバージョンでは設定が無効になったり、異なる設定内容となることがあります。
- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

注意

本機能によるポリシー設定は、システム(OS)に搭載されているポリシー設定と共通のレジストリ値を使用します。
ポリシーエディタや他のポリシー設定ツールで異なる設定をされた場合は、本機能の設定と異なる動作となります。

防止・制限:印刷・ネットワーク関連



印刷禁止、解除

リストにて選択されているクライアントの印刷機能を停止します。
印刷禁止中は、リスト内のプリンタアイコン(左から6つめの項目)が点灯します。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。
- ・「印刷禁止」はプリントスプーラーサービスを停止させることで機能します。
プリントスプーラーサービスを利用せずに、直接プリンタに出力するアプリケーションなどは禁止することができません。
- ・ユーザーにサービスの操作権限が与えられている場合、禁止を解除される可能性があります。
- ・クライアントが再起動した場合、印刷禁止は解除されます。

ポートブロック

設定されたポート番号の通信パケットをブロックすることが出来ます。
ブロックするポート番号は予め「ポートブロックの設定」にて登録しておきます。

ポートブロック設定

ポート番号入力欄に 1～65535 の範囲でブロックするポート番号を入力し、「追加」ボタンを押すとリストに追加されます。

削除する場合は、対象のポート番号をリストから選択し、「削除」ボタンを押します。

「WEB」や「MAIL」などのアプリケーションボタンを押すと、それぞれの標準ポート番号がリストに追加されます。

登録を保存するには、「保存」ボタンを押します。

ポートブロック開始

リストにて選択されているクライアントの通信がブロックされます。
ブロック中は、リスト内のポートブロックアイコン(左から 5 つめの項目)が点灯します。

ポートブロック解除

リストにて選択されているクライアントの通信ブロックが解除されます。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオン」の時のみ実行可能です。
- ・ポートブロック中でも一度ログオフすると解除されます。常時ポートブロックを行いたい場合は、「[利用制限](#)」にてポートブロックを設定してください。

Windows2000、XP の動作

「利用制限」のポートブロック設定に優先して動作します。(同時動作不可)

本機能にてポートブロックを開始すると、「利用制限」のポートブロック設定が機能している場合、その制限内容は解除され、本機能のポートブロックが有効となります。

本機能によるポートブロックが行われているときは「利用制限」のポートブロックは無効となります。

WindowsVista、7 の動作

「利用制限」のポートブロック設定とは独立して機能します。(同時動作可能)

ネットワーク設定

クライアントのネットワーク設定を取得したり、変更することが可能です。

	コンピュータ名	MACアドレス	IPアドレス	サブネット	ゲートウェイ	優先DNS	代替DNS	IP自動	DNS自動	ドメイン	接続名
1	WIN1-PC03	001BFC331408	192.168.1.82	255.255.255.0	192.168.1.1	192.168.1.207		OFF	OFF	ent.local	イーサネット
2	ICONGA	7CE9D00244AB	192.168.1.176	255.255.255.0	192.168.1.1			ON	ON	WORKGROUP	Wi-Fi
3	XP-PC1	000EA67EBC91	192.168.1.89	255.255.255.0	192.168.1.1	192.168.1.207		OFF	OFF	ent.local	ローカル
4	WIN7-64PC0	001BFC302408	192.168.1.81	255.255.255.0	192.168.1.1	192.168.1.207		OFF	OFF	ent.local	ローカル
5	ASPIRE5535	0017C450EC63	192.168.1.179	255.255.255.0	192.168.1.1			ON	ON	GRT	ワイヤレス

以下の設定情報が取得可能です。

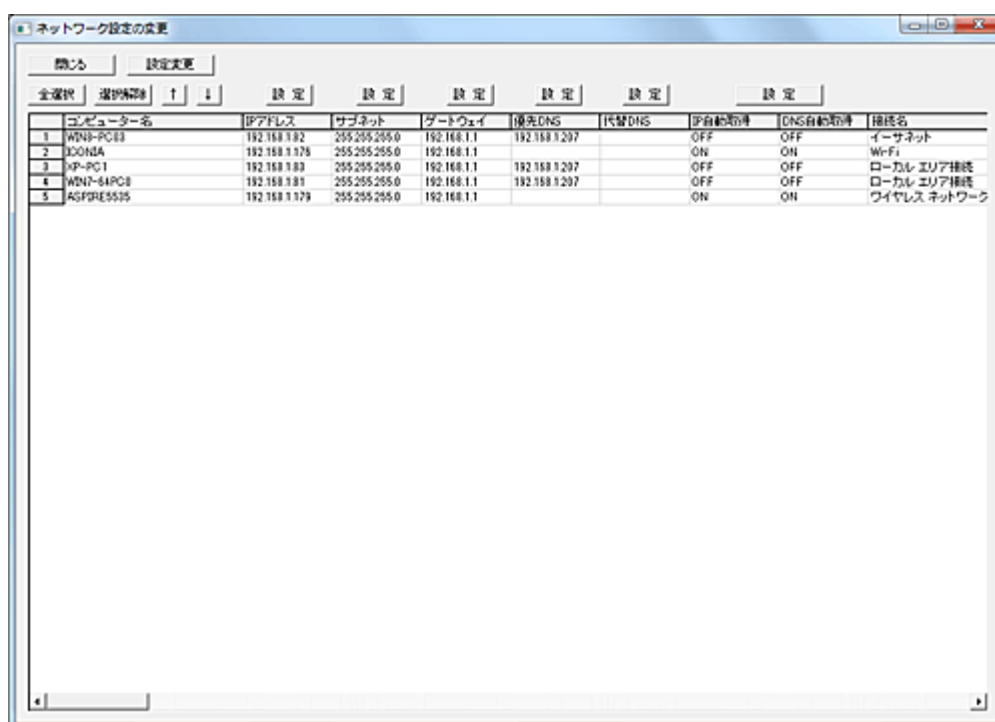
- ・MAC アドレス
- ・IP アドレス
- ・サブネット マスク
- ・デフォルト ゲートウェイ
- ・優先 DNS サーバー
- ・代替 DNS サーバー
- ・IP アドレス自動取得
- ・DNS サーバー 自動取得
- ・ドメイン
- ・接続名
- ・アダプター名

ファイルに出力

リストの内容をファイルに出力することが可能です。
各項目は","で区切られた CSV ファイルになります。

設定変更

ネットワーク設定の変更を行うには対象のクライアントを選択し、「設定変更」ボタンを押します。

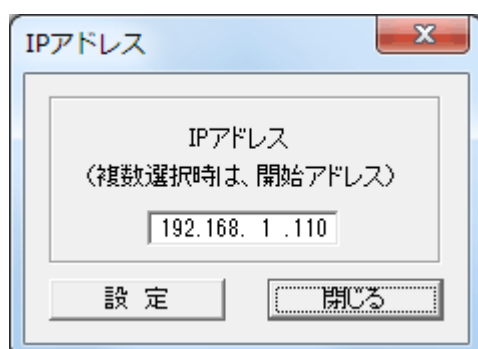


以下の設定が変更可能です。

- ・IP アドレス
- ・サブネット マスク
- ・デフォルト ゲートウェイ
- ・優先 DNS サーバー
- ・代替 DNS サーバー
- ・IP アドレス自動取得
- ・DNS サーバー 自動取得

IP アドレス

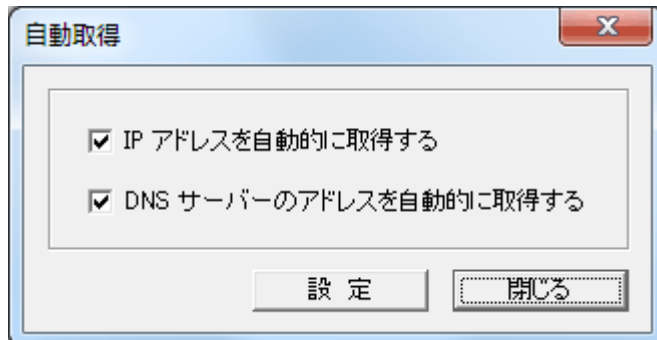
複数のクライアントを選択して実行した場合、連番で IP アドレスを割り当てます。



選択されたクライアントを、リストの上位から順番に IP アドレスの割り当てを行います。
リスト内の順番は上下の矢印ボタンで変更が可能です。

IP 自動取得、DNS 自動取得

自動取得により IP アドレス、DNS の設定を行います。



注意

- ・複数のネットワークデバイスが搭載されたクライアントの場合、クライアントプログラムが利用しているネットワークデバイスが取得、変更の対象となります。
- ・同時にネットワークの設定変更が可能なクライアント台数は、安全のため 254 台以下に制限されています。
- ・IP アドレスの設定は、他のコンピューターとの重複検査は行いません。
- ・IP アドレスの変更を行った場合、数分の間、クライアントの認識が出来なくなります。(自動回復します)
自動回復するまで、他の操作は行わないようにしてください。
- ・多台数のクライアントを選択して実行した場合、マネージャーPC やネットワークの性能により、ネットワーク設定の取得ができないことがあります。
その様な場合、選択台数を減らすことで改善されます。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。



防止・制限:リムーバブル制限

リムーバブルの利用制限

クライアントにおけるリムーバブルメディアの利用を、予め登録されたシリアル番号の USB メモリのみ
に制限することが可能です。
シリアル番号の登録がないリムーバブルメディアをクライアントコンピュータに接続しても直ちに切断さ
れ利用することは出来ません。

利用を許可する USB メモリの登録は「[リムーバブルメディアの利用制限登録](#)」にて行い、管理ファイル
に保存します。

管理ファイルを各クライアントに配布し、制限を開始することで本機能は有効となります。

管理ファイルの配布方法としては、クライアントを指定して手動で配布する方法(下記参照)とサーバー
を利用した自動配布があります。

表示メッセージ

登録されていないリムーバブルメディアが検出された際、本入力欄のメッセージを表示することが出来
ます。

起動時に接続されていたリムーバブルメディアが制限された場合、メッセージの表示は行いません。

入力欄が空欄の場合、メッセージウィンドウは表示されません。

メッセージの設定内容は、「制限開始」ボタンが押されたときにクライアントに対して送信されます。

他のドライブの利用制限

USB メモリ以外のドライブ(HDD、DVD、CD-ROM 等)の利用を制限することが出来ます。

「起動後に接続されたリムーバブルメディアを利用禁止にする」を選択して制限を開始すると、クライアントコンピュータが起動してから接続された HDD や DVD、CD-ROM などのリムーバブルメディアの利用が出来なくなります。

「起動時に接続されているドライブも利用禁止にする」を選択して制限を開始すると、クライアントコンピュータが起動した地点で接続されているドライブの内、取り外しが可能なすべてのドライブが強制切断されます。

この場合、USB 接続などリムーバブルタイプの HDD や CD-ROM だけでなく、本体にビルトインされたドライブも切断対象となるので注意が必要です。(システムのあるドライブは対象外です)

リムーバブルメディアの自動再生

リムーバブルメディアをコンピュータに接続すると、自動的にエクスプローラーが起動されたり、自動再生のウィンドウが表示されたりすることがあります。(自動再生機能)

リムーバブルメディアの利用制限を行う際、これらの自動再生機能は無効にすることが推奨されます。「無効にする」を選択して「制限開始」、「制限解除」の操作を行うと、すべてのリムーバブル接続に対して自動再生機能が無効となります。

「有効にする」を選択して「制限開始」、「制限解除」の操作を行うと、すべてのリムーバブル接続に対して自動再生機能が有効となります。

本設定ではシステムのポリシーを変更するため、すでにグループポリシー等で同様の設定を行っている場合は「変更しない」を選択してください。

本設定はクライアントが次回起動した時に有効となります。

未登録のリムーバブルメディア検出時、ログアラートとして通知する

登録されていないリムーバブルメディアが検出された際、「[ログアラート](#)」の機能を利用して直ちにマネージャーに通知します。

ログアラートに「[メール通報](#)」の設定がされていれば、検出をメールにて知ることが可能となります。

本機能は「[ログ設定](#)」における「ログアラート機能を有効にする」の設定状態に関係なく機能します。

管理ファイル配布

「リムーバブルの利用制限登録」にて登録された USB メモリのシリアル番号情報(管理ファイル)をクライアントに送信します。

リストにて選択されたクライアントに対して管理ファイルを配布します。

※本機能で使用する管理ファイルは、「リムーバブルの利用制限登録」の保存終了時に作成されます。

「リムーバブルの利用制限登録」画面の「配布用ファイル作成」にて作成されるファイルは、本機能で使用する物とは異なります。

制限開始

リストにて選択されたクライアントにおいて、リムーバブルメディアの利用制限を開始します。

一度利用制限を開始すると、制限解除の操作を行うまで、クライアントが再起動しても制限動作を継続します。

制限解除

リストにて選択されたクライアントにおいて、リムーバブルメディアの利用制限を解除します。

設定確認

リストにて選択されたクライアントにおける利用制限の動作状態を取得し、「情報」欄に表示します。

注意

本機能は、「制限内容の設定」-「[リムーバブルメディアの利用禁止](#)」機能とは分離独立して動作します。

USB メモリの仕様によっては、ハードウェア内部に有効なシリアル番号を持たない物も存在し、そのような製品は本機能では管理対象外となります。

リムーバブルメディアの仕様によっては、独自ドライバで動作する物など利用制限が行えないデバイスがあります。

リムーバブルメディアの仕様によっては、強制切断を行うと障害が発生することがあります。そのような環境では本機能の利用はお控えください。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

リムーバブルの利用制限登録

情報漏洩防止
利用制限
OP 機能

利用を許可する USB メモリの登録、管理を行います。

	シリアル番号	ベンダー名	製品名	使用者	メモ
1	E79997890E1409AF	BUFFALO	RUF2-HSCL		
2	299997000000T2245	GENERAL	USB_FLASH_DISK		
3	799997000000T2245	JETFLASH	TRANSCEND_XGB		
4	881D0F0C88875C88190B0A8B	KINGSTON	DATA TRAVELER_Q2		
5	37A31A0591742D4		USB_DISK_2.0		
6	AA3A31270000000036	KINGMAX	USB2.0_FLASH_DISK		
7	AA2000000000000044	USB_2.0	USB_FLASH_DRIVE		
8	AA2000000000000033	USB_2.0	USB_FLASH_DRIVE		
9	SF4C096888D2		CHIPDRIVE		

登録するUSBメモリ

シリアル番号:
E2910932243CF

ベンダー名:
JETFLASH

製品名:
TS128M.JF110

使用者:
一括入力

メモ:
一括入力

取り外し 追加登録 ログから読み込 削除 配布用ファイル作成 保存終了 閉じる

登録画面が表示されている状態で、USB メモリをマネージャーPC に接続すると「シリアル番号」、「ベンダー名」、「製品名」が自動取得され、ウィンドウ下部の入力欄に表示されます。

USB メモリの仕様によっては「ベンダー名」と「製品名」が取得出来なかったり、誤った情報が取得されることがありますので手動で補正してください。

シリアル番号が取得されなかった場合、その USB メモリはこの機能では管理できないことになります。

必要に応じて、「使用者」および「メモ」の入力を行います。

リスト内の複数の USB メモリを選択して「一括入力」することも可能です。

クライアントコンピューターにおいて USB メモリの識別に利用するのは**シリアル番号**だけで、その他の項目は参照しません。

従って、シリアル番号以外の項目は空欄でもかまいません。

追加登録

「追加登録」ボタンを押すと、入力欄の内容がリストに登録されます。

この時、接続した USB メモリは自動的にシステムから取り外されます。

登録せずに USB メモリの取り外しだけを行いたい場合は、「取り外し」ボタンを押します。

リスト内の USB メモリを選択(複数可)し、「削除」ボタンを押すとリストから削除されます。

「保存終了」ボタンを押すと、リストの登録内容をファイルに保存して終了します。

ログから読み込

USB メモリの登録を、回収されたログファイル又はログアラート記録から抽出することが出来ます。

この方法では登録する USB メモリ本体を管理者側に回収する必要はなく、すでに利用中の USB メモリの登録には最適と言えます。

ログから USB メモリ情報を取得するには、ログの記録内容として「デバイスの利用」が設定されている必要があります。

「ログから読込」ボタンを押し、読み込むログファイルを選択してください。

「使用者」欄には記録されたときのユーザー名が、「メモ」欄にはコンピュータ名と記録日時が出力されます。

[ログアラート](#)機能を利用してデバイスの利用情報だけを集中的に収集するのも効果的です。

[ログアラート表示](#)から登録対象の項目だけを別ファイルに出力してから読み込むことで効率的な登録が可能となります。

保存終了

登録作業の完了後、「保存終了」ボタンを押して登録内容を管理ファイルに保存してください。

配布用ファイル作成

「[リムーバブル管理ファイルの自動配布](#)」にて使用するファイルを作成します。

保存するフォルダを指定し「OK」ボタンを押してファイルを保存します。

ファイル名は「RmvSer.dat」となり、変更することは出来ません。

本ファイルは暗号化されており、エディタ等で内容を確認したり、変更することは出来ません。

作成した「RmvSer.dat」は、指定されたサーバーの共有フォルダにそのまま配置してください。

※「リムーバブルの利用制限」の「管理ファイル配布」にてクライアントに配布されるファイルは、本機能で作成するものとは異なります。

リムーバブル管理ファイルの自動配布

通常、クライアントに対してリムーバブル管理ファイルの配布を行うには、「リムーバブルの利用制限」にて「管理ファイル配布」の操作をマネージャーから手動で行います。

この方法では、実行時に起動していないクライアントには配布が行えないことになります。

以下に説明する「リムーバブル管理ファイルの自動配布」機能を利用することで、このような不都合を回避することが可能です。

共有フォルダに USB メモリのシリアル番号が登録された「リムーバブル管理ファイル(RmvSer.dat)」を配置しておくことで、クライアントが起動したときに自動ダウンロードして適用させることができます。配布するリムーバブル管理ファイルは「[リムーバブルの利用制限登録](#)」にて作成します。本機能を利用するには、対象となる起動中のクライアントをリストにて選択し、以下の設定を行います。

利用する、利用しない

本機能を利用するか、しないかを選択します。

「利用しない」を選択した場合、以降の設定の有無に拘わらず機能は無効となります。

リムーバブル管理ファイルの配布サーバー

リムーバブル管理ファイルを配置するサーバーの共有フォルダを UNC 名で記述します。

ここで登録したフォルダ内に配置したリムーバブル管理ファイルは、全クライアント共通に配布されます。本項目の設定が空欄であったり設定値が適正でない場合、クライアント側で本機能は実行されません。

共有フォルダアクセス用ユーザー名

クライアントが共有フォルダに接続するときに使用するユーザー名(アカウント名)を記述します。

共有フォルダアクセス用パスワード

クライアントが共有フォルダに接続するときに使用するパスワードを記述します。

暗号化する

「共有フォルダアクセス用ユーザー名」および「共有フォルダアクセス用パスワード」がクライアント側に登録される際、設定値を暗号化します。

セキュリティ確保上、設定することが推奨されます。

暗号化する場合、設定値には日本語の文字列を使用することは出来ません。(半角の英数字のみ)

タイムアウト

クライアントが何らかの理由でサーバーとの接続に失敗したり、ファイルのダウンロードが出来ない場合、設定した時間で処理を中断します。

設定値は秒単位とします。

設定

「設定」ボタンを押すと、設定された内容がクライアントに送信され、クライアント側のレジストリに保存されます。

設定確認

クライアントに設定されている内容を確認できます。

クライアントから取得した設定内容は、クライアントリストの「情報」欄に表示されます。

注意

- ・リムーバブル管理ファイルのファイル名は「RmvSer.dat」から変更することは出来ません。
- ・サーバーからのリムーバブル管理ファイルのダウンロードは、クライアント PC が起動した時になります。(ログオン時ではありません。)
- ・共有フォルダは、配信性能や同時接続数などの関係で、クライアント OS 上(XP、Vista、7、8 など)ではなく、サーバーOS 上(Server 2003、2008、2012 など)に設置されることをお勧めします。
- ・共有フォルダにリムーバブル管理ファイルが存在しない場合、前回起動時に適用されていたリムーバブル管理ファイルの内容で利用制限が課せられます。
- ・共有フォルダには、全ユーザーに対して適切なアクセス権限を与えてください。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

プレゼン・コミュニケーション

メッセージ文の送信



リストにて選択されているクライアントに対してメッセージを送信することが可能です。
「クライアントがこの送信に対して返信できるようにする。」のチェックをオンにして送信すると、受信したクライアントはそのままマネージャーに対して返信文を送信する事が可能となります。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオン」の時のみ実行可能です。

PC 別メッセージ文の配信

コミュニケーション
プレゼン
OP 機能

クライアントがログオンした際、任意のメッセージ文を表示させることが出来ます。
PC(コンピュータ)ごとに異なるメッセージ文を表示させることが可能です。

PC別メッセージ文の配信

メッセージ文
4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。

動作設定
☒ PC別メッセージ配信を有効にする
自動消去時間: 0 秒 0 分 無限

開始日時
2011/03/25 00:00

終了日時
2011/04/15 23:59

☒ 繰り返し表示

表示日時消去
すべて消去 選択消去

グループ名	コンピュータ名	開始日時	終了日時	繰り返し	表示日時	メッセージ文
1 無所属	W07-64PC0	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
2 無所属	MARS-732	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
3 無所属	ASPRE5535	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
4 無所属	XP-PC1	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
5 無所属	WS03-W07P00	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
6 無所属	W07-PC2	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
7 無所属	W07	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
8 無所属	VIRTUALXP-37204	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
9 無所属	TEST-PC1	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
10 無所属	QZUM-PC	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
11 無所属	HP-TX1000	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
12 無所属	GRAND-PC	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
13 無所属	CF-R4	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
14 無所属	BUSINESS-PC5	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
15 無所属	WS-124	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
16 無所属	WS-123	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
17 無所属	WS-122	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
18 無所属	WS-121	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
19 無所属	WS-120	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
20 無所属	XP-PC4	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
21 無所属	VISTA-PC2	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
22 無所属	TEST	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
23 無所属	ROOT-PC	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
24 無所属	HOMEPREMIUM-PC	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
25 無所属	GOLD	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
26 無所属	BUSINESS-PC4	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
27 無所属	YAW01	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
28 無所属	ULTIMATE64-PC	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
29 無所属	ULTIMATE-PC1	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。
30 無所属	Server2	2011/03/25 00:00	2011/04/15 23:59	ON		4月1日から4月15日まで、19:00以降のコンピュータ利用はできません。

メッセージデータの作成

メッセージデータを作成するには、対象となるクライアントをリストに登録する必要があります。
登録は「追加登録」ボタンを押します。



登録

メッセージデータ作成の対象となるクライアントを選択し、「登録」ボタンを押すとメイン画面のリストに登録されます。

すでに登録がある場合、そのデータの過去の登録内容はすべてクリアされます。

全 PC

すべてのクライアントを対象としたい場合、個々のコンピューターを登録する必要はありません。

「全 PC」ボタンを押して登録することで、すべてのクライアントに対してメッセージ文が配信されます。

「全 PC」を登録する際、登録済みのメッセージデータはすべて削除されます。

登録削除

メッセージデータを削除するには、対象のデータを選択して「登録削除」ボタンを押します。

PC 別メッセージ配信を有効にする

本機能を利用するには、この項目を選択し「保存・設定」ボタンを押します。

自動消去時間

クライアントで表示されたメッセージ文を指定された時間経過後に自動消去することが出来ます。

自動消去を行わない場合は、設定値に“0”を入力してください。

メッセージデータの登録や変更は、対象のクライアントをリストから選択(複数可)して以下の操作を行います。

メッセージ文

表示するメッセージを登録します。

メッセージ文の入力欄に表示文を入力して「設定」ボタンを押すと、リストのメッセージ欄に登録されま

す。

登録可能なメッセージ文の長さは、全角で 500 文字以内となります。
クライアントに表示されときの横幅は OS 種別によって若干異なりますが、概ね入力ボックスのサイズと同じです。

改行は自由ですが、リスト内に登録されたときは表示の関係で“**¶**”に置き換わります。
任意のクライアントをリスト上で右クリックすると、登録されているメッセージ文が入力ボックスにコピーされて編集が可能となります。

メッセージ文の削除を行う場合は、クライアントを選択して「消去」ボタンを押します。

有効期間

登録されたメッセージデータの有効期間を指定します。
有効期間は、開始日時と終了日時を指定することが可能です。
開始日時の登録がない場合(空欄)は、開始日時のチェックは行われません。
終了日時の登録がない場合(空欄)は、終了日時のチェックは行われず期限なしとなります。

繰り返し表示

メッセージデータが新規登録された場合、本項目は自動的に“ON”の状態となり、設定された有効時間内であれば何度でも同じ表示が繰り返されます。
一方、メッセージデータの表示を一度だけに限定したい場合は、本項目の選択を解除します。

実行日時消去

登録されたメッセージがクライアントで表示されると、リストの「表示日時」欄にその日時が表示されます。
繰り返しの設定が解除された状態(“ON”でない)で表示日時に表示がある場合、そのメッセージデータの表示は二度と行われません。
「表示日時」欄を消去すると、一度表示されたメッセージデータでも、有効期間内であれば再表示させることができます。
対象のメッセージデータを選択し、「表示日時消去」ボタンを押すことで「表示日時」欄が消去されます。

保存・設定

メッセージデータの登録や動作設定などを行った場合は、必ず「保存・設定」ボタンを押して保存操作を行ってください。

【動作条件】

本機能の設定や登録を行うとき、クライアントコンピューターの電源は入っている必要は無く設定内容がクライアントに保存されることはありません。

「メッセージ文の自動配信」機能はマネージャー側でサービスプログラムとして動作します。
マネージャーコンピューターの電源さえ入っていれば、ログオフ状態でも動作可能です。

注意

複数のマネージャーを設置して共通のクライアントを管理している環境では、「[メッセージ文配信サーバーの設定](#)」を行う必要があります。

ユーザー別メッセージ文の配信

クライアントがログオンした際、任意のメッセージ文を表示させることができます。
ログオンユーザーごとに異なるメッセージ文を表示させることが可能です。

コミュニケーション
プレゼン
OP 機能

ユーザー名	開始日時	終了日時	稼働状況	表示日時	メッセージ文
1 Ouma	2011/03/01 00:00	2011/03/31 23:59	ON		3月31日までに来年度の計画書を提出してください。管理課おのりあせです。
2 Wakana	2011/03/01 00:00	2011/03/31 23:59	ON		3月31日までに来年度の計画書を提出してください。管理課おのりあせです。
3 Maeda	2011/03/01 00:00	2011/03/31 23:59	ON		3月31日までに来年度の計画書を提出してください。管理課おのりあせです。
4 Shida	2011/03/01 00:00	2011/03/31 23:59	ON		3月31日までに来年度の計画書を提出してください。管理課おのりあせです。
5 Maie	2011/03/01 00:00	2011/03/31 23:59	ON		3月31日までに来年度の計画書を提出してください。管理課おのりあせです。
6 Thikazama	2011/03/01 00:00	2011/03/31 23:59	ON		3月31日までに来年度の計画書を提出してください。管理課おのりあせです。
7 Yuku	2011/03/01 00:00	2011/03/31 23:59	ON		3月31日までに来年度の計画書を提出してください。管理課おのりあせです。
8 Kuroda	2011/03/01 00:00	2011/03/31 23:59	ON		3月31日までに来年度の計画書を提出してください。管理課おのりあせです。
9 Peter	2011/03/01 00:00	2011/03/31 23:59	ON		3月31日までに来年度の計画書を提出してください。管理課おのりあせです。
10 Tanaka	2011/03/01 00:00	2011/03/31 23:59	ON		3月31日までに来年度の計画書を提出してください。管理課おのりあせです。

ユーザー登録

本機能を利用するには予め配信の対象となるユーザーを登録する必要があります。
ユーザー登録は「追加登録」ボタンを押して行います。

	ユーザー名
1	Oshio
2	Wakana
3	Manda
4	Ishida
5	Mike
6	Taniakagawa
7	Yuki
8	Kuroda
9	Peter
10	STanaka

登録

ユーザー名を入力し、「登録」ボタンを押すとリストに追加登録されます。

読み込み

ユーザー名をファイルから読み込んで登録することが出来ます。

読み込むファイルは、1行につき1ユーザー名を記述したテキストファイルとします。

削除

ユーザー名を選択して「削除」ボタンを押すと、リストから削除します。

保存

登録作業が完了したら、必ず「保存」ボタンを押してファイルに保存する必要があります。

メッセージデータの作成

メッセージデータを作成するには、対象となるユーザーをリストに登録する必要があります。

登録は「ユーザー登録」の画面で行います。(上記説明)

メッセージデータ作成の対象となるユーザーを選択し、「追加登録」ボタンを押すとメイン画面のリストにユーザーデータが登録されます。

すでに登録がある場合、そのデータの過去の登録内容はすべてクリアされます。

登録削除

メッセージデータを削除するには、対象のデータを選択して「登録削除」ボタンを押します。

ユーザー別メッセージ配信を有効にする

本機能を利用するには、この項目を選択し「保存・設定」ボタンを押します。

自動消去時間

クライアントで表示されたメッセージ文を指定された時間経過後に自動消去することが出来ます。
自動消去を行わない場合は、設定値に“0”を入力してください。

メッセージデータの登録や変更は、対象のユーザーをリストから選択(複数可)して以下の操作を行います。

メッセージ文

表示するメッセージを登録します。

メッセージ文の入力欄に表示文を入力して「設定」ボタンを押すと、リストのメッセージ欄に登録されます。

登録可能なメッセージ文の長さは、全角で 500 文字以内となります。

クライアントに表示されるとき横幅は OS 種別によって若干異なりますが、概ね入力ボックスのサイズと同じです。

改行は自由ですが、リスト内に登録されたときは表示の関係で“\n”に置き換わります。

任意のユーザーをリスト上で右クリックすると、登録されているメッセージ文が入力ボックスにコピーされて編集が可能となります。

メッセージ文の削除を行う場合は、ユーザーを選択して「消去」ボタンを押します。

有効期間

登録されたメッセージデータの有効期間を指定します。

有効期間は、開始日時と終了日時を指定することが可能です。

開始日時の登録がない場合(空欄)は、開始日時のチェックは行われません。

終了日時の登録がない場合(空欄)は、終了日時のチェックは行われず期限なしとなります。

繰り返し表示

メッセージデータが新規登録された場合、本項目は自動的に“ON”の状態となり、設定された有効時間内であれば何度でも同じ表示が繰り返されます。

一方、メッセージデータの表示を一度だけに限定したい場合は、本項目の選択を解除します。

実行日時消去

登録されたメッセージがクライアントで表示されると、リストの「表示日時」欄にその日時が表示されます。
繰り返しの設定が解除された状態(“ON”でない)で表示日時に表示がある場合、そのメッセージデータの表示は二度と行われません。

「表示日時」欄を消去すると、一度表示されたメッセージデータでも、有効期間内であれば再表示させることができます。

対象のメッセージデータを選択し、「表示日時消去」ボタンを押すことで「表示日時」欄が消去されます。

保存・設定

メッセージデータの登録や動作設定などを行った場合は、必ず「保存・設定」ボタンを押して保存操作を行ってください。

【動作条件】

本機能の設定や登録を行うとき、クライアントコンピューターの電源は入っている必要は無く、設定内容がクライアントに保存されることはありません。

「メッセージ文の自動配信」機能はマネージャー側でサービスプログラムとして動作します。
マネージャーコンピューターの電源さえ入っていれば、ログオフ状態でも動作可能です。

注意

複数のマネージャーを設置して共通のクライアントを管理している環境では、「[メッセージ文配信サーバーの設定](#)」を行う必要があります。

メッセージのタイマー表示

クライアントにおいて、任意の時間にメッセージ文を表示させることができます。
PC(コンピューター)ごとに異なるメッセージ文を表示させることが可能です。
コンピューターを利用する特定のユーザーだけにメッセージを表示させる事も出来ます。

メッセージのタイマー表示

メッセージ文
コンピューターの利用時間20:00までとなっています。
延長利用を希望する方は、管理室までご連絡ください。

サービス
動作状態: 動作中
開始 停止

有効期間
開始日時: 2012/08/01 00:00 終了日時: 2012/08/31 23:59
曜日: 日 月 火 水 木 金 土
表示時刻: 19:30

表示対象ユーザー
全ユーザー

すべて選択 選択解除

グループ	コンピューター名	対象ユーザー	開始日時	終了日時	表示時刻	実行曜日	メッセージ文
1	事務所	WS-124	2012/08/01 00:00	2012/08/31 23:59	19:30		コンピューターの利用時間20:00までとなっています。
2	受付	WS-124	2012/08/01 00:00	2012/08/31 23:59	19:30		コンピューターの利用時間20:00までとなっています。
3	事務所	WS-123	2012/08/01 00:00	2012/08/31 23:59	19:30		コンピューターの利用時間20:00までとなっています。
4	事務所	WS-122	2012/08/01 00:00	2012/08/31 23:59	19:30		コンピューターの利用時間20:00までとなっています。
5	事務所	WS-121	2012/08/01 00:00	2012/08/31 23:59	19:30		コンピューターの利用時間20:00までとなっています。
6	事務所	WS-120	2012/08/01 00:00	2012/08/31 23:59	19:30		コンピューターの利用時間20:00までとなっています。
7	管理室	VISTA-PC2	2012/08/01 00:00	2012/08/31 23:59	19:30		コンピューターの利用時間20:00までとなっています。
8	管理室	ROOT-PC	2012/08/01 00:00	2012/08/31 23:59	19:30		コンピューターの利用時間20:00までとなっています。
9	管理室	HOMEPC200M-PC	2012/08/01 00:00	2012/08/31 23:59	19:30		コンピューターの利用時間20:00までとなっています。
10	管理室	GOLD	2012/08/01 00:00	2012/08/31 23:59	19:30		コンピューターの利用時間20:00までとなっています。
11	管理室	BUSINESS-PC4	2012/08/01 00:00	2012/08/31 23:59	19:30		コンピューターの利用時間20:00までとなっています。
12	管理室	2KJ	2012/08/01 00:00	2012/08/31 23:59	19:30		コンピューターの利用時間20:00までとなっています。
13	ライブラリー	YAYOI	2012/08/01 00:00	2012/08/31 23:59	19:30		コンピューターの利用時間20:00までとなっています。
14	システム室	ULTIMATE4-PC	2012/08/01 00:00	2012/08/31 23:59	19:30		コンピューターの利用時間20:00までとなっています。
15	システム室	ULTIMATE-PC1	2012/08/01 00:00	2012/08/31 23:59	19:30		コンピューターの利用時間20:00までとなっています。
16	システム室	BLACK	2012/08/01 00:00	2012/08/31 23:59	19:30		コンピューターの利用時間20:00までとなっています。
17	システム室	Server1	2012/08/01 00:00	2012/08/31 23:59	19:30		コンピューターの利用時間20:00までとなっています。
18	システム室	CGK6-1	2012/08/01 00:00	2012/08/31 23:59	19:30		コンピューターの利用時間20:00までとなっています。
19	システム室	Server2	2012/08/01 00:00	2012/08/31 23:59	19:30		コンピューターの利用時間20:00までとなっています。
20	オープン室1	OIZUMI-PC	2012/08/01 00:00	2012/08/31 23:59	19:30		コンピューターの利用時間20:00までとなっています。
21	オープン室1	XP-PC1	2012/08/01 00:00	2012/08/31 23:59	19:30		コンピューターの利用時間20:00までとなっています。
22	オープン室1	WIN6	2012/08/01 00:00	2012/08/31 23:59	19:30		コンピューターの利用時間20:00までとなっています。

メッセージデータの作成

メッセージデータを作成するには、対象となるクライアントをリストに登録する必要があります。
登録は「追加登録」ボタンを押します。



リストにはマネージャーのメイン画面に登録されているクライアントが自動表示されます。
リスト内のクライアントを選択し「追加登録」ボタンを押すと、メッセージ表示対象クライアントとしてトップ画面のリストに登録されます。

メッセージデータの登録や変更は、設定対象のクライアントをリストから選択(複数可)して以下の操作を行います。

メッセージ文

表示するメッセージを登録します。

メッセージ文の入力欄に表示文を入力して「設定」ボタンを押すと、リストのメッセージ欄に登録されます。

登録可能なメッセージ文の長さは、全角で 500 文字以内となります。

クライアントに表示されときの横幅は OS 種別によって若干異なりますが、概ね入力ボックスのサイズと同じです。

改行は自由ですが、リスト内に登録されたときは表示の関係で“␣”に置き換わります。

任意のクライアントをリスト上で右クリックすると、登録されているメッセージ文が入力ボックスにコピーされて編集が可能となります。

メッセージ文の削除を行う場合は、クライアントを選択して「消去」ボタンを押します。

メッセージ文の登録がない場合、クライアントにてメッセージ表示のウィンドウは表示されません。

有効期間

登録されたメッセージデータの有効期間を指定します。

有効期間は、開始日時と終了日時を指定することが可能です。

開始日時の登録がない場合(空欄)は、開始日時のチェックは行われません。
終了日時の登録がない場合(空欄)は、終了日時のチェックは行われず期限なしとなります。

曜日

1週間の中で表示したい曜日を登録します。
登録が全くない場合(空欄)、すべての曜日が実行対象となります。(「日月火水木金土」と同等)

表示時刻

メッセージを表示する時刻を設定します。
登録がない場合、メッセージの表示は行われません。

表示対象ユーザー

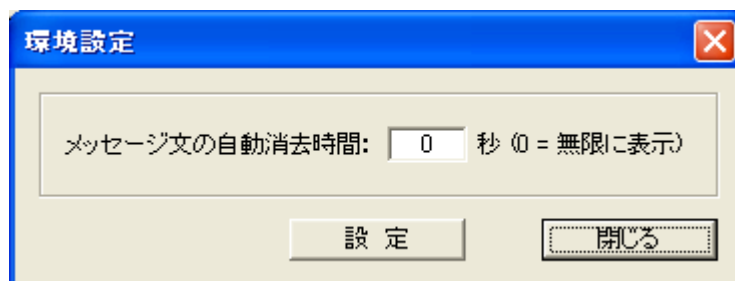
クライアントをリストに追加登録した直後は「全ユーザー」が表示対象となっています。
特定のユーザーのみにメッセージを表示したい場合は、表示対象ユーザーにユーザー名を登録します。
表示対象ユーザー入力欄には、ログオンユーザー名やグループ名(属性)を入力します。
「参照」ボタンを押すことで、登録されているユーザー情報をリストから選択、取得することが可能です。
「全ユーザー」を選択すると、クライアントにログオンするすべてのユーザーが対象となります。

登録削除

メッセージデータを削除するには、対象のデータを選択して「登録削除」ボタンを押します。

環境設定

クライアントで表示されたメッセージ文を指定された時間経過後に自動消去することが出来ます。
自動消去を行わない場合は、設定値に“0”を入力してください。



保存適用

メッセージデータの登録や動作設定などを行った場合は、必ず「保存適用」ボタンを押して保存操作を行ってください。

【動作条件】

本機能の設定や登録を行うとき、クライアントコンピューターの電源は入っている必要は無く設定内容がクライアントに保存されることはありません。

「メッセージのタイマー表示」機能はマネージャー側でサービスプログラムとして動作します。
マネージャーコンピューターの電源さえ入っていれば、ログオフ状態でも動作可能です。

表示するメッセージ情報は、クライアントがログオンしたときにマネージャーから送出されます。
クライアントがログオンした後に行われた設定変更は、次回クライアントがログオンするまで反映されません。

どうしても緊急に反映させたい場合は、「[クライアントリセット](#)」を実行する事で可能です。
ただし、他の機能の動作に影響を及ぼすことがあります。

注意

複数のマネージャーを設置して共通のクライアントを管理している環境では、「[メッセージ文配信サーバーの設定](#)」を行う必要があります。

ユーザー別メッセージのタイマー表示

クライアントにおいて、任意の時間にメッセージ文を表示させることができます。
ユーザーごとに異なるメッセージ文を表示させることが可能です。

コミュニケーション
プレゼン
OP 機能

メッセージデータの作成

メッセージデータを作成するには、対象となるユーザーをリストに登録する必要があります。
登録は「[ユーザー登録](#)」ボタンを押します。

メッセージデータの登録や変更は、設定対象のユーザーをリストから選択(複数可)して以下の操作を行います。

メッセージ文

表示するメッセージを登録します。

メッセージ文の入力欄に表示文を入力して「設定」ボタンを押すと、リストのメッセージ欄に登録されます。

登録可能なメッセージ文の長さは、全角で 500 文字以内となります。

クライアントに表示されるときは横幅は OS 種別によって若干異なりますが、概ね入力ボックスのサイズと同じです。

改行は自由ですが、リスト内に登録されたときは表示の関係で“\n”に置き換わります。

任意のユーザーをリスト上で右クリックすると、登録されているメッセージ文が入力ボックスにコピーされて編集が可能となります。

メッセージ文の削除を行う場合は、ユーザーを選択して「消去」ボタンを押します。
メッセージ文の登録がない場合、クライアントにてメッセージ表示のウィンドウは表示されません。

有効期間

登録されたメッセージデータの有効期間を指定します。
有効期間は、開始日時と終了日時を指定することが可能です。
開始日時の登録がない場合(空欄)は、開始日時のチェックは行われません。
終了日時の登録がない場合(空欄)は、終了日時のチェックは行われず期限なしとなります。

曜日

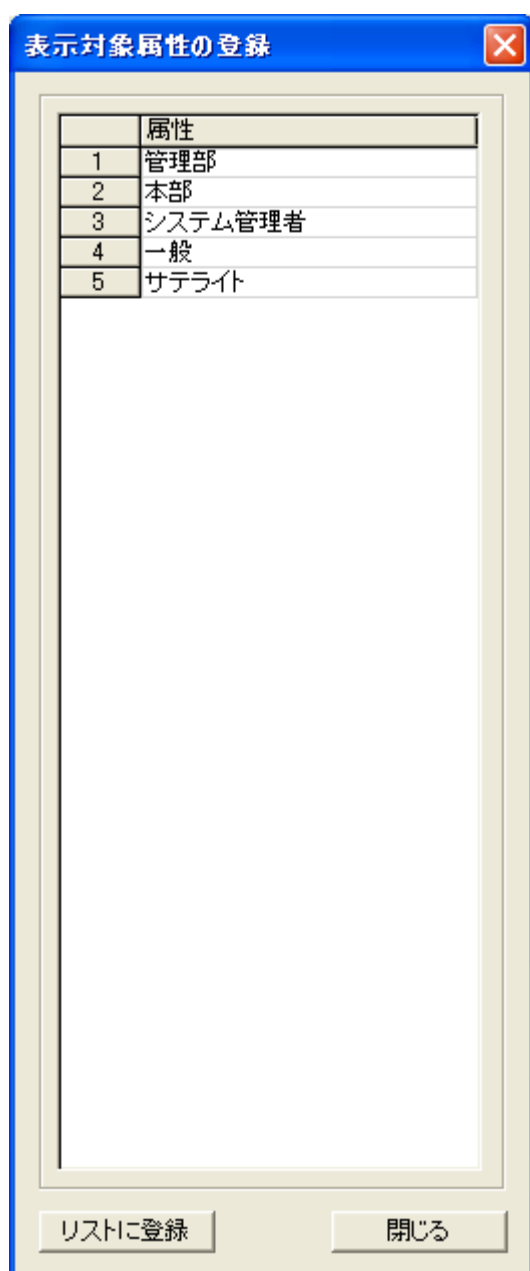
1週間の中で表示したい曜日を登録します。
登録が全くない場合(空欄)、すべての曜日が実行対象となります。(「日月火水木金土」と同等)

表示時刻

メッセージを表示する時刻を設定します。
登録がない場合、メッセージの表示は行われません。

属性登録

メッセージを表示する対象をユーザー名で指定するのではなく、ユーザーが持つグループ名などの属性で指定することが出来ます。
グループ単位で共通のメッセージ表示が可能な場合は、個々のユーザー名を登録するよりも効率的です。



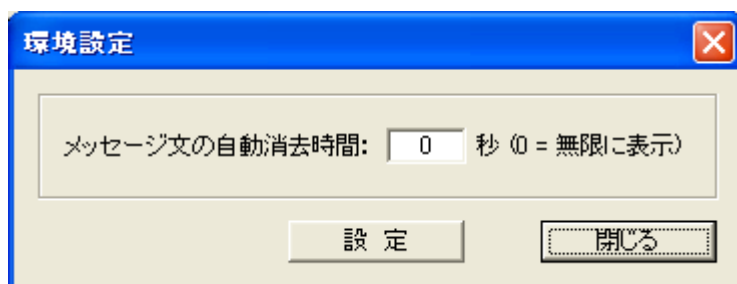
「ユーザー登録」画面にて登録されている属性がリストに表示されます。
登録したい属性を選択(複数選択可)し、「リストに登録」ボタンを押すと、メッセージ表示対象ユーザーとしてトップ画面のリストに登録されます。

登録削除

メッセージデータを削除するには、対象のデータを選択して「登録削除」ボタンを押します。

環境設定

クライアントで表示されたメッセージ文を指定された時間経過後に自動消去することが出来ます。
自動消去を行わない場合は、設定値に“0”を入力してください。



保存適用

メッセージデータの登録や動作設定などを行った場合は、必ず「保存適用」ボタンを押して保存操作を行ってください。

【動作条件】

本機能の設定や登録を行うとき、クライアントコンピューターの電源は入っている必要は無く設定内容がクライアントに保存されることはありません。

「ユーザー別メッセージのタイマー表示」機能はマネージャー側でサービスプログラムとして動作します。マネージャーコンピューターの電源さえ入っていれば、ログオフ状態でも動作可能です。

表示するメッセージ情報は、クライアントがログオンしたときにマネージャーから送出されます。クライアントがログオンした後に行われた設定変更は、次回クライアントがログオンするまで反映されません。

どうしても緊急に反映させたい場合は、「[クライアントリセット](#)」を実行する事で可能です。

ただし、他の機能の動作に影響を及ぼすことがあります。

注意

複数のマネージャーを設置して共通のクライアントを管理している環境では、「[メッセージ文配信サーバーの設定](#)」を行う必要があります。

表示対象ユーザーの登録

メッセージの表示対象とするユーザーを登録します。

1 ユーザーずつ手動登録する方法と、ユーザーリストをファイルから読み込んで一括登録する方法があります。

	ユーザー名	属性1	属性2	属性3	属性4	属性5
1	guest	700123	ゲスト			
2	yashida	321569	管理者	サテライト		
3	peter	664703	一般	サテライト		
4	allen	675012	一般	サテライト		
5	yuko	100558	一般	本部		
6	yamada	323270	一般	本部		
7	takahashi	182275	一般	本部		
8	hanako	640987	一般	サテライト		
9	james	001011	一般	サテライト		
10	kobayashi	990017	管理者	サテライト		
11	tanaka	550572	管理者	サテライト		

ユーザー名

クライアントのユーザー名(アカウント名)を入力し、「追加登録」ボタンを押すとリストに追加されます。ユーザー名はクライアントがログオンするときのアカウント名を正確に登録する必要があります。ユーザー名の大小区別は行いません。

登録したユーザーを削除するには、対象のユーザーをリスト内で選択し「登録削除」ボタンを押します。

ユーザー属性(1～5)

ユーザーが所属するグループや任意の識別文字などを属性として登録可能です。

ユーザー属性は ActiveDirectory グループとの関連性はなく、任意のグループ名を登録することができます。

ユーザーのフルネームや社員番号、学籍番号などの識別番号を登録することも有効です。(ユニークな

値)

ユーザー属性の文字列は大小区別されますのでご注意ください。

属性の登録を行うにはリストから対象のユーザーを選択し、各属性入力欄の横にある「設定」ボタンを押します。

1～5 までの各属性の登録は連続している必要はありません。(属性 1 と属性 5 のみを登録することも有効)

対象ユーザーとして属性が指定された場合、属性 1～属性 5 の内容を一括して検索します。

指定された文字列が属性 1～属性 5 のどれかに一部でも含まれている場合、表示対象としてなりますので注意が必要です。

属性の設定を消去するには、対象のユーザーを選択して消去したい属性欄にある「消去」ボタンを押します。

保存

設定したリストの内容は、「保存」ボタンを押すことでファイルに保存されます。

読み込み

多くのユーザー登録を行う必要がある場合、ファイルからユーザーリストを読み込むことで大幅に作業の手間を省くことができます。

既存のユーザーファイル等から表示対象ユーザー登録ファイルを作成してください。

表示対象ユーザー登録ファイルの仕様(フォーマット)は以下の通りです。

- 1.ファイル名および配置するフォルダ位置は任意です。
- 2.ファイル形式はテキストで、CSV ファイルとします。
- 3.文字コードはシフト JIS とします。
- 4.1 ユーザーにつき 1 行とし、各レコードの書式は以下の通りとします。

ユーザー名,属性 1,属性 2,属性 3,属性 4,属性 5

5.ユーザー名は必須項目です。

6.各属性の設定がない場合でも、区切り文字の “,” は必ず記述する必要があります。(全部で 5 個)

注意

本機能で利用されるユーザーデータは「ユーザー別メッセージのタイマー表示」機能と共通になります。



ユーザー登録

メッセージの表示対象とするユーザーを登録します。

1 ユーザーずつ手動登録する方法と、ユーザーリストをファイルから読み込んで一括登録する方法があります。

■ 表示対象ユーザーの登録

ユーザー名:

ユーザー属性

属性1:

属性2:

属性3:

属性4:

属性5:

	ユーザー名	属性1	属性2	属性3	属性4	属性5
1	administrator	管理部	本部	システム管理者		
2	alice	一般	本部			
3	barker	管理部	本部			
4	bill	管理部	本部	システム管理者		
5	caster	管理部	本部			
6	cat	管理部	本部			
7	chen	管理部	本部			
8	foster	一般	本部			
9	hanako	管理部	本部			
10	ishida	管理部	本部			
11	keiko	管理部	本部			
12	kobayashi	一般	本部			
13	kyoko	一般	本部			
14	master	管理部	本部			
15	megumi	一般	本部			
16	mike	管理部	本部			
17	mitsui	管理部	本部			
18	molly	一般	本部			
19	morita	管理部	本部	システム管理者		
20	nagasaki	管理部	サテライト			
21	noda	一般	サテライト			
22	nori	管理部	サテライト			
23	peter	管理部	サテライト			
24	pole	一般	サテライト			
25	root	管理部	サテライト			
26	takahashi	管理部	サテライト			
27	tanaka	管理部	サテライト			

ユーザー名

クライアントのユーザー名(アカウント名)を入力し、「追加登録」ボタンを押すとリストに追加されます。ユーザー名はクライアントがログオンするときのアカウント名を正確に登録する必要があります。ユーザー名の大小区別は行いません。

登録したユーザーを削除するには、対象のユーザーをリスト内で選択し「削除」ボタンを押します。

ユーザー属性(1~5)

ユーザーが所属するグループや任意の識別文字などを属性として登録可能です。

ユーザー属性は ActiveDirectory グループとの関連性はなく、任意のグループ名を登録することができます。

ユーザーのフルネームや社員番号、学籍番号などの識別番号を登録することも有効です。(ユニークな

値)

ユーザー属性の文字列は大小区別されますのでご注意ください。

属性の登録を行うにはリストから対象のユーザーを選択し、各属性入力欄の横にある「設定」ボタンを押します。

1～5 までの各属性の登録は連続している必要はありません。(属性 1 と属性 5 のみを登録することも有効)

表示対象として属性が指定された場合、属性 1～属性 5 の内容を一括して検索します。

指定された文字列が属性 1～属性 5 のどれかに一部でも含まれている場合、表示対象としてなりますので注意が必要です。

属性の設定を消去するには、対象のユーザーを選択して消去したい属性欄にある「消去」ボタンを押します。

保存

設定したリストの内容は、「保存」ボタンを押すことでファイルに保存されます。

この保存操作では、メッセージ表示の対象データとしての登録は行われません。

以下に述べる「ユーザー登録」を行う必要があります。

読み込み

多くのユーザー登録を行う必要がある場合、ファイルからユーザーリストを読み込むことで大幅に作業の手間を省くことができます。

既存のユーザーファイル等から表示対象ユーザー登録ファイルを作成してください。

表示対象ユーザー登録ファイルの仕様(フォーマット)は以下の通りです。

- 1.ファイル名および配置するフォルダ位置は任意です。
- 2.ファイル形式はテキストで、CSV ファイルとします。
- 3.文字コードはシフト JIS とします。
- 4.1 ユーザーにつき 1 行とし、各レコードの書式は以下の通りとします。

ユーザー名,属性 1,属性 2,属性 3,属性 4,属性 5

5.ユーザー名は必須項目です。

6.各属性の設定がない場合でも、区切り文字の “,” は必ず記述する必要があります。(全部で 5 個)

ユーザー登録

リスト内のユーザーを選択し「ユーザー登録」ボタンを押すと、メッセージ表示対象ユーザーとしてトップ画面のリストに登録されます。

注意

本機能で利用されるユーザーデータは「メッセージのタイマー表示」機能と共通になります。



メッセージ文配信サーバーの設定

複数のマネージャーにてクライアントの管理を行っている場合、本機能を利用してメッセージ文の配信を行うマネージャーを、特定の 1 台に固定することができます。

この設定は「PC 別メッセージ文の配信」、「ユーザー別メッセージ文の配信」、「メッセージのタイマー表示」、「ユーザー別メッセージのタイマー表示」に対して共通に機能し、個別設定は出来ません。

この操作を行うには、マネージャーのメイン画面にて対象となるクライアントの選択を行ってから実行する必要があります。

設定内容はクライアント側のレジストリに保存されますので、実行前に設定対象のクライアントコンピューターが起動していることを確認してください。

 A screenshot of a Windows-style dialog box titled "メッセージ文配信サーバーの設定" (Message Text Distribution Server Settings). The dialog has a blue title bar with a close button (X) on the right. The main area is light gray and contains a label "IPアドレス:" followed by a text input field. At the bottom, there are four buttons: "設定確認" (Check Settings), "解除" (Cancel), "設定" (Set), and "閉じる" (Close).

設定

登録したいマネージャーの IP アドレスを入力し、「設定」ボタンを押します。

正常に登録された場合、メイン画面の「情報」欄に登録内容が表示されます。

解除

マネージャーの登録を解除したい場合、「解除」ボタンを押してください。

正常に解除された場合、メイン画面の「情報」欄に結果が表示されます。

設定確認

マネージャーの登録内容を取得し、メイン画面の「情報」欄に表示します。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。



マネージャー画像の配信

リストにて選択されているクライアントに対して、マネージャーのデスクトップ画像を配信して表示させる事が可能です。

実行を開始すると、自動的にマネージャーのウィンドウを最小化してタスクバーに格納します。

画像の配信は、[Ctrl]と[PrintScreen]キーを同時に押下することで開始します。(操作キーは変更可)

クライアントでは画像の表示と同時に、キーボードとマウスがロックされます。

「キー操作」のキーおよび「ロック」の有無は「[環境設定](#)」で変更可能です。

画像表示中、マネージャー側で[Shift]キーを押しながらマウスを移動すると、ポインターの動きがそのままクライアントでも再現されます。

「[画像配信の終了](#)」を行うまで、キー操作を行うことで何度でも画像の配信が可能です。

画像の配信方式を「[環境設定](#)」で選択できます。(ファイル転送方式、マルチキャスト方式)

配信対象のクライアント数や、ネットワーク環境などによって最適な配信方式を選択してください。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオン」の時のみ実行可能です。
- ・配信方式にマルチキャスト方式を選択した場合、IP マルチキャストの通らない、異なるセグメントのネットワークには配信出来ません。
- ・画像の配信には、数秒から数十秒の時間を要します。
- ・ネットワークやクライアントの状態によっては、正常に機能しないことがあります。
- ・配信中のキャンセルは出来ません。



クライアント画像の配信

リストにて選択されているクライアントのデスクトップ画像を他のすべてのクライアントに配信して表示させる事が可能です。

実行を開始すると、選択されているクライアントのデスクトップ画像を取得し、いったんマネージャーの画像表示域に表示します。

その後、リストに登録されているすべてのクライアントに対してその画像を配信します。

特定のクライアントに対してだけ配信したい場合は、「[取得済み画像の配信](#)」を利用してください。

クライアントでは画像の表示と同時に、キーボードとマウスがロックされます。

「ロック」の有無は「[環境設定](#)」で変更可能です。

「[画像配信の終了](#)」を行うまで、「クライアント画像の配信」の操作を行うことで何度でも画像の配信が可能です。

画像の配信方式を「[環境設定](#)」で選択できます。(ファイル転送方式、マルチキャスト方式)

配信対象のクライアント数や、ネットワーク環境などによって最適な配信方式を選択してください。

【動作条件】

- ・クライアントの状態が「ログオン」の時のみ実行可能です。
- ・配信方式にマルチキャスト方式を選択した場合、IP マルチキャストの通らない、異なるセグメントのネットワークには配信出来ません。
- ・画像の配信には、画像の内容によって数秒から数十秒の時間を要します。
- ・ネットワークやクライアントの状態によっては、正常に機能しないことがあります。
- ・配信中のキャンセルは出来ません。



取得済み画像の配信

過去に取得したクライアントのデスクトップ画像を、リストにて選択されているクライアントに配信して表示させる事が可能です。

配信される画像は、クライアント情報の履歴スクロールバーのポインタが示す位置の画像になります。取得されている画像が縮小サイズの場合、クライアントではそのまま縮小された状態で画像が表示されます。

クライアントでは画像の表示と同時に、キーボードとマウスがロックされます。

「ロック」の有無は「[環境設定](#)」で変更可能です。

「[画像配信の終了](#)」を行うまで、「取得済み画像の配信」の操作を行うことで何度でも画像の配信が可能です。

画像の配信方式を「[環境設定](#)」で選択できます。(ファイル転送方式、マルチキャスト方式)

配信対象のクライアント数や、ネットワーク環境などによって最適な配信方式を選択してください。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオン」の時のみ実行可能です。
- ・配信方式にマルチキャスト方式を選択した場合、IP マルチキャストの通らない、異なるセグメントのネットワークには配信出来ません。
- ・画像の配信には、画像の内容によって数秒から数十秒の時間を要します。
- ・ネットワークやクライアントの状態によっては、正常に機能しないことがあります。
- ・配信中のキャンセルは出来ません。



画像配信の終了

「マネージャー画像の配信」および「クライアント画像の配信」の操作によって表示されているクライアントの画像を消去し、ロックを解除します。
リストにて選択されているクライアントのみが対象となります。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオン」の時のみ実行可能です。



ブラウザ URL の配信

マネージャーの Web ブラウザに表示されているページの URL を取得し、リストにて選択されているクライアントのブラウザに同一のページを表示させることが出来ます。

「ブラウザ URL の配信」を実行するたびに、その時点で表示されているページの URL がクライアントに送信され、同一ページが表示されます。

クライアントにて Web ブラウザが起動されていない場合は、自動的に標準のブラウザが起動します。
(IE、Firefox、Opera のみ自動起動に対応)

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオン」の時のみ実行可能です。
- ・マネージャーおよびクライアントにおける Web ブラウザの種別、バージョン、環境設定などにより正常に機能しないことがあります。

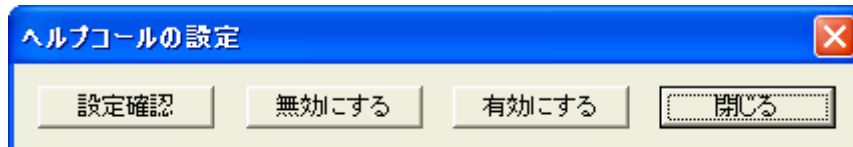
対応ブラウザ:「Internet Explorer」、「Firefox」、「Chrome」、「Opera」、「Sleipnir」



ヘルプコールの設定

クライアント側からマネージャーに対してメッセージを表示したり、ヘルプコールの通知を送ることが出来ます。

クライアントインストール直後の本機能は、無効状態となっています。



有効にする

ヘルプコール機能を有効にします。

一度設定すると、クライアントを再起動してもヘルプコール機能は有効な状態を維持します。

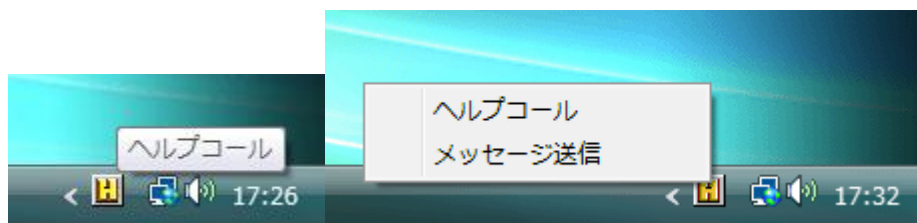
無効にする

ヘルプコール機能を無効にします。

一度設定すると、クライアントを再起動してもヘルプコール機能は無効な状態を維持します。

設定確認

ヘルプコールの設定状況を確認し、「情報」欄に表示します。



ヘルプコールが有効な場合、クライアントのタスクトレイには“H”アイコンが表示されます。

アイコンを右クリックすると、「ヘルプコール」および「メッセージ送信」のメニューが表示されます。

「ヘルプコール」を選択すると、マネージャーの「情報」欄に「ヘルプコールを受信」と表示されます。

「メッセージ送信」を選択すると、メッセージ入力画面が表示されマネージャーに対してメッセージの送信が可能になります。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

キー入力の一括送信

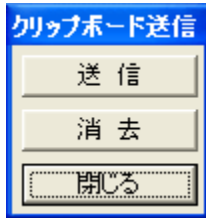


リストにて選択されているクライアントに対してキー入力操作を一括して行うことができます。
「キー送信」ウィンドウがフォーカスを持っている状態(アクティブ)で行われたキー入力がクライアントに送信されます。
 「Windows」キーについては、「Windows」ボタンを押すと送信されます。
[「リモートコントロール」](#)機能にて 1 台のクライアントの画像を表示し、反応を確認しながら本機能を利用することをお勧めします。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオン」の時のみ実行可能です。
- ・キーの連続押下操作(オートリピート)は出来ません。
- ・システムキーは送信できません。([Ctrl + Alt + Delete]など)
- ・実行対象のクライアントが多台数であったり、ネットワークの状態などによっては正常に機能しないことがあります。

クリップボード送信



送信

マネージャーのクリップボードの内容を、リストにて選択されているクライアントのクリップボードに送信、コピーすることが出来ます。

上記ウィンドウの「送信」ボタンを押すたびに、その時点のクリップボードの内容がクライアントに送信されます。

送信可能なクリップボードのデータ形式は「テキスト」のみです。

消去

リストにて選択されているクライアントのクリップボードの内容を消去することが出来ます。

クリップボードの全てのデータ形式が消去対象となります。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオン」の時のみ実行可能です。



クリップボード取得

クライアントのクリップボードに入っている内容を取得し、マネージャーのクリップボードにコピーします。
取得可能なクリップボードのデータ形式は「テキスト」のみです。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行することは出来ません。
- ・クライアントの状態が「ログオン」の時のみ実行可能です。

クライアント登録、環境設定

クライアント登録

管理するクライアントをリストに追加したり、削除したりします。
グループを作成して、クライアントを所属させることも可能です。

クライアント登録

	グループ名	コンピューター名	IPアドレス	MACアドレス	メモ
1	システム室	ULTIMATE-PC1	192.168.1.51	000ea67e8c31	
2	システム室	BLACK	192.168.1.30		
3	システム室	GREEN	192.168.1.50		
4	システム室	GX260-1	192.168.1.56	000cd534d67	
5	システム室	Server2	192.168.1.202	00301bb557ef	
6	システム室	Server1	192.168.1.201	00301bb557ef	
7	管理部	ULTIMATE-PC2	192.168.1.52		
8	管理部	ROOT-PC	192.168.1.135		
9	管理部	HOMEPREMIUM-PC	192.168.1.151	000ea67e8c31	
10	管理部	VISTA-PC2	192.168.1.52		
11	管理部	GOLD	192.168.1.55	000c11b0fc10	
12	管理部	TEST	192.168.1.59		
13	管理部	BUSINESS-PC4	192.168.1.54	000ea6ca779f	
14	整備室	XP-PC1	192.168.1.53	000ea67e8c31	修理中
15	事務所	WS-121	192.168.1.121		12/31 リース切れ
16	事務所	WS-125	192.168.1.125		12/31 リース切れ
17	事務所	WS-120	192.168.1.120		12/31 リース切れ
18	事務所	WS-123	192.168.1.123		12/31 リース切れ
19	事務所	WS-122	192.168.1.122		12/31 リース切れ
20	事務所	WS-124	192.168.1.124		12/31 リース切れ
21	受付	YAY01	192.168.1.103	00301bb557ef	

クライアント追加

クライアント削除

グループに登録

グループを解除

メモ入力

入力

ファイルから読み込

ファイルへ書出

保存しないで終了

保存して終了

【クライアント追加】

「クライアント追加」ボタンを押します。

クライアントの追加登録

自動追加 (同時認識)
 IPマルチキャストパケットを使用してクライアントを自動認識し、リストに追加登録します。
 異なるネットワークのクライアントは認識できないことがあります。

自動認識追加

自動追加 (順次スキャン)
 指定されたネットワークアドレスのクライアントを順次スキャンし、リストに追加登録します。

第1 第2 第3
 ネットワークアドレス:

スキャン追加

手動追加
 登録するクライアントのコンピュータ名とIPアドレスを入力し、「追加」ボタンを押してください。

コンピュータ名

IPアドレス

自動追加 (同時認識)

通常はこの方法でクライアントを追加登録します。

「自動認識追加」ボタンを押すと、数秒後に新しく認識したクライアントをリストに自動登録します。

この方法は、IP マルチキャストを送出してクライアントからの応答により自動追加を行います。

IP マルチキャストが通過できない、マネージャーと異なるネットワークに有るクライアントは自動認識できません。

その場合は、順次スキャンによる自動追加を行ってください。

※クライアント台数が多い場合など一回で全てを認識追加できない場合は、数回この操作を行ってください。(7 秒以上間隔をおいて)

自動追加 (順次スキャン)

異なるネットワークにあるクライアントを登録するには、IP アドレスを順次スキャンして認識させます。

ネットワークアドレス欄に第 3 オクテットまでのアドレスを入力して「スキャン追加」ボタンを押すと、第 4 オクテットの 1 から 254 までの IP アドレスをスキャンします。

スキャン中に反応のあったクライアントがリストに自動登録されます。

複数のネットワークをスキャンしたい場合は、アドレスの値を変えて連続実行してください。

手動追加

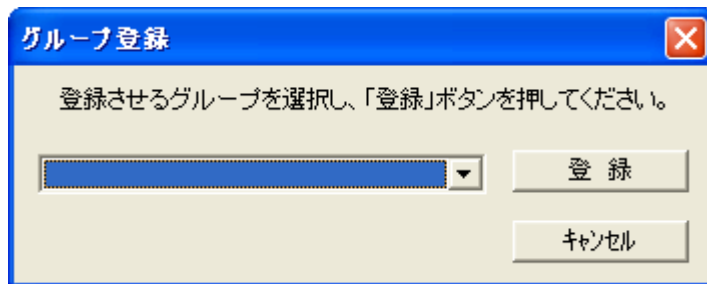
異なるネットワークにあるクライアントは自動認識追加出来ないことがあります。
その場合はクライアントのコンピュータ名と IP アドレスを入力して手動追加することが可能です。

【クライアント削除】

削除したいクライアントを選択して「クライアント削除」ボタンを押します。

【グループに登録】

グループの作成は予め「[グループ登録](#)」で行っておきます。
クライアントを選択し、「グループに登録」ボタンを押します。



所属させるグループを選択し、「登録」ボタンを押します。

【グループを解除】

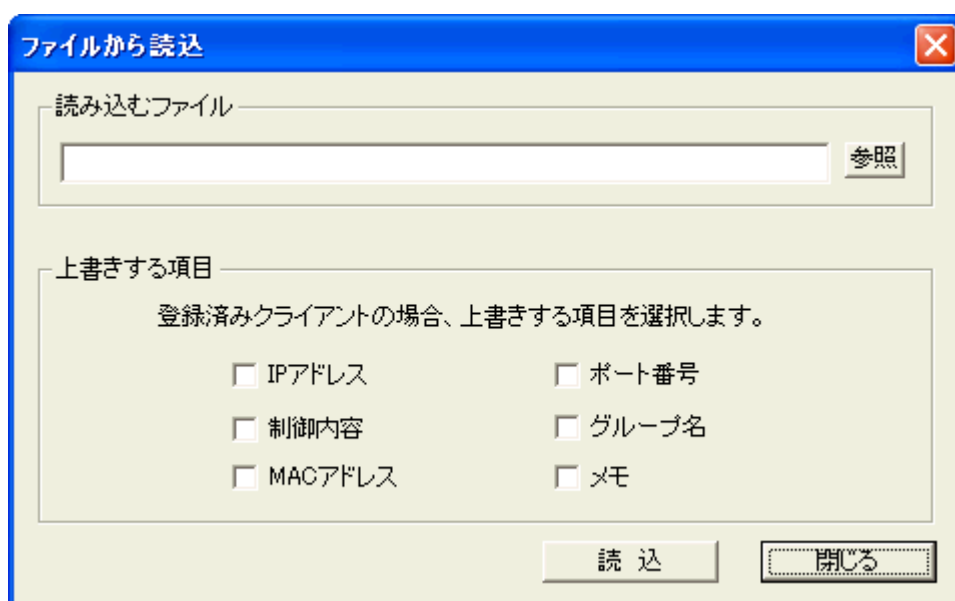
クライアントを選択し、「グループを解除」ボタンを押すと、グループ所属を解除します。
所属のないクライアントは、メイン画面グループリスト内の「その他」に表示されます。

【メモ入力】

クライアントを選択し、「入力」ボタンを押すとメモを一括入力できます。(複数同時入力可)
メモには半角のカンマ(",")を含めることは出来ません。(仕様)

【ファイルから読込】

クライアントの登録はファイルから行うことが出来ます。



すでにリスト内に同一のコンピュータ名が登録されている場合は、「上書きする項目」にて選択されている項目の値が書き換えられます。

読み込みに利用するファイルは必ず下記の書式で記述されていなければなりません。

ファイル様式:

カンマ区切り(CSV)のテキストファイルで、1レコードは改行で区切られる

項目の並び:

- 1.IP アドレス(ドット区切り)
- 2.コンピュータ名
- 3.制御内容(記述不要)
- 4.MAC アドレス(記述不要)
- 5.ポート番号(記述不要)
- 6.グループ名(所属させるグループ名)
- 7.メモ(任意の文字列)

※メモの後に必ずカンマ(,)を1つ記述してください。

※「IP アドレス」および「コンピュータ名」の項目は必ず設定されていなければなりません。

【ファイルへ書出】

リストの内容をファイルへ書き出します。

ファイルの書式は上記の通りです。

【終了】

「保存して終了」ボタンを押すと、リストの内容をファイルに保存して終了します。

変更内容を保存したくない場合は、「保存しないで終了」ボタンを押します。

【操作ガイド】

リストの項目の中で、[IP アドレス]、[MAC アドレス]、[メモ]欄は直接編集する事が出来ます。

[メモ]はプログラムから利用することではなく、管理者が任意の文字列を入力して利用することが可能です。(覚え書きなどに利用してください。)

グループ登録

クライアントを所属させるグループの登録を行います。

リストに追加

追加登録したいグループ名を入力し「リストに追加」ボタンを押します。
グループ名には半角のカンマ(“,”)を含めることは出来ません。(仕様)

リストから削除

削除したいグループをリストから選択し「リストから削除」ボタンを押します。

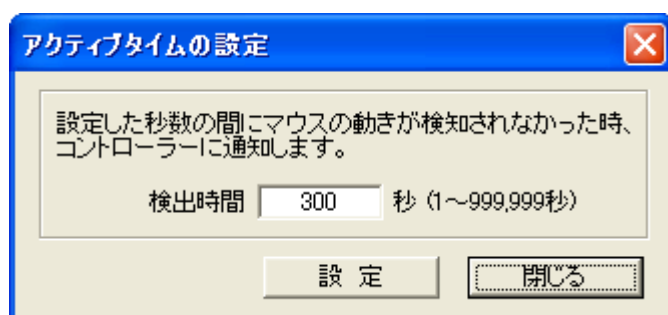
注意

グループの削除を行っても、クライアントのグループ登録は変更されません。
クライアントのグループ登録を抹消するには、「[クライアント登録](#)」にて「グループを解除」を実行してください。

終了

「保存して終了」ボタンを押すと、リストの内容をファイルに保存して終了します。
変更内容を保存したくない場合は、「保存しないで終了」ボタンを押します。

アクティブタイム設定

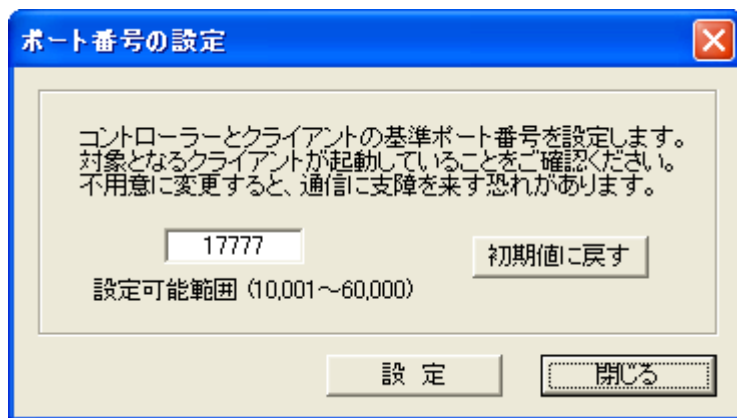


クライアントリストの左から2番目に表示される「マウス」アイコンの表示条件(時間)を設定します。
クライアントにてマウス操作を行っている間、リスト内の「マウス」アイコンが表示されます。
設定された検出時間内にマウス操作が行われないと、「マウス」アイコンは消えます。
これにより、クライアントが現在アクティブな状態かどうかを簡単に識別することができます。

【設定条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時設定が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に設定可能です。

ポート番号変更

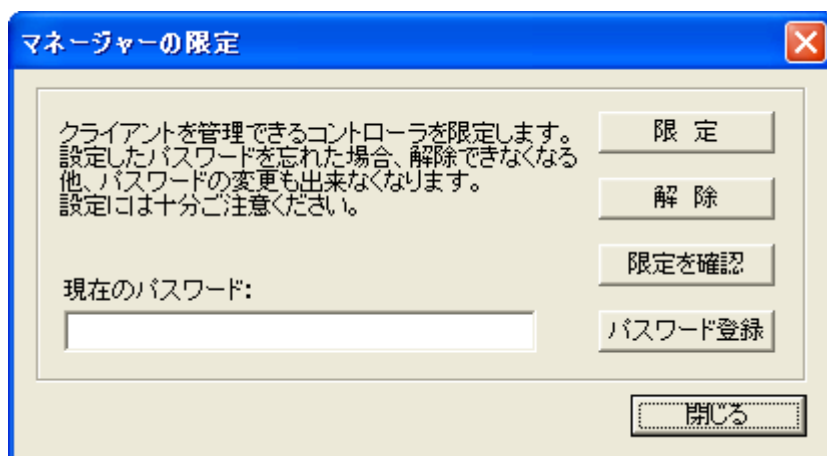


マネージャーとクライアントが通信する際に利用する基準ポート番号を変更できます。
ポート番号が一致しないクライアントとは、一切通信を行うことが出来なくなります。
ポート番号の変更操作は、管理するクライアント全てに対して同時に実行することをお勧めします。
変更は順次表示される案内に従って操作してください。

【設定条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時設定が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に設定可能です。
- ・設定時、起動していないクライアントの設定は変更されません。

マネージャーの限定



クライアントを管理することが出来るマネージャーを限定することが出来ます。
この設定を行ったクライアントは、他のマネージャーから制御したり、情報を取得する事は出来ません。
限定したり、解除するにはパスワードが必要となります。

パスワードを忘れると、解除操作ができなくなりますのでご注意ください。

現在の限定状況を調べるには、クライアントを選択して「限定を確認」ボタンを押してください。
リストの「情報」欄に結果が表示されます。

複数のマネージャーから限定化されたクライアントを管理することが可能です。
その際、クライアントに対する限定化を行ったマネージャー以外のマネージャーにおいては、自己のパスワード登録だけを実行すれば良く、クライアントにパスワードを送信する必要は有りません。
マネージャーとクライアントのパスワードが一致すれば、どのマネージャーからもクライアントを認識、管理することが可能です。

マネージャーのパスワード登録を行った場合、マネージャープログラムを再起動するまでパスワード設定は有効になりません。

マネージャーのパスワード登録を削除するには、「パスワード登録」画面にてパスワード入力欄を空欄にして「登録」を行ってください。

パスワード登録されたマネージャーから、限定化されていないクライアントは自由に認識、管理することが出来ます。

【設定条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時設定が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に設定可能です。

複数マネージャーの設定

同一のクライアントを複数のマネージャーで管理している場合、クライアントは最後に通信を行ったコントローラを自己のマスターマネージャーとして記憶します。

クライアントから送信される各種情報は、このマスターマネージャーに対して送信します。

同時に複数のマネージャーを起動している場合、マスターマネージャーでないマネージャーはクライアントの状態変化を知ることが出来ず、リストには古い情報が表示されたままになります。

複数マネージャーの設定を行うことで、クライアントは登録されているすべてのマネージャーに対して状態情報を送信することが可能となります。

複数マネージャーの運用	
<input type="button" value="無効にする"/> <input type="button" value="有効にする"/>	
マネージャーのアドレス	
マネージャー1	マネージャー6
192.168.1.201	
マネージャー2	マネージャー7
192.168.1.202	
マネージャー3	マネージャー8
192.168.1.203	
マネージャー4	マネージャー9
マネージャー5	マネージャー10
<input type="button" value="設定"/>	
<input type="button" value="設定確認"/> <input type="button" value="閉じる"/>	

複数マネージャーの運用

リストにてクライアントを選択し「有効にする」ボタンを押すと、クライアントは登録されているマネージャーに対して状態情報を送信するようになります。

「無効にする」ボタンを押すと本機能は動作せず、クライアントは最後に通信を行ったマネージャーに対してのみ、状態情報を送信します。

マネージャーのアドレス

クライアントに登録したいマネージャーの IP アドレスを登録します。

「設定」ボタンを押すと、リストにて選択されているクライアントにマネージャーの IP アドレスを送信し登録します。

運用が有効になっている場合、設定内容は直ちに反映されます。

クライアントごとにマネージャーのアドレス登録を変えることも可能です。

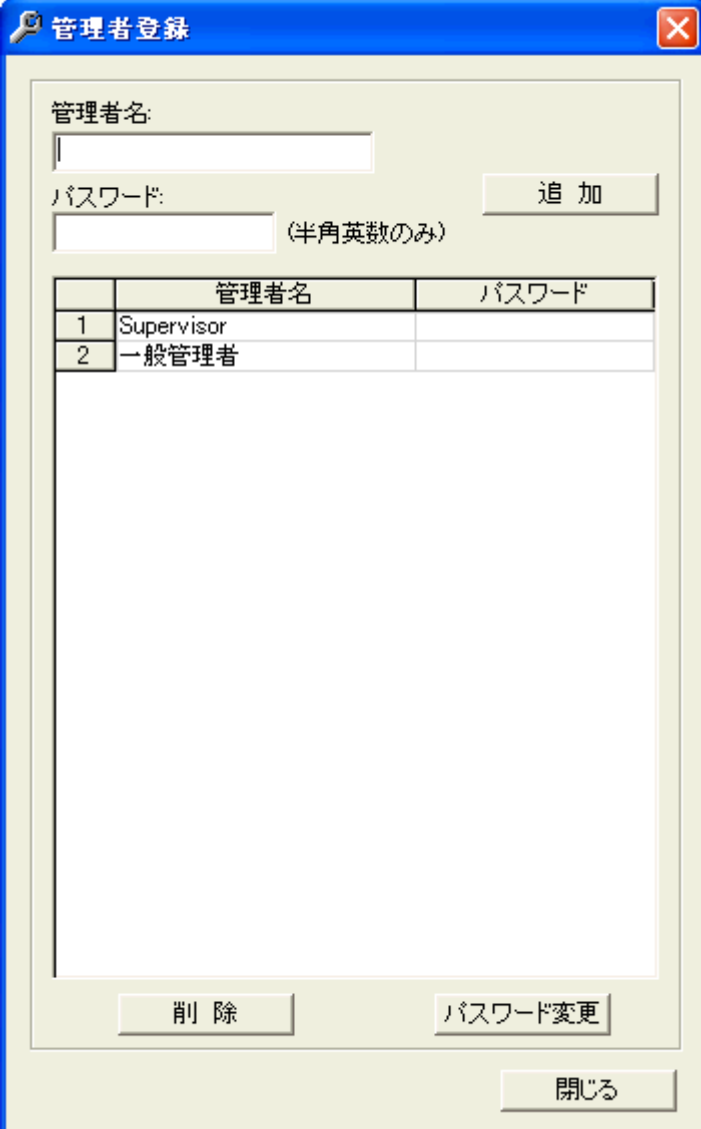
設定確認

複数マネージャーの設定状況を確認し、「情報」欄に表示します。

【設定条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時設定が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に設定可能です。

管理者登録



管理者名:

パスワード: (半角英数のみ)

追加

	管理者名	パスワード
1	Supervisor	
2	一般管理者	

削除 パスワード変更

閉じる

マネージャーを利用する管理者を登録しておくことで、コマンドパネルのメニュー項目や利用制限の設定ファイルを管理者ごとに設定することが可能となります。

「管理者名」と「パスワード」欄に入力し、「追加」ボタンを押すと新しい管理者が追加登録されます。パスワードの登録については任意ですが、設定する事により、権限の無い者がマネージャーを不正使用する事を防止できます。

新しい管理者が追加登録されると、その時点で表示されているメニューの内容と、利用制限ファイルの内容がその管理者用に設定されます。

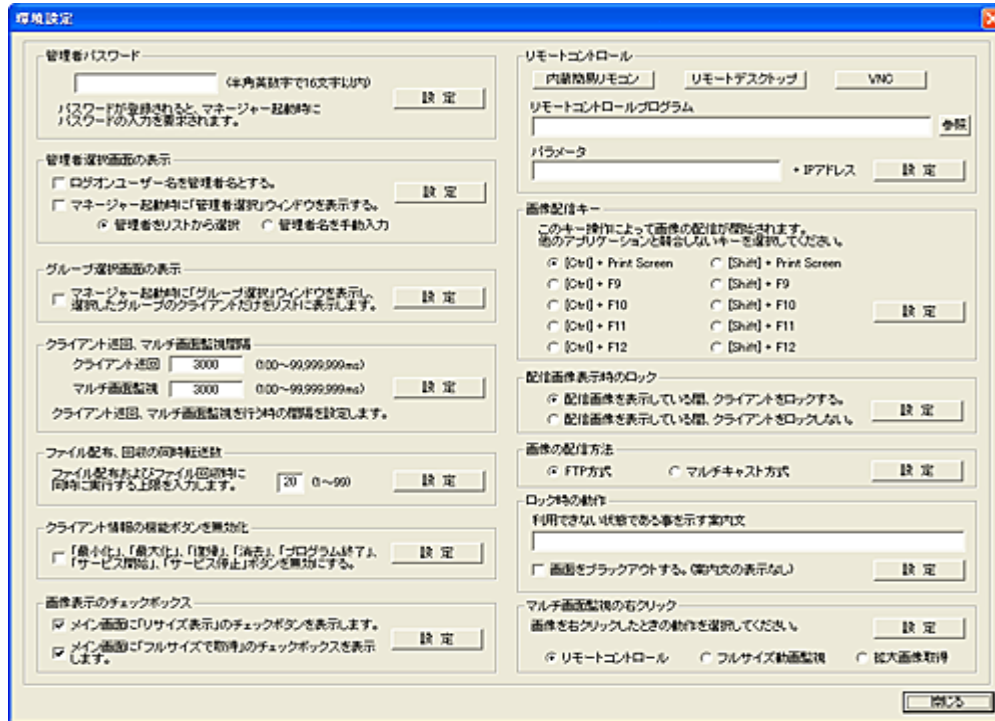
メニューの内容はメニュー設定プログラムにより、後から自由に変更することが出来ます。

パスワードの変更を行うときは、直接リスト内のパスワード欄の値を変更して確定した後、「パスワード変更」ボタンを押します。

リスト内の管理者を選択し、「削除」ボタンを押すと、その管理者の登録を削除します。
この時、その管理者用のメニュー設定と利用制限ファイルは同時に削除されます。

管理者ごとの利用管理を行うには、本機能で管理者登録をし、「[環境設定](#)」画面の「管理者選択画面の表示」を有効にする必要があります。

環境設定



各機能の動作に関する設定を行います。
設定変更後は、それぞれのグループ内にある「設定」ボタンを押してください。

【管理者パスワード】

インストール直後のマネージャーは誰でも起動して利用できる状態にあります。
セキュリティ上好ましくない場合は、パスワードを設定することでマネージャーの起動を制限することが出来ます。
パスワードが設定されていると、マネージャー起動時にパスワードの入力を要求するウィンドウが表示されます。
本設定は、下記の「管理者選択画面の表示」に先行して動作します。

【管理者選択画面の表示】

マネージャーを利用する管理者を登録することによって、管理者ごとに異なるコマンドパネルのメニュー内容と利用制限ファイル群を持つことが出来ます。
本項目を選択する事により、マネージャーの起動時に管理者選択画面が表示されるようになります。
「管理者をリストから選択」を選択すると、登録されている管理者名をリスト表示します。
「管理者名を手動入力」を選択すると、リストは表示されず、管理者名はその都度手動入力する必要があります。
管理者の登録は「[管理者登録](#)」にて行います。

「ログオンユーザー名を管理者名とする」を選択すると、ログオンユーザーが管理者リストに登録されている場合に管理者の選択画面をバイパスすることが出来ます。
このとき、登録されている管理者用のメニュー内容と利用制限ファイルが適用されます。
ログオンユーザー名の登録がない場合、「マネージャー起動時に管理者選択ウィンドウを表示する」の

設定に従います。

※ユーザー名の半角英文字は大小区別を行いません。

【グループ選択画面の表示】

通常、マネージャーを起動すると登録されている全てのグループおよびクライアントがメイン画面に表示されます。

多くのグループやクライアントが登録されていると、コマンドを実行するクライアントの選択に手間が掛かるだけでなく、誤操作にも繋がる可能性があります。

マネージャーの起動時に、操作対象となるグループのみを選択することで、効率のよい運用が可能となります。

本項目を選択することで、マネージャーの起動時にグループ選択画面が表示されるようになります。

すでにグループ選択されている表示状態で「グループ選択画面の表示」を非選択にする場合、グループ選択を「すべて選択」に戻すかどうかの問い合わせウィンドウが表示されます。

「いいえ」ボタンを押すと、現在の選択状態が維持されたままになり、起動時にグループ選択操作を行わずに現在のグループ表示状態を継続することが出来るようになります。

元の状態に戻したいときは、一度グループ選択画面を表示する設定にし、グループ選択を「すべて選択」にして起動してください。

【クライアント巡回、マルチ画面監視間隔】

「クライアント巡回」および「マルチ画面監視」を実行する際の間隔をそれぞれ設定します。

間隔はミリ秒(ms)単位で設定可能ですが、あまり短いとネットワーク環境やコンピュータのパフォーマンスによっては正常に取得できない事があります。

100ms 未満の設定はできない仕様になっています。

一般的に 1000～3000ms 以上の間隔を設定してご利用になることをお勧めします。

【ファイル配信、回収の同時転送数】

ファイルの配信、回収、ログの回収を行う際、一度に多台数の処理を行うとマネージャーおよびネットワークに負荷が掛かる事が予想されます。

これを回避するため、上限値として設定された台数を超えることがないように、自動的に同時転送数を制御します。

ログの回収は、直接回収時のみ対応します。

【クライアント情報の機能ボタンを無効化】

メイン画面のクライアント情報を表示するタブウィンドウ内にある機能ボタンを無効にします。

本設定を有効にすると「最小化」、「最大化」、「復帰」、「消去」、「プログラム終了」、「サービス開始」、「サービス停止」の全ボタンが無効になります。

設定変更は、次回マネージャーを起動したときに反映されます。

コマンドパネルのメニュー内容を変更する機能と共に設定すると効果的です。(マネージャーの利用制限)

【画像表示のチェックボックス】

メイン画面の画像表示下部に機能選択のチェックボックスを表示したり、非表示にしたり出来ます。

取得、表示する画像のサイズなどの変更を行わせたくない場合は、チェックボックスをオフにします。

【リモートコントロール】

連動起動させるリモートコントロールツールの設定を行います。

それぞれのボタンを押すと、接続に必要な情報が入力欄に表示されます。

「内蔵リモコン」の場合、ボタンを押すだけで何も設定する必要はありません。

「リモートコントロールプログラム」は、ディスク上のフルバスを指定する必要があります。
「パラメータ」については、それぞれのリモートコントロールのマニュアルを参考に値を入力してください。
パラメータの後に、接続するクライアントの IP アドレスがプログラムによって自動付加される仕組みになっています。

【画像配信キー】

マネージャーの画像配信を開始するための、トリガーとなるキー操作を選択します。
他のアプリケーションなどで利用されていない値を選択してください。

【配信画像表示時のロック】

配信画像を表示している間、ユーザーによるコンピュータの操作を禁止したい時は、「クライアントをロックする」を選択してください。
ロックされていないと、ユーザーは表示されている画面を[Esc]キーを押すことで消去することが可能となります。

【画像の配信方法】

クライアントに対して画像の配信を行う際、通信方式として以下の方法を選択できます。
ご利用の環境、運用方法によって最適な方式を選択してください。

1.FTP 方式

ファイル転送によって画像をクライアントに配信し、表示します。
マルチキャスト方式と比べて信頼性は高く、短い時間で配信できます。反面、多くのクライアントに配信する場合は負荷に対する配慮が必要です。

2.マルチキャスト方式

ネットワーク環境によっては、配信に失敗することが有ります。また、配信に要する時間も多く掛かります。

【ロック時の動作】

クライアントをロックすると、マウスおよびキーボードの操作が全く無効となり、フリーズしたとユーザーに誤解される恐れがあります。
ロック中、そのことを示す簡単な案内文を表示させる事が出来ます。
メッセージ表示の必要がない場合は、入力欄を空欄のままにします。

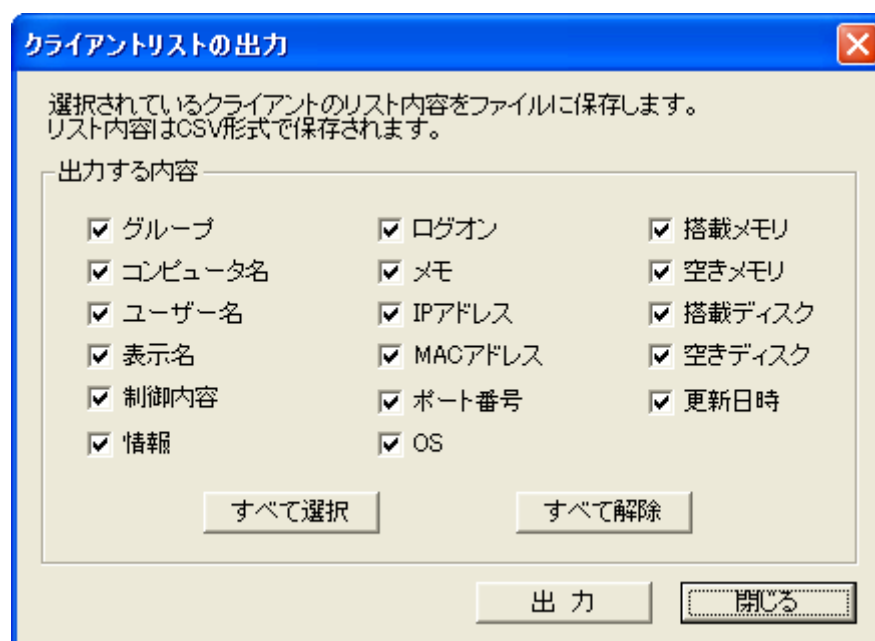
「画面をブラックアウトする。」を選択すると、ロック時にクライアントの画面を真っ黒な状態にすることが出来ます。
その際、メッセージ文の表示は行われません。

【マルチ画面監視の右クリック】

マルチ画面監視の画像を右クリックしたときの動作を選択します。
「リモートコントロール」を選択すると、右クリックした画像のクライアントにリモートコントロール機能を使って接続します。
「フルサイズ動画監視」を選択すると、クライアントのデスクトップ画面を動画で表示します。
「拡大画像取得」を選択すると、クライアントのデスクトップ画像をフルサイズで取得して表示します。

メンテナンス

クライアントリストの出力



リストに表示されている内容の一部または全部をファイルに保存することができます。
保存したファイルは CSV 形式のテキストファイルなので、他のアプリケーションで再利用できます。

クライアントリストの更新

クライアントリストの内容は常に最新の状態を表示するようになっていますが、クライアントが異常終了したりネットワークが一時的に切断された場合などは、更新されない可能性があります。

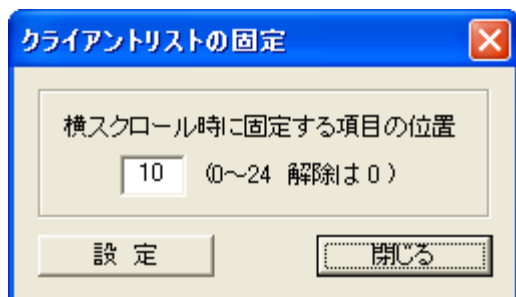
このような場合には、対象のクライアントを選択して「クライアントリストの更新」を実行することにより、現在の状態を再取得することが可能です。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

クライアントリストの固定

クライアントリストを任意の項目位置で分割し、横スクロール時に固定表示させる事が出来ます。
固定化されるのは、分割指定した位置より左側の部分になります。



分割したい項目の位置を入力し、「設定」ボタンを押します。
項目は左から 1、2、3 の順序になります。

設定例

10 を入力して設定すると、コンピュータ名までが固定表示となり、横スクロールしても常時表示されます。

クライアントリストの初期化

クライアントリストの表示幅を初期状態に戻します。

ウィンドウ表示位置の初期化

メイン画面およびマルチ画面監視の表示位置とサイズを初期状態に戻します。

クライアント停止

一時的にクライアントの動作を強制的に停止させることができます。
一度この操作を行うと、クライアントが再起動するまで、情報取得や制御を行うことは出来なくなります。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

クライアントリセット

何らかの原因でクライアントからの情報取得が出来なくなったり、正常に動作しなくなった場合は、この操作を行うことによって正常な動作に復帰することが可能です。

この操作は、クライアントパソコンを再起動するのではなく、クライアントプログラムを起動時の状態に復帰させます。(バックグラウンド動作)

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

クライアントバージョンアップ

クライアントプログラムのバージョンアップをマネージャーから実行することが可能です。
バージョンアップ時に提供されるプログラムをクライアントに配信し、インストールを自動実行させることが出来ます。
本機能の操作方法は、バージョンアップ時に案内されます。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

クライアントプログラム修正

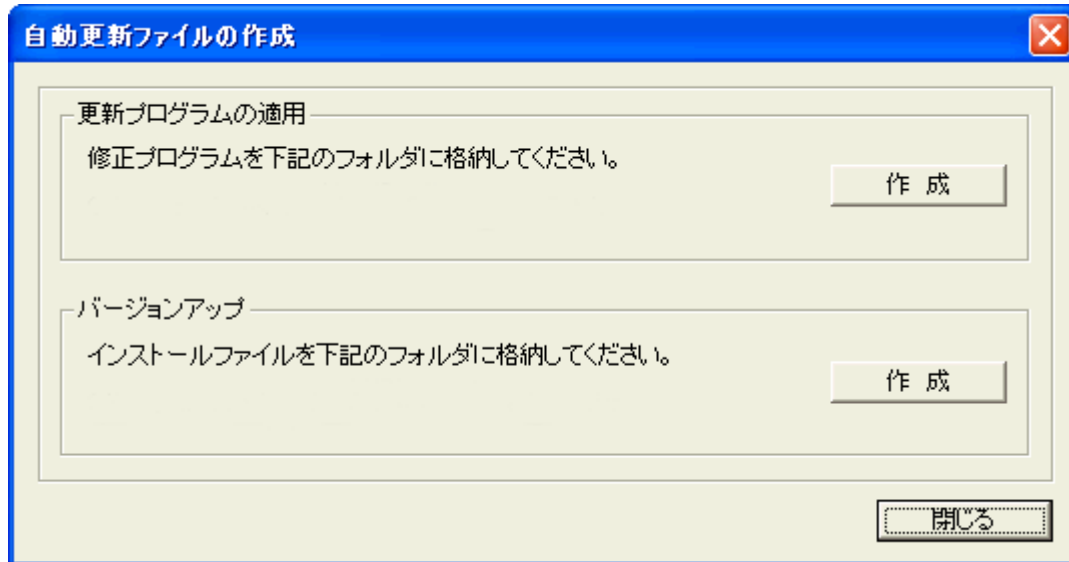
クライアントに対して修正プログラムを配信し、入れ替えることが出来ます。
本機能の操作方法は、修正プログラムの適用が必要になったときに別途案内されます。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

自動更新ファイルの作成

クライアントプログラムの更新や、本製品のバージョンアップを自動で行います。
サーバーの共有フォルダに更新ファイルを配置しておくだけで、プログラムの更新作業を自動で行うことが可能となります。



自動更新は、「[起動時の自動実行設定](#)」の機能を利用して行われます。
本機能を利用するには、「[配信サーバーの設定](#)」などを事前に必ず行ってください。
プログラムの更新は、プログラム単位の更新(パッチ)と、製品全体の更新(バージョンアップ)の二通りがあります。

更新プログラムの適用(パッチ)

クライアントプログラムの一部を更新する際に利用します。
開発元より提供された更新プログラムを Controller フォルダ配下の「UpPatch」フォルダに格納します。
このとき、過去のファイルが残っていないことを十分に確認してください。
更新プログラムは同時に複数の登録、実行が可能です。
「作成」ボタンを押すと、flx ファイルと cmx ファイルが「UpFile」フォルダ内に作成されます。
更新プログラムが複数有る場合でも、1つの圧縮ファイル(flx ファイル)に統合されます。
cmx ファイルは選択されたクライアント分作成されます。
全てのファイルをサーバーの共有フォルダに配置して準備は完了します。

更新処理が完了したクライアントの cmx ファイルはサーバーから削除されます。
全ての cmx ファイルがサーバーから自動削除された後で、flx ファイルの削除を手動で行ってください。

バージョンアップ

クライアントプログラム全体のバージョンアップを行います。
開発元より提供されたバージョンアップインストールプログラムを Controller フォルダ配下の「UpVersion」フォルダに格納します。
このとき、過去のファイルが残っていないことを十分に確認してください。
格納するバージョンアップファイルは必ず一つだけで、flx ファイルになります。
「作成」ボタンを押すと、flx ファイルと cmx ファイルが「UpFile」フォルダ内に作成されます。
cmx ファイルは選択されたクライアント分作成されます。

全てのファイルをサーバーの共有フォルダに配置して準備は完了します。

更新処理が完了したクライアントの cmx ファイルはサーバーから削除されます。
全ての cmx ファイルがサーバーから自動削除された後で、flx ファイルの削除を手動で行ってください。

「更新プログラムの適用」、「バージョンアップ」ともに、クライアントが次回起動したときに実行されます。
直ちに更新を行いたい場合は、クライアントを再起動させてください。

注意

バージョンアップの場合、クライアントが起動してから処理を完了するまで、数分から最大 10 分程度の時間を要します。

この間は絶対にクライアントをシャットダウンさせないようにしてください。

バージョンアップ処理中、万一シャットダウンが行われると、プログラムの動作に障害が発生する可能性があります。

自動更新が成功すると、マネージャーとの通信が回復します。

10 分以上経過しても、クライアントと通信が行えない場合は、何らかの原因で更新に失敗したことが考えられます。

その際は、一度そのクライアントを手動で再起動してください。

更新に成功して通信が回復しても、全ての機能が有効にはなりません。(更新内容によって異なります。)

基本的には、次回起動時以降に正式利用が可能になるとお考えください。

詳しい動作のしくみは「[起動時の自動実行設定](#)」および「[起動時の自動実行ファイル作成](#)」のページを参照してください。

「[起動時の自動実行設定](#)」機能にて設定された自動実行ファイルがサーバーに存在する場合、作成された日時でプログラムの自動更新が実行されないことがあります。

クライアントでは最新の cmx ファイルのみ実行する使用となっていますので注意が必要です。

確実な更新を行うためには、サーバー内に他の自動実行ファイルが存在しないようにしてください。

クライアントアンインストール

クライアントプログラムのアンインストールをマネージャーから実行することが可能です。
アンインストール後に、クライアントコンピュータを自動再起動するかどうかを選択可能です。

【動作条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時実行が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。
- ・クライアントがログオン中の場合、ログオンユーザーに管理者権限がアンインストールに失敗します。
アンインストールはクライアントがログオフ状態で実行することを強くお勧めします。

マネージャーリセット

マネージャーのプログラム及び関連サービスをリセット(再起動)します。

メインマニュアル

ヘルプ、終了

バージョン情報(マネージャー)

マネージャーのバージョンを表示します。

バージョン情報(クライアント)

クライアントのバージョンを表示します。

取得したバージョンは、クライアントリストの「情報」欄に表示されます。

【設定条件】

- ・複数のクライアントを選択して同時設定が可能です。
- ・クライアントの状態が「ログオフ」、「ログオン」共に実行可能です。

ライセンス情報

ライセンス登録に関する情報が表示されます。

管理可能クライアント数

マネージャーに登録して管理することが出来るクライアントの最大数です。

サービス期間満了日

表示されている日付までプログラムを利用することが出来ます。

プロダクトID

ここに表示されている番号を正確に、ユーザー登録ページの「プロダクトID入力欄」に入力してユーザー登録を行ってください。

ライセンス番号

ライセンス登録を行うと、ライセンス番号が表示されます。
空欄の場合は、ライセンス登録が完了していないことを示します。

終了

マネージャーを終了するには、コマンドパネルの[終了]を選択します。
ウィンドウの右上にある「閉じる」ボタンを押すことでも終了します。